

目 次

学事関連スケジュール

一般注意事項	3
(法律・政治学科共通) Web システム	9
法律学科学習指導要項	13
政治学科学習指導要項	29
講義要綱・シラバス	
法律学科	45
政治学科	121
両学科設置共通科目	179

慶應義塾外国語学校	205
教職課程	206
言語文化研究所特殊講座	207
メディア・コミュニケーション研究所	213
体育研究所	232
福澤研究センター設置講座	240
外国語教育研究センター	243
国際センター在外研修プログラム	246
国際センター設置講座	248
保健管理センター設置講座	269
情報処理教育室	271
アート・センター設置講座	273
知的資産センター設置講座	274

平成20(2008)年度学事関連スケジュール

成績証明書発行開始	4月1日(火)12時30分～
学事Webシステムパスワード変更締切	4月7日(月)学事センター
春学期授業開始	4月8日(火)
Webによる履修申告期間	4月11日(金)10時～4月16日(水)14時
履修申告用紙による履修申告日	4月16日(水)8時45分～14時
開校記念日【休講】	4月23日(水)
授業料等納入期限(全納・春学期分納)	4月30日(水)
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(詳細後日掲示)
定期健康診断	5月上・中旬
履修申告修正受付	5月7日(水)～5月9日(金)(詳細後日掲示)
早慶野球戦	5月下旬
春学期休学願提出期限	5月30日(金)
春学期末試験時間割発表	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期末追加試験申込受付	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期土曜代替講義日	7月10日(木)
春学期補講日	7月11日(金)
春学期授業終了	7月15日(火)
春学期末試験(予定)	7月16日(水)～7月28日(月)
夏季休業	7月29日(火)～9月21日(日)
春学期末追加試験(予定)	8月5日(火)・8月6日(水)
三田キャンパス一斉休業	8月9日(土)～8月15日(金)
春学期学業成績表送付(保証人宛)	9月中旬
秋学期授業開始	9月25日(木)
授業料等納入期限(秋学期分納)	10月31日(金)
早慶野球戦	11月上旬
秋学期月曜代替講義日(1)	11月6日(木)
秋学期土曜代替講義日(1)	11月7日(金)
創立150年記念式【休講】	11月8日(土)
秋学期補講日(1)	11月19日(水)午前
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)【休講】	11月19日(水)午後～11月25日(火)
秋学期休学願提出期限	11月28日(金)
冬季休業	12月23日(火)～1月5日(月)
三田キャンパス一斉休業	12月28日(日)～1月5日(月)
授業開始	1月6日(火)
秋学期末試験時間割発表	1月上旬(詳細後日掲示)
秋学期末追加試験申込受付	1月上旬(詳細後日掲示)
福澤先生誕生記念日【休講】	1月10日(土)
秋学期月曜代替講義日(2)	1月13日(火)
秋学期土曜代替講義日(2)	1月21日(水)
秋学期授業終了	1月21日(水)
秋学期補講日(2)	1月22日(木)
秋学期末試験(予定)	1月23日(金)～2月2日(月)
福澤先生命日	2月3日(火)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験(予定)	2月下旬(詳細後日掲示)
卒業者発表	3月10日(火)
学業成績表送付(保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月23日(月)

研究所ガイダンス日程	
情報処理教室:	4月3日(木)10:45～12:15 516教室
外国語教育研究センターガイダンス:	4月3日(木)12:30～14:00 531番教室
福澤研究センターガイダンス:	4月4日(金)10:45～12:15 512番教室
言語文化研究所ガイダンス:	4月4日(金)12:20～12:50 522番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス:	4月5日(土)10:45～12:15 528番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者対象):	4月5日(土)13:00～14:30 517番教室
教育実習ガイダンス(来年度実習予定者対象):	4月5日(土)14:45～15:45 528番教室
教育実習事前指導(今年度実習予定者対象):	4月5日(土)14:45～15:45 517番教室
教職課程ガイダンス(学校教育学コース):	4月5日(土)16:30～18:00 513番教室
体育研究所ガイダンス:	4月7日(月)9:00～10:30 522番教室
	10:45～12:15 522番教室
保健管理センターガイダンス:	4月7日(月)14:45～
	517番教室

注意事項

- 代替講義日:土曜代替講義日(7/10(木),11/7(金),1/21(水))には,実際の曜日にかかわらず,土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日(11/6(木),1/13(火))には,実際の曜日に関わらず,月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は,それぞれの代替講義日に注意してください(代替講義日には,土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません)。
- 補講日:補講日(7/11(金),11/19(水)午前,1/22(木))には,実際の授業開講曜日にかかわらず,補講を行うことがあります。補講実施科目については,休講・補講掲示で確認してください(補講日に設定されている曜日の授業は,補講にならない限り行われません)。また,補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので,掲示板をよく確認してください。
- 土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の閉室期間には,学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお,ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時,掲示およびHPにてお知らせします。
<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html>
- 諸般の事情により,日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は,学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために,自身が不利益を被ることもありますので,十分注意してください。
- 共通掲示板,学部掲示板,諸研究所掲示板等にも注意してください。

一般注意事項

学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船係員の請求があった場合
3. 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
4. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ、3ヶ月以内に撮影されたもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
5. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合は、ただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板、地下1階掲示板および地下2階掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事Webシステム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下2階掲示板を利用してください。

レポート

レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続を厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください（提出にあたっては、指定時間内に指定されたボックスに投函する必要がありますので注意してください）。
学事センターレポートボックス受付時間
火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分
受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。
- (2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届（p.26, p.41 参照）
「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる。」（学則第152条）
「休学の事由が消滅したならば、休学者は速やかに就学届を提出しなければならない。」（学則第152条）
「病気その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学届を提出しなければならない。」（学則第154条）
2. 国外留学申請（p.27, p.41 参照）

「本大学が教育上有益と認めたときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある。」(学則第 153 条)

3. 住所変更届(本人・保証人)・保証人変更届・改姓(名)届・国籍変更

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

住所変更届: 在学カード

保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票

改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

国籍変更: 戸籍謄本(コピーでも可), 住民票

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書発行、申込み、受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。授業料等が未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】

証明書種類		三田	手数料	補記(日程等)
在学証明書	和文		200円	4月1日12:30～発行
	英文			
成績証明書	和文		200円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
	英文			
学部卒業見込証明書	和文		200円	6月2日～発行
	英文			
履修科目証明書	和文		200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断証明書	和文		200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断書	英文	×		大学保健管理センターで発行します (詳細は保健管理センターにお問い合わせください)
卒業見込証明付成績証明書	和文		400円	5月7日～ 学部4年生のみ発行
特殊証明書	旧司法試験受験用単位取得証明書		200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	各種資格試験等受験用単位取得証明書			
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書			
	科目等履修生・特別聴講生に関する各種証明書			
その他	学割証(JR各社共通)		無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません
	通学証明書			学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。
	厳封を必要とするもの(和文・英文)			所属キャンパス学事センター窓口で申請してください 厳封が必要な場合は、証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください

凡例 自動発行機で即日発行 窓口で即日発行 窓口で数日後発行 × 発行不可

= 注意事項 =

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

< 和文 >

学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも学籍を失った場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断が未受診の場合には、学割証の発行はできません。

厳封が必要な場合は、自動発行機で発行できる証明書でも、学事センター窓口で申し出てください。

健康診断証明書は6月中旬以降、当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、お早めに保健管理センター三田分室受付に相談してください。

< 英文 >

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等(例:旧司法試験用単位取得証明書,他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日、英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

【証明書自動発行機稼働時間】

- ・三田キャンパス 学事センター事務室内 月曜日～金曜日 8:45～16:45 (休業期間中の11:30～12:30は閉室)
- 南校舎 1階 月曜日～土曜日 9:00～20:00 (休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く)

注1)自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注2)メンテナンス、故障等により自動発行機を停止することがありますので、HP・掲示板等で確認してください。

【その他】

生協の組合員証および国際学生証は、生協事務室に直接お問い合わせください。

各種証明書の料金は、改定されることがあります。

発行日は、【各種証明書一覧】にある日程より遅くなる場合があります。

教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財担当

2. 授業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

(2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。

(3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前（注）まで受け付けます。

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。

(4) 「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

(2) 学生団体は原則として、使用できません。

(3) 申請は使用予定日の3日前（注）まで受け付けます。

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。

(4) 「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

(1) 学籍・成績・履修に関すること

(2) 授業・試験・レポート等に関すること

(3) 時間割に関すること

(4) 休講・補講に関すること

(5) 追加試験の申込み

(6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更届等

(7) 学生証の発行

(8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）

(9) 旧司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

(10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で取り扱います）

(11) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口で取り扱います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟または南館）

日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

（注）授業期間終了後に塾外からの出講者（講師）と連絡をとることはできません。学事センターで仲介、連絡等はいりません。

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

【学生生活支援】

教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の3日前(土・日・祝日を除く)までに申し込んでください。土・日・祝日・試験期間中の使用はできません。(【教室使用申請について】も参照)

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室があります。使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

学生食堂(山食、西校舎学生食堂(生協食堂)、北館学生食堂(ザ・カフェテリア))の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

学外行事届、団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前(土・日・祝日を除く)までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引やゴルフ場使用税免除にかかわる証明が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)

組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続きを行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にお問い合わせください。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)までに申請してください。

郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生総合センター内のメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

車輛入構申請の受付

塾生の車輛入構は認められていませんが、やむを得ず車輛入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジには学生が利用できるパソコンが常設されています。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには、学生総合センター窓口へ申し出て掲示物受付簿を記入してください。

大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。

遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

その他窓口配付・閲覧関係

窓口には、財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますので自由に閲覧してください。

奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

地方出身者で、人物・学業ともに優れ、経済的に学業の継続が困難な者を援助することを目的とします。4月に募集日程を西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金(給付・貸与)

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度(利子給付奨学金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)を参照してください。

【就職・進路支援】

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、これら企業からの求人票、説明会案内を検索し、閲覧することができます。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったことなどがあった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室(西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を

用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援，就職・進路支援

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室） 都合により閉室することがあります。

学生相談室

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

【学生教育研究災害傷害保険について】

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舍にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるよう，ゼミ合宿を学外で行う場合，および公認学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

【任意加入の補償制度について】

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は，（株）慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先	（株）慶應学術事業会	TEL 03-3453-6098
	慶應生活協同組合	TEL 045-563-8489

定期健康診断について

定期健康診断は，学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

慶應義塾大学学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので，必ず受診してください。

未受診の場合には，「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために，母子健康手帳などを確認し，ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方，あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は，かかりつけ医師と相談し，ワクチン接種をすることをお勧めします。

また，風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）などの感染症予防についてもかかりつけの医師とご相談ください。

学内集団感染予防のため，ご協力くださいますようお願い申し上げます。

保健管理センター（三田分室）

受付時間 月～金 8：45～16：15（診療時間とは異なりますので，ご注意ください）

TEL：03-5427-1607 E-mail：hc@info.keio.ac.jp

Webシステム

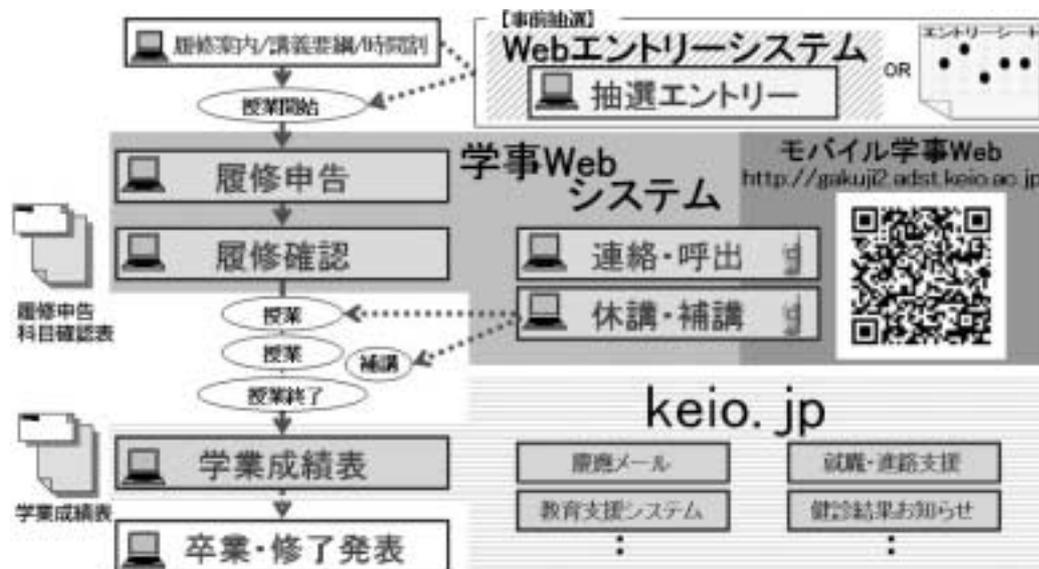
Webシステム概要

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスの利用ができます。

現在、ポータルサイト「塾生の皆様へ」で履修案内 / 講義要綱 / 時間割、卒業・修了発表など様々な情報を公開しています。また、ログインを必要とするシステムとして、「学事 Web システム」「Web エントリーシステム」「keio.jp」の3つのシステムにて、履修申告、休講・補講情報、学業成績表など各種の機能を提供しています。一部の機能では、携帯電話などの携帯端末から利用できるサービスもあります。

各システムのログインに必要なID・パスワードは、「学籍番号 / 学事 Web パスワード」と「慶應 ID / パスワード」の2種類があり、それぞれのシステムで必要となるID・パスワードが異なります。利用するシステムに対応したID・パスワードで利用してください。なお、学内のパソコンを利用するためのWindowsアカウントのユーザ名・パスワードとは異なりますので注意してください。

各システムで提供している機能の中で特に授業に関連する機能を中心に以下の図に示します。



Webシステムで提供する主な機能

各システムの操作方法や設定方法は、各システムのマニュアルHPにて詳しく説明しています。

その他にも新しい機能を随時提供する可能性があります。その場合は、「塾生の皆様へ」や「keio.jp」トップページなどで随時告知します。

「塾生の皆様へ」：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

「keio.jp」トップページ：<http://keio.jp/>

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。 最新のお知らせや各種ホームページのリンクなどを提供しています。
主な提供 サービス	<p>授業/ 履修/ 試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修案内/ 講義要綱/ 時間割 (PDF) の公開 卒業・修了発表 (学籍番号のみ公開) など <p>学生生活/ 進路</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓口利用案内 イベントや奨学金についての情報 など <p>その他, 各種の情報を提供しています。詳細は上記 URL を参照ください。</p>

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/Password	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
主な提供 サービス	<p>履修申告</p> <p>時間割や登録番号から科目を選択し, 履修申告を行うシステムです。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた履修申告期間なら何度でも履修申告内容の修正が行えます。 履修申告期間については, p.28,42 を参照してください。 受付期間中に時間割が変更になる場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し, 必要があれば締切りまでに申告の修正を行ってください。</p> <p>履修確認</p> <p>履修中科目の一覧を表示します。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた期間に利用できます。ただし, 表示される履修中科目の内容は, ある日付の暫定的な内容となります。正確な履修中科目の一覧を確認したい場合は, 送付する履修申告科目確認表を必ず確認してください。</p> <p>休講・補講情報</p> <p>休講・補講のある授業の一覧が表示されます。履修中科目の休講・補講のみを表示, もしくは1週間や1ヶ月など一定期間中のキャンパスごとの休講・補講を表示することもできます。 休講・補講情報確認は, 携帯端末からも利用できます。 ただし, 公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので, 必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。</p> <p>連絡・呼出情報</p> <p>事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は, 学事Webシステムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡や呼出がない場合は, 何も表示されません。 連絡・呼出は, 携帯端末からのログイン時にも表示されます。</p>

Web エントリーシステム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/Password	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	<p>各種の申込み（エントリー）を行うシステムです。</p> <p>ログインには学事 Web システムと同じ学籍番号/学事 Web パスワードを利用します。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。</p>
主な提供 サービス	<p>抽選エントリー</p> <p>事前抽選が必要な科目の抽選申し込み（エントリー）を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。科目ごとの受付方法や受付期間は p.21, 36 を参照してください。</p>

共通認証システム (keio.jp)	
URL	http://keio.jp/
ID/Password	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	<p>共通の ID（慶應 ID）で様々なサービスを提供するためのシステムです。</p> <p>利用するには、慶應 ID の取得（アクティベーション）が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために慶應 ID ・ パスワードの他に第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。</p>
主な提供 サービス	<p>学業成績表閲覧 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 学部生は保証人，大学院生は本人へ郵送した学業成績表の原本から，個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は，学部・研究科，学年などで異なります。 詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p>健診結果お知らせ 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。 結果は必ず確認してください。（結果閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします） 結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>就職・進路支援システム 進路希望，進路届，就職体験記，求人票など その他 ・慶應メール ・ 教育支援システム 他 （詳しくは上記のマニュアルページで確認してください）</p>
慶應 ID 取得	<p>まだ慶應 ID を取得していない方は、「アクティベーション」を行ってください。アクティベーションの際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードを利用します。</p> <p>アクティベーション方法の詳細は，以下を参照してください。 http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</p> <p>アクティベーションは 1 度しか利用できません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は，各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。

Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにするなどのセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。

氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。

Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

法律学科

學習指導要項

法律学科 学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように十分注意してください。

第1 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

1 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除き自主選択科目を含む)から、30単位以上取得する必要があります。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種(英語を除く)につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取り終えることができませんので、第4学年に進級することはできません。

2 卒業するために必要な授業科目・単位数

入学年度によって異なるので注意してください

2006年度・2005年度入学者

授業科目	単位数	内容等
外国語科目	16	必修として履修した外国語科目 2語種 各8単位
人文科学科目	8	
自然科学科目	8	数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)を加えることができます ただし情報処理系列(04-20-13)の科目を加えることはできません
社会科学科目	8	「法学(憲法を含む)」, 「法学(憲法を含む)」の4単位を含む
法律学科目	88	必修科目 12単位 憲法 A, 憲法 B, 民法 A, 民法 B, 刑法 A, 刑法 B 6科目 12単位
		系列科目 48単位 A~Fの6系列それぞれ8単位, 合計48単位
		28単位 A~Fの6系列および系列外科目から合計28単位
自由科目を除く全ての科目	16	卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 法律学科目(必修科目を除く)を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目も含めることができます。
合計	144	

2004年度以前入学者

授業科目	単位数	内容等
外国語科目	16	必修として履修した外国語科目 2語種 各8単位
人文科学科目	8	
自然科学科目	8	数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)を加えることができます ただし情報処理系列(04-20-13)の科目を加えることはできません
社会科学科目	8	「法学(憲法を含む)」の4単位を含む
法律学科目	88	必修科目 12単位 憲法, 民法, 刑法 3科目 12単位
		系列科目 48単位 A~Fの6系列それぞれ8単位, 合計48単位
		28単位 A~Fの6系列および系列外科目から合計28単位
自由科目を除く全ての科目	16	卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 法律学科目(必修科目を除く)を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目(2003年度以前は保健体育科目)も含めることができます。
合計	144	

3 学士入学者が第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上取得することが必要です。この中には、認定科目は含まれません。

4 学士入学者が卒業するために必要な授業科目・単位数

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように注意してください。

授業科目	単位数	内容等	
法律学科目	88	必修科目	12 単位 (2008年度学士入学者)憲法 A,憲法 B,民法 A,民法 B,刑法 A,刑法 B 6科目 12 単位 (2007年度以前学士入学者)憲法 ,民法 ,刑法 3科目 12 単位
		系列科目	48 単位 (2008年度学士入学者)A ~ F の 6 系列それぞれ 8 単位, 合計 48 単位 (2007年度以前学士入学者)A ~ F の 6 系列それぞれ 8 単位, 合計 48 単位
			28 単位 A ~ F の 6 系列および系列外科目から合計 28 単位
合計	88		

第 2 平成20年度開講科目

(下線のついている科目は今年度開講されません)

2006年度・2005年度入学者

2008年度学士入学者

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
			三田	英語第 (1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-16	必修 イタリア語(初級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-66	必修 イタリア語(中級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
			三田	英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
			三田	ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)
	01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
			三田	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
			三田	中国語インテンシブ(1)
	01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
三田			スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)	
01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)	
		三田	ロシア語インテンシブ(1)	
01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)	
		三田	朝鮮語第 (1)	
01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
		三田	ラテン語(中級)(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)	
01-20-14	選択 ポルトガル語	日吉	ポルトガル語(1)	
		三田	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)	
01-20-15	選択 アラビア語	日吉	アラビア語(1)	
01-20-16	選択 イタリア語	日吉	イタリア語(1)	
		三田	イタリア語第 (1)	

人文科学科目	02-20-01	選択	日吉	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 文学 (2) 文学 (2) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 論理学 (2) 論理学 (2) 倫理学(4) 倫理学 (2) 倫理学 (2) 宗教学(4) 宗教学 (2) 宗教学 (2) 哲学(4) 哲学 (2) 哲学 (2) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 美術 (2) 美術 (2) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)
			三田	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)
自然科学科目	03-20-01	選択	日吉	物理学 (実験を含む)(3) 物理学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
			三田	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2) 実践自然科学(2)
数学・統計・情報処理科目	04-20-11	選択 数学系列 自然科学科目として算入できません	日吉	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
			三田	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
	04-20-12	選択 統計系列 自然科学科目として算入できません	日吉	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
			三田	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
	04-20-13	選択 情報処理系列	日吉	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2)
			三田	情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)
社会科学科目	05-10-01	必修	日吉	法学 (憲法を含む)(2) 法学 (憲法を含む)(2)
	05-11-01	選択必修	日吉	社会学(4) 社会学 (2) 社会学 (2) 地理学(4) 地理学 (2) 地理学 (2) 経済学(4) 経済学 (2) 経済学 (2) 政治学(4) 政治学 (2) 政治学 (2) 近代思想史(4) 近代思想史 (2) 近代思想史 (2)
法律学科目	06-10-01	必修 憲法	日吉	憲法 A(2) 憲法 B(2)
	06-10-02	必修 民法	日吉	民法 A(2) 民法 B(2)
	06-10-03	必修 刑法	日吉	刑法 A(2) 刑法 B(2)
	06-20-01	選択 A系列	日吉	憲法 A(2) 憲法 B(2)
			三田	法理学 (2) 法理学 (2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 外国法 (英米)(2) 外国法 (英米)(2) 外国法 (独)(2) 外国法 (独)(2) 外国法 (仏)(2) 外国法 (仏)(2) 外国法 (中)(2) 外国法 (中)(2) 外国法 (EU)(2) 外国法 (EU)(2) 外国法 (ラテンアメリカ)(2) 外国法 (ラテンアメリカ)(2)
	06-20-02	選択 B系列	日吉	民法 A(2) 民法 B(2) 民法 A(2) 民法 B(2)
			三田	民法 A(2) 民法 B(2) 民法 A(2) 民法 B(2)
	06-20-03	選択 C系列	日吉	刑法 A(2) 刑法 B(2)
			三田	刑法 A(2) 刑法 B(2) 刑事訴訟法 (2) 刑事訴訟法 (2) 刑事政策 (2) 刑事政策 (2)
	06-20-04	選択 D系列	三田	商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 民事訴訟法 A(2) 民事訴訟法 B(2)
	06-20-05	選択 E系列	三田	行政法 A(2) 行政法 B(2) 行政法 A(2) 行政法 B(2) 労働法 (2) 労働法 (2) 経済法 (2) 経済法 (2)
	06-20-06	選択 F系列	日吉	民法演習 A(2) 民法演習 B(2) 民法演習 A(2) 民法演習 B(2)
			三田	研究会(4) 憲法演習(2) 民法演習(2) 刑法演習(2) 刑事学演習(2) 商法演習(2) 行政法演習(2) 知的財産法演習(2) 国際私法演習(2) 刑事訴訟法演習(2) 民事訴訟法演習(2) 破産法演習(2) 刑事政策演習(2) 医事法演習(2) 外国法演習(英米)(2) 外国法演習(独)(2) 外国法演習(仏)(2) 外国法演習(EU)(2) 外国法演習(ラテンアメリカ)(2) 国際法演習(2) 社会法演習(2) 法思想史演習(2) 法制史演習(2) 環境法演習(2) 刑事法演習(2) 国際民事訴訟法演習(2)
	06-20-07	選択 系列外	日吉	法学情報処理(2) 団体法(2) 法制史 (基礎)(2) 法制史 (基礎)(2)
三田			行政法 A(2) 行政法 B(2) 行政法 A(2) 行政法 B(2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 担保法 (2) 担保法 (2) 商法 A(2) 商法 B(2) 民事訴訟法 A(2) 民事訴訟法 B(2) 破産法 (2) 破産法 (2) 国際私法 (2) 国際私法 (2) 国際取引法(2) 航空法(2) 宇宙法(2) 犯罪学 (2) 犯罪学 (2) 被害者学 (2) 被害者学 (2) 法制史 (日本)(2) 法制史 (日本)(2) 法制史 (東洋)(2) 法制史 (東洋)(2) 法制史 (西洋)(2) 法制史 (西洋)(2) 法医学 (2) 法医学 (2) 団体法(2) 租税法 (2) 租税法 (2) 国際租税法 (2) 国際租税法 (2) 海洋法 (2) 海洋法 (2) 医事法 (2) 医事法 (2) 信託法 (2) 信託法 (2) 知的財産権法 (2) 知的財産権法 (2) 知的財産法 (2) 知的財産法 (2) 裁判法 (2) 裁判法 (2) 社会保障法 (2) 社会保障法 (2) 法とコンピュータ (2) 法とコンピュータ (2) 環境法 (2) 環境法 (2) 金融商品取引法 (2) 金融商品取引法 (2) 政策と法 (2) 政策と法 (2) 法と経済(2) 法思想史 (2) 法思想史 (2) 国際宇宙法(2) 国際環境法(2) 国際経済法(2) 比較競争法(2) 政治学 (2) 政治学 (2) 社会学 (2) 社会学 (2) 法社会学 (2) 法社会学 (2) 経済政策 (2) 経済政策 (2) 経済原論 (2) 経済原論 (2) 財政論 (2) 財政論 (2) 金融論 (2) 金融論 (2) 会計学 (2) 会計学 (2) 経営学 (2) 経営学 (2) 他学部等の専門的授業科目	
体育科目	08-20-01	選択 講義系	日吉	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	08-20-02	選択 実技系	日吉	体育実技A(1) 体育実技B(1)
			三田	体育実技A(1)
自主選択科目	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由科目	10-30-01	自由		進級および卒業資格とならない科目
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目

2004年度以前入学者

2007年度以前学士入学者

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
			三田	英語第 (1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-16	必修 イタリア語(初級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-66	必修 イタリア語(中級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
			三田	英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
			三田	ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)
	01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
			三田	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
			三田	中国語インテンシブ(1)
	01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
			三田	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
			三田	ロシア語インテンシブ(1)
	01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)
			三田	朝鮮語第 (1)
01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
		三田	ラテン語(中級)(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)	
01-20-14	選択 ポルトガル語	日吉	ポルトガル語(1)	
		三田	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)	
外国語科目	01-20-15	選択 アラビア語	日吉	アラビア語(1)
	01-20-16	選択 イタリア語	日吉	イタリア語(1)
			三田	イタリア語第 (1)
人文科学科目	02-20-01	選択	日吉	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座(2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)
			三田	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)
自然科学科目	03-20-01	選択	日吉	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
			三田	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2) 実践自然科学(2)
数学・統計・情報処理科目	04-20-11	選択 数学系列 自然科学科目として算入できます	日吉	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
			三田	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
	04-20-12	選択 統計系列 自然科学科目として算入できます	日吉	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
			三田	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
	04-20-13	選択 情報処理系列	日吉	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2)
三田			情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)	

社会科学 科目	05-10-01	必修	日吉	法学(憲法を含む)(4)
	05-11-01	選択必修	日吉	社会学(4) 地理学(4) 経済学(4) 政治学(4) 近代思想史(4)
法律 学科 科目	06-10-01	必修 憲法	日吉	憲法 (4)
	06-10-02	必修 民法	日吉	民法 (4)
	06-10-03	必修 刑法	日吉	刑法 (4)
	06-20-01	選択 A系列	日吉	憲法 (4)
			三田	法理学(4) 国際法 (4) 外国法(英米)(4) 外国法(独)(4) 外国法(仏)(4) 外国法(中)(4) 外国法(EU)(4) 外国法(ラテンアメリカ)(4)
	06-20-02	選択 B系列	日吉	民法 (4) 民法 (4)
			三田	民法 (4) 民法 (4)
	06-20-03	選択 C系列	日吉	刑法 (4)
			三田	刑法 (4) 刑事訴訟法(4) 刑事政策(4)
	06-20-04	選択 D系列	三田	商法 (4) 商法 (4) 商法 (4) 民事訴訟法 (4)
06-20-05	選択 E系列	三田	行政法 (4) 行政法 (4) 労働法(4) 経済法(4)	
06-20-06	選択 F系列	日吉	民法演習 (4) 民法演習 (4)	
		三田	研究会(4) 憲法演習(4) 民法演習(4) 刑法演習(4) 刑事学演習(4) 商法演習(4) 行政法演習(4) 知的財産法演習(4) 国際私法演習(4) 刑事訴訟法演習(4) 民事訴訟法演習(4) 破産法演習(4) 刑事政策演習(4) 医事法演習(4) 外国法演習(英米)(2) 外国法演習(英米)(4) 外国法演習(独)(4) 外国法演習(仏)(4) 外国法演習(EU)(4) 外国法演習(ラテンアメリカ)(4) 国際法演習(4) 国際法演習(2) 社会法演習(4) 法思想史演習(4) 法制史演習(2) 環境法演習(4) 刑事法演習(4) 国際民事訴訟法演習(4)	
06-20-07	選択 系列外	日吉	法学情報処理(2) 団体法(2) 法制史(基礎)(4)	
		三田	行政法 (4) 国際法 (4) 担保法(4) 商法 (4) 民事訴訟法 (4) 破産法(4) 国際私法(4) 国際取引法(2) 航空・宇宙法(4) 犯罪学(4) 被害者学(4) 法制史 (日本)(2) 法制史 (日本)(2) 法制史(東洋)(4) 法制史(西洋)(4) 法医学(4) 団体法(2) 租税法(4) 国際租税法(4) 海洋法(4) 医事法(4) 信託法(4) 知的財産権法(4) 知的財産法(4) 裁判法(4) 社会保障法(4) 法とコンピュータ(4) 環境法(4) 金融商品取引法(4) 政策と法(4) 法と経済(2) 法思想史(4) 国際宇宙法(2) 国際環境法(2) 国際経済法(2) 比較競争法(2) 政治学 (2) 政治学 (2) 社会学 (2) 社会学 (2) 法社会学(4) 経済政策(4) 経済原論(4) 財政論(4) 金融論(4) 会計学(4) 経営学(4) 他学部等の専門的授業科目	
体育 科目	08-20-01	選択 講義系	日吉	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	08-20-02	選択 実技系	日吉	体育実技A(1) 体育実技B(1)
三田			体育実技A(1)	
自主選択 科目	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由 科目	10-30-01	自由		進級および卒業資格とならない科目
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目

第3 履修上の注意

科目の設置形態は入学年度によって異なり、自分が該当する入学年度の開講科目表に記載されている科目でないと履修することはできません。例えば同じ民法を1年通して履修する場合でも、2006年度・2005年度入学者は「民法 A」(春)「民法 B」(秋)の2科目を履修し、2004年度以前入学者は「民法」(通年)を履修することになります。2006年度・2005年度入学者については必ずしも同一担当者の科目の春と秋を両方履修する必要はありませんが、シラバスなどに春秋両方履修するよう担当者の指示があればそれに従ってください。異なる入学年度の設置科目を申請した場合は履修エラーとなり、履修申告が全て無効になることがあるので注意してください。時間割は曜日ごとに上段が2006年度・2005年度入学者対象、下段が2004年度以前入学者対象となっています。

1 履修上限単位数について

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ48単位とし、自由科目を含めて、56単位までとします。ただし、教職課程教科に関する科目に履修の上限はありません。

2 演習科目

(1) F系列の演習科目(憲法演習・民法演習など)

2006年度・2005年度入学者

2008年度学士入学者

同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。

同一科目名、かつ、同一担当者の場合は、異なる学期で4単位まで履修することができます。

- (例) 憲法演習(春)担当者A君 / 憲法演習(春)担当者B君 担当者が異なるため
憲法演習(春)担当者A君 / 憲法演習(秋)担当者A君 学期が異なるため
× 憲法演習(春)担当者A君 / 憲法演習(春)担当者A君 同一学期、同一担当者のため×

2004年度以前入学者

2007年度以前学士入学者

同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。

(2) 人文科学研究会

人文科学研究会は同一科目名であっても担当者が異なれば履修することができます。また、2年連続で同じ担当者の研究会を履修する場合は第3学年で「人文科学研究会・」を、第4学年で「人文科学研究会・」を履修するようにしてください。

(3) 自然科学研究会

「自然科学研究会・」は一度しか「自然科学科目」として履修できません。ただし、副専攻として同一担当者の研究会を履修する場合に限り、「自然科学科目」として2年連続で履修することができますが、この場合は、日吉においてすでに自然科学科目を8単位以上取得済みであることが必要です。

3 「外国法」

2006年度・2005年度入学者

2008年度学士入学者

A系列の「外国法」「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、A系列として履修できるのは2科目4単位までです。4単位を超える場合は『系列外科目』として履修することになります。時間割にはA系列として履修する場合の登録番号と系列外科目として履修する場合の登録番号の2種類が記載されています。

2004年度以前入学者

2007年度以前学士入学者

A系列の「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、A系列として履修できるのは1科目までです。2科目めからは『系列外科目』として履修することになります。時間割にはA系列として履修する場合の登録番号と系列外科目として履修する場合の登録番号の2種類が記載されています。

4 「研究会」

- ・法律学科の「研究会(3年)」、「研究会(4年)」は別科目として履修することができます、それぞれF系列の科目になります。
- ・研究会の単位は年度ごとに認定されます。

・政治学科、他学部の研究会を履修する場合、1科目については「系列外科目」として履修でき、残りの科目は「自由科目」になります。

5 「商法 A・B」「商法 A・B」（2004年度以前入学者は「商法 ・ 」）

「商法 A・B」「商法 A・B」（2004年度以前入学者は「商法 ・ 」）を履修する場合は、3年生・4年生ともに指定されたクラスで原則として「A・B」両方履修してください。

6 「外国語科目」

日吉設置

外国語科目必修で取得すべき16単位を満たしていない場合は、日吉において再履修してください。なお、一部の科目ではWebエントリーによる抽選を行います。

抽選する外国語科目	Web エントリー期間	抽選結果発表日	抽選結果発表場所
英語第 (A群)(B群)	4月2日(水)10:00～5日(土)10:00	4月8日(火)9:45	法学部HP,日吉J11番教室前掲示板
ドイツ語第 ・	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部HP,日吉J11番教室前掲示板
フランス語第	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部HP,日吉J11番教室前掲示板
スペイン語第 ・ (A群)(B群)	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部HP,日吉J11番教室前掲示板

Web エントリー：http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html

結果発表HP：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html>

三田設置

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。授業内容については講義要綱・シラバスの共通部分を参照してください。

それぞれの語学のインテンシブコースは1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、**セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。詳細については掲示します。**

(1) 英語：「英語第 」

(2) ドイツ語

・「ドイツ語インテンシブ」

有機的に関連する週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(木)10時から三田433番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

・「ドイツ語速習」

初級2コース、中級2コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。原則として春と秋を両方履修してください。

・「ドイツ語第 」

(3) フランス語

・「フランス語インテンシブ」

7コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修してください。第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められません。セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談してください。

・「フランス語第 」

日吉のレギュラー・コースで学んだ諸君がフランス語の学習を継続するための授業です。積極的に参加してください。

(4) 中国語

・「中国語インテンシブ」

週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読 」「文献講読 」に参加してください。

(5) スペイン語

・「スペイン語インテンシブ」

週6回の授業で、6コマのうち3つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

・「スペイン語第 」

(6) ロシア語

・「ロシア語インテンシブ」

週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読 」「文献講読 」に参加してください。

- (7) 朝鮮語
 - ・「朝鮮語第 Ⅰ」
- (8) イタリア語
 - ・「イタリア語第 Ⅰ」
- (9) ポルトガル語
 - ・「ポルトガル語第 (中級)」「ポルトガル語第 (上級)」

7 日吉の授業科目を履修する際の注意

- (1) 科目の設置形態は入学年度によって異なり、自分が該当する入学年度の開講科目表に記載されている科目でないとは履修することはできません。例えば同じ文学を1年通して履修する場合でも、2005年度以降入学者は「文学Ⅰ(春)」「文学Ⅰ(秋)」の2科目を履修し、2004年度以前入学者は「文学Ⅰ(通年)」を履修することになります。異なる入学年度の設置科目を申請した場合は履修エラーとなり、履修申告が全て無効になることがあるので注意してください。日吉の科目を探す場合は入学年度ごとの日吉の時間割を参照してください。日吉の時間割はHP (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html>) で参照してください。
- (2) 三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は認めません。ただし、2・3時限についてはこの限りではありません。
 - (例) × 日吉1時限 三田2時限 / 日吉2時限 三田3時限 / 三田2時限 日吉3時限
- (3) 日吉設置科目を履修した場合、試験日が重複することもあります。したがって日吉設置科目の履修は、第3学年で完了することが望ましいでしょう。やむを得ず第4学年で履修する場合は、履修科目に十分余裕をもたないと卒業できない場合もありますから特に注意してください。

8 政治学科、他学部、研究所等に設置された授業科目を履修する場合の注意

三田に設置されている政治学科、他学部、および大学付設の研究所その他諸機関の専門的授業科目であらかじめ当該授業科目の担当者、および法律学科学習指導が承認した科目(4月初から学事センター HP (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html>) に「一覧表」を掲載します)は、法律学科の「系列外科目」として履修することができます(なお、その場合に、法律学科設置科目と同一科目で、他学部・他学科では名称が異なる科目を別科目として履修することはできませんので注意してください)。授業科目の履修にあたっては、必ず事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから(承認印は不要)履修申告をしてください。これらの授業科目は、直接法律学科の学生を対象に開講されている科目ではないために、その学科、学部、研究所等の規則、教育方針、施設の関係や担当者の教育上の配慮に基づいて履修が認められない場合もあります。また、あらかじめ法律学科学習指導の承認を得ていない授業科目については、「系列外科目」としては認められず、「自由科目」として履修することになります。その他、研究所等設置科目の取扱いについては「第10 科目別履修申告方法」を参照してください。

9 再履修について

2006年度・2005年度入学者

- (1) 「法学Ⅰ(憲法を含む)」: 日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- (2) 「憲法 A・B」「民法 A・B」「刑法 A・B」: 日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- (3) 前年度までに取得した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも履修することはできません。ただし、人文科学研究会、F系列の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A系列の「外国法Ⅰ」については、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)それぞれを別科目として履修することができますが、4単位を超える場合は系列外科目となります。

2004年度以前入学者

- (1) 「法学Ⅰ(憲法を含む)」: 日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- (2) 「憲法Ⅰ」「民法Ⅰ」「刑法Ⅰ」: 日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- (3) 前年度までに取得した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも履修することはできません。ただし、人文科学研究会、F系列の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A系列の「外国法Ⅰ」については、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)それぞれを別科目として履修することができますが、2科目めからは系列外科目となります。

10 その他の注意事項

- (1) 法律学科目のうち必修科目および系列科目は、できるだけ第3学年までに履修を完了させるようにしてください。
- (2) 単位の計算方法
三田で履修する授業科目は講義・演習いずれも「週1時限・半期」の授業で2単位、「週1時限・通年」の授業で4単位、「週2時限・半期」の集中授業で4単位となります（例外もあります）。
- (3) 集中講義（商法・等）は一週2時限ずつ履修しなければなりません。2005年度以降入学者については、シラバスなどで2時限続けて履修するよう担当者の指示があればそれに従ってください。

第4 成績について

1 成績表の送付

2006年度・2005年度入学者 2008年度学士入学者

成績結果を記載した学業成績表は、春学期終了科目については9月に、秋学期および通年科目については3月中旬に保証人宛に発送します。

2004年度以前入学者 2007年度以前学士入学者

成績結果を記載した学業成績表は、3月中旬に保証人宛に発送します。

2 原級者、休学者、留学者に対する注意

- (1) 第3学年において進級不合格となった者
第3学年において進級不合格となった場合、取得済みと認められる単位は、A・Bの評語を得た授業科目に限られます。ただし、外国語科目必修、体育科目、法律学科目必修、自由科目、分野11-30-01の教職課程教科に関する科目はCの評語を得た授業科目も取得済みと認めます。
- (2) 第4学年において卒業不合格となった者
第4学年において卒業不合格となった場合でも履修合格した科目はすべて取得済みと認めます。
- (3) 休学者・留学者が当該年度の休学・留学期間以前に試験を受け、評語を取得できた科目については、取得済みと認めます（3・4年共通）。

3 採点結果問い合わせ制度

法学部では採点結果について質問がある場合、科目設置地区の学事センター法学部窓口にて質問を受け付けます。なお、これ以外の方法で評語に関する質問は受け付けませんので注意してください（科目担当者は個別の質問には対応いたしません）。手続きについての詳細は春学期は9月、秋学期は3月に掲示します。

第5 定期試験について

定期試験・授業中に行われる小テストにおいて、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。また、レポートにおいて無断盗用等の不正行為が行われた場合も、定期試験同様に厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月16日（水）～28日（月）実施予定（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします）

秋学期末：1月23日（金）～2月2日（月）実施予定（秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします）

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

< 試験に関する注意事項 >

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料 500 円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。

試験開始後 20 分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。ただし、電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2 追加試験

- (1) 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します（受験料 = 1 科目につき 2,000 円）。
- (2) 語学、演習科目、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。
- (3) 受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。
- (4) 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、旧司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。
- (5) 追加試験日程：春学期末追加試験は 8 月 5・6 日（三田）の予定、秋学期末追加試験は 2 月下旬の予定です。

3 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

- (1) 三田と日吉の試験時間が重複したために受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。
- (2) この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。
- (3) この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

4 試験における不正行為

定期試験（レポートも含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該学期（2004 年度以前入学者は当該年度）に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度をもって受験してください。

第 6 休学・留学・退学

1 休学

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、学習指導担当教員と面接し承認印を受けたうえで学事センター法学部窓口へ提出してください。面接の申し込みについては学事センター法学部窓口で行ってください。休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

(1) 休学期間

2005 年度以降入学者：春学期 2008 年 4 月 1 日～9 月 21 日 / 秋学期 2008 年 9 月 22 日～2009 年 3 月 31 日（学期単位）

2004 年度以前入学者：2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日（年度単位）

(2) 提出締切

2005 年度以降入学者：春学期 2008 年 5 月 31 日 / 秋学期 2008 年 11 月 30 日

2004 年度以前入学者：2008 年 11 月 30 日

2 留学

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。学則による留学は、留学開始日から 1 年を単位とし、延長は 1 回に限り許可されます。また、留学期間は 1 年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導担当教員との面接を含めて、遅くとも出発の 1 ヶ月前には済ませてください。学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として帰国後の就学届提出時に行ってください。授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

3 退学

病気その他の事由により退学したい者は退学届を記入し、学生証を添えて学事センターに提出してください。授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします（学則第 171 条）。退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍および取得した成績は無効となります。

4 処分退学

- (1) 4 年間で第 3 学年に進級し得ない者および第 3・第 4 学年併せて 4 年在学し卒業し得ない者は学則第 156 条により退学処分となります。なお、休学期間は在学年数に算入しません。
- (2) 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第 188 条により退学処分となります。

第 7 復活制度について

2005 年度以降入学者 2008 年度学士入学者

原級などによる理由のため同一学年で 3 学期以上在学する学生が対象です。進級した場合、進級直後の学期において進級に必要な単位（卒業要件）を満たすことができれば半期で進級（卒業）できるという制度です。

（例）2007 年度 1 年間 2 年生に在学し、28 単位しか取得できず原級になったとします。この場合、次の春学期（2008 年度）で 2 単位以上取得できれば進級に必要な 30 単位を満たすため、9 月に 3 年生に進級することができます。さらに秋学期（2008 年度）において 30 単位取得できれば 2009 年 4 月に 4 年生になることができます。

また、進級直後の学期（この場合は 2008 年度秋学期）に限り、前学年で取得した単位数のうち 30 単位を超える分を進級に必要な単位として繰り越すことができます。この場合は 2008 年度春学期に 20 単位取得すれば 2 年生（3 学期間）で 48 単位取得したことになり、次の学期に限り進級単位として 18 単位分を繰り越すことができます。ただし、進級直後の学期において原級の場合、繰り越した分の単位は進級単位には含まれなくなります。詳細については学事センター法学部窓口で確認してください。

第 8 自主留年について

4 年生が卒業単位を満たしたうえで、さらに翌年度の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに研究会担当者に承認印をもらい、本人・保証人連署の誓約書を添えて願出なければなりません。研究会に所属していない場合は学習指導との面接が必要です。日程は 12 月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1 年間に在学しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き法律学科目（必修を除く）を 1 科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低 1 科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9 月卒業予定者のみ、半年間の自主留年を認めることがあります。日程は 2009 年 5 月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

第 9 クラス担任・学習指導について

1 クラス担任

本年度のクラス担任は次のとおりです。学問的な研究の指導ばかりでなく、日常生活ないし就職など、学生生活の全般にわたって相談や助言が行われます。具体的な指導運営については必要に応じて担当者の指示があるはずですが、同時に学生諸君の自主的なクラス運営が望まれます。

クラス	第 3 学年	第 4 学年
A	西川 理恵子	君嶋 祐子
B	水津 太郎	前田 美千代
C	鈴木 千佳子	安富 潔
D	島原 宏明	斎藤 和夫
E	宮島 司	田村 次朗
F	岩谷 十郎	加藤 修
G	山本 爲三郎	並木 和夫
H	坂原 正夫	武川 幸嗣
I	池田 真朗	吉村 典久
J	尹 仁河	明石 欽司
K	高田 晴仁	小林 節
L	青木 淳一	武川 幸嗣
M	太田 達也	藤原 淳一郎
N	内藤 恵	武川 幸嗣
O	三木 浩一	武川 幸嗣
P	北澤 安紀	太田 達也
Q	大森 正仁	太田 達也
R	オステン, フィリップ	太田 達也
S	佐藤 拓磨	犬伏 由子
T	小山 剛	太田 達也

2 学習指導

法律学科の学習指導は次のとおりです。

教授 太田 達也

教授 武川 幸嗣

学習指導の面談は原則として授業期間内の木曜日の昼休みに、三田研究室棟 1 階の教員談話室で行います。面談希望者は面談日前々日の火曜日午後 4 時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

第 10 科目別履修申告方法

申告する際に A 欄と B 欄のどちらを使用するかについては次の表で確認してください。

法律学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
法律学科設置科目	A欄	—	開講科目表のとおり	法律学科の時間割	
外国法(2科目4単位まで) 2005年度以降入学者	A欄	—	A系列	法律学科の時間割	
外国法(1科目4単位まで) 2004年度以前入学者				(A)と表記された登録番号	
外国法(3科目6単位以上) 2005年度以降入学者	A欄	—	系列外科目	法律学科の時間割	
外国法(2科目め～) 2004年度以前入学者				(外)と表記された登録番号	
外国語インテンシブ科目を セットで履修できない場合	B欄	99	自由科目	法律学科の時間割	・詳細は履修案内 21 ページ参照

他学部・政治学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
政治学科の専門科目	B欄	55	主に系列外科目	政治学科の時間割	・履修を希望する科目が専門科目として履修できるかは学事センターのHPに掲載される一覧表で確認してください。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html ・履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部の専門科目	B欄	55	主に系列外科目	科目設置学部的时间割	
他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部的时间割	
他学部の外国語科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	「全学部共通外国語履修案内」 HP上で公開されています。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html	開講科目は「全学部共通外国語履修案内」で確認してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
アラビア語：15					
イタリア語：16					

他学部・他学科の科目を履修する場合のみ、その学部・学科の最新の学則における科目を履修してください。最新の学則（三田設置科目）は次のとおりです。

文学部：07 学則 経済学部：05 学則 政治学科：55 学則（2005 年度以降入学者） 商学部：05 学則

研究所設置科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
外国語教育研究センター設置科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 243 ページを参照してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
アラビア語：15					
イタリア語：16					
言語文化研究所設置科目	B欄	朝鮮語：10 アラビア語：15 その他：77	外国語科目(選択) 自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
メディアコミュニケーション研究所設置科目	B欄	55	主に系列外科目	法律学科の時間割(巻末)	系列外科目として履修できない科目は以下のとおり： 「時事英語・・・」「文章作法・・・」...自主選択科目(B欄77) 研究会(～)の4単位を超えた分...自由科目(B欄99)
国際センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末) 在外研修は履修案内 246, 247 ページ参照。	履修を希望する科目が自主選択科目と自由科目のどちらかで認定されるかは履修案内 249, 250 ページを参照してください。
		99	自由科目	法律学科の時間割(巻末) 在外研修は履修案内 246, 247 ページ参照。	
教職課程センター設置科目	B欄	95	自由科目	教職課程の時間割	履修上限単位数（48 単位）には含まれません。 教職課程登録者のみ履修できます。
情報処理教育室設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 271 ページを参照してください。
知的資産センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
体育研究所設置科目	B欄	講義系：81 実技系：82	体育科目	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 232～235 ページを参照してください。
保健管理センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
教養研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	日吉の時間割	
福澤研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
アート・センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
外国語学校設置科目	B欄	99	自由科目	法律学科の時間割 (土曜日の下欄)	入学手続きが必要となります。受講の申し込みは履修案内 205 ページを参照してください。

いずれの科目も「自由科目」として履修する場合はB欄を使用してください。分野番号は99です。
(教職課程センター設置科目を履修する際のB欄分野番号は95)

1 履修申告について

(1) 申告方法について

学事 Web システムを使用して以下の期間に必ず行ってください。

Web 履修申告期間：4月11日(金)10:00～16日(水)14:00

学事 Web システムについては 10 ページを参照してください。

マークシートによる履修申告日について

Web 履修申告の最終日に設定することとする。2008 年度は 4月16日【締め切り時間：14:00】

(2) 申告上の注意

申告にあたっては、2007 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「法律学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」(本項)を熟読して申告してください。申告期間終了後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Web による申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります(学則第 188 条)。

(3) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(4) 履修確認表(履修申告した授業科目のリスト)は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。

この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)

とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(5) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で確認のうえ申告してください。

(6) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。用紙は、修正申告期間に学事センター法学部窓口で配付します。

政治学科

學習指導要項

政治学科 学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように十分注意してください。

第1 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

1 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除き自主選択科目を含む)から、30単位以上取得することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種(英語を除く)につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

2 卒業するために必要な授業科目・単位数

2004年度以降入学者

授業科目	単位数	内容等	
外国語科目	16	必修として履修した外国語科目 2語種 各8単位	
人文科学科目	8		
自然科学科目	8	数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11)、統計系列(04-20-12)を加えることができます ただし情報処理系列(04-20-13)の科目を加えることはできません	
社会科学科目	20	社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 経済原論, 経済原論 の5科目 20単位 2	
	4	行政法, 国際法, 刑法, 民法, 民法 のうち1科目 4単位 3	
	4	(2005年度以降入学者)経済政策, 経済政策, 財政論, 財政論, 国際経済論, 国際経済論 のうち2科目 4単位 (2004年度以前入学者)経済政策, 財政論, 国際経済論のうち1科目 4単位	
政治学科目	基礎科目	12単位	政治学基礎, 政治学基礎, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎の6科目 12単位
		選択系列科目	40単位
	政治・社会論系列 4単位以上		
	日本政治論系列 4単位以上		
	地域研究論系列 4単位以上		
	国際政治論系列 4単位以上		
研究会, 文献講読, 文献講読, 演習, 演習 4			
自由科目を除く全ての科目	32	卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 政治学科目(基礎科目を除く)を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目も含めることができます。 5	
合計	144		

1: 2003年度以前入学者は社会科学科目を36単位取得する必要があります。

2: 2003年度以前入学者は社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 経済原論, 経済原論, 民法, 民法 の7科目 28単位取得する必要があります。

3: 2003年度以前入学者は行政法, 国際法, 刑法のうち1科目 4単位を取得する必要があります。

4: 2003年度以前入学者は演習, 演習 は系列科目に含まれません。

5: 2003年度以前入学者は保健体育科目も含めることができます。

3 学士入学者が第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除く)から、30単位以上取得することが必要です。この中に、認定された単位のうち、最大16単位を繰り入れることができます。

4 学士入学者が卒業するために必要な授業科目・単位数

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように注意してください。

授業科目	単位数	内容等		
社会科学科目	28 1	20	社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 経済原論, 経済原論 の5科目 20単位 2	
		4	行政法, 国際法, 刑法, 民法, 民法 のうち1科目 4単位 3	
		4	(2007年度学士入学者) 経済政策, 経済政策, 財政論, 財政論, 国際経済論, 国際経済論 のうち2科目 4単位	
			(2007年度以前学士入学者) 経済政策, 財政論, 国際経済論のうち1科目 4単位	
政治学科目	52	基礎科目	12単位 政治学基礎, 政治学基礎, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎の6科目 12単位	
		選択 系列科目	40単位	政治思想論系列 4単位以上
				政治・社会論系列 4単位以上
				日本政治論系列 4単位以上
				地域研究論系列 4単位以上
				国際政治論系列 4単位以上
	研究会, 文献講読, 文献講読, 演習, 演習 4			
合計	80	5		

- 1: 2007年度以前学士入学者は社会科学科目を36単位取得する必要があります。
 2: 2007年度以前学士入学者は社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 経済原論, 経済原論, 民法, 民法 の7科目 28単位取得する必要があります。
 3: 2007年度以前学士入学者は行政法, 国際法, 刑法のうち1科目 4単位を取得する必要があります。
 4: 2007年度以前学士入学者は演習, 演習 は系列科目に含まれません。
 5: 2007年度以前学士入学者は合計88単位です。

第2 平成20年度開講科目

(下線のついている科目は今年度開講されません)

科目名の先頭に*がついている科目は複数の分野で開講されています。

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
			三田	英語第 (1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-16	必修 イタリア語(初級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-66	必修 イタリア語(中級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
三田			英語インテンシブ(1) 英語第 (1)	
01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)	
		三田	ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	
01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)	
		三田	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)	
01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)	
		三田	中国語インテンシブ(1)	
01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)	
		三田	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)	
01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)	
		三田	ロシア語インテンシブ(1)	
01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)	
		三田	朝鮮語第 (1)	
01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
		三田	ラテン語(中級)(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)	
01-20-14	選択 ポルトガル語	日吉	ポルトガル語(1)	
		三田	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)	
01-20-15	選択 アラビア語	日吉	アラビア語(1)	
01-20-16	選択 イタリア語	日吉	イタリア語(1)	
		三田	イタリア語第 (1)	

人文科学科目	02-20-01 選択	日吉	(2004年度以前入学者) 言語学(2) 言語学(2) 言語学(2) 言語学(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 文学(4) 歴史(2) 歴史(2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史(2) 科学史(2) 科学史(2) 科学史(2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽(2) 音楽(2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論(2) 人文科学特論(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座(2)
			(2005年度以降入学者) 言語学(2) 言語学(2) 言語学(2) 言語学(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論(2) 文学(4) 文学(2) 文学(2) 歴史(2) 歴史(2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史(2) 科学史(2) 科学史(2) 論理学(4) 論理学(2) 論理学(2) 倫理学(4) 倫理学(2) 倫理学(2) 宗教学(4) 宗教学(2) 宗教学(2) 哲学(4) 哲学(2) 哲学(2) 音楽(4) 音楽(2) 音楽(2) 漢文(2) 美術(4) 美術(2) 美術(2) 人文科学特論(2) 人文科学特論(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座(2)
		三田	人文科学研究会(2) 人文科学研究会(2) 人文科学研究会(2) 人文科学研究会(2)
自然科学科目	03-20-01 選択	日吉	(2004年度以前入学者) 物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学(2) 基礎数学(2) 心理学(2) 心理学(2) 基礎統計学(2) 基礎統計学(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論(2) 自然科学研究会(2) 自然科学研究会(2) 自然科学総合講座(2) 自然科学総合講座(2)
			(2005年度以降入学者) 物理学(実験を含む)(3) 物理学(実験を含む)(3) 化学(実験を含む)(3) 化学(実験を含む)(3) 生物学(実験を含む)(3) 生物学(実験を含む)(3) 基礎数学(2) 基礎数学(2) 心理学(2) 心理学(2) 基礎統計学(2) 基礎統計学(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論(2) 自然科学特論(2) 自然科学研究会(2) 自然科学研究会(2) 自然科学総合講座(2) 自然科学総合講座(2)
		三田	自然科学特論(2) 自然科学特論(2) 自然科学研究会(2) 自然科学研究会(2) 自然科学総合講座(2) 自然科学総合講座(2) 実践自然科学(2)
数学・統計・情報処理科目	04-20-11 選択 数学系列 自然科学科目として算入できます	日吉	数学(2) 数学(2) 数学(2) 数学(2)
		三田	数学概論(2) 数学概論(2) 数学(2) 数学(2) 数学(2) 数学(2)
	04-20-12 選択 統計系列 自然科学科目として算入できます	日吉	統計学(2) 統計学(2) 統計学(2) 統計学(2)
		三田	統計学(2) 統計学(2) 統計学(2) 統計学(2)
04-20-13 選択 情報処理系列	日吉	情報処理(2) 情報処理(2) 情報処理(2) 情報処理(2)	
	三田	情報処理(2) 情報処理(2) 統計情報処理(2) 統計情報処理(2) 統計情報処理(2) 統計情報処理(2)	
社会科学科目	05-10-11 必修 社会学系列	日吉	社会学(4)
	05-10-12 必修 法学系列	日吉	(2003年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) 民法(4) 民法(4)
			(2004年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4)
	05-10-13 必修 経済学・商学系列	日吉	経済原論(4) 経済原論(4)
	05-11-12 選択必修 法学系列	日吉	(2003年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4)
			(2004年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4) 民法(4) 民法(4)
	05-11-13 選択必修 経済学・商学系列	三田	(2004年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 経済政策(4) 財政論(4) 国際経済論(4)
			(2005年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 経済政策(2) 経済政策(2) 財政論(2) 財政論(2) 国際経済論(2) 国際経済論(2)
	05-20-11 選択 社会学系列	日吉	社会心理学(2) 社会心理学(2) 文化人類学(2) 文化人類学(2)
	05-20-12 選択 法学系列	三田	(2004年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 民法(4) 商法(4) 商法(4) 労働法(4) 経済法(4) 犯罪学(4)
(2005年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 民法 A(2) 民法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 労働法(2) 労働法(2) 経済法(2) 経済法(2) 犯罪学(2) 犯罪学(2)			
05-20-13 選択 経済学・商学系列	三田	(2004年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 計量経済学(4) 経済学(4) 日本経済論(4) 金融論(4) 労働経済論(4) 社会保障論(4) 経営学(4) 会計学(4)	
		(2005年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 計量経済学(2) 計量経済学(2) 経済史(2) 経済史(2) 日本経済論(2) 日本経済論(2) 金融論(2) 金融論(2) 労働経済論(2) 労働経済論(2) 社会保障論(2) 社会保障論(2) 経営学(2) 経営学(2) 会計学(2) 会計学(2)	
政治学科目	07-10-01 必修基礎科目	日吉	政治学基礎(2) 政治学基礎(2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究基礎(2) 国際政治基礎(2)
	07-20-01 選択・系列科目 政治思想論	日吉	政治文化論(2) 民主主義思想論(2)
		三田	近代政治思想史(2) 近代政治思想史(2) 現代政治思想(2) 政治哲学(2) 政治哲学(2) 政治理論史(2) 政治理論史(2) 政治理論史(2) 政治理論史(2) 中世政治思想(2) * 東洋政治思想史(2) * 東洋政治思想史(2) * 日本政治思想史(2) * 日本政治思想史(2) 現代政治思想特殊研究(2) 政治文化論特殊研究(2) 政治理論史特殊研究(2)
07-20-02 選択・系列科目 政治・社会論	日吉	行政学(2) 行政学(2) * マス・コミュニケーション論(2)	
	三田	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論(2) 行政学特論(2) 現代行政論(2) 現代社会理論(2) 現代社会理論(2) 現代政治理論(2) 現代政治理論(2) 公共経済論(2) 公共経済論(2) * 国際コミュニケーション論(2) * 国際コミュニケーション論(2) 社会調査論(2) 社会調査論(2) 社会変動論(2) 政治過程論(2) 政治過程論(2) 政治権力論(2) 政治権力論(2) 地域社会論(2) 地域社会論(2) 地方自治論(2) 地方自治論(2) * マス・コミュニケーション発達史(2) * マス・コミュニケーション発達史(2) * マス・コミュニケーション論(2) * マス・コミュニケーション論(2) メディア社会論(2) 社会変動論特殊研究(2) 政治過程論特殊研究(2) 政治権力論特殊研究(2)	

政治学 科目	07-20-03	選択・系列科目 日本政治論	日吉	地域社会論特殊研究 (2) *マス・コミュニケーション論特殊研究 (2) *日本外交史 (2) 日本政治運動史 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) 近代日本政治史 (2) 立法過程論 (2)
			三田	近世日本政治史 (2) 近世日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2) 近代日本政党史 (2) 近代日本政党史 (2) 現代日本行政論 (2) 現代日本行政論 (2) 現代日本政治論 (2) 現代日本政治論 (2) 古代日本政治史 (2) 古代日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) *日本外交史 (2) 日本行政史 (2) 日本行政史 (2) 日本政治運動史 (2) 日本政治運動史 (2) *日本政治思想史 (2) *日本政治思想史 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) 立法過程論 (2) 立法過程論 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 古代日本政治史特殊研究 (2) 日本行政史特殊研究 (2) 日本行政史特殊研究 (2) 日本政治思想史特殊研究 (2)
	07-20-04	選択・系列科目 地域研究論	日吉	アフリカ現代史 (2) 現代中東論 (2) 現代中国論 (2) 中国政治史 (2) 比較地域研究論 (2) 現代ロシア論 (2) 現代アメリカ論 (2)
			三田	*NGO・NPO論 (2) アフリカ社会論 (2) アフリカ社会論 (2) アフリカの国際政治 (2) アメリカ政治史 (2) アメリカ政治史 (2) イスラーム社会論 (2) イスラーム社会論 (2) *開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) 現代アフリカ論 (2) 現代アメリカ論 (2) 現代オーストラリア論 (2) 現代オーストラリア論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代台湾論 (2) 現代中国論 (2) 現代中国論 (2) 現代中東論 (2) 現代中東論 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ロシア論 (2) 現代ロシア論 (2) シヴィル・ソサエティ論 (2) 西洋法制史 (4) 中国政治史 (2) 中国政治史 (2) 中国法制史 (4) *東洋政治思想史 (2) *東洋政治思想史 (2) 比較地域研究論 (2) 現代中国論特殊研究 (2) 現代アフリカ論特殊研究 (2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代ラテン・アメリカ論特殊研究 (2) 現代ロシア論特殊研究 (2) 地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2)
	07-20-05	選択・系列科目 国際政治論	日吉	国際政治論 (2) 国際政治論 (2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2)
			三田	*NGO・NPO論 (2) *開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代国際政治 (2) 現代国際政治 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) *国際コミュニケーション論 (2) *国際コミュニケーション論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治理論 (2) 国際政治理論 (2) 国際政治論 (2) シヴィル・ソサエティ論 (2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2) 安全保障論特殊研究 (2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代東南アジア論特殊研究 (2) 国際政治経済論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) 東アジアの国際関係特殊研究 (2) 東アジアの国際関係特殊研究 (2)
	07-20-06	選択・系列科目 研究会	三田	研究会 (2)
	07-20-07	選択・系列科目 文献講読	三田	文献講読 (2) 文献講読 (2)
	07-20-08	選択・系列科目 政治学総合講座	三田	戦後世界と日本 (2)
	07-22-01	選択・系列科目 集中学習科目	日吉	演習 (2) 演習 (2)
体育 科目	08-20-01	選択・講義系	日吉	体育学講義 (2) 体育学演習 (1)
	08-20-02	選択・実技系	日吉	体育実技A (1) 体育実技B (1)
			三田	体育実技A (1)
自主選択 科目	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由 科目	10-30-01	自由		進級および卒業資格とならない科目
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目

第3 履修上の注意

科目の設置形態は入学年度によって異なり、自分が該当する入学年度の開講科目表に記載されている科目でないとは履修することはできません。異なる入学年度の設置科目を申請した場合は履修エラーとなり、履修申告が全て無効になることがあるので注意してください。

1 履修上限単位数について

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ52単位とし、それを越えて履修する場合は「自由科目」として履修してください。なお、秋学期は「政治学科目」についてのみ履修上限52単位の範囲内で追加することができます。追加申告期間、方法は春学期末に送付する学業成績表でお知らせします。

2 人文科学研究会・自然科学研究会

(1) 人文科学研究会

人文科学研究会は同一科目名であっても担当者が異なれば履修することができます。また、2年連続で同じ担当者の研究会を履修する場合は第3学年で「人文科学研究会・」を、第4学年で「人文科学研究会・」を履修するようにしてください。

(2) 自然科学研究会

「自然科学研究会・」は一度しか「自然科学科目」として履修できません。ただし、副専攻として同一担当者の研究会を履修する場合に限り、「自然科学科目」として2年連続で履修することができますが、この場合は、日吉においてすでに自然科学科目を8単位以上取得済みであることが必要です。

3 社会科学科目（選択必修 経済学・商学系列）

2005年度以降入学者

2008年度学士入学者

社会科学科目の中で、経済政策、経済政策、財政論、財政論、国際経済論、国際経済論 のうちの2科目4単位が必修です。3年生のうちに2科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。2科目の組み合わせは自由ですが、なるべく・を通して履修することが望まれます。「国際経済論・」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、担当者が異なる場合でも同一科目を2科目以上履修することはできませんので注意してください。

2004年度以前入学者

2007年度以前学士入学者

社会科学科目の中で、経済政策、財政論、国際経済論のうちの1科目4単位が必修です。3年生のうちに1科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。「国際経済論」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、担当者が異なる場合でも同一科目を2科目以上履修することはできませんので注意してください。

4 政治学科目 系列科目

卒業までに「政治思想論系列」、「政治・社会論系列」、「日本政治論系列」、「地域研究論系列」、「国際政治論系列」の5系列の中から、各系列とも4単位以上、また文献講読、文献講読、研究会、演習、演習（ ）も含めて合計40単位以上の履修が必要です。これにはもちろん、日吉で開講されている行政学、行政学などの系列科目の単位も含まれます。

2003年度以前入学者および2007年度以前学士入学者については「演習」、「演習」は系列科目の合計単位に含まれません。

5 文献講読

- (1) 文献講読は、大学院への進学や外国語の政治学文献の読解力を高めたい意欲ある学生のための科目です。
- (2) 文献講読の履修にあたっては、担当者が適当と認める方法で受講者を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。
- (3) 文献講読の授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、不合格とします。具体的な出欠の認定は担当者が最も適当と考える方法によって行います。

6 研究会

研究会、いわゆるゼミは、第3・4学年に開講され、政治学科の専任教員が担当する系列科目です。研究会は必修ではありませんが、その履修を途中で放棄することは、様々な意味で望ましくありません。2年間という長丁場での大学生活の中心となる授業科目です。研究会の履修は一人1科目に限られます。また科目の性格から履修者数は限定されます。研究会の履修者の決定は、原則として、4月の初めの統一試験において行われます。研究会は2単位として、学期毎に成績を取得することができます。2単位科目となりますが、同一担当者の研究会を、第3・4学年を通じて2年以上履修するという原則は変わりません。なお、研究会の入会のタイミングは第3学年の春学期からとなり、途中から研究会を履修することはできません。

2008年度の研究会入会者選考の日程は次のとおりです。

第一次統一選考 4月3日(木) 13:00

第一次合格発表 4月4日(金) 9:00以降 西校舎地下2階掲示板にて

第二次選考以降 4月7日(月) 13:00以降

秋学期に三田に進級してくる学生で、研究会の入会を希望する場合は学事センターに問い合わせてください。

研究会の履修においては、4月の履修申告時に当該学年の春学期・秋学期分を履修してください。

法律学科、他学部の研究会を履修する場合、1科目については「自主選択科目」として履修でき、残りの科目は「自由科目」になります。

7 特殊研究

集中学習科目として設置されている特殊研究は、特定の主題に関して受講者の積極的参加を前提として行われる、少人数制のセミナー形式の授業です。したがって、担当者が適当と認める方法で受講者数を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。なお同一担当者の特殊研究は、その名称のいかんにかかわらず、との2科目4単位までが卒業必要科目として履修できる上限です。それ以上履修を希望する場合は「自由科目」の扱いになります。

- (例1) x 担当者A君「 特殊研究 」 担当者A君「 特殊研究 」
(例2) 担当者A君「 特殊研究 」 担当者A君「 特殊研究 」
(例3) 担当者A君「 特殊研究 」 担当者A君「 特殊研究 」

8 法律学科、他学部、研究所等に設置された授業科目を履修する場合の注意

三田に設置されている法律学科、他学部、および大学付設の研究所開講の科目の一部は、政治学科の自主選択科目として卒業単位にすることができます。

4月当初から学事センター HP (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html>) に法律学科、他学部の設置科目で「自主選択科目」と認められる科目の一覧表を掲載します。ただし、これらの科目の中には、直接政治学科の学生を対象に開講されている授業科目ではないために、様々な理由から履修が許可されないものもありますから、事前に各研究所その他諸機関に問い合わせるとともに、必ずその授業科目担当者の許可を口頭で得てから履修申告してください。なお、メディア・コミュニケーション研究所開講の研究会(～)当該研究所研究生のみ対象科目の4単位を超える分は「自由科目」として履修してください。また同一科目で、学部によって名称のみが異なる科目を別科目として履修することはできません。その他、研究所等設置科目の取扱いについては「第10 科目別履修申告方法」を参照してください。

9 外国語科目

日吉設置

外国語科目必修で取得すべき16単位を満たしていない場合は、日吉において再履修してください。なお、一部の科目ではWebエントリーによる抽選を行います。

抽選する外国語科目	Web エントリー期間	抽選結果発表日	抽選結果発表場所
英語第 (A群)(B群)	4月2日(水)10:00～5日(土)10:00	4月8日(火)9:45	法学部 HP, 日吉 J11 番教室前掲示板
ドイツ語第	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部 HP, 日吉 J11 番教室前掲示板
フランス語第	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部 HP, 日吉 J11 番教室前掲示板
スペイン語第 (A群)(B群)	4月8日(火)10:00～9日(水)13:00	4月11日(金)8:45	法学部 HP, 日吉 J11 番教室前掲示板

Web エントリー：http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html

結果発表 HP：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html>

三田設置

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。授業内容については講義要綱・シラバスの共通部分を参照してください。

それぞれの語学のインテンシブコースは1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。詳細については掲示します。

(1) 英語：「英語第」

(2) ドイツ語

・「ドイツ語インテンシブ」

有機的に関連する週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(木)10時から三田433番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

・「ドイツ語速習」

初級2コース、中級2コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。原則として春と秋を両方履修してください。

・「ドイツ語第」

(3) フランス語

・「フランス語インテンシブ」

7コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修してください。第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められません。セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談してください。

・「フランス語第」

日吉のレギュラー・コースで学んだ諸君がフランス語の学習を継続するための授業です。積極的に参加してください。

- (4) 中国語
・「中国語インテンシブ」
週 3 回の授業で、1 コース開講します。日吉からの 3 年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者（安田）に相談してください。週 1 回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読」「文献講読」に参加してください。
- (5) スペイン語
・「スペイン語インテンシブ」
週 6 回の授業で、6 コマのうち 3 つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。
・「スペイン語第 1」
- (6) ロシア語
・「ロシア語インテンシブ」
週 4 回の授業で、1 コース開講します。日吉からの 3 年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。
週 1 回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読」「文献講読」に参加してください。
- (7) 朝鮮語
・「朝鮮語第 1」
- (8) イタリア語
・「イタリア語第 1」
- (9) ポルトガル語
・「ポルトガル語第（中級）」「ポルトガル語第（上級）」

10 日吉の授業科目を履修する際の注意

- (1) 科目の設置形態は入学年度によって異なり、自分が該当する入学年度の開講科目表に記載されている科目でないと履修することはできません。例えば同じ文学を 1 年通して履修する場合でも、2005 年度以降入学者は「文学（春）」「文学（秋）」の 2 科目を履修し、2004 年度以前入学者は「文学（通年）」を履修することになります。異なる入学年度の設置科目を申請した場合は履修エラーとなり、履修申告が全て無効になることがあるので注意してください。日吉の科目を探す場合は入学年度ごとの日吉の時間割を参照してください。日吉の時間割は HP（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html>）で参照してください。
- (2) 三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は認めません。ただし、2・3 時限についてはこの限りではありません。
（例）× 日吉 1 時限 三田 2 時限 / 日吉 2 時限 三田 3 時限 / 三田 2 時限 日吉 3 時限
- (3) 日吉設置科目を履修した場合、試験日が重複することもあります。したがって日吉設置科目の履修は、第 3 学年で完了することが望ましいでしょう。やむを得ず第 4 学年で履修する場合は、履修科目に十分余裕をもたないと卒業できない場合もありますから特に注意してください。

11 再履修について

- (1) 外国語科目必修
日吉において指定クラスで履修してください。なお、一部の科目では抽選を行います。
- (2) 社会科学科目
すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってクラス指定はありません。同一名称の科目が他学部等の三田の科目に存在しても、特別の場合を除きそれを代替科目とは認めません。
- (3) 政治学科目基礎科目
すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってクラス指定はありません。

12 履修全般に関する注意

- (1) すでに（過年度）一度履修合格した授業科目は、たとえ担当者が変わった場合でも、自由科目として以外は再履修はできません。ただし、1) 担当者の異なる同一名称の特殊研究、2) 担当者の異なる人文科学研究会、3) 不合格となった授業科目の再履修についてはこの限りではありません。なお取得済みの授業科目はたとえ名称が変わった場合でも再履修はできません。現在までのところ、名称変更があったのは次の科目です。

旧	新
現代朝鮮論	現代韓国朝鮮論
NGO・NPO 論	NGO・NPO 論
現代中近東論	現代中東論
現代中近東論	現代中東論
イスラム社会論	イスラーム社会論
イスラム社会論	イスラーム社会論
アメリカ政治史	アメリカ政治史
アメリカ政治史	アメリカ政治史

- (2) 系列科目の一部の授業科目は二つの系列に属しています。たとえば「マス・コミュニケーション論」は、「政治・社会論系列」と「日本政治論系列」にそれぞれ属しています。したがって、履修申告の際、どちらの系列科目として履修するのかを決定し、いずれか一方の登録番号だけを登録することが必要です。登録番号はそれぞれの系列ごとにあります。履修申告後に指定した分野を変更することはできません。
- (3) 教職課程センター設置科目は、原則として教職課程申告者以外、履修できません。
- (4) いくつかの授業科目では履修者数の制限を設けています。それらの科目については、講義要綱と掲示に注意することが重要です。受講者の選抜を行う科目は、「研究会」を除き原則として初回の授業時に行うことになっています。

第 4 成績について

1 成績表の送付

成績結果を記載した学業成績表は、春学期終了科目については9月に、秋学期および通年科目については3月中旬に保証人宛に発送します。

2 原級した場合の成績について

原級者（進級・卒業不合格者）が取得した単位（A・B・Cの評語を得た授業科目）はすべて取得済みと認めます。

3 採点結果問い合わせ制度

法学部では採点結果について質問がある場合、科目設置地区の学事センター法学部窓口にて質問を受け付けます。なお、これ以外の方法で評語に関する質問は受け付けませんので注意してください（科目担当者は個別の質問には対応いたしません）。手続きについての詳細は春学期は9月、秋学期は3月に掲示します。

第 5 定期試験について

定期試験・授業中に行われる小テストにおいて、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。また、レポートにおいて無断盗用等の不正行為が行われた場合も、定期試験同様に厳しく処分されます。このようなことが絶対にならないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月16日（水）～28日（月）実施予定（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします）

秋学期末：1月23日（金）～2月2日（月）実施予定（秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします）

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

< 試験に関する注意事項 >

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。

試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。ただし、電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内に入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2 追加試験

- (1) 追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します（受験料 = 1 科目につき 2,000 円）。
- (2) 語学、演習科目、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。
- (3) 受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。
- (4) 追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、旧司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。
- (5) 追加試験日程：春学期末追加試験は 8 月 5・6 日（三田）の予定、秋学期末追加試験は 2 月下旬の予定です。

3 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

- (1) 三田と日吉の試験時間が重複したために受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。
- (2) この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。
- (3) この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

4 試験における不正行為

定期試験（レポートも含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該学期に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度をもって受験してください。

第 6 休学・留学・退学

1 休学

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、学習指導担当教員と面接し承認印を受けたうえで学事センター法学部窓口へ提出してください。面接の申し込みについては学事センター法学部窓口で行ってください。休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

(1) 休学期間

【春学期】2008 年 4 月 1 日～ 9 月 21 日 【秋学期】2008 年 9 月 22 日～ 2009 年 3 月 31 日

(2) 提出締切

【春学期】2008 年 5 月 31 日 【秋学期】2008 年 11 月 30 日

2 留学

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。学則による留学は、留学開始日から 1 年を単位とし、延長は 1 回に限り許可されます。また、留学期間は 1 年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導担当教員との面接を含めて、遅くとも出発の 1 ヶ月前には済ませてください。学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として帰国後の就学届提出時に行ってください。授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。研究会履修者は、必ず研究会担当者とも十分相談してください。

3 退学

病気その他の事由により退学したい者は退学届を記入し、学生証を添えて学事センターに提出してください。授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします（学則第 171 条）。退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍および取得した成績は無効となります。

4 処分退学

- (1) 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。
なお、休学期間は在学年数に算入しません。
- (2) 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

第7 復活制度について

原級などによる理由のため同一学年で3学期以上在学する学生が対象です。進級した場合、進級直後の学期において進級に必要な単位(卒業要件)を満たすことができれば半期で進級(卒業)できるという制度です。

(例) 2007年度1年間2年生に在学し、28単位しか取得できず原級になったとします。この場合、次の春学期(2008年度)で2単位以上取得できれば進級に必要な30単位を満たすため、9月に3年生に進級することができます。さらに秋学期(2008年度)において30単位取得できれば2009年4月に4年生になることができます。

また、進級直後の学期(この場合は2008年度秋学期)に限り、前学年で取得した単位数のうち30単位を超える分を進級に必要な単位として繰り越すことができます。この場合は2008年度春学期に20単位取得すれば2年生(3学期間)で48単位取得したことになり、次の学期に限り進級単位として18単位分を繰り越すことができます。ただし、進級直後の学期において原級の場合、繰り越した分の単位は進級単位には含まれなくなります。詳細については学事センター法学部窓口で確認してください。

第8 自主留年について

4年生が卒業単位を満たしたうえで、さらに翌年度1年間の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに研究会担当者に承認印をもらい、本人・保証人連署の誓約書を添えて願出しなければなりません。研究会に所属していない場合は学習指導との面接が必要です。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1年間在学しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き政治学科目(必修を除く)を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9月卒業予定者のみ、半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

第9 クラス担任・学習指導について

1 クラス担任

クラス担任は学問上の研究指導を行うと同時に、学生生活全般にわたって相談のり助言を与えることになっています。政治学科では、研究会担当者がクラス担任となります。研究会に所属していない者のクラス担任は、次のとおりです。

A-J組 高橋伸夫
K-T組 山本信人

2 学習指導

政治学科の学習指導は次のとおりです。

教授 高橋伸夫
教授 山本信人

学習指導の面談は原則として授業期間内の金曜日昼休みに、三田研究室棟1階の教員談話室で行います。面談希望者は面談日前々日の水曜日午後4時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

第10 科目別履修申告方法

申告する際にA欄とB欄のどちらを使用するかについては次の表で確認してください。

政治学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
政治学科設置科目	A欄	—	開講科目表のとおり	政治学科の時間割	
外国語インテンプ科目をセットで履修できない場合	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割	・詳細は履修案内 36, 37 ページ参照

他学部・法律学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
法律学科の専門科目	B欄	77	主に自主選択科目	法律学科の時間割	・履修を希望する科目が自主選択科目として履修できるかは学事センターのHPに掲載される一覧表で確認してください。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html ・履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部の専門科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部の時間割	
他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部の時間割	
他学部の外国語科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	「全学部共通外国語履修案内」HP上で公開されています。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html	開講科目は「全学部共通外国語履修案内」で確認してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
		アラビア語：15			
イタリア語：16					

他学部・他学科の科目を履修する場合のみ、その学部・学科の最新の学則における科目を履修してください。最新の学則(三田設置科目)は次のとおりです。

文学部：07 学則 経済学部：05 学則 法律学科：55 学則(2005年度以降入学者) 商学部：05 学則

研究所設置科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
外国語教育研究センター設置科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 243 ページを参照してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
		アラビア語：15			
イタリア語：16					
言語文化研究所設置科目	B欄	朝鮮語：10 アラビア語：15 その他：77	外国語科目(選択) 自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
メディアコミュニケーション研究所設置科目	B欄	77	主に自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	研究会(～)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末) 在外研修は履修案内 246, 247 ページ参照。	履修を希望する科目が自主選択科目と自由科目のどちらかで認定されるかは履修案内 249, 250 ページを参照してください。
		99	自由科目	政治学科の時間割(巻末) 在外研修は履修案内 246, 247 ページ参照。	
教職課程センター設置科目	B欄	95	自由科目	教職課程の時間割	履修上限単位数(52単位)には含まれません。教職課程登録者のみ履修できます。
情報処理教育室設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 271 ページを参照してください。
知的資産センター設置科目	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割(巻末)	
体育研究所設置科目	B欄	講義系：81 実技系：82	体育科目	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 232～235 ページを参照してください。
保健管理センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
教養研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	日吉の時間割	
福澤研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
アート・センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
外国語学校設置科目	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割(土曜日の下欄)	入学手続きが必要となります。受講の申し込みは履修案内 205 ページを参照してください。

いずれの科目も「自由科目」として履修する場合はB欄を使用してください。分野番号は99です。
(教職課程センター設置科目を履修する際のB欄分野番号は95)

1 履修申告について

(1) 申告方法について

学事Webシステムを使用して以下の期間に必ず行ってください。

Web 履修申告期間：4月11日(金)10:00～16日(水)14:00

学事 Web システムについては 10 ページを参照してください。

マークシートによる履修申告日について

Web 履修申告の最終日に設定することとする。2008 年度は 4月16日【締め切り時間：14:00】

(2) 申告上の注意

申告にあたっては、2007 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「法律学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」(本項)を熟読して申告してください。申告期間終了後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Web による申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります(学則第 188 条)。

(3) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(4) 履修確認表(履修申告した授業科目のリスト)は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(5) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で確認のうえ申告してください。

(6) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。用紙は、修正申告期間に学事センター法学部窓口で配付します。

講義要綱・シラバス

講義の内容とその順番は授業の展開等に応じて変更される
こともあります。

またその他の項目についても変更されることがあります。

系列・系列外科目

A 系列	45
B 系列	49
C 系列	50
D 系列	52
E 系列	56
F 系列	60
研究会（3年）	78
研究会（4年）	88
系列外	95

系列・系列外科目

文献講読	121
政治思想論	122
政治・社会論	126
日本政治論	134
地域研究論	141
国際政治論	149
研究会（3年）	156
研究会（4年）	162

社会科学科目

選択 法学系列	167
選択必修 経済学・商学系列	170
選択 経済学・商学系列	174

法律学科・政治学科設置 共通科目

外国語科目	179
人文科学科目	189
自然科学科目	195
数学・統計・情報処理科目	198

〔系列・系列外科目〕

〔A系列〕

法理学 / 法理学 (春学期集中)

現代正義論の諸問題 (1)

講師 石山文彦

授業科目の内容:

法理学として論じられるテーマは多岐にわたる(その概要については授業の冒頭で簡単に触れる)が、授業では主題を正義論に絞ることとする。正義論は、法の目的あるいは法の目指すべき理念・理想を追究するものであり、法理学の基本問題として最も古くから論じられてきた。授業では、特に現代の正義論のテーマとして、どのような正義原理が個人の自由をよりよく保障するのか、福祉国家的再配分と自由は両立するのか、またそもそも、はたして、またなぜ個人の自由が尊重されねばならないのか、などの問いを取り上げ、それらに対する主要な回答を紹介し、その長短を検討する。春学期は、功利主義、平等主義的自由主義、自由尊重主義から出された回答を検討する。

テキスト:

指定しない。

参考書:

講義全般に関わるものを以下に掲げる。詳細は、授業中に指示する。

- ・長谷川晃・角田猛之(編著)『ブリッジブック法哲学』(信山社, 2004)
- ・平井亮輔(編著)『正義』(嵯峨野書院, 2004)
- ・川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社, 1985)
- ・W・キムリッカ『現代政治理論』(日本経済評論社, 2002)

法理学 / 法理学 (春学期集中)

現代正義論の諸問題 (2)

講師 石山文彦

授業科目の内容:

法理学 / 法理学 (春学期) の授業に引き続き、どのような正義原理が個人の自由をよりよく保障するのか、福祉国家的再配分と自由は両立するのか、またそもそも、はたして、またなぜ個人の自由が尊重されねばならないのかなどの問いに対して、共同体主義およびフェミニズムから出された回答を紹介し、その長短を検討する。さらに、近年活発になりつつある多文化主義の主張を取り上げ、その分析を行う。

テキスト:

指定しない。

参考書:

講義全般に関わるものを以下に掲げる。詳細は、授業中に指示する。

- ・長谷川晃・角田猛之(編著)『ブリッジブック法哲学』(信山社, 2004)
- ・平井亮輔(編著)『正義』(嵯峨野書院, 2004)
- ・川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社, 1985)
- ・W・キムリッカ『現代政治理論』(日本経済評論社, 2002)

国際法 A / 国際法 (春学期) 教授 明石欽司

授業科目の内容:

現在の国際法体系中の、「法源」と「国家」に関する諸問題についての講義を行います。

テキスト:

特に指定しませんが、次の概説書を推薦します。栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)

参考書:

大沼保昭(編集代表)『国際条約集』(2008年版)(有斐閣, 2008年)

国際法 B / 国際法 (秋学期) 教授 明石欽司

授業科目の内容:

国家以外の国際法主体(国際組織・個人)について論じた後に、国際法学の若干の基本的事項についての説明を行います。

テキスト:

特に指定しませんが、次の概説書を推薦します。栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)

参考書:

大沼保昭(編集代表)『国際条約集』(2008年版)(有斐閣, 2008年)

外国法 (英米) / 外国法 (英米) (春学期)

教授 西川理恵子

授業科目の内容:

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

テキスト:

特に指定しないが、参考書のうち、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書:

- ・ジュリスト英米法百選, 英米法総論(田中英夫)
- ・アメリカ法入門, 英米法(現代法学全集)等

外国法 (英米) / 外国法 (英米) (秋学期)

教授 西川理恵子

授業科目の内容:

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

テキスト:

特に指定しないが、参考書のうち、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書:

- ・ジュリスト英米法百選, 英米法総論(田中英夫)
- ・アメリカ法入門, 英米法(現代法学全集)等

外国法 (独) / 外国法 (独) (春学期)

准教授 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

ドイツ法の全体像を理解してもらえよう講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト:

毎回、講義資料プリント(レジュメ等)を配布することにする。

参考書:

参考文献については講義の中で必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳=守矢健一/ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第6版』(有斐閣, 2005年)がある。

外国法 (独) / 外国法 (独) (秋学期)
准教授 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

ドイツ法の全体像を理解してもらえような講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト:

毎回, 講義資料プリント (レジュメ等) を配布することにする。

参考書:

参考文献については講義の中で必要に応じて紹介することにする。概説書としては, 村上淳 = 守矢健一 / ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第6版』(有斐閣, 2005年)がある。

外国法 (仏) / 外国法 (仏) (春学期)
フランス法の基礎的諸制度および諸理論とその歴史
講師 上井 長久

授業科目の内容:

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論とそれらの理解に必要な歴史について講義します。本講は, フランス私法および公法の基底を理解することを目的として, 私法および公法の序論と歴史について原典資料 (法文, 判例, 学説等) により理解しようとするものです。フランス法は, わが国の母法の一つとして重要であるばかりか, フランス革命により近代国家が樹立され, いち早く成文の憲法および諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり, 法の宝庫として重要です。

テキスト:

講義資料プリント「Introduction au droit privé」「Introduction au droit public」「Histoire du droit privé」などを配布します。

参考書:

- ・山口俊夫「概説フランス法 上」(東大出版会)
- ・滝沢 正「フランス法」(三省堂)

外国法 (仏) / 外国法 (仏) (秋学期)
フランス法の基礎的諸制度および諸理論とその歴史
講師 上井 長久

授業科目の内容:

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論とそれらの理解に必要な歴史について講義します。本講は, フランス私法および公法の基底を理解することを目的として, 私法および公法の序論と歴史について原典資料 (法文, 判例, 学説等) により理解しようとするものです。フランス法は, わが国の母法の一つとして重要であるばかりか, フランス革命により近代国家が樹立され, いち早く成文の憲法および諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり, 法の宝庫として重要です。

テキスト:

講義資料プリント「Introduction au droit privé」「Introduction au droit public」「Histoire du droit privé」などを配布します。

参考書:

- ・山口俊夫「概説フランス法 上」(東大出版会)
- ・滝沢 正「フランス法」(三省堂)

外国法 (中) / 外国法 (中) (春学期)
現代中国法概説
講師 黄 清溪

授業科目の内容:

社会主義国家を堅持しながら, 改革開放を推進し, 市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において, いかなる法制度が展開されているか, 民法と会社法を重点において見つめていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する, 歴史, 沿革, 社会背景などについて講義をしたのち, 後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には, 現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

特に指定しません。

外国法 (中) / 外国法 (中) (秋学期)
現代中国法概説
講師 黄 清溪

授業科目の内容:

社会主義国家を堅持しながら, 改革開放を推進し, 市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において, いかなる法制度が展開されているか, 民法と会社法を重点において見つめていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する, 歴史, 沿革, 社会背景などについて講義をしたのち, 後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には, 現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

特に指定しません。

外国法 (EU) / 外国法 (EU) (春学期)
EU法の基礎理論
法務研究科 教授 庄 司 克 宏

授業科目の内容:

欧州連合 (EU) 法の中核をなす欧州共同体 (EU) 法に関する基本的知識の習得を目的とする。第1に組織法 (EU 諸機関, 立法手続, 行政制度, 司法制度), 第2に国内法との関係 (直接効果, 優越性, EC 法上の権利の国内的救済) について双方向的講義を行う。

テキスト:

- ・庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店, 2003年
- ・庄司克宏『欧州連合 統治の論理とゆくえ』岩波新書, 2007年

参考書:

- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU 統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・庄司克宏編『国際機構』岩波書店, 2006年

外国法 (EU) / 外国法 (EU) (秋学期)
EU域内市場法
法務研究科 教授 庄 司 克 宏

授業科目の内容:

欧州連合 (EU) 法の中核をなす欧州共同体 (EU) 法に関する基本的知識の習得を目的とする。実体法としての域内市場法 (物・人・サービス・資本の自由移動, 競争法) に関する双方向的講義を行う。また, WTO 法との関係, 環境法, 民事司法協力を含む司法内務協力などについても時間の許す範囲で取り上げる。

テキスト:

- ・庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店, 2003年
- ・庄司克宏『欧州連合 統治の論理とゆくえ』岩波新書, 2007年

参考書:

- ・庄司克宏編『国際機構』岩波書店, 2006年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU 統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006年

外国法 (ラテンアメリカ) / 外国法 (ラテンアメリカ) (春学期)
ラテンアメリカ法・総論
専任講師 前 田 美千代

授業科目の内容:

本講義では, ラテンアメリカ法の総論部分として, ラテンアメリカ地域の概要, ラテンアメリカ法の意義や歴史・生成を中心に学習する。時間的な余裕があれば, 現代的な話題にも目を向けて, 各論的に, わが国や北米, EU でも同様の議論が見られる, 経済的統合や消費者保護, 法学教育等について学習する。

テキスト:

プリント配布

参考書：
授業中に指示

外国法（ラテンアメリカ）/外国法（ラテンアメリカ）(秋学期)
ラテンアメリカ法・各論 専任講師 前田 美千代

授業科目の内容：

本講義では、ラテンアメリカ法の各論部分として、ラテンアメリカ諸国の民法と消費者保護法を中心に学習する。民法の原則規定と消費者保護法によるその修正についてブラジル法を中心に検討し、日本法との違いや、EU諸国の法との違いを学習する。

テキスト：

プリント配布

参考書：

授業中に指示

〔B系列〕

民法 A / 民法（春学期）
債権総論（前半） 教授 池田 真朗

授業科目の内容：

民法債権総論の分野の前半を講義する。

内容は、1. 債権の目的、2. 債権の効力、3. 責任財産の保全である。後期の B との時間配分の関係で、4. 多数当事者の債権関係の最初の部分まで講述する予定である。

民法財産法の総仕上げとして、民法 から民法 までの内容にも言及する。

テキスト：

奥田昌道 = 池田真朗 = 潮見佳男編『民法 4 債権総論』悠々社、2007年

参考書：

- ・池田真朗『スタートライン債権法』（第4版）日本評論社、2005年
- ・奥田昌道 = 安永正昭 = 池田真朗編『判例講義民法 債権』悠々社、2004年
- ・野村豊弘 = 池田真朗他『民法 債権総論』（第3版）有斐閣Sシリーズ、2005年

民法 B / 民法（秋学期）
債権総論（後半） 教授 池田 真朗

授業科目の内容：

民法債権総論の分野の後半を講義する。

内容は、1. 多数当事者の債権関係、2. 債権の譲渡、3. 債権の消滅である。

前期の A との時間配分の関係で、1. 多数当事者の債権関係の最初の部分は前期の A で講述する。したがって、民法 は A も B もともに履修することが望ましい。

民法財産法の総仕上げとして、民法 から民法 までの内容にも言及するのは、民法 A と同様である。

テキスト：

奥田昌道 = 池田真朗 = 潮見佳男編『民法 4 債権総論』悠々社、2007年

参考書：

- ・池田真朗『スタートライン債権法』（第4版）日本評論社、2005年
- ・奥田昌道 = 安永正昭 = 池田真朗編『判例講義民法 債権』悠々社、2004年
- ・野村豊弘 = 池田真朗他『民法 債権総論』（第3版）有斐閣Sシリーズ、2005年

民法 A / 民法（春学期）
家族法 教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

民法（親族編）を対象とします。この部分は家族法と呼ばれていますが、家族に関しては、意識や行動、価値観の大きな変化が見られます。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、家族法の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト：

授業開始時に指示する

参考書：

久貴忠彦他編「家族法判例百選（6版）」有斐閣

民法 B / 民法（秋学期）
相続法 教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

民法（相続編）を対象とします。この部分は民法・親族編とともに家族法と呼ばれています。人の死により、生前その者に属した権利・義務は、日本においては、家族を中心とした承継のルールに従うこととなります。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、相続の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト：

講義開始時に指示する

参考書：

久貴忠彦他編「家族法判例百選（6版）」有斐閣

〔C系列〕

刑法 A / 刑法（春学期）
刑法総論における解釈論上の論点の解明
講師 川端 博

授業科目の内容：

刑法総論は難解であるとして敬遠されがちですが、それは誤解に基づいています。たしかに、緻密な解釈論が展開されていますので、一見しますと、非常に分かりにくく感じられることと思われれます。しかし、解釈論のルールが理解できると、実にスムーズにマスターできる科目なのです。私たちにとって「犯罪」は身近な出来事であり、それについて刑法的に把握するわけですから、興味深く学べるはずで。論点の由来と背景を説明した上で学説・判例を検討し、その実体を把握できるように講述して、刑法解釈論の実力をつけさせるのが本講義の目標です。

テキスト：

川端博著「刑法総論講義」第2版（成文堂、2006年）

参考書：

- ・川端博著「論点講義刑法総論」（弘文堂、2002年）
- ・川端博著「レクチャー刑法総論」（法学書院、2003年）

刑法 B / 刑法（秋学期）
刑法総論における解釈論上の論点の解明
講師 川端 博

授業科目の内容：

刑法総論は難解であるとして敬遠されがちですが、それは誤解に基づいています。たしかに、緻密な解釈論が展開されていますので、一見しますと、非常に分かりにくく感じられることと思われれます。しかし、解釈論のルールが理解できると、実にスムーズにマスターできる科目なのです。私たちにとって「犯罪」は身近な出来事であり、それについて刑法的に把握するわけですから、興味深く学べるはずで。論点の由来と背景を説明した上で学説・判例を検討し、その実体を把握できるように講述して、刑法解釈論の実力をつけさせるのが本講義の目標です。

法律

テキスト：

川端博著「刑法総論講義」第2版（成文堂，2006年）

参考書：

- ・川端博著「論点講義刑法総論」（弘文堂，2002年）
- ・川端博著「レクチャー刑法総論」（法学書院，2003年）

刑事訴訟法 / 刑事訴訟法（春学期）教授 安 富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することとよいでしょう。そこで、個人の基本的な人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を旨とし、秩序と平穩を伴った社会を築いていくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、捜査から弁論にいたるまで、その流れにしたがって、第一審の刑事手続を概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

安富潔『刑事訴訟法講義』（慶應義塾大学出版会，2007年）

参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』（第二版）（法学書院）

刑事訴訟法 / 刑事訴訟法（秋学期）教授 安 富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することとよいでしょう。そこで、個人の基本的な人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を旨とし、秩序と平穩を伴った社会を築いていくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、審判の対象、証拠、裁判について概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

安富潔『刑事訴訟法講義』（慶應義塾大学出版会，2007年）

参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』（第二版）（法学書院）

刑事政策 / 刑事政策（春学期）

刑事制裁論 教授 太 田 達 也

授業科目の内容：

刑事制裁としての刑罰と処分の意義、要件、効果などについて概説する。刑事司法制度を刑事制裁の側面から正しく理解し、刑事司法の実務や政策立案に必要な基礎的思考・分析能力を養うことを目的とする。

テキスト：

法務総合研究所『平成19年版犯罪白書』

参考書：

その他の参考資料は講義の内容に応じて紹介する。

刑事政策 / 刑事政策（秋学期）

犯罪者処遇論 教授 太 田 達 也

授業科目の内容：

犯罪者の処遇について、まず刑事施設（刑務所）における処遇と社会内処遇たる更生保護について概説した後、犯罪者の特性毎に処遇の在り方を論じる。なお、本講義でいう処遇とは、刑事処分や保護処分を受けた者に対する施設内外での教育や指導のみならず、刑事手続や保護手続の各過程における犯罪者への対応や対策を含む広い概念である。

テキスト：

法務総合研究所『平成19年版犯罪白書』

参考書：

その他の参考資料は講義の内容に応じて紹介する。

〔D系列〕

商法 A / 商法（春学期集中）（A～J）

会社法 教授 宮 島 司

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。2005年に成立し、2006年より施行されている新会社法が対象である。従来の会社法とは形式も実質も大きく異なるものであり、その解説と解釈論的な検討を行う。

テキスト：

宮島司『新会社法エッセンス（第二版）』（2006年）弘文堂

参考書：

必要があれば、その都度指示する。

商法 B / 商法（春学期集中）（A～J）

会社法 教授 宮 島 司

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。2005年に成立し、2006年より施行されている新会社法が対象である。従来の会社法とは形式も実質も大きく異なるものであり、その解説と解釈論的な検討を行う。

テキスト：

宮島司『新会社法エッセンス（第二版）』（2006年）弘文堂

参考書：

必要があれば、その都度指示する。

商法 A / 商法（春学期集中）（K～T）

会社法 教授 山 本 為 三 郎

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少くとも卒業論文程度の水準での講義にしたいと思います。会社法は取り上げるべき論点が非常に多く、さらに、2005年会社法および会社法施行規則などの法務省令の制定によって制度が複雑化・多様化しています。一方、講義時間は限られているので、受講者の予習を前提とし、効率的に講義を進めたいと考えています。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方 第6版』（八千代出版，2006年）

商法 B / 商法 (春学期集中)(K~T)
会社法 教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少くとも卒業論文程度の水準での講義にしたいと思っております。会社法は取り上げるべき論点が非常に多く、さらに、2005年会社法および会社法施行規則などの法務省令の制定によって制度が複雑化・多様化しています。一方、講義時間は限られているので、受講者の予習を前提とし、効率的に講義を進めたいと考えています。

テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方 第6版』(八千代出版, 2006年)

商法 A / 商法 (秋学期集中)(A~J)
手形法・小切手法(有価証券法理)教授 加藤 修

授業科目の内容：

手形法・小切手法の講義は、一般的には、手形法・小切手法総論(Allgemeiner Teil)と手形法・小切手法各論(Besonderer Teil)の二部門により構成される。

総論においては、手形・小切手の意義、手形・小切手の経済的機能、有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、手形行為(手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性)、手形理論(契約説・単独行為説・二段階説)、手形行為と法律行為の一般原則、手形能力、手形上の意思表示、他人による手形行為(手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造)、手形と実質関係(手形予約・対価関係・手形の書換)の諸項目が講義される。

各論においては、振出(振出の性質・手形要件・白地手形)、裏書(譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書)、引受、保証、支払、手形・小切手の権利の消滅(時効・利得償還請求権)の各項目が講義される。

本講義においては、手形(約束手形・為替手形)と小切手の意義につき説明した後に、手形(約束手形・為替手形)と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形(約束手形・為替手形)と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形(約束手形・為替手形)と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券などにも有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理をすることが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

電子記録債権法が制定され、金銭債権について指名債権とも手形債権とも異なる新類型の債権が作りだされた。この新類型の債権は、電脳空間において手形債権と同様な機能を発揮し得るので、これに関しても言及される。

商法では、上記総論と上記各論が1限と2限の集中で講義されます。商法Aは、建前としては、上記総論を対象として、1限に集中されるが、上記総論と上記各論は、車の両輪に相当するので、商法A履修者は、上記各論を対象とする2限にある商法Bもあわせて履修してください。つまり、1限と2限、すなわち、商法Aと商法Bが一体化して、手形法・小切手法が講義されます。

テキスト：

宮島司「やさしい手形法・小切手法」(第2版)法学書院(2006年(平成18年))

参考書：

倉澤康一郎「手形判例の基礎 リーディングケースによる手形法入門」日本評論社(1990年(平成2年初版))

商法 B / 商法 (秋学期集中)(A~J)
手形法・小切手法(有価証券法理)教授 加藤 修

授業科目の内容：

手形法・小切手法の講義は、一般的に、手形法・小切手法総論(Allgemeiner Teil)と手形法・小切手法各論(Besonderer Teil)の二部門により構成される。

総論においては、手形・小切手の意義、手形・小切手の経済的機能、有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、手形行為(手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性)、手形理論(契約説・単独行為説・二段階説)、手形行為と法律行為の一般原則、手形能力、手形上の意思表示、他人による手形行為(手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造)、手形と実質関係(手形予約・対価関係・手形の書換)の諸項目が講義される。

各論においては、振出(振出の性質・手形要件・白地手形)、裏書(譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書)、引受、保証、支払、手形・小切手の権利の消滅(時効・利得償還請求権)の各項目が講義される。

本講義においては、手形(約束手形・為替手形)と小切手の意義につき説明した後に、手形(約束手形・為替手形)と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形(約束手形・為替手形)と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形(約束手形・為替手形)と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券などにも有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理をすることが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

電子記録債権法が制定され、金銭債権について指名債権とも手形債権とも異なる新類型の債権が作りだされた。この新類型の債権は、電脳空間において手形債権と同様な機能を発揮し得るので、これに関しても言及される。

商法では、上記総論と上記各論が1限と2限の集中で講義されます。商法Bは、建前としては、上記各論を対象として、2限に集中されるが、上記総論と上記各論は、車の両輪に相当するので、商法B履修者は、上記総論を対象とする1限にある商法Aもあわせて履修してください。つまり、1限と2限、すなわち、商法Aと商法Bが一体化して、手形法・小切手法が講義されます。

テキスト：

宮島司「やさしい手形法・小切手法」(第2版)法学書院(2006年(平成18年))

参考書：

倉澤康一郎「手形判例の基礎 リーディングケースによる手形法入門」日本評論社(1990年(平成2年初版))

商法 A / 商法 (秋学期集中)(K~T)
手形法・小切手法講義 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

(当該科目は形式上商法A・Bとなっているが、この授業は2コマ続きで行われる。シラバスでは、秋学期の講義前半部分(手形法各論中心)と後半部分(手形法総論中心)を分けて記載するが、

法律

実際には、1 時間目と 2 時間目に異なった内容を講義するのではない。))

手形法・小切手法について講義する。手形・小切手は実際には学生諸君にはなじみの薄いものであるかもしれないが、商法としての重要な考え方がそこには詰まっており、商法では会社法と並んで学習しなければならない重要な分野とされてきた。また、手形法・小切手法は理論がしっかりしており、基本的なことさえしっかり理解していれば、細かな点に迷わされることはないと思う。

講義はまず、手形小切手の概要を説明した後、約束手形を前提にしながら各論から説明し、後半で重要な論点が多い総論の講義に入る。そして、最後に、為替手形・小切手の特別な問題について言及する。

テキスト：

テキストは使用しない。

その代わりに、授業でプリントを配布することもある。

参考書：

授業中に指示する。

商法 B / 商法 (秋学期集中)(K ~ T)

手形法・小切手法講義 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

(当該科目は形式上商法 A・B となっているが、この授業は 2 コマ続きで行われる。シラバスでは、秋学期の講義前半部分(手形法各論中心) と後半部分(手形法総論中心) を分けて記載するが、実際には、1 時間目と 2 時間目に異なった内容を講義するのではない。))

授業内容に関しては、商法 A の該当部分を参照のこと。

テキスト：

テキストは使用しない。

その代わりに、授業でプリントを配布することもある。

参考書：

授業中に指示する。

商法 A / 商法 (春学期)

教授 高田 晴 仁

授業科目の内容：

商法総則について基本的な制度および解釈論について講義を行う。

参考書：

近藤光男・商法総則・商行為法〔第 5 版〕(有斐閣、2006 年)

商法 B / 商法 (秋学期)

教授 高田 晴 仁

授業科目の内容：

商行為法について基本的な制度および解釈論について講義を行う。

参考書：

商法 A と同じ

民事訴訟法 A (春学期) / 民事訴訟法 B (秋学期) /

民事訴訟法 (通年)

民事訴訟法のうちの判決手続きに関する講義科目

教授 三木 浩 一

授業科目の内容：

民事訴訟法(判決手続) について、訴えの提起から判決による訴訟の終了までを取り上げ、民事訴訟の基本原則と基礎的な知識の習得を目標とする。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・伊藤眞「民事訴訟法」(有斐閣)
- ・新堂幸司「新民事訴訟法」(弘文堂)
- ・高橋宏志「重点講義民事訴訟法〔上・下〕」(有斐閣)
- ・民事訴訟法判例百選〔第 3 版〕(有斐閣)

〔 E 系列 〕

行政法 A / 行政法 (春学期)

行政法総論 行政法とは何か、行政活動に対する制約原理

講師 磯部 哲

授業科目の内容：

行政は、市民の幸せや公共の福祉の実現を目的として、さまざまな手法で市民の生活に関わるが、その際、行政は、法のもとに、法の命ずるところに従い行動しなければならない。行政法は、行政活動に対する授権と統制の法であるといえる。本講義は、行政法総論の前半部分という位置づけであり、行政が法のもとにあるとはいかなる意味か(法規範と行政との関係等)、行政活動の法適合性確保のためにいかなる具体的な制約原理があるのか、などの諸問題を取り上げる予定である。

具体的な内容については、「授業の計画」を参照のこと。基本的な方針としては、近時の重要な判例を含め具体的素材を多く用いる、基本的な概念や理論の説明を丁寧に行う、広く浅くではなく重要な論点を厳選する、というようなことを考えている。

テキスト：

櫻井敬子 = 橋本博之『行政法』(弘文堂、2007 年)

参考書：

開講時に指示する。

行政法 B / 行政法 (秋学期)

行政法総論 行政活動のプロセス

講師 磯部 哲

授業科目の内容：

行政は、市民の幸せや公共の福祉の実現を目的として、さまざまな手法で市民の生活に関わるが、その際、行政は、法のもとに、法の命ずるところに従い行動しなければならない。行政法は、行政活動に対する授権と統制の法であるといえる。本講義は、行政法総論の後半部分という位置づけであり、行政行為をはじめとする様々な行政の活動形式の特徴や、情報公開・個人情報保護など情報に関する制度について学ぶ。

具体的な内容については、「授業の計画」を参照のこと。基本的な方針としては、近時の重要な判例を含め具体的素材を多く用いる、基本的な概念や理論の説明を丁寧に行う、広く浅くではなく重要な論点を厳選する、というようなことを考えている。

テキスト：

櫻井敬子 = 橋本博之『行政法』(弘文堂、2007 年)

参考書：

開講時に指示する。

行政法 A / 行政法 (春学期)

行政救済法 行政争訟法 専任講師 青木 淳 一

授業科目の内容：

国や地方公共団体が当事者として登場する法律問題を考察の対象とするのが、行政法である。我われの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。大学入学時に提出する住民票は市町村が管理しているし、自動車を運転するには各都道府県の公安委員会が発行する免許が必要であるし、通学に利用する鉄道の運賃は国(国土交通大臣) の認可を受けたものである。

行政法は「行政組織法」、「行政作用法」、「行政救済法」の三本柱をもって体系を構成している。このうち「行政作用法」は、行政活動によって権利を侵害され、財産的損害を被った国民に対し、事後的な救済を図るためにある。本講義はこうした「行政救済法」のなかでも、とりわけ「行政不服審査法」(違法・不当な行政活動を排除するよう、行政機関に求める) と「行政事件訴訟法」(違法な行政活

動を排除するよう、裁判所に求める)を中心に扱う(この二つの法律をあわせて、講学上「行政争訟法」と呼ぶことが多い)

テキスト:

- ・稲葉馨/人見剛/村上裕章/前田雅子『行政法』(有斐閣: Legal Quest シリーズ)
- ・小早川光郎/宇賀克也/交告尚史=編『行政判例百選』(有斐閣)
- ・『六法』

注意 いずれも、講義開始の時点で入手可能な最新版を用いる。『六法』の出版社は問わない。

参考書:

学習上有益な教科書、体系書、判例集等については、開講時に文献案内を行う。

行政法 B / 行政法 (秋学期)

行政救済法 国家補償法 専任講師 青木 淳 一

授業科目の内容:

国や地方公共団体が当事者として登場する法律問題を考察の対象とするのが、行政法である。我われの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。大学入学時に提出する住民票は市町村が管理しているし、自動車を運転するには各都道府県の公安委員会が発行する免許が必要であるし、通学に利用する鉄道の運賃は国(国土交通大臣)の認可を受けたものである。

行政法は「行政組織法」、「行政作用法」、「行政救済法」の三本柱をもって体系を構成している。このうち「行政作用法」は、行政活動によって権利を侵害され、財産的損害を被った国民に対し、事後的な救済を図るためにある。本講義はこうした「行政救済法」のなかでも、とりわけ「国家賠償法」(違法な行政活動に起因する損害の賠償と、公の营造物の設置・管理の瑕疵に起因する損害の賠償)と「損失補償」(行政活動により一部の国民が払った「特別の犠牲」に対する補償)を中心に扱う(これらをあわせて、講学上「国家補償法」と呼ぶことが多い)。

テキスト:

- ・稲葉馨/人見剛/村上裕章/前田雅子『行政法』(有斐閣: Legal Quest シリーズ)
- ・小早川光郎/宇賀克也/交告尚史=編『行政判例百選』(有斐閣)
- ・『六法』

注意 いずれも、講義開始の時点で入手可能な最新版を用いる。『六法』の出版社は問わない。

参考書:

学習上有益な教科書、体系書、判例集等については、開講時に文献案内を行う。

労働法 / 労働法 (春学期)

雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集团的労働関係法〔憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労働関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われ

る領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2008年春出版予定)を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣2002)

参考書:

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)
 - ・西村健一郎・安枝英誦『労働法(第9版)』(有斐閣プリマシリーズ、2006)
- 大部の概説書に、
- ・菅野和夫『労働法(第7版・補正版)』(弘文堂)

労働法 / 労働法 (秋学期)

雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集团的労働関係法〔憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労働関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2008年春出版予定)を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣2002)

参考書:

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)
 - ・西村健一郎・安枝英誦『労働法(第9版)』(有斐閣プリマシリーズ、2006)
- 大部の概説書に、
- ・菅野和夫『労働法(第7版・補正版)』(弘文堂)

経済法 / 経済法 (春学期)

教授 田村 次郎

授業科目の内容:

経済法は、資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では、経済法について、その理論的支柱である独占禁止法を中心に、法的論点について具体的事例を

法律

使い解説する。ただし、本講義では、経済法の理論的側面だけでなく、企業法務など実務において、実際に経済法がどのような機能を果たしているのか、実務特有の問題意識もあわせて解説する。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂 2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

経済法 / 経済法（秋学期） 教授 田村次朗

授業科目の内容：

本講義は、経済法 においてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として、資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に、経済法を理解するうえで重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し、多角的視点から、経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば、企業戦略と独占禁止法の関係、経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界、さらに、近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス（法令遵守）などを取り上げる。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂 2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

〔F系列〕

憲法演習 / 憲法演習（春学期）

憲法の動態の考察と法制度設計の理論・技法

講師 川崎政司

授業科目の内容：

本演習においては、最近の立法、政治課題、事件、判例等を題材に、最新の憲法問題について考察を加え、法制度設計まで念頭に置きつつ、その法的な解決のあり方等について検討を行うことにより、憲法の動態と、法政策ないし法制度設計の理論・技法について学んでもらうとともに、それらを通じ、実践的かつ創造的な法的思考能力・問題解決能力の養成といったことにも取り組んでいきたい。なお、あわせて、法実現の重要な作用となっている「立法」の意義、現状、あり方等についても言及し、学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めてもらうようにしたい。

テキスト：

授業のつどレジュメ・資料を配付する。

参考書：

特に指定はしないが、適宜、参考文献等を紹介する。

憲法演習 / 憲法演習（秋学期）

憲法の動態の考察と法制度設計の理論・技法

講師 川崎政司

授業科目の内容：

本演習においては、最近の立法、政治課題、事件、判例等を題材に、最新の憲法問題について考察を加え、法制度設計まで念頭に置きつつ、その法的な解決のあり方等について検討を行うことにより、憲法の動態と、法政策ないし法制度設計の理論・技法について学んでもらうとともに、それらを通じ、実践的かつ創造的な法的思考能力・問題解決能力の養成といったことにも取り組んでいきたい。なお、あわせて、法実現の重要な作用となっている「立法」の意義、現状、あり方等についても言及し、学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めてもらうようにしたい。

テキスト：

授業のつどレジュメ・資料を配付する。

参考書：

特に指定はしないが、適宜、参考文献等を紹介する。

憲法演習（春学期） / 憲法演習（秋学期） / 憲法演習（通年）

講師 山岡永知

授業科目の内容：

憲法演習の授業はアメリカ合衆国憲法を中心に講義し、アメリカ合衆国最高裁判所の憲法判例を研究しながら、日本国憲法や憲法判例と比較し、憲法解釈に関する知識を深める。春学期は主に統治構造について講義する。秋学期は「人権」について講義する。

テキスト：

別冊ジュリスト No.139「英米判例百選」（有斐閣）

参考書：

- ・「アメリカ法 総論」山岡著（敬文堂）
- ・対訳「アメリカ合衆国憲法」北脇・山岡共訳（国際書院）

憲法演習（春学期） / 憲法演習（秋学期） / 憲法演習（通年）

憲法を身近に考えよう 講師 向井久了

授業科目の内容：

「クローン人間の開発を目的とした研究」など現実に生じる様々な憲法問題を生きた素材としてアップ・ツー・デートにとりあげ、憲法の論理とその動態を検討したいと考えています。

憲法を主権者として主体的に考えるよすがとなれば、と念じております。

テキスト：

向井久了「憲法問題の考え方」法学書院 2001年

参考書：

- ・高橋・長谷部・石川編「憲法判例百選 〔第5版〕」有斐閣 2007年
- ・向井久了「やさしい憲法（第3版）」法学書院 2005年
- ・向井久了「憲法の情景 課題とその歩み」法学書院 2004年

憲法演習 / 憲法演習（春学期） 講師 高畑英一郎

授業科目の内容：

これまで皆さんが学んできた憲法について、すこし視点を変えて勉強していきたいと思います。若干専門的な知識が必要となるでしょうが、テキストの理解を通じて憲法学の奥行きを感じとってください。

講義の進め方について、毎回受講者の1人が担当部分をまとめて発表します。他の受講者はその発表に対して、これまで学んできた憲法の知識から質問することが求められます。場合によっては代表的な学説との比較をしてもらいます。議論が錯綜した場合、講師が整理します。

テキスト：

樋口陽一（編）「ホーンブック憲法」（改訂版）その他。

憲法演習 / 憲法演習（秋学期） 講師 高畑英一郎

授業科目の内容：

これまで皆さんが学んできた憲法について、すこし視点を変えて勉強していきたいと思います。若干専門的な知識が必要になるでしょうが、テキストの理解を通じて憲法学の奥行きを感じとってください。

講義の進め方について、毎回受講者の1人が担当部分をまとめて発表します。他の受講者はその発表に対して、これまで学んできた憲法の知識から質問することが求められます。場合によっては代表的な学説との比較をしてもらいます。議論が錯綜した場合、講師が整理します。

テキスト：

樋口陽一（編）「ホーンブック憲法」（改訂版）その他

民法演習 / 民法演習 (春学期)

債権法における理論と実務の架橋 講師 小林 哲也

授業科目の内容:

民法の債権法のうち典型契約の事案をもとに、事実関係を抽出し、事実関係に対応した法的論理構成を身に付け、知識としての民法を「使える」民法とすることを目的とします。典型契約の事案については、各要件事実を中心に、民法総則から債権総論までの基礎的知識を随時確認していきます。さらに実学としての民法を身に付けるために法的文書の作成方法を学び、基礎的契約書の作成を行います。

授業の進め方については、講義と問答形式を併用し、また秋学期においては事案の聞き取りや受講生同士のディベート等により面接交渉技法やプレゼンテーション技法も学んでいただきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。必要な資料は、講義の際に配布します。

参考書:

必要な参考書は、講義の都度、適宜指示します。

民法演習 / 民法演習 (秋学期)

債権法における理論と実務の架橋 講師 小林 哲也

授業科目の内容:

民法の債権法のうち典型契約および不法行為の事案をもとに、事実関係を抽出し、事実関係に対応した法的論理構成を身に付け、知識としての民法を「使える」民法とすることを目的とします。事案については、各要件事実を中心に、民法総則から債権総論までの基礎的知識を随時確認していきます。さらに実学としての民法を身に付けるために法的文書の作成方法を学び、基礎的契約書および基礎的示談書の作成を行います。

授業の進め方については、講義と問答形式を併用し、また秋学期においては事案の聞き取りや受講生同士のディベート等により面接交渉技法やプレゼンテーション技法も学んでいただきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。必要な資料は、講義の際に配布します。

参考書:

必要な参考書は、講義の都度、適宜指示します。

民法演習 (春学期) / 民法演習 (秋学期) / 民法演習 (通年)

ベンチャー企業をめぐる法律実務 講師 出縄 正人

授業科目の内容:

(1) 授業の目標

企業活動を支える視点から、民法などの法律条文が判例においてどのようにして紛争の際に攻撃防御方法中に反映されているのかを中心にして検討することにより、

法律要件 法律効果の考え方を理解する。

法律条文の解釈の方法を習得する。

典型的な判例を理解し、その判例が生じた法律条文の問題点と解釈を抽出する。

ことをそれぞれ目標とする。

(2) 授業の方法

授業の題材

基本的な判例事案を説例としたうえで、判例、論点を中心にして検討するが、その際には、法律家として実務的に「法律要件 法律効果」を意識した攻撃防御を整理することを授業中に行う。また、それが、企業活動にどのような影響を与えるかも検討する。

授業への準備

授業ごとに、次回の授業に必要な判例を指示する予定であるので、当該事案および判例並びにその他指示箇所を読んでくること。なお、授業ごとに六法 (何でも良い) を必ず持参すること。

進行方法

授業中においては発言をする機会を一定数とりたいと思っています。(但し発言については正解を求めるものでは一切ありません。) 法的思考能力の涵養を行うことを主たる目的としています。

テキスト:

・民法判例百選 総則物権 第5版 (新法対応補正版)

・民法判例百選 債権 第5版 (新法対応補正版)

・六法 (何でも良い)

参考書:

特に指定なし。

民法演習 / 民法演習 (春学期)

民法の債権法に関する基本的事項につき、より深い、かつ、各制度を関連づけた幅広い理解を得る。特に、法曹実務家 (国際取引担当) としての立場から、実務と民法理論の架橋 実務的観点から民法理論を解明する を試み、受講生の興味・知的関心を喚起し、民法理解の一助とする。

講師 笠原 英美子

授業科目の内容:

債権総論および債権各論を中心に行うが、まず、民法第3編債権の体系を確認し、債権総論の入門編として、債権とは何か、債権の目的、債権の成立要件 (契約締結上の過失も含む)、債権の効力につき、その概略を説明したのち、契約総論・各論に移行し、主に設例 (過去の判例や司法試験論文試験などを参考にしたもの) を用いて、契約の成立、契約の効力 (同時履行の抗弁権、危険負担など)、契約の解除 (債務不履行の詳細を含む)、有償契約に適用される売買の売主の各種担保責任の事例等につき、講義・検討する。(以上、春学期)

その後、債権総論の分野に戻り、近時、金融実務において重要な制度となっている債権譲渡については、その意義、基本的な対抗要件の説明に加え、債権の流動化・証券化等も講義・検討の範囲に含める。また、相殺制度・責任財産の保全・保証については、判例を中心にして検討する。

売買契約以外の典型契約に関しては、説例中に含ませるなどして、重要な契約については、検討する予定である。

また、国際取引を含めた日々の法曹実務にとって、民法のどのような知識や考え方が必要とされているのか、現代的・時代的問題 (ファンド等) を含めて、担当者が手がけた実務上の具体的ケースや事例を示しながら、帰納的に民法理論・知識をわかりやすく解説する。(以上、秋学期)

上記のとりの構成であるため、春学期・秋学期を通じた受講が望ましい。

テキスト:

特になし (ただし、六法全書は必携のこと。) 必要に応じ、適宜、講義資料を配布する。

参考書:

特になし (ただし、内田貴著 民法 , があればベター。)

民法演習 / 民法演習 (秋学期)

民法の債権法に関する基本的事項につき、より深い、かつ、各制度を関連づけた幅広い理解を得る。特に、法曹実務家 (国際取引担当) としての立場から、実務と民法理論の架橋 実務的観点から民法理論を解明する を試み、受講生の興味・知的関心を喚起し、民法理解の一助とする。

講師 笠原 英美子

授業科目の内容:

債権総論および債権各論を中心に行うが、まず、民法第3編債権の体系を確認し、債権総論の入門編として、債権とは何か、債権の目的、債権の成立要件 (契約締結上の過失も含む)、債権の効力につき、その概略を説明したのち、契約総論・各論に移行し、主に設例 (過去の判例や司法試験論文試験などを参考にしたもの) を用いて、契約の成立、契約の効力 (同時履行の抗弁権、危険負担など)、契約の解除 (債務不履行の詳細を含む)、有償契約に適用される売買の売

法律

主の各種担保責任の事例等につき、講義・検討する。(以上、春学期で終了予定)

その後、債権総論の分野に戻り、近時、金融実務において重要な制度となっている債権譲渡については、その意義、基本的な対抗要件の説明に加え、債権の流動化・証券化等も講義・検討の範囲に含める。また、相殺制度・責任財産の保全・保証については、判例を中心に検討する。

売買契約以外の典型契約に関しては、説例中に含ませるなどして、重要な契約については、検討する予定である。

また、国際取引を含めた日々の法曹実務にとって、民法のどのような知識や考え方が必要とされているのか、現代的・時代的問題(ファンド等)を含めて、担当者が手がけた実務上の具体的なケースや事例を示しながら、帰納的に民法理論・知識をわかりやすく解説する。(以上、秋学期)

上記のとおり構成であるため、春学期・秋学期を通じた受講が望ましい。

テキスト:

特になし(ただし、六法全書は必携のこと。)必要に応じ、適宜、講義資料を配布する。

参考書:

特になし(ただし、内田貴著 民法 , があればベター。)

民法演習 / 民法演習 (春学期)

民法の体系・基礎理論 講師 金井高志

授業科目の内容:

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の成立から効果帰属要件に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

テキスト:

- ・後藤巻則『契約法講義 [第2版]』(弘文堂・2007年)
- ・西村克己『ロジカル・シンキングが身につく入門テキスト』(中経出版・2003年)

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書:

参考文献などは適宜指示します。

民法演習 / 民法演習 (秋学期)

民法の体系・基礎理論とその応用 講師 金井高志

授業科目の内容:

1. 民法の体系・基礎理論

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の効力要件から契約の終了に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

2. 民法の体系・基礎理論の応用

現在の情報化社会で重要となっている知的財産権のライセンス(使用許諾)契約やコンピュータ・インターネットを利用した取引において、民法の体系・基礎理論がどのように応用・修正されているかの検討・演習を行います。

テキスト:

- ・後藤巻則『契約法講義 [第2版]』(弘文堂・2007年)

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書:

参考文献などは適宜指示します。

刑法演習 / 刑法演習 (春学期) 専任講師 佐藤拓磨

授業科目の内容:

判例を素材に、刑法総論および各論の重要論点につき検討を加える。授業の進め方については、履修者数などをみながら決めたいと思う。なお、昨年度は、レポーターに指定した判例について概要説明および争点の説明をしてもらい、それを踏まえて議論をするという形式を採った。

テキスト:

指定しない。素材とする判例はそのつど指示する。

参考書:

『別冊ジュリスト 刑法判例百選 総論 [第6版]』(有斐閣, 2008)

『別冊ジュリスト 刑法判例百選 各論 [第6版]』(有斐閣, 2008)

刑法演習 / 刑法演習 (秋学期) 専任講師 佐藤拓磨

授業科目の内容:

春学期に引き続き、判例を素材に、刑法総論および各論の重要論点につき検討を加える。授業の進め方については、春学期のやり方をそのまま引き継ぐ予定である。

テキスト:

指定しない。素材とする判例はそのつど指示する。

参考書:

『別冊ジュリスト 刑法判例百選 総論 [第6版]』(有斐閣, 2008)

『別冊ジュリスト 刑法判例百選 各論 [第6版]』(有斐閣, 2008)

刑法演習 / 刑法演習 (春学期)

比較研究 刑法判例百選 [第5版] vs [第6版]

法務研究科 准教授 和田俊憲

授業科目の内容:

物の本質は、他の物との比較によって見えてくるものである。『刑法判例百選 総論・各論』の[第6版](2008年)を、[第5版](2003年)の同じ項目と比較しながら読み、5年の歳月が判例・学説に及ぼした影響の有無を確認しつつ、最新の判例理解の本質に迫る。

テキスト:

『刑法判例百選 総論・各論』[第5版](2003年), 同[第6版](2008年)

刑法演習 / 刑法演習 (秋学期)

比較研究 刑法判例百選 [第5版] vs [第6版]

法務研究科 准教授 和田俊憲

授業科目の内容:

基本的に、春学期の演習と同一内容で行う。すなわち、『刑法判例百選 総論・各論』の[第6版](2008年)を、[第5版](2003年)の同じ項目と比較しながら読み、5年の歳月が判例・学説に及ぼした影響の有無を確認しつつ、最新の判例理解の本質に迫る。もっとも、諸般の状況変化に対応して、履修者と相談しつつ、内容を変更することがある。

テキスト:

『刑法判例百選 総論・各論』[第5版](2003年), 同[第6版](2008年)

刑法演習 (春学期) / 刑法演習 (秋学期) / 刑法演習 (通年)

講師 亀井源太郎

授業科目の内容:

刑法一般に関する演習を行う。具体的な演習方法については、参加者の要望や多寡を考慮して決定するが、現在のところ、重要な判例を教材として用いることを考えている。

テキスト:

西田典之・山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選 総論 [第6版]』(2008年予定)

刑法演習 / 刑法演習 (春学期)	講師 高橋 則夫
刑法の重要問題 (総論)	

授業科目の内容:

刑法総論の重要論点および重要判例を検討する。

テキスト:

追って指示する。

参考書:

授業中指示する。

刑法演習 / 刑法演習 (秋学期)	講師 高橋 則夫
刑法の重要問題 (各論)	

授業科目の内容:

刑法各論の重要論点および重要判例を検討する。とくに財産犯を中心に扱う。

テキスト:

追って指示する。

参考書:

授業中指示する。

刑法演習 (春学期) / 刑法演習 (秋学期) / 刑法演習 (通年)	講師 瀬戸 毅
刑法理論と実務	

授業科目の内容:

刑法の基本的理論が、具体的事例を解決する上でどのような役割を果たしているかを理解し、実務に即した法的思考を涵養してもらうことを目的とする。そのため、あらかじめ具体的事例を提供し、その問題を解決するために検討すべき刑法理論を概観するとともに、当該論点に関する判例の動向にも留意しながら、法律の具体的事例への当てはめの過程を学んでもらい、かつ、その結論の妥当性についても議論する予定である。

また、現職の検事として、検察実務および法務行政に携わっているので、実際の捜査・公判の在り方や法律実務家が行政の分野で果たす役割についても、適宜紹介したい。

テキスト:

なし

参考書:

なし

商法演習 / 商法演習 (春学期)	教授 山本 爲三郎
-------------------	-----------

授業科目の内容:

新しい「会社法」典の制定によって、会社法で学ぶべき知識・論点は飛躍的に増大しました。それに伴い、会社法を講義する商法 A・B では、従来取り上げていた掘り下げた論点のうち何割かを割愛せざるをえなくなっています。そこで、本演習においては、私が担当する商法 A・B の内容補充を第 1 の目的とします。昨年度は M&A に関する諸問題を主として取り上げました。次に、履修者の要望によっては、金融法 (従来保険法、銀行法、信託法、金融商品取引法を中心とした法領域) の基本的論点を取り上げたいと思っています。履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。

春学期に取り上げる予定のテーマは、企業組織の再編手段、持株会社による企業グループの経営と委員会設置会社、親会社・子会社、募集株式の発行、新株予約権の特殊性、企業買収防衛策とライツ・プラン、M&A 失敗事例、などです。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方 第 6 版』(八千代出版, 2006 年)

商法演習 / 商法演習 (秋学期)	教授 山本 爲三郎
-------------------	-----------

授業科目の内容:

新しい「会社法」典の制定によって、会社法で学ぶべき知識・論点は飛躍的に増大しました。それに伴い、会社法を講義する商法

A・B では、従来取り上げていた掘り下げた論点のうち何割かを割愛せざるをえなくなっています。そこで、本演習においては、私が担当する商法 A・B の内容補充を第 1 の目的とします。昨年度は M&A に関する諸問題を主として取り上げました。次に、履修者の要望によっては、金融法 (従来保険法、銀行法、信託法、金融商品取引法を中心とした法領域) の基本的論点を取り上げたいと思っています。履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。

秋学期に取り上げる予定のテーマは、企業買収防衛策の最近の動向、株式会社の計算・監査、集団投資スキーム (ファンド)、金融取引と金融組織、金融商品販売法、保険・信託・金融商品取引、などです。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方 第 6 版』(八千代出版, 2006 年)

商法演習 / 商法演習 (春学期)	講師 西内 岳
-------------------	---------

授業科目の内容:

対象範囲は、会社法のうち、総則と株式会社の設立、株式、株主総会および取締役・取締役会の 1 部までを扱う。

この分野における基礎知識の習得と、それを簡単な事例に適用することによる問題解決方法を具体的かつ分かり易く解説することにより、基礎知識の確実な習得とその応用力を養う。

テキスト:

会社法判例百選

商法演習 / 商法演習 (秋学期)	講師 西内 岳
-------------------	---------

授業科目の内容:

対象範囲は、株式会社法のうち、取締役・取締役会の大半と、手形・小切手法、商法総則・商行為法を扱う。

この分野における基礎知識の習得と、それを簡単な事例に適用することによる問題解決方法を具体的かつ分かり易く解説することにより、基礎知識の確実な習得とその応用力を養う。

テキスト:

会社法判例百選、手形小切手判例百選、商法 (総則・商行為) 判例百選

行政法演習 / 行政法演習 (春学期)	教授 藤原 淳一郎
主要判例の分析	

授業科目の内容:

事例問題を自分で解く能力を養成することを本演習科目の最終目的とする。当面は、行政法の教科書に登場する重要判例について、極力原典や参考文献にあたって深い考察を加えるという作業から始める。演習が軌道に乗れば、最新判例や、時事事例をも素材とした。

テキスト:

ケースブック行政法 (弘文堂)

参考書:

行政法の概説書、判例百選等

行政法演習 / 行政法演習 (秋学期)	教授 藤原 淳一郎
最新判例・時事事例の分析	

授業科目の内容:

事例問題を自分で解く能力を養成することを本演習科目の最終目的とする。春学期において、行政法の教科書に登場する重要判例について極力原典や参考文献にあたって深い考察を加えるという作業を試みたが、これを発展させて、最新判例や、時事事例をも素材としたい。

テキスト:

ケースブック行政法 (弘文堂)

参考書:

行政法の概説書、判例百選等

行政法演習 / 行政法演習 (春学期) 講師 竹之内 一 幸

授業科目の内容:

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。

授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思います。

テキスト:

宇賀克也編『ブリッジブック行政法』(信山社)

参考書:

行政判例百選 ・ (有斐閣)

行政法演習 / 行政法演習 (秋学期) 講師 竹之内 一 幸

授業科目の内容:

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。

授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思います。

テキスト:

宇賀克也編『ブリッジブック行政法』(信山社)

参考書:

行政判例百選 ・ (有斐閣)

国際私法演習 / 国際私法演習 (春学期)

外国的な要素を含む私法関係の処理

講師 山田 恒久

授業科目の内容:

「涉外的な私法関係に適用すべき法を指定する規則」を定める国際私法の現状と、その問題点を、演習形式を通じて検証することを目的としています。涉外的な私法関係を扱うという科目の特性から、国際私法の講義を既に受講していることは勿論のこと、民法、商法、および、民事訴訟法についても受講済みか、または、並行して受講していることが必要です。

テキスト:

テキストは指定しません。使いやすいものを選んで購入してください。

参考書:

- ・ 櫻田・道垣内編「国際私法判例百選」(別冊ジュリスト)有斐閣
 - ・ 道垣内正人「国際私法入門 [第6版]」(有斐閣双書)有斐閣
 - ・ 櫻田嘉章「国際私法 [第4版]」(Sシリーズ)有斐閣
-

国際私法演習 / 国際私法演習 (秋学期)

外国的な要素を含む私法関係の処理

講師 山田 恒久

授業科目の内容:

「涉外的な私法関係に適用すべき法を指定する規則」を定める国際私法の現状と、その問題点を、演習形式を通じて検証することを目的としています。涉外的な私法関係を扱うという科目の特性から、国際私法の講義を既に受講していることは勿論のこと、民法、商法、および、民事訴訟法についても受講済みか、または、並行して受講していることが必要です。

テキスト:

テキストは指定しません。使いやすいものを選んで購入してください。

参考書:

- ・ 櫻田・道垣内編「国際私法判例百選」(別冊ジュリスト)有斐閣
 - ・ 道垣内正人「国際私法入門 [第6版]」(有斐閣双書)有斐閣
 - ・ 櫻田嘉章「国際私法 [第4版]」(Sシリーズ)有斐閣
-

刑事訴訟法演習 (春学期) / 刑事訴訟法演習 (秋学期) / 刑事訴訟法演習 (通年)

講師 亀井 源太郎

授業科目の内容:

刑事手続一般に関する演習を行う。具体的な演習方法については、参加者の要望や多寡を考慮して決定するが、現在のところ、重要な判例を教材として用いることを考えている。

テキスト:

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選 [第8版]』(有斐閣, 2005年)

民事訴訟法演習 / 民事訴訟法演習 (春学期)

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸雄

授業科目の内容:

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

民事訴訟法判例百選 (新法対応版), 民事訴訟法判例百選 (第3版) および民事訴訟法に関する体系書

民事訴訟法演習 / 民事訴訟法演習 (秋学期)

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸雄

授業科目の内容:

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

民事訴訟法判例百選 (新法対応版), 民事訴訟法判例百選 (第3版) および民事訴訟法に関する体系書

破産法演習 / 破産法演習 (春学期)

新しい倒産法制を深く学ぶ

法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容:

2000年4月の民事再生法の施行, 2003年4月の新会社更生法の施行, そして2005年1月の新破産法の施行により, わが国の倒産法制は大きく変わった。今年度の本演習では, 装いを新たにした現在の倒産法制を学ぶことにする。

テキスト:

井上治典 = 中島弘雅編『新民事救済手続法』(2006, 法律文化社)

参考書:

中島弘雅『体系倒産法』(2007, 中央経済社)

破産法演習 / 破産法演習 (秋学期)

新しい倒産法制を深く学ぶ

法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容:

2000年4月の民事再生法の施行, 2003年4月の新会社更生法の施行, そして2005年1月の新破産法の施行により, わが国の倒産法制は大きく変わった。今年度の本演習では, 装いを新たにした現在の倒産法制を学ぶことにする。

テキスト:

井上治典 = 中島弘雅編『新民事救済手続法』(2006, 法律文化社)

参考書:

中島弘雅『体系倒産法』(2007, 中央経済社)

伊藤真『破産法・民事再生法』(2007, 有斐閣)

刑事政策演習 / 刑事政策演習 (春学期)

刑事政策におけるパラダイム変換を学ぶ

講師 諸澤英道

授業科目の内容:

刑事政策は、今、大きく変わろうとしている。1955 年以来、世界の刑事政策を引っ張ってきた「犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議 (通称、国連犯罪防止会議)」は、創設 50 周年に当たる 2005 年から「犯罪防止および刑事司法に関する国連会議」と名称を変えた。

それは、犯罪者の処遇における近代化、人道化、したがって、犯罪者の人権確立が最優先課題であった 20 世紀の刑事政策から、「社会の安全」「人々の安心」が最優先課題である 21 世紀の刑事政策への変換を意味している。つまり、捜査に始まり、刑事裁判、犯罪者の社会復帰に至る「刑事司法制度」に被害者や国民が参加し、国民の感覚に近づける制度への大改革である。

受講者のみなさんには、この講義を通して、刑事政策に求められている発想の転換、すなわち「パラダイムの変換」を学んでいただくと同時に、パラダイム変換の中核をなす「被害者の視点に立った刑事政策」についても理解を深めていただく。

日本における「被害者の視点の導入」は、欧米に 20 年以上も遅れただけでなく、この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の 10 年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが、その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散見される。

被害者対策の面で諸外国に大きく遅れをとった日本ではあるが、2000 年に、いわゆる「犯罪被害者保護法」が制定され、2005 年 12 月には「犯罪被害者等基本法」が成立した。また、刑法の中の業務上過失致死傷罪に関連して危険運転致死傷罪 (刑 208 条の 2) が新設され、ストーカー行為等規制法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止保護法 (DV 法) が制定され、また、刑事訴訟法、検察審査会法、少年法、犯罪被害者等給付金支給法も一部改正された。

被害者に対する人々の関心が高まり、法整備も順調に進んできているように見えるが、これらの法律では、被害者は「配慮」される対象であって、権利性は認められていなかった。それが、2005 年 4 月の犯罪被害者等基本法の施行により大きく方向転換することになった。基本法は、安全で安心して暮らせる社会を実現する国の責務を明記し、犯罪被害者等には「個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」があることを謳っている。

2007 年の刑事訴訟法の改正では、裁判員制度の導入に先立って、被害者の刑事裁判への参加や損害賠償命令も施行されることになった。このように目まぐるしく変わる刑事政策であるが、できるだけ最新の情報を利用して受講者にわが国の刑事政策のあり方を考えてもらうつもりである。

テキスト:

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂、2001 年

参考書:

諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂、2003 年

刑事政策演習 / 刑事政策演習 (秋学期)

刑事政策におけるパラダイム変換を学ぶ

講師 諸澤英道

授業科目の内容:

刑事政策は、今、大きく変わろうとしている。1955 年以来、世界の刑事政策を引っ張ってきた「犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議 (通称、国連犯罪防止会議)」は、創設 50 周年に当たる 2005 年から「犯罪防止および刑事司法に関する国連会議」と名称を変えた。

それは、犯罪者の処遇における近代化、人道化、したがって、犯罪者の人権確立が最優先課題であった 20 世紀の刑事政策から、「社会の安全」「人々の安心」が最優先課題である 21 世紀の刑事政策への変換を意味している。つまり、捜査に始まり、刑事裁判、犯罪者の社

会復帰に至る「刑事司法制度」に被害者や国民が参加し、国民の感覚に近づける制度への大改革である。

受講者のみなさんには、この講義を通して、刑事政策に求められている発想の転換、すなわち「パラダイムの変換」を学んでいただくと同時に、パラダイム変換の中核をなす「被害者の視点に立った刑事政策」についても理解を深めていただく。

日本における「被害者の視点の導入」は、欧米に 20 年以上も遅れただけでなく、この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の 10 年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが、その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散見される。

被害者対策の面で諸外国に大きく遅れをとった日本ではあるが、2000 年に、いわゆる「犯罪被害者保護法」が制定され、2005 年 12 月には「犯罪被害者等基本法」が成立した。また、刑法の中の業務上過失致死傷罪に関連して危険運転致死傷罪 (刑 208 条の 2) が新設され、ストーカー行為等規制法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止保護法 (DV 法) が制定され、また、刑事訴訟法、検察審査会法、少年法、犯罪被害者等給付金支給法も一部改正された。

被害者に対する人々の関心が高まり、法整備も順調に進んできているように見えるが、これらの法律では、被害者は「配慮」される対象であって、権利性は認められていなかった。それが、2005 年 4 月の犯罪被害者等基本法の施行により大きく方向転換することになった。基本法は、安全で安心して暮らせる社会を実現する国の責務を明記し、犯罪被害者等には「個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」があることを謳っている。

2007 年の刑事訴訟法の改正では、裁判員制度の導入に先立って、被害者の刑事裁判への参加や損害賠償命令も施行されることになった。このように目まぐるしく変わる刑事政策であるが、できるだけ最新の情報を利用して受講者にわが国の刑事政策のあり方を考えてもらうつもりである。

テキスト:

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂、2001 年

参考書:

諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂、2003 年

刑事政策演習 / 刑事政策演習 (春学期)

犯罪対策と犯罪者処遇の課題 講師 安部哲夫

授業科目の内容:

春学期の演習では、「犯罪対策と犯罪者処遇の課題」をテーマに、最近の犯罪動向を概観したのち、近時の新たな刑事立法の意義と問題点について検討します。さらに、行刑改革や更生保護改革がもたらした新たな犯罪者処遇法である「被収容者処遇法 (2006 年)」と「更生保護法 (2007 年)」の論点についても検討を進めるつもりです。受講生の数にもよりますが、半分ほどの授業日程では、私のほうで、問題状況の整理をし、個々の課題を論じることにはしますが、受講生によるレポートを中心に演習を進めることを考えています。予定される課題は次のとおりです。

1. 国際化の流れによる刑事立法政策と犯罪者処遇
2. 被害者に配慮した刑事立法政策と犯罪者処遇
3. 犯罪者の社会復帰を促す政策
4. 受刑者の人権に配慮した政策
5. 個別の犯罪対策 (性犯罪、交通犯罪、薬物犯罪、組織犯罪、精神障害犯罪、外国人犯罪、女子犯罪、高齢者犯罪など)

なお、「少年犯罪およびその対策」については、秋学期の課題にします。

テキスト:

授業資料プリントを配布します。

参考書:

守山正 = 安部哲夫 (編)『ビギナーズ刑事政策』成文堂、2008 年

法務総合研究所 (編)『平成 19 年版犯罪白書』国立印刷局、2007 年

刑事政策演習 / 刑事政策演習 (秋学期)

少年犯罪 (被害) とその対策 講師 安部 哲夫

授業科目の内容:

秋学期の演習では、「少年犯罪 (被害) とその対策」をテーマに、最近の少年犯罪の動向と特色、原因、その法的対応の諸問題について検討します。とくに少年法の意義と改正の論点について検討を深めたいと考えています。また、少年犯罪の背景には青少年 (18歳未満) が陥っている被害的状況があることに鑑み、心ない大人による青少年の福祉を害する犯罪についても検討します。受講生の数にもよりますが、半分ほどの授業日程では、私のほうで、問題状況の整理をし、個々の課題を論じることにします。もちろん演習ですので、受講生によるレポートを中心に授業を進めたいと思います。「被害者としての青少年」に関するテーマとしては、児童虐待や体罰、いじめ、児童買春、青少年社会環境、青少年健全育成条例などを対象にあげる予定です。

テキスト:

授業資料プリントを配布します。

参考書:

守山正 = 後藤弘子 (編) 『ピギナーズ少年法 (改訂版)』成文堂、2008年

安部哲夫 『青少年保護法 (改訂版)』尚学社、2008年

内閣府 (編) 『平成20年版青少年白書』国立印刷局、2008年

刑事政策演習 (秋学期)

わが国の少年司法制度の実際と課題

講師 伊藤 直文

授業科目の内容:

犯罪・非行のない社会を目指すのが刑事政策の目標である。その意味でこの領域は、法学知識に留まらず、利用可能なあらゆる関係諸科学の知識や社会常識に至る広い視野から考えるべきものだろう。とりわけ近年では、司法の社会化の潮流の中で、刑事政策は、国家だけでなく、市民間の活動をも包含して考えなければならないものになりつつある。

担当者は、家裁調査官の経験をもつ臨床心理学専攻の教員であり、この授業でも受講者の法学的関心に応えることはできないが、上のような視点を加味しつつ、制度の各段階における運用の実際や課題について、家裁実務家、心理臨床家としての経験を踏まえながら、受講生とともに考えていきたい。

担当者の経験、知識の限界から、今回は少年司法制度のみ扱うことになるので、刑事政策全般については、参考書、他講義などで補って欲しい。

テキスト:

テキストは特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布、紹介をする。

参考書:

・前野育三他「刑事政策のすすめ (第2版)」法律文化社 (2007) 読みやすく、幅広い。

・藤本哲也「刑事政策概論 (全訂第4版)」青林書院 (2006) 本格的テキスト。

~いづれも、本講義に直接関係する部分は多くない。あくまで刑事政策全体を知るためのものとして。

医事法演習 (春学期) / 医事法演習 (秋学期) /

医事法演習 (通年)

現代医療をめぐる法的諸問題を考える

(共同担当) 法務研究科 教授 井田 良

(共同担当) 法務研究科 教授 古川 俊治

授業科目の内容:

現代医療が惹起している法的・倫理的諸問題について、法と生命倫理の観点から検討し、問題点についての基礎的知識の習得と法的思考能力を育成する。各問題点について、日本での判例や諸法令の

ほか、他国における制度の状況を検討する。個々のトピックは、基本的に独立したものであるため、各回の講義ごとにまとめを行う。

本授業の到達目標は、現代医療の法的・倫理的諸問題について、基本的知識と思考方法を習得することにある。単に法律論を学修するのみならず、先端医療の現状について実践的な学修ができるよう、出来る限り現場の医師を招聘することを予定している。医師である実務家と、刑事法の研究者教員が担当して問題点を多角的に論じ、この分野における問題の本質を理解することができるようになることを目標とする。

以下のようなトピックについて授業を行う予定である。

患者の権利と医療の責任 / 診療契約の特殊性 / インフォームド・コンセント / 終末期医療をめぐる問題点 / 医療上の意思決定 / 癌の告知 / 宗教上の輸血拒否 / 臨床研究をめぐる問題点 / 医薬品・医療機器の治験 / 診療情報の特質と医療情報セキュリティー / 遺伝子関連技術・遺伝子診療の現状と未来 / 再生医療 / 臓器移植 / 生殖補助医療 / 胎児・ヒト胚の法的地位とその保護 / 医療水準論 / 代替医療 / 医薬品による健康被害 / 医療関連訴訟における証明 / 期待権 / 性同一性障害と戸籍法 / 看護師その他の医療従事者 / 医療事故と届出制度 / 医療の刑事責任

テキスト:

授業内に指示する。

参考書:

授業内に指示する。

外国法演習 (英米) (春学期)

教授 西川 理恵子

授業科目の内容:

アメリカの「不法行為 (Torts)」を勉強する。不法行為は、日本では、政権法の一部として議論されるが、アメリカでは法を学ぶに当たっての最も大切な基礎科目の一つと考えられている。そこで、不法行為のケースや論文を読みながら、不法行為をめぐるさまざまな論点、アメリカの法思考方法などを学ぼうというのが、法演習の目的である。

テキスト:

適宜、教材のコピーを配布する。

参考書:

開講時に指定

外国法演習 (英米) (春学期) / 外国法演習 (英米) (秋学期) /

外国法演習 (英米) (通年) 教授 並木 和夫

授業科目の内容:

英書で会社法または金融商品取引法について、勉強します。

テキスト:

適宜に配布します。(コピー)

履修者へのコメント:

西川理恵子教授担当「外国法演習 (英米)」を履修して合格し、なおかつ大学院進学をめざす者のみ履修を認めます。開講日には合格を示す書類を提出すること。

成績評価方法:

平常点 (出席状況および授業評価)

外国法演習 (独) (春学期) / 外国法演習 (独) (秋学期) /

外国法演習 (独) (通年) 准教授 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

本演習は、ドイツ法・ドイツ法学に関する原書 (ドイツ語文献) を理解できるようにすることを目的とするものである。

テキスト:

テキストについては、履修者の希望・語学力等を考慮して、開講時に決定したうえで、プリントをして配布する予定。

参考書:

参考文献については、演習のなかで必要に応じて紹介することになる。

外国法演習(仏)/外国法演習(仏)(春学期)
フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方
講師 小川 健

授業科目の内容:

フランス法は、近代法の先駆けとなったナポレオン法典の制定以来、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えている。日本法にも、ドイツ法や英米法と並んでこの国の法制は強い影響を与えており、日本法の理解のためにその学習は欠くことができない。

また、今後我が国が諸外国と経済や文化の面で様々な関係を築き、またこれを発展させていくためには外国諸制度に対する対処や調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野にかなりの影響力のあるこの国の法制や法認識についての理解は我が国にとって重要なものであり続けるはずである。

フランス法学習の導入を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しつつ、フランス法の基礎的な知識および、フランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすすめていきたいと考えている。むろんフランス社会や文化一般についての理解もその前提として欠かせないことから、これらの点についての「道草」も厭わないつもりである。

受講者の、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等に応じ適宜これを補充しつつテキストの講読を行うつもりである。

テキスト:

受講者の興味のある、フランス語の能力等を勘案して、話し合っ

- て決めるが、
- ・ J. -L. Aubert, Introduction au droit, Que sais-je?, PUF (2002) 「法学入門」;
 - ・ H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sais-je?, PUF (2000) 「法哲学」.

(いずれもわが国で言う新書のようなもの)あるいは、仏文の新聞雑誌の記事あたりであろうか。

2006年、2007年度には、上記「法学入門」の最初の部分のほか、1789年の人権宣言(正式にはDéclaration des Droits de l'homme et du citoyen 人と市民の権利の宣言)と、A. Bizaguet, Le grand marché européen, Que sais-je?, PUF(1990)「ヨーロッパ市場」; Conseil d'Etat, Droit communautaire et Droit français, Documentation française (1982)「ヨーロッパ法とフランス国内法」; Traité établissant une Constitution pour l'Europe, CIG 87/2/04 REV 2 (2004)「ヨーロッパ憲法制定条約」の一部を講読した。

参考書:

初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として、少々かさばり、やや値も張るが、田村毅, 他編・ロワイヤル仏和中辞典(1985), 4,725円, を一応あげておく。

外国法演習(仏)/外国法演習(仏)(秋学期)
フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方
講師 小川 健

授業科目の内容:

フランス法は、近代法の先駆けとなったナポレオン法典の制定以来、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えている。日本法にも、ドイツ法や英米法と並んでこの国の法制は強い影響を与えており、日本法の理解のためにその学習は欠くことができない。

また、今後我が国が諸外国と経済や文化の面で様々な関係を築き、またこれを発展させていくためには外国諸制度に対する対処や調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野にかなりの影響力のあるこの国の法制や法認識についての理解は我が国にとって重要なものであり続けるはずである。

フランス法学習の導入を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しつつ、フランス法の基礎的な知識および、フランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすす

めていきたいと考えている。むろんフランス社会や文化一般についての理解もその前提として欠かせないことから、これらの点についての「道草」も厭わないつもりである。

受講者の、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等に応じ適宜これを補充しつつテキストの講読を行うつもりである。

テキスト:

受講者の興味のある、フランス語の能力等を勘案して、話し合っ

- て決めるが、
- ・ J. -L. Aubert, Introduction au droit, Que sais-je?, PUF (2002) 「法学入門」;
 - ・ H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sais-je?, PUF (2000) 「法哲学」.

(いずれもわが国で言う新書のようなもの)あるいは、仏文の新聞雑誌の記事あたりであろうか。

2006年、2007年度には、上記「法学入門」の最初の部分のほか、1789年の人権宣言(正式にはDéclaration des Droits de l'homme et du citoyen 人と市民の権利の宣言)と、A. Bizaguet, Le grand marché européen, Que sais-je?, PUF (1990)「ヨーロッパ市場」; Conseil d'Etat, Droit communautaire et Droit français, Documentation française (1982)「ヨーロッパ法とフランス国内法」; Traité établissant une Constitution pour l'Europe, CIG 87/2/04 REV 2 (2004)「ヨーロッパ憲法制定条約」の一部を講読した。

参考書:

初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として、少々かさばり、やや値も張るが、田村毅, 他編・ロワイヤル仏和中辞典(1985), 4,725円, を一応あげておく。

外国法演習(ラテンアメリカ)/外国法演習(ラテンアメリカ)(春学期)
ラテンアメリカ法研究への招待(スペイン語とポルトガル語)
専任講師 前田 美千代

授業科目の内容:

本演習では、特にラテンアメリカ法研究の基礎となる、スペイン語とポルトガル語の基本的事項を学習しつつ、受講生の状況に合わせて、アルゼンチン消費者保護法を条文ごとに検討する。

テキスト:

プリント配布

参考書:

- 森征一・二宮正人著『ポ日法律用語集』(有斐閣, 二〇〇〇年)
- 山田信彦編著『スペイン語法律用語辞典』(信山社, 二〇〇六年)

外国法演習(ラテンアメリカ)/外国法演習(ラテンアメリカ)(秋学期)
専任講師 前田 美千代

授業科目の内容:

春学期に進歩状況に合わせて、アルゼンチン消費者保護法の継続購読ならびに他のスペイン語圏の消費者保護法の条文を読み、日本法やヨーロッパ諸国の法と比較しつつ検討する。

テキスト:

プリント配布

参考書:

- 森征一・二宮正人著『ポ日法律用語集』(有斐閣, 二〇〇〇年)
- 山田信彦編著『スペイン語法律用語辞典』(信山社, 二〇〇六年)

国際法演習(春学期)/国際法演習(秋学期)/国際法演習(通年)
国際経済関係と国際法
講師 間宮 勇

授業科目の内容:

国際経済関係から生じる問題を国際法の視点から検討する。

1995年にWTOが設立されて以降、国際経済分野における法的規制が飛躍的に拡大している。WTOは、モノの貿易のみならず、サービス貿易の自由化、知的財産権の保護を規定し、現在では、競争ルールや投資、社会条項などの規制も視野に入れて検討が進められて

法律

いる。このゼミでは、WTO 協定を中心として、国際経済関係における法的規制の現状を理解することを目的とする。

はじめの数回の授業で、国際法ならびに国際経済法の基本的な原則や概念について講義をし、その後、各自が選択した国際経済問題について研究報告をして、それをもとに討議をする。

テキスト：

中川他『国際経済法』(有斐閣 2003 年)

参考書：

国際経済条約集：小寺・中川編『基本経済条約集』(有斐閣 2002 年)

もしくは小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集 第 2 版』(東信堂 2002 年)

小寺編『転換期の WTO』(2003 年 東洋経済新報社)

荒木・川瀬編『WTO 体制下のセーフガード』(2004 年 東洋経済新報社)

その他、授業の際に指示する。

国際法演習 / 国際法演習 (春学期)

国際法の理論と実践：国際社会は日々どのように形成されるか
講師 石垣友明

授業科目の内容：

国際社会は、実は皆さんの日常生活の社会と良く似ています。様々な問題が発生したときに、どのように解決するかは、皆さんが日常生活で苦労する面と通じる点が多くあります。

この講義は、国際社会に通用する人材に必要な知識とノウハウを身につけることを目的とします。どのように自分の考えを相手に効果的に伝え、目的を達成するかについても、実践的な知識を身につけることを目標とします。

講義では、国際社会の基本的なルールである「国際法」の基本的な枠組みを勉強します。受講者の皆さんには、具体的な課題につきプレゼンテーションや実践的な交渉に参加してもらいます(現実のケースをもとにした事例をチームに分かれて交渉します)。同時に、英語による基本的な表現能力も身につけられるように配慮します。

講師は 10 年以上の実務経験を有する若手の現役外交官です。海外および外務本省での勤務を通じて得た経験を踏まえ、できるだけ臨場感にあふれた、インターアクティブな(双方向・実践型の)講義を行います。

前期の授業を受講していなくても、国際法の授業を履修していない人でも、全く問題なく勉強できるように配慮します。

テキスト：

受講する皆さんは、必ず(1)国際法に関する基本的な教科書、(2)条約集および判例集、(3)交渉・交渉術に関する本、(4)プレゼンテーションに関する本、(5)英文レポートの書き方についての本を事前に購入してください。書名は指定しませんので、自分にとって読みやすい、使いやすい本を選んでください。

講義に使用する資料はその都度配布し、指定する図書がある場合は事前にお伝えします。

参考書：

以下のような本を参考にテキストを選んでください。あくまでも一例ですので、必ず読み比べたうえで選んでください。

(1) 国際法：

山本草二「新版 国際法」(有斐閣、1994 年)、中谷和弘ほか「国際法」(有斐閣アルマ、2006 年)、松井芳郎ほか「国際法(第 4 版)」(有斐閣 S シリーズ、2002 年)、杉原高嶺ほか「現代国際法講義(第 3 版)」(有斐閣、2003 年) 小寺彰ほか「講義国際法」(有斐閣、2004 年)：これら以外でも結構です。自分にとってわかりやすく、使いやすいものを選んでください。

(2) 条約集、判例集(それぞれ 1 冊ずつ購入してください)：

大沼保昭 / 編集代表「国際条約集 2005 年版」(有斐閣、2005 年)
広部和也・杉原高嶺 / 編修代表「解説条約集 2006」(三省堂、2006 年) いずれか 1 冊

松井芳郎 / 編集代表「ベーシック条約集 2006」(東信堂、2006 年)

松井芳郎 / 編集代表「判例国際法(第 2 版)」(東信堂、2006 年)

山本草二ほか編集「国際法判例百選 別冊ジュリスト No. 156」(有斐閣、2001 年)

少なくともいずれか 1 冊

(3) 交渉・交渉術に関する本(他の本でも結構です)：

フィッシャーほか「新版 ハーバード流交渉術」(阪急コミュニケーションズ、2001 年)

ユーリー「決定版 ハーバード流 “NO” と言わせない交渉術」(知的生き方文庫、1995 年)

佐久間賢「交渉力入門(第 2 版)」(日経文庫、1997 年)

(4) プレゼンテーションに関する本(他の本でも結構です)：

西等「プレゼンの達人になる技術」(中経出版、2003 年)

八幡紘芦史「プレゼンの技術」(PHP 研究所、2004 年)

(5) 英文レポートの書き方についての本(他の本でも結構です)：

上村妙子、大井恭子「英語論文・レポートの書き方」(研究社、2004 年)

国際法演習 / 国際法演習 (秋学期)

国際法の理論と実践：国際社会は日々どのように形成されるか
講師 石垣友明

授業科目の内容：

世界各地で戦争は今日も起こり、貿易や領土をめぐる紛争は絶えません。一見すると、国際社会はルールではなく力が支配すると感じるかもしれませんが、しかし、現実には戦争を終え、軍備を削減するのは条約であり、貿易に秩序をもたらす、環境問題を解決するルールが国際法です。あらゆる人間の社会と同様に、国際社会にも不完全な点がありますが、交渉に臨む各国のリーダー、大使、外交官は常に、国際社会に存在するルールを意識しています。

この講義は、国際社会に通用する人材に必要な知識とノウハウを身につけることを目的とします。外交官でなくても、外国の人との交流や折衝は誰もが経験し得ることですし、国内でも交渉や折衝は毎日起こります。どのように自分の考えを相手に効果的に伝え、目的を達成するかについても、実践的な知識を身につけることを目標とします。

講義では、国際社会の基本的なルールである「国際法」の基本的な枠組みを勉強します。受講者の皆さんには、具体的な課題につきプレゼンテーションや実践的な交渉に参加してもらいます(現実のケースをもとにした事例をチームに分かれて交渉します)。同時に、英語による基本的な表現能力も身につけられるように配慮します。

講師は 10 年以上の実務経験を有する若手の現役外交官です。海外および外務本省での勤務を通じて得た経験を踏まえ、できるだけ臨場感にあふれた、インターアクティブな(双方向・実践型の)講義を行います。

テキスト：

受講する皆さんは、必ず(1)国際法に関する基本的な教科書、(2)条約集および判例集、(3)交渉・交渉術に関する本、(4)プレゼンテーションに関する本、(5)英文レポートの書き方についての本を事前に購入してください。書名は指定しませんので、自分にとって読みやすい、使いやすい本を選んでください。

講義に使用する資料はその都度配布し、指定する図書がある場合は事前にお伝えします。

参考書：

以下のような本を参考にテキストを選んでください。あくまでも一例ですので、必ず読み比べたうえで選んでください。

(1) 国際法：

山本草二「新版 国際法」(有斐閣、1994 年)、中谷和弘ほか「国際法」(有斐閣アルマ、2006 年)、松井芳郎ほか「国際法(第 4 版)」(有斐閣 S シリーズ、2002 年)、杉原高嶺ほか「現代国際法講義(第 3 版)」(有斐閣、2003 年) 小寺彰ほか「講義国際法」(有斐閣、2004 年)：これら以外でも結構です。自分にとってわかりやすく、使いやすいものを選んでください。

(2) 条約集、判例集(それぞれ 1 冊ずつ購入してください)：

大沼保昭 / 編集代表「国際条約集 2005 年版」(有斐閣、2005 年)
広部和也・杉原高嶺 / 編修代表「解説条約集 2006」(三省堂 2006 年) いずれか 1 冊

- 松井芳郎／編集代表「ベーシック条約集 2006」(東信堂, 2006年)
 松井芳郎／編集代表「判例国際法(第2版)」(東信堂, 2006年)
 山本草二ほか編集「国際法判例百選 別冊ジュリストNo. 156」(有斐閣, 2001年)
 少なくともいずれか1冊
 (3) 交渉・交渉術に関する本(他の本でも結構です):
 フィッシャーほか「新版 ハーバード流交渉術」(阪急コミュニケーションズ, 2001年)
 ユーリー「決定版 ハーバード流“NO”と言わせない交渉術」(知的生き方文庫, 1995年)
 佐久間賢「交渉力入門(第2版)」(日経文庫, 1997年)
 (4) プレゼンテーションに関する本(他の本でも結構です):
 西等「プレゼンの達人になる技術」(中経出版, 2003年)
 八幡紕芦史「プレゼンの技術」(PHP 研究所, 2004年)
 (5) 英文レポートの書き方についての本(他の本でも結構です):
 上村妙子, 大井恭子「英語論文・レポートの書き方」(研究社, 2004年)

国際法演習(春学期)

EUと国際法

講師 高橋 甫

授業科目の内容:

EU 拡大と深化が国際社会に与えている影響を直視し, 国際法を新たな視点から理解

テキスト:

なし

参考書:

- ・栗林忠男「現代国際法」慶応義塾大学出版, 2005
- ・櫻井雅夫「国際機構法」第一法規, 1993
- ・デイビッド・エドワード＝ロバート・レイン(庄司克宏訳)「EU 法の手引き」国際書院, 1998年
- ・Klaus-Dieter Borchardt「The ABC of Community Law」The European Commission, 1999 (http://ec.europa.eu/publications/booklets/eu_documentation/02/txt_en.pdf)
- ・山根裕子「新版 EU/EC 法」有信堂, 1995
- ・石川明・櫻井雅夫編「EU の法的課題」, 慶應義塾大学出版 2001年
- ・中村民雄, 須網隆夫編書「EU 法基本判例集」日本評論社, 2007年
- ・田中俊郎, 小久保康之, 鶴岡路人編「EU の国際政治・域内政治秩序と対外関係の動態」慶應義塾大学出版, 2007
- ・衆議院憲法調査会「衆議院 EU 憲法およびスウェーデン・フィンランド憲法調査議員団報告書」, 平成 16 年 12 月(リザーブブックとして 3 部を 9 月 30 日まで旧図書館 3 階に配架)
- ・衆議院憲法調査会「衆議院憲法調査会報告書」, 平成 17 年 4 月(リザーブブックとして 3 部を旧図書館 3 階に配架)

社会法演習/社会法演習(春学期)

ジェンダーからみた労働法

講師 神尾 真知子

授業科目の内容:

社会的文化的に作られた性差, すなわちジェンダーという視点で, 労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるのかを明らかにします。憲法 14 条, 女性差別撤廃条約, 女性労働の歴史, 労基法の女性保護規定, 労基法 4 条を取り上げます。

女性労働の歴史を学ぶために, 女性と仕事の未来館を見学します。

テキスト:

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待(新版)』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書:

講義時に適宜紹介する。

社会法演習/社会法演習(秋学期)

ジェンダーからみた労働法

講師 神尾 真知子

授業科目の内容:

社会的文化的に作られた性差, すなわちジェンダーという視点で, 労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるのかを明らかにします。均等法, 育児・介護休業法を取り上げます。

テキスト:

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待(新版)』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書:

講義時に適宜紹介する。

法思想史演習/法思想史演習(春学期)

法思想の諸問題

講師 國分典子

授業科目の内容:

法思想に関するテキストを用い, テキストのトピックごとに議論を行ってゆきます。少人数の授業ですので, 授業の進め方については, 初回に受講者の意見も聞き, できるだけ受講者の希望に沿ったものになりたいと思います。

テキスト:

竹下賢・平野敏彦・角田猛之編『トピック法思想 羅針盤としての歴史』法律文化社 2000年

法思想史演習/法思想史演習(秋学期)

法・国家・正義に関わる諸問題の検討

講師 國分典子

授業科目の内容:

法・正義・国家といった概念に関わる諸問題について書かれた論文や, 入手しやすい文庫本等に収められた代表的な法思想家の著作を読んで, 討論を行います。少人数の授業ですので, 扱う文献および授業の進め方については初回に参加者の希望を聞き, できるだけ受講者の興味に沿った内容としたいと思います。

テキスト:

初回に受講者と話し合っ採り上げる文献を決定します。

法制史演習(秋学期)

大正・昭和戦前期および占領期の法制史・法思想

講師 出口 雄一

授業科目の内容:

明治時代に始まる我が国の法制の近代史は, 大正期・昭和期(特に戦前期)においてどのような展開があったのであろうか。通常「近代法体制の再編期」とも称される上記の期間は, 大正デモクラシーの政治状況下にあったが, 同時に西洋法の影響下にあった日本法がその「固有」の姿を求め, 様々な法制改革が試みられた時期でもあった。また総力体制下の戦時状況に臨み我が国の法制はどのような時代的変容を余儀なくされたのか。そして GHQ による占領改革は日本法の近代史においていかなる意義があったのか。

本演習では, 以下に記す授業計画・方法に従って, 上記の諸問題を半期にわたって受講者諸君と共に考えていくことにしたい。

テキスト:

予め授業担当者の方で, テキストとする論説などをコピーしそれを受講者に実費で購入して頂く予定である。

参考書:

適宜授業内で紹介していく。

法制史演習（秋学期）
中世武家法

講師 漆原 徹

授業科目の内容：

鎌倉・室町幕府法および追加法を通じて、中世の法と制度の理解を深めることを目的とする。幕府の全国支配の中心的機能を担った守護を中心に、幕府・守護・御家人（国人）三者の関係を示す史料を講読していく予定。

テキスト：

霞信彦・漆原徹・浜野潔編『日本法制史 史料集』（慶應義塾大学出版会，2003年）

参考書：

- ・百瀬今朝雄・佐藤進一編『中世法制史料集』第一巻～三巻（岩波書店）
- ・『中世政治思想上』（日本思想体系 21，岩波書店）

〔研究会（3年）〕

研究会（3年）

憲法

教授 小林 節

授業科目の内容：

日本国憲法を研究する。論点方式で、憲法の体系に従って、全員で討論を展開し、当該論点の理解を深める。また、学年の途中で憲法に関する重要な判決がくだされた場合には、その検討も行う。一年間で、日本国憲法に関する重要な論点を総て網羅する予定である。なお、3年次の一月に卒業研究の指導を始める。卒業研究の課題と方法は各自の好みと必要に応じて選択する。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会（3年）

基本的人権の諸問題

教授 小山 剛

授業科目の内容：

3年次はレポーターによる報告形式により、基本的人権に関する重要論点について研究する。取り扱う論点は受講者と相談のうえで決定するが、本年度は、最高裁の判例法理についてその射程、意義および問題点を検討することに重点を置く。1つのテーマをレポーターによる重要判例についての報告および質疑応答、担当者による関連判例および学説についての解説、関連する具体的問題についてのディベート、という3つのユニットから掘り下げて考察することにより、真に活用しうる理解の涵養を教育目標とする。

テキスト：

- ・小山剛＝駒村圭吾編『論点探求憲法』弘文堂，2005年
- ・井上典之＝小山剛＝山元一編『憲法学説に聞く ロースクール憲法』日本評論社，2004年

判例集として、憲法判例百選（第5版が刊行される予定である）または戸松秀典＝初宿正典編『憲法判例』を用意すること。また、担当者が編集した判例演習教材として、法科大学院生向けであるが、棟居快行＝工藤達朗＝小山剛編集代表『プロセス演習憲法』（第三版が最新版）がある。

参考書：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

研究会（3年）行政法研究

専任講師 青木 淳

授業科目の内容：

行政法の領域で議論されるべき裁判例や時事問題を素材に、行政法の理論と実務を学ぶ。

テキスト：

いわゆる基本書その他の主要な文献のほか、資料調査方法について、開講時にガイダンスを行う。

研究会（3年）

租税回避行為の研究

教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法および国際租税法の基礎知識を修得し、国際的租税回避行為や米仏独における租税回避行為など重要な租税問題につき、十分に理解できる基礎学力を養成します。法律的会話を行うことができるようになれば、本授業の目標は達成されたと認められます。

テキスト：

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規
- ・岸田ほか『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

参考書：

- ・『租税判例百選』有斐閣
- ・金子宏ほか『ケースブック租税法』弘文堂
- ・金子宏・清水敬次・宮谷俊胤『税法入門』有斐閣新書

研究会（3年）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

国際商取引に関する法律について、下のテキストを使い勉強する。国際取引法を理解するには、日本法だけでなく、相手国の法も理解しなければならない。そこで、日本の最も重要な取引相手国がアメリカであることもあり、また、アメリカがコモンロー国家であるので、アメリカ合衆国における関連法も、視野に入れる。カバーする予定の問題は、国際売買契約および、それに関連するさまざまな問題、紛争解決手段としての商事仲裁などを含む。この研究会の目的は、国際取引という場面では、法とは何か、そして、それがどのように働くかを理解することである。

テキスト：

Folsom, Gordon, Spangle “International Business Transaction”

研究会（3年）

ラテンアメリカ法・民法

専任講師 前田 美千代

授業科目の内容：

本研究会は、ラテンアメリカ諸国の法研究に関心のある者のほか、民法・消費者法の学習・研究を行う意欲のある者、また、ラテンアメリカ地域に関心があり、歴史・言語・民族・社会・文化等にかかわる諸問題を法との関係を踏まえて学習・研究する意欲のある者の学習・研究をサポートし、共に学ぶことを目的とする。

テキスト：

開講時にリストを配布する。

参考書：

開講時に指示。

研究会（3年）

教授 大森 正仁

授業科目の内容：

国際法の基本的な理解とその具体的な場面への適用について研究することを目標とします。前者については個別の問題についてレポートの作成を、後者については4年生との模擬裁判を通じて行います。

テキスト：

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣，第4版，2007年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 2008年版』（有斐閣，2008年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，1999年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣，2001年）

研究会(3年) 教授 明石 欽司

授業科目の内容:

担当者が用意する幾つかの選択肢のなかから、参加者の希望と既習得語学等を考慮して、研究会の進め方を決定する。

研究会(3年) 専任講師 尹 仁河

授業科目の内容:

本研究会は国際法全般を対象としますが、中でも国際人権法および国際人道法に重点をおいて研究を行います。

テキスト:

- ・栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)
- ・大沼保昭編『国際条約集 2008年版』(有斐閣, 2008年)

参考書:

- ・松井芳郎編『判例国際法』(東信堂, 第2版, 2006年)
- 他, 開講時に一覧を示します。

研究会(3年) 教授 安富 潔

授業科目の内容:

判例を素材にした争点の検討を中心とした刑事訴訟法の研究を行います。報告者の発表をもとに参加者全員によるディスカッション形式で進めていきます。

問題解決能力の基本を養いたいと思います。

研究会(3年) 教授 太田 達也

授業科目の内容:

本研究会は、刑事政策と被害者学について扱う。刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学に関する重要な問題について受講生に順番に報告してもらい、担当者と受講生全員で議論を行う。3年次には刑事政策の基本的な事項について正しく理解するとともに、刑事政策の問題に対する考察能力を深めることが課題である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、夏期休暇中に合宿を兼ねた刑務所や少年院の見学を予定しているほか、学期中にも日帰りの関連施設の見学を実施したいと考えている。また、アジア法に関心のある受講生についても適宜指導を行うので、学習の成果を研究会の時間に報告してもらい、さらに関心があれば、卒業論文のテーマとすることも認める。

テキスト:

特に使用しない。

参考書:

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会(3年) 准教授 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

本研究会は、現在の国際刑事法およびその成立過程を主な対象とする。また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

テキスト:

必要に応じて資料プリントを配布することにするが、毎回、六法および国際条約集(松井芳郎[編]『ベーシック条約集[2007年版]』東信堂(2007年)を推奨する)を持参されたい。

参考書:

- ・小長谷和高『国際刑事裁判所説[第2版]』尚学社(2007年)
- ・安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』成文堂(2002年)
- ・東澤靖『国際刑事裁判所 法と実務』明石書店(2007年)
- ・森下忠『新しい国際刑法』信山社(2002年)
- ・フィリップ・オステン「刑法の国際化に関する一考察 ドイツと日本における国際刑法の継受を素材に」法学研究 79巻6号(2006年) 51頁以下

- ・フィリップ・オステン「国際刑事裁判所規程と国内立法 ドイツ『国際刑法典』草案を素材として」ジュリスト 1207号(2001年) 126頁以下
- ・高山佳奈子「国際刑事裁判権」法学論叢 154巻(2003年)1号1頁以下・2号22頁以下
- ・Cassese, Antonio, International Criminal Law (Oxford UP), 2003
- ・Werle, Gerhard, Principles of International Criminal Law (Asser Press), 2005
- その他, 随時指示する

研究会(3年) 専任講師 佐藤 拓磨

授業科目の内容:

本年度は、刑法総論の重要論点につき、深く掘り下げて検討を加えて行く。毎週、レポーターが指定された論点について報告をし、その後全員で討論するという形を採る。

テキスト:

井田良・丸山雅夫『ケーススタディ刑法[第2版]』(日本評論社, 2004)

参考書:

『別冊ジュリスト 刑法判例百選 総論[第6版]』(有斐閣, 2008)

研究会(3年) 刑法ゼミナール 法務研究科 教授 伊東 研祐

授業科目の内容:

現代社会状況の中で明らかになって来る刑事実体法, 刑事手続法, 刑事政策に関わる諸々の問題につき, その適正な解決を図るべく, 自ら考える為の視座の形成を目的とします。当然ながら, 問題を発見し, 解析し, 解決の為に調査する等々の能力の養成も行います。参加者の主体的な取り組みを前提とした, 小人数のゼミです。

テキスト:

指定しない。

参考書:

参加者の研究の必要に応じ, 随時指示します。

研究会(3年) 国際金融法務 法理論と法実務の架橋 法と経済の交錯 教授 斎藤 和夫

授業科目の内容:

国際金融取引 法理論と法実務 を、「担保法」や「金融法」の視点から, 考察します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

随時, 指示します。

研究会(3年) ゼミナール(民法財産法) 教授 池田 真朗

授業科目の内容:

民法財産法の事例問題を扱う。(問題は下記問題集からゼミ生が選択する)

一週おきに4000字のレポート提出を課す。

レポートのない週は, ディベートの週として, 全員に実質的な発言をすることを義務付ける。

夏合宿では, 大きなテーマで学習し, 夏合宿レポート(1万字)を課し, 優秀作を法律学研究(学生論文集)に推薦する。

12月には恒例の早稲田大学鎌田薫ゼミとの合同ゼミを行う予定である(1昨年度の出題講評者は大村敦志東京大学教授, 昨年度の出題講評者は沖野真一橋大学教授)

テキスト:

問題集として『スリーステップ民法ゼミナール』(一粒社, 絶版)を使用。

法律

参考書：

池田真朗『スタートライン民法総論』(日本評論社, 2006年), 同『スタートライン債権法(第4版)』(日本評論社, 2005年)の二冊は, ゼミ開始前に読了のこと。

研究会(3年)

家族法研究

教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

家族法(民法 親族・相続編)を対象とします。具体的なテーマについては, 受講生と相談の上決定しますが, 家族法の諸論点を, 学説・判例を踏えて検討すること, および, 現代家族が抱える諸課題について立法論も含めて検討する予定です。

参考書：

「家族法判例百選(第6版)」有斐閣

研究会(3年)

国際私法研究

教授 北澤 安紀

授業科目の内容：

事例問題を素材に, 国際私法および国際民事手続法上の基本問題について研究する。担当者が予め配布した課題について, 参加者全員で議論を行うことで, 国際私法および国際民事手続法の基本的な考え方について理解し, 論理的思考能力および問題解決能力を養うことを目的とする。参加者には定期的にレポートの提出を課す予定である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

開講時に指示する。

研究会(3年)

民法(財産法)の総合的研究

教授 武川 幸嗣

授業科目の内容：

財産法分野に関する応用事例の演習を通して, 基本的理解の深化ならびに応用的思考力の涵養を図ることを目的とする。具体的な進め方としては, 班分けした上で, 担当者が予め配布する課題(事例が中心)につき事前に各班で検討を行い(したがって自主的にセブゼミを開いてもらう), 本ゼミの際にその成果を班ごとにレポーターを立てて報告し, さらに全体で討議をしてもらう予定である。演習課題の対象範囲は年間を通して財産法全般にわたるよう, ゼミを進行していきたい。

このほか, 夏期合宿を行い, 集中的にまとまった課題研究を行う予定である。

テキスト：

とくに共通のテキストは指定しないが, 基本書レベルのものは開講時まで各自が通読していることを前提としてゼミを進行する。課題ごとの参考文献については必要に応じて逐次指示する。

参考書：

同上。

研究会(3年)

准教授 君嶋 祐子

授業科目の内容：

判例を中心に, 特許法の基本的問題点について研究する。特許法の基本的問題点について, 研究, 議論することで, 知的財産法の基本的な考え方について理解し, 自分なりの意見を発言できるようにすることを目標とする。

研究会では, 予め与えられた課題について積極的に発言することを求められる。

次年度の研究会(4年)では, 知的財産法の分野から各自テーマを選んで, 卒論を作成する予定である。

テキスト：

別冊ジュリスト 170号・特許判例百選[第3版](2004)

各自, 特許法の条文全文を持参のこと。

参考書：

初回に指示する。

研究会(3年)

民法財産法研究

専任講師 水津 太郎

授業科目の内容：

民法財産法の基本問題を, 具体的な事例を素材として, 参加者全員で自由に議論します。基本的知識の確認はもちろんですが, 主眼はむしろ, 各人が自由な発想で法的にものを考え, 他者に対して適切に表現する力を身に付けることにあります。法的な思考と論理をとおして, 問題を発見し, 解決する能力を涵養することを目的とします。

参考書：

必要に応じて, 随時指示します。

研究会(3年)

民法財産法の総合的研究

法務研究科 教授 片山 直也

授業科目の内容：

春学期は, 6つのサイクルに分け, 各サイクルごとに1つのテーマを設定し, 事例問題研究, 討論研究(ディベート)および判例研究を組み合わせた双方向の多角的な演習を行い, 論理的思考能力, 問題解決能力の育成をめざす。

秋学期は, 受講生が各自の研究テーマを選択し, 近接するテーマごとにいくつかのグループを組み, 各グループの構成員を中心に, 裁判例や代表的な論文の分析研究を行い, 4年次のリサーチペーパー, 卒業論文の作成に備える。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各テーマごとに, ゼミに先立って, メディアセンターで判例, 雑誌論文などの資料を収集し, 分析検討を行う。

研究会(3年)

法務研究科 教授 北居 功

授業科目の内容：

民法財産法について, 主要なテーマを具体例を素材にしつつ扱いながら, 参加者の議論を通じて, 理解を深めることを目指している。従って, 議論を深めるうえでも, 各参加者には, 事前の十分な予習を求めることとなる。

研究会(3年)

民法理論の基礎から応用へ

法務研究科 教授 松尾 弘

授業科目の内容：

(1)民法全般にわたり, 理論と実務の双方の観点から解釈論を深める。同時に, 法改正や裁判例の動向, 法解釈方法論, 比較法, 法形成(法継受)の歴史にも注意を払っていきたい。

(2)国家の「良い統治」を目指した法制度改革, その一環としての発展途上国への法整備支援などを対象とする, 開発法学(Law and Development)の理論と実践を分析する。

ゼミでは(1)を主眼とし, (2)はメンバーの希望や関心に応じて取り上げる。具体的には, つぎのような活動を予定している。民法全般にわたり, 主要問題に関する判例, 学説を的確に整理し, 自説を形成する(レポーター制)と並行しながら, 法解釈方法論を検討する。最新の裁判例の中から重要なものを抽出し, 内容や意義を検討する(担当者[松尾]と共同)。民法関連の法改正の内容を検討する(解説書を用いる)。諸外国の民法の概要, その形成プロセス, 法継受などを通じた相互作用について学習する(担当者と共同)。開発法学の動向, 法整備支援の状況を検討する(最初は担当者と希望者)。ゼミ誌を発行する(担当者と共同)。

テキスト：

に関して

- ・山野目章夫＝野澤正充編『ケースではじめる民法〔補正版〕』（弘文堂，2005）
- ・松尾弘『民法の体系 市民法の基礎（第4版）』（慶應義塾大学出版会，2005）

に関して

- ・五十嵐清『法学入門（新版）』（悠々社，2002）
- ・ヤン・シュレーダー／石部雅亮編訳『トピック・類推・衡平 法解釈方法論史の基本概念』（信山社，2000）

に関して

- ・オッコー・ペーレンツ＝河上正二『歴史の中の民法 ローマ法との対話』（日本評論社，2001）

に関して

- ・松尾弘「開発法学への招待（1）～法学セミナー 622号（2006）～」

参考書：

授業中に随時紹介する。

研究会（3年）

法務研究科 教授 金山 直樹

授業科目の内容：

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論することによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってみたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。

テキスト：

通常は、以下の二つを交互に用いています。

1. 民法の事例問題（テキストとして、民法総合・事例演習（有斐閣）を使用）...どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。
2. 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

夏期合宿は民法総則を集中的に勉強する予定です。

研究会（3年）

民法（財産法）研究 法務研究科 教授 平野 裕之

授業科目の内容：

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究をする。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものにしたと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、資料を調べ研究し報告を準備しまた報告をする能力、また、質疑応答をするディベート能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行い、合宿では日ごろの勉強を忘れて、スポーツなどをして交流を深めてもらいたい。また、12月の早慶合同討論会の後には、同じく早慶合同のOB会を行い、OBとの交流も深めてもらう。

日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えているが、ロースクールの現状では議論をのんびりする時間はないので、むしろこちらの授業の方が時間を浪費はするが、ロースクール的である。毎回1～2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めることなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。また、全員が緊張して授業に挑むように、授業の最後に、報告者を指名し授業のまとめと自分の見解を発表してもらい、それに対する質疑応答を通して更に授業の理解を深めていく。

このように、厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたと実感できるような授業にしたいと考えている。また、授業は3・4年合同で行い、2時間半程度を考えている。

テキスト：

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

参考書：

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

研究会（3年）

事例に学ぶ民法

法務研究科 教授 鹿野 菜穂子

授業科目の内容：

この授業は、民法の財産法に関する裁判例や設例の検討を通して、民法の重要事項を確認するとともに、応用力を養うことを目的とします。

前期は、主に最高裁の判例を取り上げ、後期は、設例の検討を行う予定です。参加者を3つ又は4つのグループに分け、それぞれのグループに、毎回異なる役割を分担してもらいます。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

民法判例百選

研究会（3年）

商法（会社法）ゼミナール

教授 加藤 修

授業科目の内容：

会社法上の重要問題について報告・検討し、その基本法理を研究する。具体的には、会社法総論として、企業形態論、共同企業論、会社定款論、営利法人性、会社の社団性、会社制度の悪用、仮装の資調達を研究する。会社法各論としては、設立、株式・持分論、機関論（株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役・監査役会・会計参与・執行役・代表執行役）、各種の資金調達、企業結合論、会社組織論を研究する。参加者は、事前にレポートを用意し、随時、そのレポートに基づいて口頭報告あるいは意見・見解表明が求められる。夏休みの合宿においては、各人の問題意識に基づいて、会社法上の問題につき口頭報告が全員に求められる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会（3年）

商法研究

教授 宮島 司

授業科目の内容：

商法に関する具体的事例の検討を行う。それにより、法的問題点の考え方、解決方法を見出すようになれば幸いである。

テキスト：

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書：

会社法概説（第三版補正第二版）、弘文堂

新会社法エッセンス（第二版）、弘文堂

研究会（3年）

教授 山本 為三郎

授業科目の内容：

会社法の事例研究および商事法（主として、会社法、商法総則、商行為法、有価証券法）に関する最新の判例研究を行う予定です。問題点の把握・検討は、リポーターの発表（当該レポートの提出義務があります）を中心に進められます。また、早稲田大学企業法研究会とのディベートを毎年行っています。

研究会員各自が研究者として自覚を持ちゼミに参加することにより、1年後には、卒業論文作成の基礎となる法的思考能力の深化を確認できるでしょう。

法律

テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方（第6版）』（八千代出版，2006年）

研究会（3年）

会社法ゼミナール

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

会社法の内容と特色を、毎週課題を検討・討議してゆくことで理解を深める。また、研究をすすめるうえで不可欠な資料検索・レポート作成・報告の方法などもあわせて指導する。

テキスト：

最初の授業で指示する。

参考書：

最初の授業で指示する。

研究会（3年）

商法（手形・小切手法）

教授 島原 宏明

授業科目の内容：

手形・小切手法のケース・スタディーを行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、私法の本質的な要素をとらえるためには絶好の素材だともいえる。すなわち、手形・小切手法を通して民法（財産法）を理解することが、このゼミの一つの目標である。ただし、とりあえず現時点では民法、商法についての知識を要求しない（ヤル気があれば、それで十分である）。

なお、合宿、コンパ、ソフトボール等の活動も積極的に行っていくつもりである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に指示する。

研究会（3年）

商法

教授 高田 晴仁

授業科目の内容：

実質的意義の商法のうち会社法および手形法を中心に扱う。

具体的な事例または判例を採り上げて解釈論を研究する。

テキスト：

授業中に指示する。

研究会（3年）

商法・国際取引法・法交渉

法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関するものであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション（<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>、法学教室2004年3月号参照）への参加を通して行う。

テキスト：

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法（総則・商行為）判例百選』（有斐閣）および同『会社法判例百選』（有斐閣）は用意しておくこと。

参考書：

授業中に随時指示する。

研究会（3年）

教授 並木 和夫

授業科目の内容：

金融商品取引法について研究します。

テキスト：

要点解説 金融商品取引法（中央経済社）

研究会（3年）

民事訴訟法

教授 坂原 正夫

授業科目の内容：

民事訴訟法に関する事例問題を履修者全員が徹底的に討論することによって、履修者が民事訴訟法の基礎理論について理解できるようにします。換言すれば、履修者が民事訴訟法の基本的な問題について判例・通説の内容と問題点を認識し、各自がそれぞれの問題について自らの見解をまとめることができるように指導します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

春休み中（3月中旬）に勉強会を行いました。そのためのガイドダンスの際（2月中旬）に配布した演習問題に、参考書一覧が記載されているので、それを参照してください。

研究会（3年）

教授 三木 浩一

授業科目の内容：

民事訴訟法判決手続について、通年のゼミナール形式で演習を行う。授業のスタイルとしては、担当者が作成した事例問題を課題として事前に与えておき、授業当日はこれを素材としてソクラテック・メソッドを用いて議論を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

最初の授業の日に口頭で指定する。

研究会（3年）

経済法（独占禁止法）・国際経済法（GATT/WTO）

教授 田村 次朗

授業科目の内容：

企業間の競争を通じて、低廉・良質な財・サービスが消費者に提供されることは、資本主義メカニズムの根幹であるが、競争は時として、独占企業や寡占によって滅殺される。このような弊害を是正し、競争を維持・促進する法制度が独占禁止法（競争法）である。競争法では、独占やカルテル、イノベーションの促進と知的財産権、規制緩和問題（情報通信・電力・ガス事業）などを取り扱う。また、国内市場を規律する競争法の検討とともに、国際貿易を規律する法制度である国際経済法を検討する。国際経済法では、主としてWTO（世界貿易機関）における紛争解決事例の検討を通じて、セーフガード、アンチ・ダンピング、国際的環境問題を検討する予定である。

テキスト：

- ・根岸 哲・舟田正之『独占禁止法概説（第2版）』（有斐閣，2003）
- ・田村次朗『WTOガイドブック』（弘文堂，2001）
- ・厚谷襄児・稗貫俊文（編）『独禁法審決・判例百選（第6版）』（有斐閣，2002）

参考書：

- ・村上政博『独占禁止法の日米比較』（弘文堂，1992）
- ・松下満雄『経済法概説』（東京大学出版会，1995）

・松下満雄『国際経済法 国際通商・投資の規制(第3版)』(有斐閣, 2001) など

研究会(3年)

労働法・社会保障法 准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、前期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。後期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、後期の卒論作成の参考にします。

テキスト:

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

ただし最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

参考書:

〔労働法〕

- ・神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社, 2008年春出版予定)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第9版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2006)
- ・菅野和夫『労働法(第6版)』(弘文堂)

〔社会保障法〕

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)

研究会(3年)

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容:

日本法の「近代」がどのように展開したのか、法制度・法意識・法文化の観点から、様々な文献を通じて議論する。

テキスト:

未定(参考書から1冊選ぶこともある)

参考書:

- ・大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)
- ・村上淳一『法の歴史』(同前)
- ・田中成明『転換期の日本法』(岩波書店)
- ・小林直樹『法の人間学的考察』(同前)他
- ・竹下賢他編『改訂版 マルチ・リーガル・カルチャー』(晃洋書房)

〔研究会(4年)〕

研究会(4年)

憲法 教授 小林 節

授業科目の内容:

3年次の一月に選択した各自の課題と方法に従って、卒業研究の指導を続行する。必要に応じて中間報告を求める。4年生は、時間の許す限り、3年生の研究会にも出席すること。

テキスト:

特になし。

参考書:

特に指定せず。

研究会(4年)

教授 小山 剛

授業科目の内容:

〔春学期〕統治の基本問題について演習をおこなう。今年度は、司法権の観念、法律と命令、条例の関係などを中心に扱う。

〔秋学期〕各自の選択したテーマにしたがって卒業論文またはリサーチ・ペーパーを執筆する。

テキスト:

とくになし

参考書:

適宜指示する。

研究会(4年)

駒村圭吾教授代講 法務研究科 教授 山元 一

授業科目の内容:

駒村圭吾教授が本年度から在外研究に出たため、山元が一年間代講することになった。昨年度のゼミ募集の際に、示された駒村圭吾研究会の4年次の指導内容に従って、卒業研究の作成を指導することにしたい。

研究会(4年)

行政法研究・卒業研究 専任講師 青木 淳一

授業科目の内容:

研究会活動の集大成として、卒業論文を作成する。

テキスト:

卒業論文の作成を念頭に置いた資料調査方法等について、開講時にガイダンスを行う。

研究会(4年)

租税回避行為の研究 教授 吉村 典久

授業科目の内容:

2年間の研究会活動の集大成として、卒業論文を作成します。同時に、司会および裁判官として、後進の指導にあたってください。

テキスト:

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法(法令編)』新日本法規
- ・岸田ほか『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

参考書:

- ・『租税判例百選』有斐閣
- ・金子宏ほか『ケースブック租税法』弘文堂

研究会(4年)

教授 西川 理恵子

授業科目の内容:

前年度のトピックに関する勉強の継続と、各自、卒論を自分の選んだテーマで書く。

法律

テキスト：

Folsom, Gordon Spangle “ International Business, Transaction ”

研究会（４年）

ラテンアメリカ法・民法 専任講師 前 田 美千代

授業科目の内容：

本研究会は、ラテンアメリカ諸国の法研究に関心のある者のほか、民法・消費者法の学習・研究を行う意欲のある者、また、ラテンアメリカ地域に関心があり、歴史・言語・民族・社会・文化等にかかわる諸問題を法との関係を踏まえて学習・研究する意欲のある者の学習・研究をサポートし、共に学ぶことを目的とする。

具体的な成果として、卒業論文一本を作成する。

テキスト：

開講時にリストを配布する。

参考書：

開講時に指示。

研究会（４年）

教授 大 森 正 仁

授業科目の内容：

３年次に獲得した国際法の知識の事例への適用として、模擬裁判を行います。同時に大学での学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組みます。

テキスト：

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣，第４版，２００７年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 ２００８年版』（有斐閣，２００８年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，１９９９年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣，２００１年）

研究会（４年）

教授 明 石 欽 司

授業科目の内容：

卒業論文作成

研究会（４年）

専任講師 尹 仁 河

授業科目の内容：

研究会（３年）における国際法の学習を基礎として、各自がテーマを選び卒業論文を作成します。

テキスト：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，１９９９年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 ２００８年版』（有斐閣，２００８年）

参考書：

- ・松井芳郎編『判例国際法』（東信堂，第２版，２００６年）
- 他，開講時に一覧を示します。

研究会（４年）

教授 安 富 潔

授業科目の内容：

総合的な事例の検討を中心として刑事訴訟法の研究を行います。問題解決能力の練成をめざします。

研究会（４年）

刑事政策・被害者学・アジア法 教授 太 田 達 也

授業科目の内容：

４年次は、３年次の刑事政策・被害者学に関する基礎的な学習を踏まえ、各自の卒業論文の作成が中心課題となる。まず、前期は刑事政策および被害者の新しい動向に関する文献講読を行い、それぞれの問題について討議を行う。後期は、卒業論文の中間報告を中心にゼミを進める。

テキスト：

講義の時に資料を配付する。

参考書：

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会（４年）

准教授 オステン，フィリップ

授業科目の内容：

前年度のトピック（国際刑事法）に関する研究の継続と、ゼミ生の希望に応じて、刑法総論の主要論点等を班形式で取り上げ、全員で討論を行う予定である。

なお、卒業論文の作成を希望する学生に対しては、その指導を行う。また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

研究会（４年）

専任講師 佐 藤 拓 磨

授業科目の内容：

卒業論文作成に向けた指導が中心となる。

テキスト：

指定しない。

参考書：

卒論のテーマに応じ、個別に文献等を指示する。

研究会（４年）

刑事法ゼミナール 法務研究科 教授 伊 東 研 祐

授業科目の内容：

３年の研究会で形成されたはずの自ら考える為の視座に基づき、各人の選んだ研究テーマを深く掘り下げ、ユニークな見解を纏めることを目的とします。３年生を含めた小社会集団における共生・共働の修得をも目指した小人数のゼミです。

テキスト：

指定しない。

参考書：

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会（４年）

卒論研究，進路を考える（就職観）

教授 斎 藤 和 夫

授業科目の内容：

卒論作成の作業を進めます。三年次の 限テーマ（国際金融法務）と 限テーマ（担保法）との、いずれかを選択して、卒論テーマを選択してください。大学院法学研究科（研究大学院）への進学希望者については、個別の研究指導（論文指導を含む）をおこないます。同時併行して、進路ガイダンス（木・ 限）も試みます。

テキスト：

特に指定しません。「判例研究（評釈）」や「重要論文」を精読することが肝要です。

参考書：

各テーマについての参考文献等については、個別に対応します。

研究会（４年）

ゼミナール（民法財産法） 教授 池 田 真 朗

授業科目の内容：

卒業論文の中間報告を行う。

３年ゼミの最終回に提出した中間報告テーマに従って、順次行う。テーマ提出の際に卒論提出延期願を提出した、司法試験や公務員試験の受験者については、各人の選択したテーマに従い、後期に順次報告することとする。

テキスト：

なし。各自が資料収集をして報告すること。

参考書：

なし。なお、卒論執筆作業の前提として、担当者の著作中の入門書等は、卒論テーマにかかわらず、すべて再読のこと。

研究会（4年） 家族法研究	教授 犬伏 由子
------------------	----------

授業科目の内容：

家族法（民法 親族・相続編）を対象とします。三年次に引き続き、家族法の諸課題について研究を深め、各自テーマを選抜し、卒業論文の作成を行うこととなります。

参考書：

「家族法判例百選（第6版）」有斐閣

研究会（4年） 財産法の応用的展開	教授 武川 幸嗣
----------------------	----------

授業科目の内容：

ゼミ生の将来の進路ないし希望に応じて適宜調整するつもりであるが、基本的には、3年次の課題演習を継続しつつ、これと並行ないし前後して、各自が自ら設定したテーマ研究につき、中間報告・討論を行うことを予定している。最終的には、卒業論文または課題研究としてまとめて提出してもらおう。

テキスト：

特に指定しない。課題に応じて適宜指示する。

参考書：

同上。

研究会（4年）	准教授 君嶋 祐子
---------	-----------

授業科目の内容：

知的財産法の分野から各自テーマを選んで、卒業論文を作成する。

テキスト：

各自、テーマに応じて用意する。

参考書：

同上。

研究会（4年） 民法財産法研究	専任講師 水津 太郎
--------------------	------------

授業科目の内容：

卒業論文の作成を行います。その際には、たとえわずかであっても、民法学の発展に寄与しうる、新たな・面白い知見をもたらすことを課題とします。なお、任意ですが、研究会（3年）の共同研究にも参加することを希望します。

参考書：

必要に応じて、随時指示します。

研究会（4年） 民法財産法の発展的研究	法務研究科 教授 片山 直也
------------------------	----------------

授業科目の内容：

研究会（3年）春学期において養われた論理的思考能力および問題解決能力を基礎に、同・秋学期において育まれた興味関心をさらに発展させ、リサーチペーパーまたは卒業論文の作成を行う（グループでの執筆も可能）。

春学期、秋学期にそれぞれ各人の研究の進捗状況について中間報告を行うとともに、秋学期は各自の研究テーマに近接する3年生のグループ研究を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各人のテーマごとに、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会（4年）	法務研究科 教授 北居 功
---------	---------------

授業科目の内容：

本年は卒業論文の作成を行う。その内容等については、研究会の学生との話し合いで決定する。

研究会（4年） 民法理論の応用と基本の再確認	法務研究科 教授 松尾 弘
---------------------------	---------------

授業科目の内容：

(1) 3年次における活動を踏まえ、民法解釈論の応用問題を分析し、自分自身の考察を深め、レポートないし卒業論文を作成する。

(2) 応用問題の一環として、政府のガバナンス向上のための法制度改革、発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学（Law and Development）に関わる諸問題の中から、自らの興味に従ってテーマを選定して研究を進め、レポートないし卒業論文を作成する。

各人の興味に従い、前期(1)または(2)のうちから何れか一方を選択し、文献収集、分析、中間報告を行ったうえで、成果物を作成する。

春学期は、とを中心とし、個別指導を行う。

秋学期は、を中心とし、報告と議論を行う。

テキスト：

各人の興味と必要に応じて文献の紹介、検索・分析のアドバイス等を行う。とくに決まったテキスト、その他の文献は用いない。

参考書：

授業中に随時紹介する。

研究会（4年）	法務研究科 教授 金山 直樹
---------	----------------

授業科目の内容：

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってもらいたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。

テキスト：

通常は、以下の二つを交互に用いています。

1. 民法の事例問題（テキストとして、民法総合・事例演習（有斐閣）を使用）...どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。

2. 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

夏期合宿は民法総則を集中的に勉強する予定です。

研究会（4年） 民法（財産法）研究	法務研究科 教授 平野 裕之
----------------------	----------------

授業科目の内容：

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究する。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものになりたいと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、資料を調べ研究し報告を準備した報告をする能力、また、質疑応答をするディベート能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行い、合宿では日ごろの勉強を忘れて、スポーツなどをして交流を深めてもらいたい。また、12月の早慶合同討論会の後には、同じく早慶合同のOB会を行い、OBとの交流も深めてもらう。

法律

日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えているが、ロースクールの現状では議論をのんびりする時間はないので、むしろこちらの授業の方が時間を浪費はするが、ロースクールののである。毎回1~2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めることなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。また、全員が緊張して授業に挑むように、授業の最後に、報告者を指名し授業のまとめと自分の見解を発表してもらい、それに対する質疑応答を通して更に授業の理解を深めていく。

このように、厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたと実感できるような授業にしたいと考えている。また、授業は3・4年合同で行い、2時間半程度を考えている。

テキスト：

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

参考書：

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

研究会（4年）

現代民法学の諸問題 法務研究科 教授 鹿野 菜穂子

授業科目の内容：

卒論の執筆に向けて、各自のテーマを選択してもらい、そのテーマについての検討を行う。テーマ選択の範囲は、民法の全領域（特別法を含む）とし、それ以上特に限定しない。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

追って連絡

研究会（4年）

商法（会社法）ゼミナール 教授 加藤 修

授業科目の内容：

学術論文とは何なのかを指導し、その後、卒業論文執筆のための指導を行う。どのようにして問題意識を明確にして、論文の題目にするかがまず指導される。その後、関係参考文献と資料の探知方法、問題意識の再構成、関係参考文献と資料の批判的解析方法とその方法に基づく実行と新展開への指導がなされる。参加者全員が各自で、必ずどこかで商法と接点を有する法律問題あるいは商法の問題そのものにおいて題目を設定し、複数回の中間報告を行い卒業論文を完成する。中間報告は十分な準備をかさね、事前にレジュメを参加者全員に配布し、学会における学術発表と同じ形式でなされる。合格率の極端に低い国家試験に挑戦しようとする参加者については、卒業論文作成についての時間と労力の配分について、相談に応じます。相談に応じるだけの経験と秘訣は持ち合わせております。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

研究会（4年）

商法研究 教授 宮島 司

授業科目の内容：

春学期は3年と共に商法に関する具体的事例の検討を行い、秋学期は卒論の中間報告。

テキスト：

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書：

会社法概説（第三版補正第二版）、弘文堂

新会社法エッセンス（第二版）、弘文堂

研究会（4年）

教授 山本 為三郎

授業科目の内容：

卒業論文を作成します。テーマは商事法の中から自由選択。会社法、有価証券法に限らず保険法、海商法や金融法でも可。4万字以上を目標に頑張ってください。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方（第6版）』（八千代出版、2006年）

研究会（4年）

会社法ゼミナール 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

三年に学習した会社法の知識を基にして、さらに高度な内容の習得を目指す。初めて取り組む卒業論文のテーマの選択から完成までの全ての過程で、指導をおこなっていく。

テキスト：

特になし。

参考書：

特になし。

研究会（4年）

商法（手形・小切手法） 教授 島原 宏明

授業科目の内容：

前半では手形・小切手法の判例研究を行い、後半では卒業論文の中間発表を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に指示する。

研究会（4年）

教授 高田 晴仁

授業科目の内容：

3年次より引き続き判例研究を行う。

研究会（4年）

商法・国際取引法・法交渉
法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法（国際取引法を含む）に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション（<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>、法学教室2004年3月号参照）への参加を通して行う。

テキスト：

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法（総則・商行為）判例百選』（有斐閣）および同『会社法判例百選』（有斐閣）は用意しておくこと。

参考書：

授業中に随時指示する。

研究会(4年) 教授 並木和夫

授業科目の内容:

金融商品取引法について卒論を書いてもらいます。

テキスト:

要点解説 金融商品取引法(中央経済社)

研究会(4年) 民事訴訟法 教授 坂原正夫

授業科目の内容:

民事訴訟法に関する卒業論文を完成させることができるようになります。卒業論文を執筆するためには、履修者は民事訴訟法に関する問題の中から任意に卒業論文のテーマを選ぶ必要があります。次に履修者はそのテーマに関して事例問題を作成し、問題と解答を授業中に報告しなければなりません。報告内容についての履修者全員の検討と担当者の講評を参考にすることによって、卒業論文の内容が深まるように指導します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

論文執筆に関する一般的な参考書については、研究会(3年)の最後の授業で配布した「4年生の研究会要領」に記載されていますので、それを参照してください。

研究会(4年) 教授 三木浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続に関するテーマを各人が選択して卒業論文の作成を行う。夏に中間報告会を行う。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

研究会(4年) 経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO) 教授 田村次朗

授業科目の内容:

研究会(3年)の学習内容をふまえて、各自、経済法・国際経済法に関する卒業論文を作成することが基本となる。授業では卒論指導のほか、私のもう1つの専門分野である交渉学を学習する。交渉学は、講義を通じて学ぶものではなく、ロール・プレイを通じて体験的に学習するものである。具体的には、ロール・プレイを学生諸君に体験してもらい、その後のフィードバックを通じて、交渉学の基礎概念やテクニックを学んでもらう。なお、日本の法学教育における交渉学は、いまだ馴染みの浅い領域であるので、学生諸君には、単に交渉学を学ぶという姿勢にとどまらず、交渉学を私と共に作り上げるような積極的な姿勢で参加してほしい。

テキスト:

授業のなかで適宜指示・配布する。

参考書:

授業のなかで適宜指示・配布する。

研究会(4年) 労働法・社会保障法 准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2

名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、前期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。後期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受けて議論をし、後期の卒論作成の参考にします。

テキスト:

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

ただし最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

参考書:

〔労働法〕

- ・神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社, 2008年春出版予定)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第9版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2006)
- ・菅野和夫『労働法(第7版・補正版)』(弘文堂)

〔社会保障法〕

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)

研究会(4年) 日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷十郎

授業科目の内容:

3年次の課題を継続する。最終目標を卒業論文作成に置く。

参考書:

未定

〔系列外〕

行政法 A/行政法(春学期) 講師 田村泰俊

授業科目の内容:

本講義では、行政法の中でも、地方自治法、行政組織法、公務員法を主にその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめたい。

参考書:

- ・宇賀克也『地方自治法概説』(有斐閣)
- ・塩野 宏『行政法』(有斐閣)

行政法 B/行政法(秋学期) 講師 田村泰俊

授業科目の内容:

本講義では、行政法の中でも、地方自治法、行政組織法、公務員法を主にその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめたい。

法律

参考書：

- ・宇賀克也『地方自治法概説』(有斐閣)
- ・塩野 宏『行政法』(有斐閣)

行政法 A(春学期)

作用法各論：規制行政法 教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法全体の鳥観図を描かないかぎり行政法の研究・学習はうまく進まないとの思いから、全国の大学の講義科目からほぼ姿を消した感のある「行政作用法各論」の復権(法学研究 79 巻 1 号 35 頁 [2006 年])を実現したのが本授業である。本授業は、担当者の持論である「行政作用法各論」授業の復権(法学研究 79 巻 1 号 35 頁 [2006 年])が、カリキュラム上実現したものである。春学期は、行政作用法各論の概観ののち、主として、警察法、都市開発・土地規制法、環境規制法(詳論は『環境法』に譲る)等の「規制行政」領域について講述する。これらは市民生活にとっても極めて身近な話題であるため、新聞報道等の時事事例や関連裁判判決等、できるだけ具体例に即して講述する。

参考書：

近時『行政法各論』『応用行政法』等と銘打った行政作用法各論の概説書・体系書は、殆ど姿を消しつつある。しかも本授業がカバーする領域は余りにも広い。このため、一冊だけを参考書として掲げるのではなく、各回のテーマにあわせて、折にふれて個別関連文献を提示することとしたい。

行政法 B(秋学期)

作用法各論：給付行政法 教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法全体の鳥観図を描かないかぎり行政法の研究・学習はうまく進まないとの思いから、全国の大学の講義科目からほぼ姿を消した感のある「行政作用法各論」の復権(法学研究 79 巻 1 号 35 頁 [2006 年])を実現したのが本授業である。秋学期は、行政作用法各論の概観ののち、主として、経済行政法(本講義では、『経済法』で詳論される部分は、『経済法』に譲る)、公共施設法、教育行政法、社会福祉行政法(詳論は『社会保障法』に譲る)等の「給付行政」領域について講述する。ドイツでは「経済法」とは別に、「経済行政法」の概説書が多く刊行されていることにも注目する必要がある。これらは市民生活にとっても極めて身近な話題であるため、新聞報道等の時事事例や関連裁判判決等、できるだけ具体例に即して講述する。

参考書：

近時『行政法各論』『応用行政法』等と銘打った行政作用法各論の概説書・体系書は、殆ど姿を消しつつある。しかも本授業がカバーする領域は余りにも広い。このため、一冊だけを参考書として掲げるのではなく、各回のテーマにあわせて、折にふれて個別関連文献を提示することとしたい。

国際法 A(春学期) / 国際法 B(秋学期) / 国際法 (通年)

国際法における紛争の解決および権利と義務の実現のための手続 講師 青木 隆

授業科目の内容：

国際法上の手続を考察することによって国際法の理解をいっそう深めることを目的とします。紛争解決のための平和的手段を基礎に、現代国際法の特徴を示すと考えられる他の様々な手続について講義を行います。具体的には、授業の計画の各項目について、1ないし2回の講義をあてて、条約や事例を用いて法規の解説をします。また、国の社会と法との対比、日本の実行や政策にもふれたいと考えています。

テキスト：

毎回読み進める教科書という意味でのテキストは、指定しません。ただし、受講の際は可能な限り条約集(下記参考書参照)を携行してください。

参考書：

初回講義において、条約集の解説とともに、説明を行います。また、授業内容の理解を深めるために有用な文献は、そのつど紹介します。

担保法 (春学期) / 担保法 (秋学期) / 担保法(通年)

基本・応用・発展

(共同担当)教授 斎藤 和夫

(共同担当)講師 花房 博文

授業科目の内容：

本講義は、債権回収のための物権として規定された、民法第2編第7章「留置権」から第10章「抵当権」の典型担保権、および特別法上の抵当権、非典型担保権を対象とする。各制度が制定された沿革や社会的背景を考察するとともに、特に金融破綻の状況下での債権回収の強化の要請を受けた、平成15年、担保・執行法改正の意義と現状を検討するものである。判例等の事例を材料に、法律上の争点と課題に即して、また民事執行・保全手続との関係が明確になるよう、解説に努めたいと考える。

テキスト：

斎藤和夫『レーアブーフ民法(担保物権法)』中央経済社、07年1月

参考書：

- ・高木多喜男『担保物権法(第4版)』有斐閣 ¥4,095
- ・星野英一他編『民法判例百選(第5版新法対応補正版)』¥2,095
- ・中野貞一郎編著『民事執行・保全法概説(第3版)』有斐閣 ¥2,205

商法 A / 商法 (春学期)

保険法

教授 島原 宏明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くとき、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかなるべきであらうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房

商法 B / 商法 (秋学期)

保険法

教授 島原 宏明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くとき、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容

をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかになされるべきであろうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房

民事訴訟法 A / 民事訴訟法 (春学期)

裁判によらない訴訟の完結，口頭弁論の準備，証明と証拠

教授 坂原正夫

授業科目の内容：

民事訴訟制度は民事紛争の正しい解決（法的な解決）を目的とし、それによって個人の権利を保護するとともに、社会の法秩序の維持に努めています。講義では、民事訴訟法がそのためにどのような配慮をしているかを明らかにするとともに、その合理性・妥当性を実体法秩序の構造と関連させながら、検討してみようと思います。

ところで昨年度の「民事訴訟法 A・B」では訴えの提起から判決の確定に至る、いわゆる判決手続法の基本構造や基本原理に関する基礎理論と第一審訴訟手続を中心に講義をしました。具体的には1人の原告が1人の被告に対して1つの紛争対象に関して訴えを提起した場合に、どのような問題を考えねばならないのか、その後の手続がどのように展開していくのかといったことを中心に講義をしました。しかし、講義は予定表のとおりには進行せず、講義しない部分が生じてしまいました。そこで本講義では先ず、昨年度の私の民事訴訟法で、講義できなかったもので重要なものについて取り上げます。

次に民事訴訟法の担当領域である民事訴訟法（判決手続法）の「複雑訴訟（複数請求訴訟と多数当事者訴訟）」と「上訴（控訴，上告，抗告）・再審」を講義をします。そして最後に、「民事執行法」について講義をしますが、これは時間の関係から簡単な解説にとどめます。

なお複雑訴訟とは、訴訟の対象である請求が複数である複数請求訴訟と、当事者が多数である多数当事者訴訟のことです。上訴手続とは下級審の裁判を検討する上級審の裁判手続のことです。控訴・上告・抗告の3つの手続があります。再審手続とは確定した裁判の当否を検討する手続です。

民事執行法は主に強制執行を規律する法律です。強制執行とは、私法上の請求権（給付義務）の強制的満足を目的とする制度です。すなわち、強制執行は請求権の内容に従い、関係者の利害の現実的な調整をはかりつつ、法の妥当性を究極的に確保する機能を担っています。それは正に権利の実効性を支えるものです。いわば実体法と訴訟法を支え、統合している分野です。授業では強制執行手続の概要を述べながら、民事執行法と実体法や民事訴訟法（判決手続法）との関係について考察し、そこで発生する諸問題について、理論的な解答を探究してみようと考えています。

このように本講義では昨年度の「民事訴訟法 A・B」との連続性を考えています。それは、昨年度の「民事訴訟法 A・B」の履修者が本授業を履修することによって、民事訴訟法（判決手続法）の全領域に関して基本的な知識を修得し、それぞれの制度を十分に理解することができることを目標としているからです。なお昨年度に民事訴訟法を履修したことを本授業の履修の条件にはしませんが、授業は民事訴訟法の基本的な知識（民事訴訟法を履修すれば修得するであろう知識）を有していることを前提に行います。

テキスト：

昨年度、民事訴訟法で使用した池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』（法律文化社）を引き続き使用します。最新の法改正に伴うテキストの記述の修正は、授業中に適宜指示します。民事執行法については、特に指定しません。

参考書：

最近では民事訴訟法を含めて重要な法律が毎年改正されています。参考書を利用する場合は、改正法を織り込んだものを利用してください。しかし、それはそうでない参考書や論文は価値がなくなった

ということではありません。改正に関係ない箇所や理論的な問題については十分利用できるからです。したがって、最近刊行されたものではない本や論文を利用する際は、当該事項が改正法に關係しているか否かを調べたうえで、利用する必要があります。なお以下の参考書の一覧は平成19年11月16日現在で作成したものです。

民事訴訟法の一般的な参考書（編著者の五十音順）

伊藤真『民事訴訟法〔第3版再訂版〕』（有斐閣，2006年）

上田徹一郎『民事訴訟法〔第5版〕』（法学書院，2007年）

梅本吉彦『民事訴訟法 3版』（信山社，2007年）

新堂幸司『新民事訴訟法〔第3版補正版〕』（弘文堂，2005年）

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 上』（有斐閣，2005年）

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 下〔補訂版〕』（有斐閣，2006年）

中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第2版補訂版〕』（有斐閣，2006年）

松本博之＝上野泰男『民事訴訟法〔第4版補正版〕』（弘文堂，2006年）

民事訴訟法の判例を知るための参考書

伊藤真ほか編『民事訴訟法判例百選〔第3版〕』（＝別冊ジュリスト169号，有斐閣，2003年）

民事訴訟法の論点を整理するための参考書

青山善充ほか編『民事訴訟法の争点〔第3版〕』（有斐閣，1998年）

民事訴訟法に関する辞典

林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』（信山社，2000年）

民事執行法についての詳細な参考書

中野貞一郎『民事執行法〔増補新訂5版〕』（青林書院，2006年）

民事訴訟法 B / 民事訴訟法 (秋学期)

複雑訴訟，上訴・再審，民事執行法概要

教授 坂原正夫

授業科目の内容：

民事訴訟法 A の「授業科目の内容」を参照してください。

テキスト：

民事訴訟法 A の「テキスト」を参照してください。

参考書：

民事訴訟法 A の「参考書」を参照してください。

破産法 / 破産法 (春学期)

破産法・民事再生法を中心とした倒産法の基礎理論の理解

法務研究科 教授 三上威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制の基礎理論を講義する。

授業では、会社更生法や民事再生法などわが国における現行の倒産法制にも若干言及するが、破産法を中心に講義をすることになる。なぜならば、破産法は、わが国倒産法制度の中でもっとも基本的なものであり、各倒産法制は、多かれ少なかれ、破産法の基礎概念の上に構築されているといっても過言ではない。よって、わが国の倒産法制度を理解するためには、破産法の基礎概念の理解が不可欠であり、逆に言えば、破産法が理解できれば、他の倒産法制度の理解も格段に容易になると考えるからである。

講義にあたっては、初学者を対象に、破産手続の基本的な流れを十分に理解してもらうために、基本的な事項を中心として手続の初めから終わりまでまんべんなく触れるつもりである。

テキスト：

テキストは用いず、詳細な講義レジュメを配布するが、サブテキストとして、青山善充＝伊藤真＝松下淳一編『倒産判例百選〔第四

法律

版)』有斐閣を適宜使用するので、受講生は用意しておくこと。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時に進行。

参考書：

- ・伊藤眞『破産法・民事再生法』有斐閣
- ・中島弘雅『体系倒産法』(中央経済社)
- ・山本和彦『倒産処理法入門(第2版)』有斐閣
- ・加藤哲夫『破産法(第四版 補正版)』弘文堂

破産法 / 破産法(秋学期)

破産法・民事再生法を中心とした倒産法の基礎理論の理解
法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制度の基礎理論を講義する。

授業では、春学期に続いて、取戻権の講義から始める。

テキスト：

テキストは用いず、講義レジュメを配布するが、サブテキストとして、青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選(第四版)』有斐閣を適宜使用する。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時に進行。

参考書：

- ・伊藤眞『破産法・民事再生法』有斐閣
- ・中島弘雅『体系倒産法』(中央経済社)
- ・山本和彦『倒産処理法入門(第2版)』有斐閣
- ・加藤哲夫『破産法(第四版 補正版)』弘文堂

国際私法 / 国際私法(春学期)

国際取引と国際私法 教授 北澤 安紀

授業科目の内容：

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い、国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み、本講義では、今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は、私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で、民法・商法と似通った側面をもつが、他方で、私法的な法律関係のうちとくに渉外的な(外國的な)要素がある法律関係(例えば、国際契約、国際結婚等)を規律するという点で、民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば、日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や、フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合、日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理すべきなのか。この事案には訴訟が行われた地である日本の民法の規定が当然に適用されるのか、あるいは、外国の法律の規定が適用されるかが問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には、渉外的法律関係を規律するための基準となる法(準拠法)を各国法の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

春学期は、まず、渉外的私法的法律関係を実体法上いかに規律すべきかという観点から、国際私法の基本的な概念ならびに国際私法における準拠法決定のプロセスについて説明する(国際私法総論)。その上で、わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法の適用に関する通則法」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討するが(国際私法各論)、春学期は特に、国際契約法、国際物権法等の財産関係の問題を中心に講義を行う予定である。

テキスト：

テキストは特に指定しないが、各自、六法を持参すること。

参考書：

開講時に指示する。

国際私法 / 国際私法(秋学期)

家族生活と国際私法 教授 北澤 安紀

授業科目の内容：

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い、国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み、本講義では、今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は、私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で、民法・商法と似通った側面をもつが、他方で、私法的な法律関係のうちとくに渉外的な(外國的な)要素がある法律関係(例えば、国際契約、国際結婚等)を規律するという点で、民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば、日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や、フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合、日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理すべきなのか。この事案には訴訟が行われた地である日本の民法の規定が当然に適用されるのか、あるいは、外国の法律の規定が適用されるかが問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には、渉外的法律関係を規律するための基準となる法(準拠法)を各国法の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

秋学期は、春学期に引き続き、わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法の適用に関する通則法」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討する(国際私法各論)。具体的には、国際婚姻法、国際親子法、国際相続法等の身分関係の問題を中心に講義を行う予定である。

テキスト：

テキストは特に指定しないが、各自、六法を持参すること。

参考書：

開講時に指示する。

国際取引法(秋学期)

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

国境を越える関係の中でも、商取引関係が我々の生活に与える影響は大きい。本講では活発化する商事の国際活動に焦点をあて、人、物、金銭の動きをめぐる法律問題を概観する予定である。

テキスト：

開講時に指定。

参考書：

開講時に指定。

被害者学 / 被害者学(春学期)

被害者学基礎理論 教授 太田 達也

授業科目の内容：

被害者学は第二次世界大戦前後に提起された新しい学問分野であるが、歴史的には、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ(被害受容性)といった被害者化の過程に関する研究に始まり、1960年代以降は、犯罪被害者に対する国家補償制度、1970年代以降は被害者に対する危機介入などの直接支援、更に1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する研究へと発展してきている。また、犯罪者が被害者やコミュニティに与えた「損害」の内容を犯罪者自身に正しく認識させ、その「損害」の「回復」に向けた適切で可能な限りの努力を営ませることによって犯罪という「紛争」の真の「解決」ないし「終

結」を目指すことを司法の基本理念とする修復的司法の理念に基づく様々な制度が世界各地で導入されるに至り、被害者の立場にも大きな影響を与えると同時に、被害者支援の見地からあるべき姿の模索が続けられている。

我が国でも、遅ればせながら、1980年に犯罪被害者等給付金支給法(2001年の改正で法律の名称が改正されている)が制定され、公的な財源による犯罪被害者への給付金制度が創設され、その後の空白期間を経て、1996年に警察庁が被害者対策要綱を制定してからは、犯罪被害者に対する保護や支援の制度が実務レベルで改善されるとともに、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法も実現している。

被害者学・被害者学(春学期)では、被害者学の創設期に提唱された基礎的な理論とその後の被害者関連の理論を紹介したうえで、各種犯罪被害の状況や要因について概説する。

テキスト:

特に指定しないが、下記の参考書を参考にされたい。

参考書:

講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。

- ・ 諸澤英道『新版被害者学入門』(2001年、成文堂)
- ・ 小西聖子『犯罪被害者の心の傷』(1996年、白水社)
- ・ 宮澤浩一=田口守一=高橋則夫『犯罪被害者の研究』(1996年、成文堂)
- ・ 宮澤浩一=國松孝次監修『講座被害者支援』全5巻(2000年、成文堂)
- ・ 松尾浩也編著『逐条解説・犯罪被害者保護二法』ジュリストブック(2001年、有斐閣)

さらに、日本被害者学会の学会誌『被害者学研究』に多くの論文が掲載されている。

被害者学 / 被害者学(秋学期)

犯罪被害者支援論 教授 太田 達也

授業科目の内容:

被害者学は第二次世界大戦前後に提起された新しい学問分野であるが、歴史的には、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ(被害受容性)といった被害者化の過程に関する研究に始まり、1960年代以降は、犯罪被害者に対する国家補償制度、1970年代以降は被害者に対する危機介入などの直接支援、更に1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する研究へと発展してきている。また、犯罪者が被害者やコミュニティに与えた「損害」の内容を犯罪者自身に正しく認識させ、その「損害」の「回復」に向けた適切で可能な限りの努力を営ませることによって犯罪という「紛争」の真の「解決」ないし「終結」を目指すことを司法の基本理念とする修復的司法の理念に基づく様々な制度が世界各地で導入されるに至り、被害者の立場にも大きな影響を与えると同時に、被害者支援の見地からあるべき姿の模索が続けられている。

我が国でも、遅ればせながら、1980年に犯罪被害者等給付金支給法(2001年の改正で法律の名称が改正されている)が制定され、公的な財源による犯罪被害者への給付金制度が創設され、その後の空白期間を経て、1996年に警察庁が被害者対策要綱を制定してからは、犯罪被害者に対する保護や支援の制度が実務レベルで改善されるとともに、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法も実現している。

被害者学・被害者学(秋学期)では、犯罪被害者に対する経済的支援、被害者の保護・二次被害の防止、被害者への情報提供、被害者の刑事手続における地位と関与、修復的司法などについて講義する。

テキスト:

特に指定しないが、下記の参考書を参考にされたい。

参考書:

講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。

- ・ 諸澤英道『新版被害者学入門』(2001年、成文堂)

- ・ 小西聖子『犯罪被害者の心の傷』(1996年、白水社)
- ・ 宮澤浩一=田口守一=高橋則夫『犯罪被害者の研究』(1996年、成文堂)
- ・ 宮澤浩一=國松孝次監修『講座被害者支援』全5巻(2000年、成文堂)
- ・ 松尾浩也編著『逐条解説・犯罪被害者保護二法』ジュリストブック(2001年、有斐閣)

さらに、日本被害者学会の学会誌『被害者学研究』に多くの論文が掲載されている。

法制史 (日本)(秋学期)

教授 霞 信彦

授業科目の内容:

法律学という学問に取り組み、これから長い期間にわたり法との関わりをもつであろう学生諸君にとって、『歴史』のなかたにあるわが国の法の変遷を承知することは、法に対する知見を広げ、現行法理解に向けて豊かな基礎力を涵養するために、有効な手段のひとつであると考え。そこで本講義では、近世の日本法的一端について述べることを予定している。まず初めに、約260年の長きにわたり徳川幕府により統治された江戸時代について概観しつつ、同時代の「法」の全体的な構造について述べてみたいと思う。そうして得られた基礎知識を前提に、初代家康以来時代とともに変わりゆく、幕府と大名との支配関係を詳らかにする「武家諸法度」の内容にふれるつもりである。さらに、幕府が直接支配する地域におこなった「公事方御定書」の編纂・性格・具体的内容を明らかにしたい。さらには、TV・映画・演劇で日本人の血をわかせる時代劇の世界へも目を向け、当時の刑事罰や警察活動(いわゆる「捕物」の世界である)、あわせて刑事裁判の史実現実にも迫りたいと考えている。

テキスト:

霞・漆原・浜野『日本法制史史料集』(慶應義塾大学出版会)

参考書:

講義において必要に応じて指摘する

法制史 (日本)(春学期)

明治時代以降の日本法の近代化過程を論点的に考察する

教授 岩谷 十郎

授業科目の内容:

まず講義前半部分では、法の歴史を問う現代的な視点を明らかにするために、現代に生ずる様々な訴訟事件を法的に解決するにあたって、優れて歴史解釈的なセンスが要求された問題を取り上げ、それらを通して、法史の上で現在と過去をつなぐ論点を確認する。さらに、析出された具体的な論点を歴史に問う手段として、とくに訴訟関係資料を中心とした資料論を提示し、近代日本法の歴史を学ぶ基本的な道具立てを紹介する。

後半では、近代日本法を形成する主要法典の編纂過程を概観する。諸法典が制定されてゆく経過を、我が国の近代法の描く国家と法のグランドデザイン形成過程としてとらえつつ、講義を進めていきたい。

また、これまで「日本人の法意識」が具体的に論じられる素材として、日本人の訴訟忌避行動についての分析が、現在、様々な角度から法社会学的に進められている。本講義では、歴史学的視点からこの問題を吟味するために、我が国の近世における民事訴訟システムのあり方と近代期のそれとの比較を行い、両者間の連続と断絶とを見極め、「日本人の法意識」を形成する歴史的な要因を考えてみることも行いたい。

なお本講義は、秋学期に開講される「法制史演習」(出口担当)に内容的に接続するものである。双方の履修が望ましいことを付記しておく。

テキスト:

特に指定はしない。

参考書:

- ・ 川口由彦著『日本近代法制史 新法学ライブラリ 29』(新世社・1998年)
- ・ 山中永之佑編『新・日本近代法論』(法律文化社・2002年)

法律

- ・同編『日本近代法案内』（法律文化社・2003年）
- ・同著『民事裁判の法史学』（法律文化社・2005年）

法制史（日本）（春学期）

日本中世武家法 講師 漆原 徹

授業科目の内容：

鎌倉幕府法を通じて中世武家社会における諸相を理解することを目的として、その基本法典である関東御成敗式目を講読する。関連する追加法や裁判状なども必要に応じて適宜プリントを配布して解説する予定。

テキスト：

霞信彦・漆原徹・浜野潔編『日本法制史 史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）

参考書：

『中世政治社会思想上』（日本思想体系 21、岩波書店）

法制史（東洋）／法制史（東洋）（春学期）

東アジア文化圏の形成 講師 堀 毅

授業科目の内容：

東アジアは悠久な歴史にはぐくまれた中国文化を核とし、漢字を媒体とし、形成された。

本講義ではまず西洋文化圏との比較において東洋文化圏を概述し、次いで東アジア法文化について論を進めたい。

参考書：

授業時に紹介。

法制史（東洋）／法制史（東洋）（秋学期）

東アジア法文化の歩み 講師 堀 毅

授業科目の内容：

東アジアは悠久な歴史にはぐくまれた中国文化を核とし、漢字を媒体とし、形成された。

本講義ではまず西洋文化圏との比較において東洋文化圏を概述し、次いで東アジア法文化について論を進めたい。

参考書：

授業時に紹介。

法制史（西洋）／法制史（西洋）（春学期）

講師 村上 裕

授業科目の内容：

大陸ヨーロッパ法の基礎となったローマ法の特徴を理解するために、共和政時代からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、国家のあり方と法発展の関係、ローマ人の特徴の一つである現実主義的傾向などが法思考や法制度にどのように反映されているかを、民事訴訟制度の展開なども採り上げて示していきます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントはダウンロードできるようにします。URL やパスワードは第1回授業時に指示します。

参考書：

『概説 西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

法制史（西洋）／法制史（西洋）（秋学期）

講師 村上 裕

授業科目の内容：

現在の法制度の多くは近代において形成された枠組みの中で発展してきたものですが、近代法は突然に現出したものではなく、中世以来のさまざまな伝統に根ざしつつ、多くの変革を経て形成されてきたものです。

そこでこの講義では、ドイツを中心として前近代のヨーロッパ法の流れを辿ることを内容とします。その際の視点の軸にローマ法を置き、ローマ法がヨーロッパ世界においてどのように受容され、近代における体系的・論理的構築物としての法へと展開されていったのかを、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な事情とを対比しつつ、概観していきたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントはダウンロードできるようにします。URL やパスワードは第1回授業時に指示します。

参考書：

『概説 西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

法医学 / 法医学 / 法医学（秋学期集中）

犯罪・事故の実態、解明と予防を目指して

医学部 教授 藤田 眞 幸

授業科目の内容：

日常診療の中で、医師は患者を治療するために診断を行っていますが、法医学者が行う診断は、紛争の解決を目的とするものです。例えば、交通事故で2台の車が関与したような場合、外傷がどちらの車によるものかということは、治療上は、どうでもよいことですが、紛争という点からは、最も重要になってきます。講義では、犯罪や事故、突然死などについて、臨床医学的な視点だけでなく、このような法医学的な視点から解説していきます。また、皆さんからは、法学部生でなければ気づかないような疑問点や問題点について積極的に意見を述べていただき、皆さんとともに法医学の世界を広げていきたいと思っています。

テキスト：

必要に応じてプリントを配布する予定。

・法医学（改訂第4版）（金芳堂）

参考書：

・臨床法医学テキスト（中外医学社）

団体法（春学期）

「自然人以外の権利主体である法人その他の団体に関する法制度について」

講師 阿久沢 利 明

授業科目の内容：

人の人たるゆえんは、団体に統合することにあると言われるように、個人の限界を意識して、人と人とが重合して大きな力を発揮する団体の存在が歴史を支えてきたことも事実である。われわれは、自然人個人に対してもう一方の権利主体である法人を中心とした団体について、その存在の意義と内容および使命・課題を十分理解しておく必要があるであろう。

なお、民法が改正され、遅くとも平成20年から、非営理法人ないし公益法人は、主として特別法（「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」など）の定めによることになったので、これを中心にして講述したい。

教科書：

開講時に明らかにしたい。

租税法 / 租税法（春学期）

租税実体法の体系化

教授 吉村 典 久

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まるがあっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 金子宏『租税法』弘文堂

参考書：

清水敬次『税法』ミネルバ書房、『小六法』有斐閣、『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

租税法 / 租税法（秋学期）

租税実体法の体系化

教授 吉村典久

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学のアプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることもあっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 金子宏『租税法』弘文堂

参考書：

清水敬次『税法』ミネルバ書房、『小六法』有斐閣、『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

国際租税法 / 国際租税法（春学期）講師 赤松 晃

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的事業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。

春学期では、日本企業の対外進出（アウトバウンド）に係る国際租税法を研究します。法人税法の仕組み、外国税額控除、タックス・ヘイブン対策税制、移転価格課税、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的三重課税の排除のための制度とその運用の実際についての理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

・赤松晃『国際課税の実務と理論 グローバル・エコノミーと租税法』（税務研究会出版局、2007年）【3,400円＋税】

・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』（有斐閣、2007年）所収

参考書：

1. 国際課税について

・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』（税務経理協会、2訂版、2005年）

・水野忠恒『国際課税の制度と理論 国際租税法の基礎的考察』（有斐閣、2000年）

2. 国際課税を含む租税法一般について

・水野忠恒『租税法』（有斐閣、3版、2007年）

・金子宏『租税法』（弘文堂、12版、2007年）

3. 租税法の入門として

・税務大学校講本『所得税法』『法人税法』<http://www.ntc.nta.go.jp/kouhon/index.html>

国際租税法 / 国際租税法（秋学期）講師 赤松 晃

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的事業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏

まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。

秋学期では、外国企業・ファンドの対内進出（インバウンド）に係る国際租税法を研究します。法人税法の仕組み、所得税の源泉徴収の仕組み、ソース・ルール、恒久的施設（PE：Permanent Establishment）、租税条約の概要、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的三重課税の排除のための制度とその運用の実際についての理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

・赤松晃『国際課税の実務と理論 グローバル・エコノミーと租税法』（税務研究会出版局、2007年）【3,400円＋税】

・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』（有斐閣、2007年）所収

参考書：

1. 国際課税について

・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』（税務経理協会、2訂版、2005年）

・水野忠恒『国際課税の制度と理論 国際租税法の基礎的考察』（有斐閣、2000年）

2. 国際課税を含む租税法一般について

・水野忠恒『租税法』（有斐閣、3版、2007年）

・金子宏『租税法』（弘文堂、12版、2007年）

3. 租税法の入門として

・税務大学校講本『所得税法』『法人税法』

<http://www.ntc.nta.go.jp/kouhon/index.html>

海洋法（春学期）/ 海洋法（秋学期）/ 海洋法（通年）

名誉教授 栗林忠男

授業科目の内容：

近年の国際海洋法秩序は、200海里の排他的経済水域（EEZ）の導入に見られるように、大きな変動期を迎えている。この講義では、第三次国連海洋法会議（1973～82年）により採択された「海洋法に関する国際連合条約」（国連海洋法条約、1994年発効）に包括的に規定された国際海洋法の諸原則・規制を中心に、海洋法の諸問題を講義する。その中心的テーマは新しい海洋法秩序の現代的諸相である。日本をめぐる海洋法の諸問題にも随時触れる。

テキスト：

特に指定せず、毎回授業のはじめにレジュメを配布する。関連参考書は適宜紹介する。

知的財産法 / 知的財産法（春学期）准教授 君嶋祐子

授業科目の内容：

知的財産法とはどのような法分野かということを紹介したうえで、代表的な創作保護法である特許法について、概要を講義する。

知的財産法は、無体物の財産的利用を中心に定めた法の総称である。有体物についての物権法のように、無体物を一定の範囲で排他的に利用できる権利の変動について定めた法や、不法行為法の特別法として位置づけられる不正競争法のうち、無体物の利用に関する行為類型について定めた法を含めて呼ぶことが多い。

また、知的財産法の分野では、特許権のように、出願・審査等の手続を経て、登録によって権利が発生するものがあり、立法により詳細な手続が定められている。

さらに、発生した知的財産権の客体は無体物なので、権利の客体的解釈や、その権利を侵害する行為がどうかの解釈、損害額の算定には、有体物に対する権利侵害と比べて労力を要することが多い。

そのため、「知的財産法」の一言でカバーされる法分野は、客体的種類の多様さと解釈の難しさという点で、また、法令が財産法、手続法全般にわたる規定を設けているという点で、広分野にわたる。

法律

本講義では、まず、そのような法分野全体を紹介したうえで、技術的思想である発明を保護対象とし、詳細な出願・審査・審判手続を設けている特許法について、概要を講義する。

テキスト：

テキストは指定しないが、各自、初回授業で指定する法令の条文全文を持参すること。

参考書：

初回に指示する。

知的財産法 / 知的財産法 (秋学期) 准教授 君嶋祐子

授業科目の内容：

知的財産法とはどのような法分野かということを紹介した上、代表的な創作保護法である著作権法について、概要を講義する。

知的財産法は、無体物の財産的利用を中心に定めた法の総称である。有体物についての物件法のように、無体物を一定の範囲で排他的に利用できる権利の変動について定めた法や、不法行為法の特別法として位置づけられる不正競争法のうち、無体物の利用に関する行為類型について定めた法を含めて呼ぶことが多い。

また、知的財産法の分野では、特許権のように、出願・審査等の手続を経て、登録によって権利が発生するものがあり、立法により詳細な手続が定められている。

さらに、発生した知的財産権の客体は無体物なので、権利の客体の解釈や、その権利を侵害する行為かどうかの解釈、損害額の算定には、有体物に対する権利侵害とは比べて労力を要することが多い。

そのため、「知的財産法」の一言でカバーされる法分野は、客体の種類の多様さと解釈の難しさという点で、また、法令が財産法、手続法全般にわたる規定を設けているという点で、広分野にわたる。

本講義では、まず、そのような法分野全体を紹介したうえで、創作的表現を保護し、格別の手続を要することなく創作行為によって発生する著作権法について、概要を講義する。

テキスト：

テキストは指定しないが、各自、初回授業で指定する法令の条文全文を持参すること。

参考書：

初回に指示する。

裁判法 / 裁判法 (春学期)

わが国の裁判所と法律家と裁判手続

法務研究科 教授 三上威彦

授業科目の内容：

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、裁判はどのような組織によってなされるのか(裁判所制度)、

裁判はどのような人々によって運営されているのか(法律家)、裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか(裁判手続)といった3つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

なお本講義は1年で完結することを予定しているため、裁判法・を共に履修することが望ましい。

テキスト：

とくに指定せず、講義レジュメを配布する。

参考書：

講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫(著)『裁判法〔第4版2刷(補訂)〕』(有斐閣)、市川正人・酒巻匡・山本和彦(著)『現代の裁判〔第3版〕』有斐閣アルマ(有斐閣)、および小島武司(編)『ブリッジブック裁判法』(信山社)等を適宜参照されたい。

詳しい文献紹介は第1回目の講義の中で行う。

裁判法 / 裁判法 (秋学期)

わが国の裁判所と法律家と裁判手続

法務研究科 教授 三上威彦

授業科目の内容：

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、

裁判はどのような組織によってなされるのか(裁判所制度)、裁判はどのような人々によって運営されているのか(法律家)、裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか(裁判手続)といった3つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

なお本講義は1年で完結することを予定しているため、裁判法・を共に履修することが望ましい。

テキスト：

とくに指定せず、講義レジュメを配布する。

参考書：

講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫(著)『裁判法〔第4版2刷(補訂)〕』(有斐閣)、市川正人・酒巻匡・山本和彦(著)『現代の裁判〔第3版〕』有斐閣アルマ(有斐閣)、および小島武司(編)『ブリッジブック裁判法』(信山社)等を適宜参照されたい。

詳しい文献紹介は第1回目の講義の中で行う。

社会保障法 / 社会保障法 (春学期)

社会的リスクを回避する為の生活扶助、社会保険、

社会福祉諸法と政策を学ぶ 准教授 内藤 恵

授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられますが、広い分野の法的问题を研究対象としています。

そこで当講義では、まず社会保障法総論をお話し、生活扶助法を取り上げ、次に多くのサラリーマンがその人生の中で様々に関わる社会保険(雇用保険、労働災害補償保険、年金保険、医療保険、介護保険)を中心に講義します。

秋学期最後に講義回数とれるならば、社会福祉領域から、児童福祉もしくは高齢者福祉について取り上げます。秋学期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくる予定です。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので、内藤担当の労働法(E)を既に履修したか、履修中である方が理解しやすいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回Webに講義のレジュメをアップロードします。さらに改正が頻繁に行われる領域なので、講義毎に必要な資料のコピーを配布します。講義プリントのURLは初回講義の中でお話しします。なお講義には、六法と下記二冊の参考文献を必ず携行してください。

・別冊ジュリスト・社会保障判例百選〔第三版〕(有斐閣、2000)
・岩村・菊池・編、『目で見る社会保障教材〔第三版〕』(有斐閣、2004)

参考書：

・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣、2003)
・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 - 労働法・社会保障法・税法の基礎知識 - 』(有斐閣、2006)

 社会保障法 / 社会保障法 (秋学期)

 社会的リスクを回避する為の生活扶助, 社会保険,
 社会福祉諸法と政策を学ぶ 准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

社会保障法とは, 社会法の範疇において個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く, また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられますが, 広い分野の法的问题を研究対象としています。

そこで当講義では, 春学期にお話した社会保障総論・生活扶助法・年金保険等に続き, 医療保険, 介護保険を中心に講義します。

秋学期最後に講義回数かとれるならば, 社会福祉領域から, 児童福祉もしくは高齢者福祉について取り上げます。秋学期の最後の講義では, 地方分権という流れの中で, 地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくる予定です。

なお, 労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので, 内藤担当の労働法 (E) を既に履修したか, 履修中である方が理解しやすいと考えます。

テキスト:

テキストは指定せず, 毎回 Web に講義のレジュメをアップロードします。さらに改正が頻繁に行われる領域なので, 講義毎に必要な資料のコピーを配布します。講義プリントの URL は春学期・第一回講義の際にお話します。なお講義には, 六法と下記二冊の参考文献を必ず携行してください。

- ・別冊ジュリスト・社会保障判例百選〔第三版〕(有斐閣, 2000)
- ・岩村・菊池・編, 『目で見える社会保障教材〔第三版〕』(有斐閣, 2004)

参考書:

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣, 2006)

 法とコンピュータ (春学期) /

 法とコンピュータ (秋学期) / 法とコンピュータ (通年)
 講師 吉野 一

授業科目の内容:

コンピュータを応用して, 事例問題を法的により適切に解決する方法を学ぶ。法学をよく学ぶためにも, 法的実務でよい働きをするためにも, 知識情報処理の理論と技術を習得することが有効である。本講義・演習は事例問題から出発し, その問題を解決するために必要な知識と技術を知り身につけるというアプローチをとる。事例問題は国際動産売買の事例で, 手紙やファクス等の事実資料からなる。入門事例は 8 頁, 応用事例は 30 頁程度の資料からなる。この事例問題を解くためにいかなる法的知識が必要か, その知識はどのような内容と構造を有するか, そしてそれがいかにして獲得されるかを, 知識情報処理の理論と技術を習得しながら, それを用いて, 学んでいく。法的知識の知識情報処理の理論と技術は法律人工知能研究に伴って発達している。本講義・演習は, 法律人工知能の基礎理論と技術を修得し, それを応用する。法律人工知能は, 相談事例を入力すると, 法的推論を行い, 法的判断を出力するシステムである。それはまた法的推論過程や法の構造を分かりやすく示してくれる。法律人工知能は, 法的知識を構造化してコンピュータに登載することによって実現される。本講義・実習では, 契約法の実例問題を解くための法的知識と法的推論の構造を分析し, コンピュータ上に実装する。受講者が自分自身の一つの法的推論システムを実現する。そこで学んだ法と法的推論の知識構造を応用して, 事例問題の解決を論証し, 論争する能力を身につけることが最終目標である。

テキスト:

- 吉野一(編著)『法律人工知能』(創成社)
- 教材は, 適宜授業において提示するとともに, 事前に Web 上で公開する予定である。

参考書:

- ・吉野一(編著)『法律工エキスパートシステムの基礎』(ぎょうせい)
- ・加賀山茂・松浦好治『法情報学』(有斐閣)

 環境法 / 環境法 (春学期)

 法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか
 (基礎編) 法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容:

受講者が環境法の全体像を 1 年間(春学期, 秋学期)でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は, さまざまな分野にわたって発生しています。なかには, 私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり, 私たちの世代だけでなく, 次の世代にまで影響を及ぼし, あるいは国内にとどまらず, 地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り, 後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか, ということを考えながら進めていきます。春学期は, 下記授業の計画に記載してある内容を講義する予定です。

テキスト:

プリントを配る予定です。

参考書:

- ・大塚直「環境法第 2 版」有斐閣, 2006 年
- ・交告直史・臼杵知史・前田陽一・黒川哲志「環境法入門〔補訂版〕」有斐閣, 2007 年

 環境法 / 環境法 (秋学期)

 法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか
 (発展編) 法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容:

受講者が環境法の全体像を 1 年間(春学期, 秋学期)でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は, さまざまな分野にわたって発生しています。なかには, 私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり, 私たちの世代だけでなく, 次の世代にまで影響を及ぼし, あるいは国内にとどまらず, 地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り, 後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか, ということを考えながら進めていきます。秋学期は, 下記授業の計画に記載してある内容を講義する予定です。

テキスト:

プリントを配る予定です。

参考書:

- ・大塚直「環境法第 2 版」有斐閣, 2006 年
- ・交告直史・臼杵知史・前田陽一・黒川哲志「環境法入門〔補訂版〕」有斐閣, 2007 年

 金融商品取引法 / 金融商品取引法 (春学期)

 証券の発行および取引等についての学習
 教授 並木 和夫

授業科目の内容:

金融商品取引法について勉強します。

テキスト:

要点解説 金融商品取引法(中央経済社)

 金融商品取引法 / 金融商品取引法 (秋学期)

 教授 並木 和夫

授業科目の内容:

金融商品取引法の勉強

テキスト:

要点解説 金融商品取引法(中央経済社)

金融商品取引法 / 金融商品取引法 (春学期)

企業法務の法律知識 講師 服部 秀一

授業科目の内容:

金融商品取引法は、上場会社等の企業法務において不可欠となっている。インサイダー取引、TOB、MBO、5%ルール、有価証券報告書、証券取引所、証券取引等監視委員会などの文字を、新聞やテレビで見る機会が増えている。

この授業は、慶應義塾の目的、金融商品取引法の体系と実務、法の解釈手法を理解し、気品と智徳を兼ね備えた塾出身者(就職希望者や法律家)の育成を目的とする。

テキスト:

発行予定

参考書:

- (1) 小谷融「実務がわかる金融商品取引法の基本知識」税務経理協会
- (2) 金融商品取引法の解説(1)～(11)
(旬刊商事法務 1771号 4頁, 1772号 18頁, 1773号 38頁, 1774号 38頁, 1776号 16頁, 1777号 15頁, 1778号 15頁, 1779号 72頁, 1780号 14頁, 1781号 32頁, 1782号 16頁)
- (3) 金融商品取引法関係府令の解説(1)～
(旬刊商事法務 1807号 35頁, 1809号 20頁, 1810号 29頁, 1811号 23頁, 1812号 34頁, 1813号 15頁, 1814号 20頁)
- (4) 神崎克郎 = 志谷匡史 = 川口恭弘「証券取引法」青林書院

金融商品取引法 / 金融商品取引法 (秋学期)

企業法務の法律知識 講師 服部 秀一

授業科目の内容:

金融商品取引法は、上場会社等の企業法務において不可欠となっている。インサイダー取引、TOB、MBO、5%ルール、有価証券報告書、証券取引所、証券取引等監視委員会などの文字を、新聞やテレビで見る機会が増えている。

この授業は、慶應義塾の目的、金融商品取引法の体系と実務、法の解釈手法を理解し、気品と智徳を兼ね備えた塾出身者(就職希望者や法律家)の育成を目的とする。

テキスト:

発行予定

参考書:

- (1) 小谷融「実務がわかる金融商品取引法の基本知識」税務経理協会
- (2) 金融商品取引法の解説(1)～(11)
(旬刊商事法務 1771号 4頁, 1772号 18頁, 1773号 38頁, 1774号 38頁, 1776号 16頁, 1777号 15頁, 1778号 15頁, 1779号 72頁, 1780号 14頁, 1781号 32頁, 1782号 16頁)
- (3) 金融商品取引法関係府令の解説(1)～
(旬刊商事法務 1807号 35頁, 1809号 20頁, 1810号 29頁, 1811号 23頁, 1812号 34頁, 1813号 15頁, 1814号 20頁)
- (4) 神崎克郎 = 志谷匡史 = 川口恭弘「証券取引法」青林書院

政策と法 / 政策と法 (春学期)

政策の形成、執行、評価およびこれらの統制に関する法制度と実態 講師 有川 博

授業科目の内容:

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか(そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか)を学ぶとともに、各政策過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶ。

テキスト:

- ・拙著『有効性の検査の展開 政策評価との交錯』
- ・拙著『公共政策と講義概要』

参考書:

講義の中で紹介します。

政策と法 / 政策と法 (秋学期)

政策の形成、執行、評価およびこれらの統制に関する法制度と実態 講師 有川 博

授業科目の内容:

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか(そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか)を学ぶとともに、各政策過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶ。

テキスト:

- ・拙著『有効性の検査の展開 政策評価との交錯』
- ・拙著『公共政策と法 講義概要』

参考書:

講義の中で紹介します。

法と経済 (秋学期)

市場経済社会における法と政策

産業研究所 准教授 石岡 克俊

授業科目の内容:

かつて、慶應義塾における経済法の講義は総論と各論の二部より構成され、前者においては経済法の一般理論が、後者においては独占禁止法を中心とした実定経済法の解釈論が、それぞれ講じられていた。しかし、近時の実定経済法とりわけ独占禁止法の理論の進展、判・審決の集積、行政ガイドラインの定着などを受け、経済法の講義は実定経済法の中心である独占禁止法の説明に多くの時間を費やさざるを得なくなった。このため、慶應義塾において伝統的に行われてきた経済法・総論の内容が十分に論じられることがないまま、ここ数年、経済法=独占禁止法という枠組みの中で講義が展開され、総論的内容はおろそかにされる傾向があった。このような状況に対処すべく、設置されたのが本科目「法と経済」である。

したがって、本講義では、まず経済法の一般理論を、その発生・成立の経緯から戦前戦後にわたる学説の展開に至るまでを、伝統的かつオーソドックスな手法で解説を試み、経済法理論の現段階を明らかにしていく。

わが国は、戦後において経済制度の転換を経験しつつも、現在までに大きな経済的成功をわがものとしてきた。この経済的発展には、数多くの実定経済法とそれに基づく具体的な経済政策とが深く関わってきたといえる。しかしながら、これらの実定経済法の統一的ないし体系的把握は、現在に至るまで、必ずしも充分になされてきたとはいえない。わが国における経済法の理解には、市場や経済に対し、国・公権力が、法を媒介として、どのように介入・関与しているのかをつぶさに検証していく必要がある。

本講義では、現代における市場経済体制を前提とし、経済法の一般理論構築を念頭に、実定経済法の統一的・体系的把握を試みていく。

テキスト:

講義全体をカバーする適当な教科書はないため、特に指定しない。本講義の構想とあわせて簡単な文献紹介は講義初回に行う。

参考書:

テキスト同様、特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては、講義中にその都度紹介する。また、経済法の一般理論についての参考文献については若干古いものもあわせいくつか指摘しておくことにする。

・正田彬『経済法講義』(日本評論社・1999年)

- ・正田彬 = 金井貴嗣 = 畠山武道 = 藤原淳一郎『現代経済法講座第 1 巻・現代経済社会と法』(三省堂・1990 年)
- ・丹宗暁信 = 伊從寛『経済法総論』(青林書院・1999 年)
- ・丹宗暁信 = 厚谷襄児編『現代経済法入門』(法律文化社・1981 年) : 新版が 1999 年に刊行されているが、ここではあえて旧版をあげておく。
- ・金沢良雄『経済法』(有斐閣・新版・1980 年)
- ・峯村光郎『経済法の基本問題』(慶應通信・1959 年)

法思想史 / 法思想史 (春学期)

近代国家成立に至る法思想 講師 國分典子

授業科目の内容 :

「法思想史」は、「法」「思想」「史」の三つの要素をもつために、ともすれば「法学」から逸脱した感も与える幅広い学問領域です。しかし、一方で、「思想」的、「史」的考察の基礎づけなくして「法」は語れません。

ここでは、西洋思想の発展過程の中で、法についての考え方がどのように現れてきたかを国家思想・社会思想と連関させつつ、検討していきます。時代的には古代から近代国家成立の頃までを対象とします。

テキスト :

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書 :

田中成明他『法思想史』(有斐閣 S シリーズ)

法思想史 / 法思想史 (秋学期)

近代における法思想と法学の発展 講師 國分典子

授業科目の内容 :

近代における法思想の発展を中心にみてゆきます。今日、「近代法思想」と呼ばれているものは、西洋近代の中で成立・発展してきました。しかし、西洋においても、各国それぞれの土壌でつちかわれた法思想は異なった特徴をもって発展し、また、それに連れて法学のあり方にも違いが見られます。こうした西洋諸国の法思想および法学の展開、さらにそれらを受容して生まれるアジアの近代法思想を主に採り上げ、相互比較しつつ、検討します。

テキスト :

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書 :

田中成明他『法思想史』(有斐閣 S シリーズ)

国際環境法 (秋学期)

講師 小山佳枝

授業科目の内容 :

18 世紀後半の産業革命以降、科学技術の目覚ましい発達によって人間の活動量と活動範囲は大きく変化してきており、その結果として、環境問題は、地球温暖化、大気汚染、砂漠化、海洋汚染、森林破壊、動植物の絶滅など、現在では危機的な状況にあるといわれている。他方で、そうした状況に立ち向かうべく、新しい法制度や枠組み作りのために多くの努力が払われている。この科目では、地球環境の保護・保全、また環境汚染の防止へ向けた国際法上の制度について理解を深めることを目的とする。

環境の汚染は、一国の領域内のみとどまるものではない。地球環境の保護のためには、複数の諸国が協力をし、歩調を合わせる必要となる。ここでは、環境法を地球規模的観点から捉えられるようになることを目指す。1992 年に国連で採択された「環境と開発に関するリオ宣言」を契機として、1990 年代以降に多数採択された環境保護諸条約を通して、現代の国際環境法の特色を紐解き、各条約体制とそれを支える国際機関の役割について考える。

テキスト :

特に指定しない。

国際経済法 (春学期)

教授 田村次朗

授業科目の内容 :

世界貿易機関 (WTO) を中心とする国際経済法について、その基本的な法構造および、セーフガードおよびアンチダンピングなど主要規制の概要を取り上げる。特に WTO におけるパネル・上級委員会が取り上げる各種通商問題に関する紛争処理について、その具体的な事例を取り上げ、WTO 協定の解釈・運用の実際について、解説する。また、通商法は、各国の通商政策とも密接に関連していることから、最近、話題となっている二国間での自由貿易協定や、サービス貿易、知的財産権を巡る通商問題、さらに食品の安全性や環境問題といった通商政策の新しい展開とそれに対する法的規制のあり方を分析する。

テキスト :

- ・田村次朗『WTO ガイドブック 改訂版』(弘文堂 2006)
- ・小寺彰・中川淳司編『基本経済条約集』(有斐閣 2002)

参考書 :

UFJ 総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO 入門』(2004 日本評論社)

比較競争法 (秋学期)

教授 田村次朗

授業科目の内容 :

比較競争法では、企業法務でますます重要性を増している競争法の国際比較を取り上げる。特に、各国の競争法の根底に流れる基本的な分析枠組みを事例を分析しながら丁寧に分析し、その上で、マイクロソフト事件や国際的な合併案件の審査など最新のトピックの中になる重要な論点を抽出する。次に、グローバルなビジネス展開と競争法との関係さらに、規制当局と企業との関係についてより深く考えるため、競争法の応用領域である「経済政策」の現実の運用について、電力・ガスの自由化、情報通信産業の将来と IT 技術、さらに経済政策における競争のとらえ方について検討する。

テキスト :

滝川敏明『日米 EU の独禁法と競争政策 グローバル経済下の企業競争ルール』(青林書院 2006) ただしテキストについては、今後変更の可能性があるため、開講時の指示に従うこと。

参考書 :

柳川隆・川濱昇『競争の戦略と政策』(有斐閣 2006)

政治学 (春学期)

講師 谷口尚子

授業科目の内容 :

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。春学期は特に、民主政治の主役たる「有権者」(つまり我々)に焦点をあて、その心理・行動、選挙過程、マスメディアの影響、集団・文化等を掘り下げます。また、講義だけでなく、実験や映像資料を交えます。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きるうえでの「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

テキスト :

授業中に指示します。

参考書 :

- 『選挙・投票行動』(2000) 小林良彰 (東京大学出版会)
- 『現代日本の投票行動』(2005) 谷口尚子 (慶應義塾大学出版会)

政治学 (秋学期)

講師 谷口尚子

授業科目の内容 :

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。秋学期は特に、現代民主政治のしくみ、日本政治のしくみに焦点をあて、様々な政治制度・機関・過程 (政策決定過程・立法過程、官僚制、中央・地方政府関係等) を解説します。また、講義だけでなく、実験や映像資料を交えます。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要

法律

とされる「常識」、市民として生きるうえでの「智慧」を獲得する一助となれば幸いです。

テキスト：

授業中に指示します。

参考書：

授業中に指示します。

社会学（春学期） 教授 有末 賢

授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会（コミュニティ）は、われわれの社会生活において重要な空間であるだけでなく、集団でも関係でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の大都市社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定題目は以下のようである。

テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

社会学（秋学期） 教授 有末 賢

授業科目の内容：

社会学から引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化 郊外化 脱郊外化 反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町 山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代の問題点を解説していく。最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のようである。

テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

経済政策 / 経済政策（春学期）
政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

経済政策 / 経済政策（秋学期）
政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

授業科目の内容：

春学期開講の経済政策（ ）に続いて、経済政策の各論を講義する。今年度は福祉政策を中心に行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

経済原論（春学期）/ 経済原論（秋学期）/
経済原論（通年） 経済学部 教授 丸山 徹
経済学部 教授 尾崎 裕之

授業科目の内容：

春学期には主としてミクロ経済学の基礎理論とその応用について述べる

1. 消費者の行動
2. 生産者の行動
3. 市場の均衡
4. 独占と寡占
5. 市場機構と経済の効率

テキスト：

丸山徹『新講・経済原論』第二版、岩波書店 平成18年

財政論 / 財政論（春学期）
市場の失敗と政府の役割 講師 畑 農 鋭 矢

授業科目の内容：

財政の存在意義や政府の経済政策の帰結について、俗説に惑わされず、経済学的に理解できる見識を養う。具体的には、経済における政府部門の役割に関して財政学や公共経済学の理論を学習し、市場の役割と市場の失敗、政府の役割と政府の失敗について学習する。また、現実データの概観を通じて、財政の歴史や様々な政策の意義、また現代財政が直面する諸問題について理解を深める。

テキスト：

（予定）畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年2~3月出版予定。

講義資料は<http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書：

- （易しい順）
- 小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。
 - 井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。
 - 井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。
 - アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房、2006年。

財政論 / 財政論（秋学期）
財政各論（租税と公共支出） 講師 畑 農 鋭 矢

授業科目の内容：

財政学や公共経済学の理論を基礎として、租税の役割や経済効果、公共支出の機能や現代的課題、財政赤字・政府債務の経済効果について個別具体的に学ぶ。また、現実データの概観を通じて、租税と公共支出の歴史的意義や経済的帰結、また現代において直面する諸問題について理解を深める。

テキスト：

(予定)畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年2~3月出版予定。

講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書：

(易しい順)

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。

井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。

井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。

金融論 / 金融論 (春学期) 経済学部 教授 吉野 直 行

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣

・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会

・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会

その他の参考文献は、講義の中で説明する。

金融論 / 金融論 (秋学期) 経済学部 教授 塩澤 修 平

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

・塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

適宜指示する。

会計学 (春学期) / 会計学 (秋学期) / 会計学 (通年) 名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行う。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』(慶應義塾大学出版会)

経営学 / 経営学 (春学期) 商学部 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

・伊丹敬之 / 加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003年

・A.ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
その他講義で随時指示する。

経営学 / 経営学 (秋学期) 商学部 教授 渡部 直 樹

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

・A.ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年

・ダウマ=シュルルーダー「組織の経済学入門」文真堂、2007年

〔系列科目〕

〔文献講読〕

文献講読 (独)(春学期)

政治学文献をドイツ語で読めるようになろう

教授 萩原 能久

授業科目の内容:

この授業では、ドイツ語で書かれた社会科学の専門書を正確に読みこなす能力の育成と同時に、書かれている内容についても積極的な討論を行います。履修者は少数でしょうから、基本的には開講時に相談して、受講者の関心にできるだけそった使用テキストを決めたいと思いますが、基本的に、政治学の理論的問題、ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの政治・社会情勢の問題を扱うつもりです。

政治思想に関心のある受講者が多い場合には、特定の思想家の著作を読むこともあります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

辞書(電子辞書でも結構ですが、収録語数、文例の多いものでないと役に立ちません)は必ず携行してください。

文献講読 (独)(秋学期)

准教授 田上 雅徳

授業科目の内容:

ドイツ語で著された政治史・政治思想史の研究書を講読します。

テキスト:

講読を予定している文献は、以下のものです。

Rudolf Weber-Fas; Über die Staatsgewalt, Von Platons Idealstaat bis zur Europäischen Union (München, 2000).

文献講読 (仏)(春学期)

フランスの政治思想

教授 堤林 剣

授業科目の内容:

フランス政治思想の文献を輪読しながら、フランスの政治についてディスカッションを行う。

テキスト:

受講生と相談して決める。

文献講読 (仏)(秋学期)

フランスの政治、政治文化、政治哲学

教授 堤林 剣

授業科目の内容:

文献講読 (仏)の続き。

テキスト:

文献講読 (仏)と同じテキストを使用。

文献講読 (中)(春学期)

教授 安田 淳

授業科目の内容:

中国の政治・社会等に関する中国語文献を講読することにより、現代中国の歴史や現状を理解し問題意識を高めることを目的とする。

テキスト:

教材は授業中にプリントとして配布する。

文献講読 (中)(秋学期)

教授 安田 淳

授業科目の内容:

文献講読 (中)(春学期)と同じ。

文献講読 (西)(春学期)

教授 大久保 教宏

授業科目の内容:

スペイン語の大きな利点の一つは、非常に多くの国で使われていることだ。だから、大学でスペイン語を習った諸君は、是非スペイン語諸国を実際にいくつか訪れてもらいたい。とりあえず、日本から比較的行きやすく、観光資源も多いスペイン、メキシコを旅行してみるのが一般的であると思うが、3か国目としてはどこを訪れたらよいであろうか? アルゼンチンは地球の裏側で遠すぎるし、ペルーは面白そうだけど治安が悪そうだし、アメリカ合衆国から飛行機の便がないキューバは行くのが面倒そうだし…。そこで、グアテマラはどうだろうか? メキシコのすぐ南隣の国だからアルゼンチンほど遠くはない。マヤ文明の遺跡が豊富にあって、山がちな国土は風光明媚であり、スペイン人が建てたコロニアル風の町並みも美しいから、観光には事欠かない。治安は良いとは言えないが、ペルー、コロンビアほどひどくはないだろう(と信じて)。私は十回くらいグアテマラを訪れているが、幸いにもまだ怖い目にあつたことはない。このような私の口車に乗ってか、グアテマラに行ってきました!と報告してくる学生も最近ちらほら現れており、私としては嬉しい限りだ。しかし、大学生たるもの、ただ単に観光旅行で外国に行くのでは能がない。やはりその国の歴史や社会や文化について学んでおくべきだろう。そこで、この授業では、グアテマラについて書かれた文献を読むことにする。取り上げようと考えているのは、最近出された旅行記である。旅行記と言っても馬鹿にすることなかれ、グアテマラの政治状況から人々の生活の様子までもがうまく盛り込まれた、なかなかの名著である。事実、この旅行記は、「2005年偉大な旅行者に与える賞」を受賞している(この賞がどれほどの価値があるものかは不明)。何はともあれ、1年間スペイン語と格闘しつつ、グアテマラの魅力を探ってみよう。

テキスト:

Rosa Regás Pedro Molina Temboursy, *Volcanes dormidos*, Madrid, Ediciones B, 2005.

コピーを配布する。

文献講読 (西)(秋学期)

教授 大久保 教宏

授業科目の内容:

春学期の続き。

文献講読 (露)(春学期)(秋学期)

アネクドートでロシアの裏面を読む

教授 山田 恒

授業科目の内容:

今年度はアネクドートを読む。アネクドートとは笑話と訳すことも出来るが、実際には、鋭い風刺を必ず含んでいる。ことに政治的な発言が制約されていたソヴェートでは、権力批判が笑いと密かに語られていた。しかし、現代ロシアでも非常に多くのアネクドートが語られ、たくましいロシア民衆の権力を嘲笑する力が窺える。表面上のロシアに関する情報とは異なり、裏面からロシア事情を知るには最適の教材であろう。多くのアネクドートのサイトから個々のアネクドートを選び、講読する。

時間的に可能ならば、そして希望者がいるならネットの記事も講読したい。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

特になし。

〔政治思想論〕

近代政治思想史（春学期）

コンテクストを重視する思想史研究の方法と主題

教授 堤 林 剣

授業科目の内容：

はじめに準備作業として政治思想史研究の方法をめぐる論争を紹介し、諸説の交通整理を試みる。本論では一定の方法論的自覚のもとに、マキアヴェッリ、ホッブス、ロック、ルソー、シエース、コンスタンの政治思想とその歴史的意義について論じる。その際、「歴史のアンビヴァレンス」という視座から、テキスト（理論）とコンテクスト（言語慣習・歴史的文脈）との影響関係に着目する。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

近代政治思想史（秋学期）

代表制の危機

教授 堤 林 剣

授業科目の内容：

「代表制の危機」というテーマに即して近代政治思想の歴史的意義について検討する。その際、主としてイギリスとフランスの政治思想に着目する。前期の授業とある程度連続しているため、近代政治思想史とあわせて履修してほしい。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

現代政治思想（秋学期）

教授 蔭 山 宏

授業科目の内容：

マックス・ウェーバーは「近代」から「現代」への過渡期の思想家である。この講義はウェーバーを出発点として、主としてウェーバー以後の思想家をとりあげ、「現代」とは何かを解明したい。シュミット、マンハイム、ベンヤミン、エリアス、ヴィリリオ、アガンベンなどに言及します。

テキスト：

特になし

参考書：

その都度指示する。

政治哲学（春学期）

政治的なものの概念

教授 萩 原 能 久

授業科目の内容：

この講義では、政治哲学、および政治学方法論上の基礎概念、基本問題についての理解を深めることを目標におきます。しかし最終的には、様々なアプローチや思想についての「知識」を得ることが目的ではなく、私としては受講者の皆さんが、政治的現実を批判的に、かつ「他人の指導がなくても自分自身の悟性を敢えて使用しようとする決意と勇氣」（カント）をもって考えることができるようになることを望んでいます。

テキスト：

特に用いません。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

政治哲学（秋学期）

政治の暴力と戦争廃絶のために 教授 萩 原 能 久

授業科目の内容：

この講義では、政治の暴力という問題を、ポストモダンと呼びならわされている現代世界とその政治状況との関連から思想的に理解することを目標にします。政治哲学とセットでの履修は望ましいですが、その履修が前提条件ではありません。

テキスト：

特に用いません。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

政治理論史（春学期）

講師 山 岡 龍 一

授業科目の内容：

政治理論の歴史の古層といえる、プラトンとアリストテレスの思想を中心に検討する。政治理論の歴史的研究の方法と意義について概説し、政治理論の始原としてのソクラテスの問いを取り上げ、その問いをヒントにしてプラトンとアリストテレスの倫理・政治思想の総体的な解釈を試みる。政体、法律、正義、幸福、哲学、言語、教育、といった実質的なテーマを考察するのみならず、政治の理論化の二大パラダイムとして、プラトンの思考とアリストテレス的な思考のあり方も比較する。講義を通じて両思想家の理論的営みの追体験を目指し、学生が自ら政治を理論化するための糧としたい。

参考書：

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史 視座と論点』放送大学教育振興会、2005年

政治理論史（秋学期）

講師 山 岡 龍 一

授業科目の内容：

古代ローマ共和政から近代国家の登場までに現われた、西洋の政治的思惟を検討する。キケロ、アウグスティヌス、トマス・アクィナスの思想を軸として、近代政治理論の形成を考えるうえで重要と思われるいくつかのテーマを取り上げる。共和政と君主政、ローマ法と自然法、レトリック、帝国、契約思想等が扱われる予定だが、最も重要なのがキリスト教と政治思想の関係である。キリスト教的伝統は、西洋政治理論史において古代ギリシア思想と並ぶ強力なパラダイムを形成している。その展開を、宗教改革における近代主権国家の正当化論までたどる予定である。このことによって近代政治理論の根底にある要素を理解するのみならず、その可能性と限界を考察できるようにするのが目的である。

参考書：

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史 視座と論点』放送大学教育振興会、2005年

中世政治思想（秋学期）

「政治と宗教の相剋」という視点から

准教授 田 上 雅 徳

授業科目の内容：

西欧中世をキリスト教世界として位置づけたうえで、そこでの政治思想的な問題群が、宗教との折衝の中で練り上げられていく流れをお話ししたいと思います。

テキスト：

鷲見誠一著『ヨーロッパ文化の原型』（南窓社）

参考書：

授業の中で随時紹介していきますが、さしあたって、宮田光雄著『宮田光雄集 国家と宗教』（岩波書店）、福田敏一著『政治学史』（東京大学出版会）をあげておきます。

東洋政治思想史（春学期） 講師 平野 聡

授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した諸経緯を、個々の段階における統治思想に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

春学期は、儒学思想的伝統社会が内陸アジア文化および西洋と接触する過程でどのように変容するかを扱う。

参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史 17）講談社 2007 年。ほか講義中に紹介する。

東洋政治思想史（秋学期） 講師 平野 聡

授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した歴史的諸経緯を、個々の段階における論理に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

秋学期は、近代西洋的な国際秩序が導入された結果生まれた近代東アジア社会の思想的葛藤を扱う。

参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史 17）講談社 2007 年。ほか講義中に紹介する。

日本政治思想史（春学期）

幕末・明治の政治思想 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

幕末から明治期にかけて政治思想について、幕末の討幕運動や明治期の自由民権運動、士族反乱といった、現実政治に強い影響を与えた政治運動と関連する思想に焦点を当てて検討を行う。とりわけ、幕末期においては尊王・攘夷思想の形成と展開、明治以降では、福澤諭吉をはじめとする啓蒙思想家の思想、自由民権運動と士族反乱にかかわる思想に焦点を当て、明治後期の政治思想などについても

視野に入れる。

参考文献や講義の進行予定については、初回の講義で説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

寺崎修編『近代日本の政治』（法律文化社、2006年）

日本政治思想史（秋学期）

福澤諭吉の政治思想 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

福澤諭吉の政治思想について、主に幕末から明治前期にかけての時期に焦点を当てて検討を加える。とりわけ、士族反乱や自由民権運動が高揚・発展する時期に福澤が展開した政治思想に着目し、その特徴や内容について検討するとともに、その政治思想に投げかけられた現実政治からの評価・視線についても考察したい。

テキスト：

『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）

『福澤諭吉著作集』第9巻（慶應義塾大学出版会、2002年）

参考書：

適宜紹介する。

政治文化論特殊研究（秋学期）

全体主義時代の政治と文化

准教授（有期）片山 杜 秀

授業科目の内容：

政治文化論という講座名が予想させる内容は、いろいろあると思う。

たとえば、同じ議会制民主主義の国でも、議会を構成するのは、2大政党だったり、もっと多くの政党だったり、国によって相違がある。その相違の原因は、やはりそれぞれの国の政治の背景をなす、何らかの文化というか価値観のちがいに求められるだろう。そうした視点を掘り下げるのが、「政治現象や政治制度を根底で規定する文化（価値観）についての論」としての政治文化論である。

それからたとえば、近代なら近代、現代なら現代という時代を理解しようとするとき、その時代の政治社会の領域における思想と実践を、文化芸術の領域における思想と実践に関連づけてみることで、よりトータルな認識が得られるということもあるだろう。そうした観点にこだわってみるのが、「政治社会と文化芸術とを統一的、若しくは相関的に把握することによって、時代精神を抉り出そうとする論」としての政治文化論になる。

さて、この講座では、どちらかといえば後者の問題を取り扱いたい。つまり、政治と文化を別の縄張りと考えず、政治の中に文化を鑄型に嵌める形式や文化を刷新する力を発見し、文化の中にその時代の政治の反映や未来の社会の徴候を探究してみようということである。

もちろん、限られた回数では、あらゆる時代の政治と文化のかかわり合いに測鉛を下ろしているわけにもゆかない。そこで特に全体主義を鍵語にし、全体主義時代の政治と文化について考察してゆきたい。

具体的には、アドルノやベンヤミンやブロッホなどの文章、シェーンベルクやストラヴィンスキーなどの音楽、溝口健二などの映画から、適宜取り上げ、講義、芸術作品の鑑賞と解説、討論を組み合わせ、進める予定である。

テキスト：

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

アドルノ（龍村あや子訳）「新音楽の哲学」（平凡社）、片山杜秀「音盤考現学」（アルテスパブリッシング）。そのほか適宜紹介する。

〔政治・社会論〕

アメリカの司法と政治（春学期）

アメリカの司法の役割 講師 小谷 順子

授業科目の内容：

「合衆国憲法の下における司法の権能」、「政治との関係における司法の役割」、「社会のなかの司法の位置付けと役割」等の観点から「アメリカの司法と政治」に関する講義を行う。具体的な進行については、合衆国憲法や司法制度に関する基礎的な事項を確認したうえで、人種別学制度をめぐるブラウン判決、2000年の大統領選挙をめぐるBush対Gore判決、グアタナモ基地の敵性戦闘員をめぐる判決等の著名かつ重要な判決を取り上げ、それらの背景に存するアメリカの法制度・法意識・法文化・社会事情等を探り、司法と政治の関係についての考察を行う予定である。

テキスト：

大沢秀介著『アメリカの司法と政治講義ノート』（成文堂）

参考書：

必要に応じて随時紹介する。

行政学特論（春学期）

行政管理論 講師 岡本 全勝

授業科目の内容：

日本の統治は、中央政府と地方政府で分担されています。中央政府にあつては、執政（executive）を担うのは内閣（政治家）であり、執行（administration）を担うのは各府省（公務員）です。地方政府にあつては、前者は首長で、後者は市役所（公務員）などです。

行政管理論は、この執行についての学問です。つい最近まで、日本の公務員は世界一優秀であると評価されていました。それが近年、大きな批判にさらされています。なぜこのように、評価が急激に変化したのでしょうか。ここに、行政と官僚だけでなく、それを包含した日本の政治や社会の転換が表れているのです。

この講義では、日本の行政機構・官僚制を解説するとともに、転換を求められている日本の官僚制と行政について、同時代的視点から分析します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

拙著「新地方自治入門 行政の現在と未来」（2003年、時事通信社）

行政学特論（秋学期）

地方自治論 講師 岡本 全勝

授業科目の内容：

日本の地方自治の成果と課題について考察します。多くの地方自治論は、その仕組みを解説することや、特定分野の研究です。現在日本の地方自治の全体像を示した書物や研究は、案外見あたりません。

この講義では、日本の地方自治の全体像を示すとともに、その問題点と地方自治の課題について分析します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

拙著「新地方自治入門 行政の現在と未来」（2003年、時事通信社）

現代政治理論（春学期）

現代の民主主義理論 教授 河野 武司

授業科目の内容：

本講義では現代の政治理論の中でも特に、機能不全が叫ばれているデモクラシーに関する様々な理論について紹介し、検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

白鳥令他編『現代世界の民主主義理論』新評論、1984年。

その他、授業中に適宜紹介します。

現代政治理論（秋学期）

政治過程における集団・組織 教授 河野 武司

授業科目の内容：

政治過程において利益団体に代表されるいわゆる中間集団の役割には、非常に大きなものがあります。組織化された集団に触れずに政治過程を語ることはできません。そこで本講義では、現代政治理論の中でも、政治過程における利益団体の役割や、その組織化、さらには組織における政策決定の問題に関する様々な理論を取り上げて、検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・白鳥令編『政策決定の理論』東海大学出版会、1990年。

・森脇俊雅『集団・組織』東京大学出版会、2000年。

・河野武司・岩崎正洋編『利益誘導政治 国際比較とメカニズム』芦書房、2004年。

その他、授業中に適宜紹介します。

公共経済論（春学期）

政府の役割とは何か 教授 麻生 良文

授業科目の内容：

政府の役割はどうあるべきかについて講義する。経済学的には、政府活動の根拠は「市場の失敗」に求められるが、市場の失敗とは何かを明らかにし、その対処方法を議論する。講義内容は以下のとおり。

1. 市場の失敗と政府の役割
2. 市場の失敗各論 (1) 公共財, (2) 外部性, (3) 自然独占, (4) 情報上の失敗
3. 応用 (1) 国と地方の役割分担, (2) 財政投融资制度

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣 1998年

参考書：

スティグリッツ『公共経済学（上）』東洋経済新報社

ミクロ経済学については次のページを参照のこと

<http://www.law.keio.ac.jp/~aso/kougi2.html>

公共経済論（秋学期）

租税と公債の効果 教授 麻生 良文

授業科目の内容：

租税が経済活動に与える影響、望ましい税制、財政政策の効果、公債の効果について講義を行う。

主な内容は以下のとおり。

- 1) 租税の理論入門 (1) 租税原則, (2) 課税ベースの選択
- 2) 個別物品税の帰着
- 3) 所得税か支出税か (1) 労働所得税の効果, (2) 資本所得税の効果, (3) 課税の長期的効果
- 4) 財政政策の効果 (1) 乗数モデル, (2) 減税の効果 リカードの等価定理
- 5) 公債の負担

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣 1998年

参考書：

・スティグリッツ『公共経済学（下）』東洋経済新報社

・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin

・マンキュー『マクロ経済学』東洋経済新報社

・ミクロ経済学、マクロ経済学については次のページを参照のこと

<http://www.law.keio.ac.jp/~aso/kougi2.html>

国際コミュニケーション論 (春学期)

メディアと国際関係 講師 奥野昌宏

授業科目の内容:

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹起させており、時として国際的な紛争を生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわちメディア・コミュニケーションをめぐる国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト:

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書:

武市英雄・原寿雄責任編集『グローバル社会とメディア』(叢書現代のメディアとジャーナリズム1), ミネルヴァ書房, 2003年。その他, 適宜紹介します。

国際コミュニケーション論 (秋学期)

東アジアのメディア・情報・文化 講師 奥野昌宏

授業科目の内容:

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観したうえでそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思えます。

テキスト:

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書:

適宜紹介します。

社会調査論 (春学期)

社会学的調査におけるブルーラルな視点と研究実践

講師 大矢根 淳

授業科目の内容:

昨今、社会調査への関心が高まってきている。それは一つには、調査と称するモノの氾濫を批判的にとらえることから、また、関連資格が創設されたことから等々、様々な理由に寄るところであろう。

この授業では、従来、社会学領域において概説されてきた社会調査論を批判的に検討しながら、社会の実相を把握する現場の取り組みを様々な紹介していきたい。

これまで長い間、量的調査 vs 質的調査の論争が重ねられてきた。この授業では、それらの手法それぞれをひととおり概説して理解した上で、それらを有機的に組み合わせることで社会の実相を把握する調査現場の取り組みを紹介する。

その際、「研究のための調査」は厳しく批判される。調査対象への還元のプロセスを重視し、研究者と調査対象者の関係性、調査の社会的影響を深く考えていきたいと思う。

テキスト:

- ・大矢根淳他編『復興コミュニティ論入門』弘文堂, 2007
- ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社, 1992
- ・栗田宣義編『メソッド/社会学』川島書店, 1996

講義では適宜、プリントを配布し、また、ビデオ等を視聴します。

参考書:

- ・石川淳志他編『見えないものを見る力』八千代出版, 1998
- その他, 毎回の授業で、関連する文献等を板書します。

社会調査論 (秋学期)

社会学的調査におけるブルーラルな視点と研究実践 ~

講師 大矢根 淳

授業科目の内容:

「社会調査論」(春学期)において、社会調査の概要が論じられた。この授業では、それらを踏まえ、社会調査の具体的事例をいくつか紹介して批判的に検討し、それらによって明らかにされてきたことがら(社会調査の「見えないものを見る力」)のみならず、(結果的に)見落とされてきてしまったことがらをあらためて批判的に検討してみたい。

テキスト:

- ・大矢根淳他編『復興コミュニティ論入門』弘文堂, 2007
 - ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社, 1992
 - ・栗田宣義編『メソッド/社会学』川島書店, 1996
- 講義では適宜、プリントを配布し、また、ビデオ等を視聴します。

参考書:

- ・石川淳志他編『見えないものを見る力』八千代出版, 1998
- ・谷岡一郎『「社会調査」のうそ』文春新書, 2000
- その他, 毎回の授業で、関連する文献等を板書します。

社会変動論 (秋学期)

グローバリゼーション時代の多文化交差世界における市民意識の動態と政治・社会秩序: 現代オーストラリアを事例に

教授 関根政美

授業科目の内容:

現代世界の国民国家はグローバリゼーションの影響を経験し、大きな文化・社会変動に見舞われている。「グローバリゼーション」は、近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが、グローバリゼーションそのものは複雑・多様な現象であり、一筋縄ではその実態をつかむことが難しい。本授業では、「人口移動のグローバリゼーション」に焦点を当てて、国民国家の多文化・多民族社会化の動きと、その社会的影響について考察を加えたい。さらに、多文化・多民族化する社会において、受け入れ諸国の国民がもつべき市民意識(この場合は多文化・多民族社会適応的な市民意識)がどのようになっているのかについて考えたい。本授業では、多文化主義を支持するような意識のあり方を多文化・多民族社会適応的な市民意識とみなしたい。1980年代にそれは、カナダやオーストラリア、米国・英国や北欧諸国において展開しはじめたが、1990年代後半から現在にかけて新自由主義経済のグローバリゼーションの展開脱福祉国家化による逆風を受けている。むしろ、移住制限の強化を望む気持ちや反多文化主義的で外国人排斥的な意識が強まっている。それは、今日では異文化の人々の中の「文明衝突」であるとか「文化戦争」と呼ばれている。なぜそのような事態が発生するのかについて論じたい。社会変動論では、近代の人口移動と多文化社会化の過程と文化戦争(人種・民族・エスニック紛争)発生まで過程・原因を前半に置き、授業後半で多文化主義とその具体的諸政策の可能性と限界について論じるとともに、文化戦争を多文化主義が真の解決策となるために何が必要か考えたい。現代オーストラリアを事例に授業を進めたい。

テキスト:

関根政美著, 2000年『多文化主義社会の到来』朝日新聞社刊, ガッサン・ハージ(塩原・保莉訳)『ホホワイトネーション』平凡社, 2003年。

参考書:

- 関根政美, 『マルチカルチュラル・オーストラリア 現代オーストラリアの社会変動』(成文堂, 1989年) 藤川隆男編『オーストラリアの歴史: 多文化社会の歴史の可能性を探る』(有斐閣, 2004年), 森・竹田編『オーストラリア入門第2版』(東京大学出版会刊, 2007年) 竹田いさみ『オーストラリア物語』(中央公論社, 2000年)。

政治

D・ヒーター（田中・関根訳）『世民権とは何か』（岩波書店，2003年）

政治過程論（春学期）

選挙制度と投票行動 講師 名取良太

授業科目の内容：

社会を構成する人々は、さまざまな生活環境に置かれ、利害に関わり、価値観を有している。したがって、ある社会問題・政治課題に対して、多様な意思を持つことになる。しかし、多様な意思の全てを包含する政策・法律など存在し得ない。多様な意思は集約されねばならないのである。

それでは、人々の意思はどのような方法で集約されているのか。そして、人々の意思はどのように表明されているのか。これらの点、すなわち集約的意思決定の現状を考えることが、本講義の主眼である。

講義は、2つのテーマを中心に展開する。1つ目が「選挙制度」である。いうまでもなく選挙制度は、政治社会において最も重要な意思集約の手段である。そこで学期前半では、選挙制度の構成諸要素について考えたり、選挙制度が有権者や政治家の行動にいかなるインパクトを与えるかを考えたりしながら、選挙制度と民意の関係について理解を深めていくことにする。

2つ目は「投票行動」である。有権者の意思は「票数」という無機質な数値にまとめられる。しかし、民主主義において選挙を正しく機能させるためには、その票に託された意思の中身を明らかにせねばならない。有権者はなぜ投票に参加するのか、有権者はどのように意思決定をしているのか。これらの点を考えながら、民主主義・選挙・民意の関係について理解を深めていく。

なお講義は、双方向的なものを目指して進めていく。履修者は、指示された文献を、講義までに熟読しておかねばならない。講義では、担当者による解題に加え、履修者への質問および履修者からの質問の時間を取る。解答の度合や、質問の質・量は、当然、評価の基準になる。

指定する文献は、選挙制度と投票行動に関する基礎的な論文から最新の研究成果まで、幅広い範囲に及ぶ。また、日本語だけではなく、欧文論文も指定することがある。

選挙「研究」に関心のある履修者の受講と、講義への積極的な参加を期待する。

テキスト：

特定の教科書は用いない。講義の進行に合わせて、適宜文献・論文を指示する。

参考書：

とくになし。

政治過程論（秋学期）

近年の日本政治研究の動向 講師 名取良太

授業科目の内容：

本講義は、日本政治に関する近年の研究論文をレビューしながら、日本の政治過程に関する理解を深めていくことを目的とする。

90年代後半から、日本政治研究は新たな局面を迎えた。いわゆる仮説検証型の論文が、その多くを占めるようになってきたのである。依拠する理論は合理的選択論やゲーム理論などさまざまであるが、演繹的に仮説を導出し、統計分析などを用いて検証する論文が増加した。また、仮想空間におけるマルチエージェントシミュレーションを用いた政治分析や、実験による研究論文も徐々に増加しつつある。このような近年の研究動向をカバーすることによって、日本の政治過程に関する「現代的な視点」を理解することが出来るだろう。

具体的な分析対象は、自民党政治・官僚制・政管関係・中央地方関係・地方自治である。講義では、これら分析対象が、これまでどのように理解され、そして現在、どのように理解されているのかを説明していく。

なお講義は、双方向的なものを目指して進めていく。履修者は、指示された文献を、講義までに熟読しておかねばならない。講義では、担当者による解題に加え、履修者への質問および履修者からの質問の時間を取る。解答の度合や、質問の質・量は、当然、評価の基準

になる。

指定する文献は、近年の日本政治に関する研究論文であるが、日本語だけではなく、欧文論文も指定することがある。

政治過程分析に関心のある履修者の受講と、講義への積極的な参加を期待する。

テキスト：

特定の教科書は用いない。講義の進行に合わせて、適宜必読文献・論文を指示する。

参考書：

とくになし

政治権力論（春学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力の特性を理解したうえで、権力構造の集中について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

政治権力論（秋学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力概念を精査することで、権力と社会の関係について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

地域社会論（春学期）

教授 有末賢

授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会（コミュニティ）は、われわれの社会生活において重要な空間であるだけでなく、集団でも関係でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の新都市社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定題目は以下のとおりである。

テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房，1999年

参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣，1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，2000年

地域社会論（秋学期）

教授 有末賢

授業科目の内容：

地域社会論から引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化・郊外化・脱郊外化・反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町・山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代の問題点を解説していく。

最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のとおりである。

テキスト：

有未賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年
参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

地方自治論（春学期）

市民社会と地方自治 教授 片山善博

授業科目の内容：

教育や福祉など国民にとって重要な役割を果たしている自治体は、相次ぐ不祥事や財政破綻などで現在その力量を問われている。自治体は果たして地方分権を担う主体になりうるか。自治体が提供する行政サービスに対する住民の満足度は高いか。透明性や説明責任など自治体の質を担保すべき議会や監査制度は十分機能しているか。地方財政は持続可能か、などである。この講義では、わが国の地方自治制度を詳述するとともに、それが機能不全を起こしている部分があるとすればその原因を探り、あわせて今後の地方自治制度改革の方向をも見通すこととしたい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料はプリントを配布したい。

参考書：

拙著『市民社会と地方自治』（慶應義塾大学出版会、2007年）など

地方自治論（秋学期）

自治体財政と民主主義 教授 片山善博

授業科目の内容：

春学期の講義を踏まえ、秋学期では主として地方税制や地方財政の仕組みを取り上げたい。特に、それらの制度を理解することを主眼とするが、あわせて、税制や財政の仕組みと運用の中に、実は地方自治や民主主義を具現化する重要な要素が内在していることと、その要素が様々な要因により潜在化させられている実態をも随時指摘したい。また、夕張市に代表される自治体の財政破綻や財政危機の原因を探り、今後の財政運営を持続可能にする方途についても講義を通じて示したい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料はプリントを配布したい。

参考書：

拙著『市民社会と地方自治』（慶應義塾大学出版会、2007年）など

マス・コミュニケーション発達史（春学期）

歴史(過去)との対話 講師 大井眞二

授業科目の内容：

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

マス・コミュニケーション発達史（秋学期）

歴史(過去)との対話 講師 大井眞二

授業科目の内容：

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）

マス・コミュニケーション論（春学期）

マス・コミュニケーションと政治 教授 大石裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

マス・コミュニケーション論（秋学期）

ジャーナリズムとメディア言説 教授 大石裕

授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

メディア社会論（春学期）

情報グローバリゼーションと文化変容

講師 遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根元的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫『グローバリゼーションと文化変容』世界思想社、2007年
- ・遠藤薫『複合メディア社会と コミュニティ（仮）』東京電機大学出版局、2007年

政治

参考書：

- ・遠藤薫『間メディア社会と 世論 形成』東京電機大学出版局，2007年
- ・遠藤薫『インターネットと 世論 形成』東京電機大学出版局，2004年
- ・遠藤薫『電子社会論』実教出版，2000年

社会変動論特殊研究（春学期）

グローバリゼーションと国民国家多文化交差社会の文化・社会変動
教授 関根政美

授業科目の内容：

本授業では、履修者の自発的な調査報告とそれらを土台に討論を行う演習授業を実施したい。履修者の数にもよるが、毎回2、3名の報告者による競争的報告を行ってもらい、それらを土台に討論をしてゆきたい。また、必要に応じて本授業のテーマに沿ってビデオを見て討論したいと思っている。

授業のテーマは以下のとおり。現代世界はグローバリゼーション（国際化）の影響を経験し大きな文化・社会変動を経験している。「グローバリゼーション」は、近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが、グローバリゼーションそのものは多様な現象であり、一筋縄ではその実態をつかむことが難しい。本授業では、人口移動のグローバリゼーションだけではなく様々なグローバリゼーションに注目し、国民国家への文化・社会・政治的影響について議論しながら授業を進めたい。授業担当者は、オーストラリア研究を生業としているが、本授業では必ずしもオーストラリアに関する文献を使用するわけではない。その場合でもオーストラリアに関する深い知識を必要とはしないはずである。

テキスト：

未定（最新の著作・論文を利用したいので、未定である。授業開始前の掲示、あるいは最初の授業で輪読書について提示するので掲示に注意せよ。

参考書：

関根政美『多文化主義社会の到来』（朝日新聞社，2000年）カースルズ/ミラー（関根・関根訳）『国際移民の時代』（名古屋大学出版会，1996年）、D・ヒーター（田中・関根訳）『市民権とは何か』（岩波書店，2003年）

〔日本政治論〕

近世日本政治史（春学期）

関係意識から近世政治史を読みかえる（1）

講師 若尾政希

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民、三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、17世紀の通史『日本の歴史 16 天下泰平』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考察してみたい（講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくれることが前提となります）。

テキスト：

横田冬彦著『日本の歴史 16 天下泰平』講談社，2002年

参考書：

若尾政希『「太平記読み」の時代 近世政治思想史の構想』平凡社選書，1999年，その他

近世日本政治史（秋学期）

関係意識から近世政治史を読みかえる（2）

講師 若尾政希

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民、三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、18世紀の通史『享保改

革と社会変容』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考察してみたい（講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくれることが前提となります）。

テキスト：

大石学編『日本の時代史 16 享保改革と社会変容』吉川弘文館，2003年

参考書：

講義中に適宜紹介します。

近代日本政治史（春学期）

教授 玉井 清

授業科目の内容：

本授業は2部構成になっている。前半の（授業計画1～3）では、日本政治史研究の現状と課題を概括したうえで、研究を進めて行くうえでの資料の可能性（文字情報だけでなく映像の歴史資料としての可能性）に関して紹介する。

上記のことを前提に、後半（授業計画4～7）では、近代日本における立憲政治導入の意義を、伊藤博文を中心に推進された明治憲法制定の過程と、当時のわが国を取り巻く国際環境との連関から、あるいは近代日本の精神史の観点から、福沢諭吉の言説なども紹介しながら検証したい。

近代日本政治史（秋学期）

原敬と立憲政友会

教授 玉井 清

授業科目の内容：

周知のように、原敬は、大正中葉に我が国最初の本格的政党を成立させた政治家である。しかし、幕末には反維新の側に立った南部藩出身という彼の出自は、政界雄飛に際し、逆風にこそなれ順風たりえなかった。その原が、何故、明治憲法体制下、重要閣僚であった内相を歴任し、衆議院第一党の立憲政友会の党首となり、さらに同党を率いて権力の頂点まで昇りつめることができたのであろうか。また誕生した原内閣は、彼が暗殺されるまで三年余に亘り続き、同憲法体制下歴代4位に位置する長期政権になったが、その理由はどこにあったのであろうか。近代日本に立憲政治が導入されて立憲政友会が成立するまでの過程を考察したうえで、同党を率いた原の政権戦略を中心に検証してみたい。

参考書：

玉井清『原敬と立憲政友会』（慶應義塾大学出版会）

近代日本政党史（春学期）

明治・大正期における政党政治の発展

講師 奥 健太郎

授業科目の内容：

明治・大正期の日本政治史を政党の動向に注目して講義します。特に、明治憲法体制という制約の中、政党政治はなぜどのようにして発展したのか、という点を主要な問題関心としながら、この時代の政党史を検証していきます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・玉井清『原敬と立憲政友会』（慶應義塾大学出版会，1999年）
- ・清水唯一朗『政党と官僚の近代』（藤原書店，2007年）
- ・村井良太『政党内閣制の成立 1918年 1927年』（有斐閣 2005年）
- ・升味準之輔『日本政治史・2』（東京大学出版会，1988年）

現代日本行政論（春学期）

日本行政の基本構造

講師 平井文三

授業科目の内容：

この講義では、現代日本行政論（秋学期）「日本行政の現代化の動き」と合わせて、国家行政を中心とする日本の行政の全体像を理解することをねらいとします。

春学期の「日本行政の基本構造」では、日本の行政の仕組みが現時点でどのようになっているか、その仕組みの背景には、どのような論理的根拠や制度成立の状況があるのかを見ていきます。

(秋学期の「日本行政の現代化の動き」においては、現在の日本行政の改革の動向を、世界的な公共経営改革の動きの中に位置づけて観察していきます)

テキスト:

必要に応じて、関係論文等を事前に配布します。

参考書:

必要に応じて講義において紹介します。

現代日本行政論 (秋学期)

日本行政の現代化の動き 講師 平井文三

授業科目の内容:

この講義では、現代日本行政論 (春学期)「日本行政の基本構造」と合わせて、国家行政を中心とする日本の行政の全体像を理解することをねらいとします。

秋学期の「日本行政の現代化の動き」においては、現在の日本行政の改革の動向を、世界的な公共経営改革の動きの中に位置づけて観察していきます。

(春学期の「日本行政の基本構造」では、日本の行政の仕組みが現時点でどのようになっているか、その仕組みの背景には、どのような論理的根拠や制度成立の状況があるのかを見ていきます)

テキスト:

- ・ OECD 著, 平井文三訳「世界の行政改革 21世紀型政府のグローバル・スタンダード」(明石書店)
- ・ OECD 著, 平井文三監訳「世界の公務員の成果主義給与」(明石書店)

この他、必要に応じて関係論文等のコピーを配ります。

参考書:

必要に応じて講義において紹介します。

現代日本政治論 (春学期)

講師 谷口尚子

授業科目の内容:

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。春学期は特に、民主政治の主役たる「有権者」(つまり我々)に焦点をあて、その心理・行動、選挙過程、マスメディアの影響、集団・文化等を掘り下げます。また、講義だけでなく、実験や映像資料を交えます。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

テキスト:

授業中に指示します。

参考書:

- ・ 『選挙・投票行動』(2000) 小林良彰(東京大学出版会)
- ・ 『現代日本の投票行動』(2005) 谷口尚子(慶應義塾大学出版会)

現代日本政治論 (秋学期)

講師 谷口尚子

授業科目の内容:

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。秋学期は特に、現代民主政治のしくみ、日本政治のしくみに焦点をあて、様々な政治制度・機関・過程(政策決定過程・立法過程、官僚制、中央 地方政府関係等)を解説します。また、講義だけでなく、実験や映像資料を交えます。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

テキスト:

授業中に指示します。

参考書:

授業中に指示します。

古代日本政治史 (秋学期)

講師 加藤順一

授業科目の内容:

「王権と官僚制」の観点に基づき、5世紀から8世紀に至る、古代国家の形成をめぐる諸問題を講義する。

参考書:

- ・ 宮地正人他編『国家史(新体系日本史1)』(山川出版社)
- ・ 大津透他『法社会史(新体系日本史)』(山川出版社)
- ・ 佐藤信他『日本の古代』(放送大学教育振興会)

戦後日本政治史 (春学期)

瓦礫の中からの再生 講師 中島信吾

授業科目の内容:

戦後日本史の中で、安全保障問題は内政面においても、また対外関係においても最大の争点の一つだった。そして近年、憲法をめぐる議論、「対テロ戦争」への関与のありかた等々に見られるように、これまでの安全保障政策は大きく転換しようとしているのかもしれない。我々は、どこへ向かおうとしているのか。同時に、もう一つの問題は、我々がどこから来たのかということである。

本講義では、「どこからきたのか」、すなわち戦後日本の国内政治、対外関係上の主要な事象に目配りをしつつ、安全保障問題を軸に据えながら戦後政治史を講述する。時期は、日本占領から日米安全保障条約の改定(1960年)までを主な対象とする。

テキスト:

特になし

参考書:

- ・ 五百頭旗真編『新版 戦後日本外交史』(有斐閣, 2006年)
- ・ 河野康子『戦後と高度成長の終焉』(講談社, 2002年)
- ・ 外岡英俊, 本田優, 三浦俊章『日米同盟半世紀 安保と密約』(朝日新聞社, 2001年)
- ・ 田中明彦『安全保障』(読売新聞社, 1997年)
- ・ 中島信吾『戦後日本の防衛政策』(慶應義塾大学出版会, 2006年)
- ・ 福永文夫『戦後日本の再生 1945~1964年』(丸善, 2004年)
- ・ 渡辺昭夫編『戦後日本の宰相たち』(中央公論新社, 2001年)

戦後日本政治史 (秋学期)

経済大国化とその後 講師 中島信吾

授業科目の内容:

戦後日本史の中で、安全保障問題は内政面においても、また対外関係においても最大の争点の一つだった。そして近年、憲法をめぐる議論、「対テロ戦争」への関与のありかた等々に見られるように、これまでの安全保障政策は大きく転換しようとしているのかもしれない。我々は、どこへ向かおうとしているのか。同時に、もう一つの問題は、我々がどこから来たのかということである。

本講義では、「どこからきたのか」、すなわち戦後日本の国内政治、対外関係上の主要な事象に目配りをしつつ、安全保障問題を軸に据えながら戦後政治史を講述する。時期は、1960年代から1990年代後半までを主な対象とする。

テキスト:

特になし

参考書:

- ・ 五百頭旗真編『新版 戦後日本外交史』(有斐閣, 2006年)
- ・ 河野康子『戦後と高度成長の終焉』(講談社, 2002年)
- ・ 外岡英俊, 本田優, 三浦俊章『日米同盟半世紀 安保と密約』(朝日新聞社, 2001年)
- ・ 田中明彦『安全保障』(読売新聞社, 1997年)
- ・ 中島信吾『戦後日本の防衛政策』(慶應義塾大学出版会, 2006年)
- ・ 渡辺昭夫編『戦後日本の宰相たち』(中央公論新社, 2001年)

政治

中世日本政治史（春学期）

鎌倉時代の幕府と朝廷 講師 山本隆志

授業科目の内容：

鎌倉幕府の成立により、政治権力は京都の朝廷と鎌倉の幕府が相い並ぶところとなった。この二つの政治権力のあり方と相互関係について、史料を使いながら、講義する。

参考書：

日本の中世国家（佐藤進一著、岩波書店）

中世日本政治史（秋学期）

室町幕府権力の形成と構造 講師 山本隆志

授業科目の内容：

鎌倉時幕府滅亡～室町幕府確立の過程が、京都と鎌倉の二つの政治圏を軸に進行していったことを講義する。

参考書：

南北朝の動乱（佐藤進一著、中央公論社）

日本外交史（春学期）

教授 添谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日の問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』（ちくま新書、2005年）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず以下を参照のこと。

五百旗頭真編『戦後日本外交史』（有斐閣、2006年）[新版]

日本行政史（春学期）

講師 福 沢 真 一

授業科目の内容：

明治期～大正期のわが国における行政・政治の史的展開について、明治維新と太政官制度、内務省の成立、警察行政の形成と展開、明治憲法の制定、政党政治の展開と政官関係の変容、都市化の進行による行政の変化、都市計画法および市街地建築物法の制定（大正八年）などの点について論ずる。

参考書：

『日本行政の歴史と理論』笠原英彦・桑原英明編、芦書房、2800円

日本行政史（秋学期）

講師 福 沢 真 一

授業科目の内容：

昭和戦前期～戦後改革期のわが国における行政・政治の史的展開について、政党政治の本格化と官僚機構の変化、都市化の進行に伴う行政の変化、警察行政と建築行政の関わり、建築行政・都市計画をめぐると中央地方関係、戦後占領改革における日本行政の変化などの点について論ずる。

参考書：

『日本行政の歴史と理論』笠原英彦・桑原英明編、芦書房、2800円

日本政治運動史（春学期）

福沢諭吉と朝鮮改革運動

福澤研究センター 専任講師 都 倉 武 之

授業科目の内容：

「福沢諭吉の最大の瑕疵は「脱亜論」である」といわれるようにな

って久しい。福沢は「世界の中の日本」について、何を考え、何を発言し、何をしたのか。そしてそれは、当時の人にとどのように影響を与えたのか。またそのことはいつ、どのように意味づけられたのか。本講義では福沢と東アジア、とりわけ朝鮮をめぐる諸問題について、半年にわたって検討し考察を加える。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・『福沢諭吉著作集』第7巻、第8巻（慶應義塾大学出版会）
- ・寺崎修編『シリーズ日本の政治2 近代日本の政治』（法律文化社）

日本政治思想史（春学期）

幕末・明治の政治思想

准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

幕末から明治期にかけて政治思想について、幕末の討幕運動や明治期の自由民権運動、士族反乱といった、現実政治に強い影響を与えた政治運動と関連する思想に焦点を当てて検討を行う。とりわけ、幕末期においては尊王・攘夷思想の形成と展開、明治以降では、福沢諭吉をはじめとする啓蒙思想家の思想、自由民権運動と士族反乱にかかわる思想に焦点を当て、明治後期の政治思想などについても視野に入れる。

参考文献や講義の進行予定については、初回の講義で説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

寺崎修編『近代日本の政治』（法律文化社、2006年）

日本政治思想史（秋学期）

福澤諭吉の政治思想

准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

福澤諭吉の政治思想について、主に幕末から明治前期にかけての時期に焦点を当てて検討を加える。とりわけ、士族反乱や自由民権運動が高揚・発展する時期に福澤が展開した政治思想に着目し、その特徴や内容について検討するとともに、その政治思想に投げかけられた現実政治からの評価・視線についても考察したい。

テキスト：

- ・『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）
- ・『福澤諭吉著作集』第9巻（慶應義塾大学出版会、2002年）

参考書：

適宜紹介する。

マス・コミュニケーション発達史（春学期）

歴史(過去)との対話

講師 大 井 眞 二

授業科目の内容：

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）

マス・コミュニケーション発達史（秋学期）
歴史（過去）との対話 講師 大井 眞 二

授業科目の内容：

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）

マス・コミュニケーション論（春学期）
マス・コミュニケーションと政治 教授 大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

マス・コミュニケーション論（秋学期）
ジャーナリズムとメディア言説 教授 大石 裕

授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

近代日本政治史特殊研究（春学期）
教授 玉井 清

授業科目の内容：

ナチス・ヒットラーの抬頭を同時代の日本人はどのように捉えていたのだろうか。昭和戦前期日本人の対独感を下記のテキストを土台にして考察してみたい。同時代の種々のメディア上に表出されたナチス・ドイツ像やヒットラーに対するイメージの内実と変容が議論される予定である。

テキスト：

岩村正史『戦前日本人の対独意識』（慶應義塾大学出版会）

近代日本政治史特殊研究（秋学期）
教授 玉井 清

授業科目の内容：

戦時下日本人の生活と国民意識の実態を解き明かすため、下記の研究書を輪読し討論する予定である。本書が考察の対象としている『写真週報』は、日中戦争勃発の約半年後から敗戦直前まで、政府が啓蒙宣伝のため発刊し続けた週刊グラフ誌である。国民の生活を躍動的に映し出す写真や、国民の考えや意識を反映させた挿絵や風刺漫画等も多数掲載した『写真週報』の分析を通じ、文字情報以外の資料が政治史研究にどの程度まで利用されるのか、その可能性についても討論してみたい。

テキスト：

玉井清編『戦時下日本の国民意識 『写真週報』とその時代』（慶應義塾大学出版会）

日本行政史特殊研究（春学期）
日本の医療行政 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

笠原英彦『日本の医療行政』（慶應義塾大学出版会）を輪読した後、日本の医療制度および医療政策が抱える問題点について討論する。

テキスト：

笠原英彦『日本の医療行政』（慶應義塾大学出版会）

〔地域研究論〕

アフリカ社会論（春学期）
都市の日常生活からみた現代アフリカ
講師 近藤 英俊

授業科目の内容：

この講義の目的は今日アフリカの人々が経験する社会的・文化的変化、つまりアフリカにおける「現代(modernity)」のあり方について、一つの見通しを立てることにある。講義はアフリカ社会・文化を網羅的に扱うかわりに、講師の調査したナイジェリア都市部の社会・文化に焦点を絞る。講師の狙いは、第一に人々の日常生活と彼らの直面する危機的状況をできるだけ具体的に叙述すること、第二にその現代的な特徴を比較社会・文化論的手法を用い、いくつかのテーマに沿って吟味することにある。取り上げるテーマには、病、身体、自己、共同体、信頼、貨幣、呪術といったものが含まれる。この講義は開発協力という実践的関心のある諸君だけでなく、理論的・哲学的関心のある諸君も視野に入れて行われるだろう。

テキスト：

とくに無し

参考書：

授業中適宜指示する。

アフリカ社会論（秋学期）
都市の日常生活からみた現代アフリカ
講師 近藤 英俊

授業科目の内容：

春学期の授業内容に準ずる。

テキスト：

とくに無し

参考書：

授業中適宜指示する。

政治

アフリカの国際政治（秋学期）

アフリカ諸国間および域外との国際関係

講師 矢澤達宏

授業科目の内容：

サハラ以南のアフリカ諸国の国際関係についての講義をおこなう。内容は大きく分けて、域内諸国間の関係に関するものと、アフリカと域外各国や国際機関との関係に関するものの二つである。前者ではアフリカにおける主権国家の枠組みの脆弱性が、後者ではアフリカ諸国の対外依存度の高さが、それぞれ通底するポイントとなる。テキスト：

本授業では特定の教科書は使用せず、各トピックごとに要点をまとめたレジュメと、必要に応じて資料を配布する予定である。

参考書：

授業のなかで提示する予定である。

アメリカ政治史（春学期）

20世紀アメリカ政治史 テーマから考える

准教授 岡山 裕

授業科目の内容：

20世紀のアメリカ合衆国（以下アメリカ）の政治史を、大まかに時系列に沿ってテーマ毎に検討を加えます。外からある国を見る場合、どうしても「一枚岩」の、まとまったものとしてとらえがちになりますが、実際にはどんな国でも内部に様々な対立をはらんでいます。この授業では、大国となったアメリカが、他国との競争や、自由・平等といった建国期から掲げる理念との狭間で、そうした緊張をどう乗り越え（ようとして）きたのかを考えていきたいと思います。昨年度開講のアメリカ政治史（植民地時代～19世紀末）を受講していれば理解の助けになりますが、アメリカに関する授業を初めて受ける人に配慮しながら進めます。

テキスト：

とくに指定しません。毎回レジュメを配布します。

参考書：

講義全体に関係するものとして、とりあえず以下を薦めます。その他は授業時に随時紹介します。

- ・久保文明他『北アメリカ』第2版（自由国民社、2005年）
- ・紀平英作編『アメリカ史』（山川出版社、1999年）
- ・秋元英一・菅英輝『アメリカ20世紀史』（東京大学出版会、2003年）

イスラーム社会論（春学期）

イスラーム復興と近代

講師 堀井聡江

授業科目の内容：

とくに1970年代から注目を集めるようになったイスラーム的な政治・社会運動は、突発的な現象ではなく、その歴史的な背景の考察を抜きにしては正しく理解することはできない。本講義では、植民地化とともに始まるイスラーム世界の近代に対する様々な反応としての「イスラーム復興」の概念を用い、19世紀から第二次大戦までを中心に、イスラームの政治化とその方向性について概観する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

初回にリストを配布する。

イスラーム社会論（秋学期）

イスラーム復興と現代

講師 堀井聡江

授業科目の内容：

第二次大戦後の東西冷戦から今日の「対テロ戦争」まで、中東をめぐる国際秩序の変化は、イスラームが良くも悪くもこれらの秩序に挑戦する原理として、しかし矛盾をはらみつつ援用される契機となった。本講義では「イスラーム復興」の観点から、以上の点を1950年代以降の主要な事例を通じて考察する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

初回にリストを配布する。

開発援助政策論（春学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間的形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎的理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎としたうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の～を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義（OHP使用）、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合に必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山、2007年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

春学期：開発援助政策論

・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所、2004年。

・後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。

・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣、2003年。

・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助） 日本に何ができるか』中公新書、2003年。

秋学期：開発援助政策論

・朽木昭文・野上裕生・山形辰文編『テキストブック開発経済学（新版）』有斐閣、2004年。

・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版、国際開発ジャーナル社、2004年。

・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生（編著）『貧困と開発』シリーズ国際開発：第1巻 日本評論社、2004年。

・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Industrial Clusters in Asia*, Palgrave Macmillan, London, 2005.

・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Flowchart Approach to Industrial Cluster Policy*, Palgrave Macmillan, London, 2008.

開発援助政策論（秋学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木 昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間の形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎的理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎としたうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の ~ を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義(OHP 使用)、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合には必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山, 2007年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

春学期：開発援助政策論

- ・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所, 2004年。
- ・後藤一美・大野泉・渡辺利夫(編著)『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社, 2005年。
- ・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣, 2003年。
- ・渡辺利夫・三浦有史『ODA(政府開発援助) 日本に何ができるか』中公新書, 2003年。

秋学期：開発援助政策論

- ・朽木昭文・野上裕生・山形辰文編『テキストブック開発経済学(新版)』有斐閣, 2004年。
- ・後藤一美(監修)『国際協力用語集』第3版, 国際開発ジャーナル社, 2004年。
- ・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生(編著)『貧困と開発』シリーズ国際開発：第1巻 日本評論社, 2004年。
- ・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Industrial Clusters in Asia*, Palgrave Macmillan, London, 2005.
- ・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Flowchart Approach to Industrial Cluster Policy*, Palgrave Macmillan, London, 2008.

現代アフリカ論（春学期）

民主化以降を中心とするアフリカの政治

講師 矢澤 達宏

授業科目の内容：

サハラ以南のアフリカ地域の政治に関する講義をおこなう。こんにちの同地域における政治は、基本的に1980年代末より始まった民主化の流れの延長上にある。この民主化により同地域の政治の様相

は大きく変化したが、政治的不安定をとまなう場合も少なくなく、楽観視できるような性質の変化では必ずしもなかった。また、政治の外観は変わっても、その本質は民主化前と大きく変わっていないとする見方も強まってきている。

本科目では、民主化以降の政治のありように重点を置き、民主化によって何がどう変わったのか、変わらなかったのか、それはなぜなのか、といった点を軸に、こんにちのアフリカにおける政治について考えていきたい。

テキスト：

本授業では特定の教科書は使用せず、各トピックごとに要点をまとめたレジュメと、必要に応じて資料を配布する予定である。

参考書：

授業のなかで提示する予定である。

現代韓国朝鮮論（秋学期）

専任講師 西野 純也

授業科目の内容：

日本と朝鮮半島との関わりについて、1945年以降の日韓関係を中心に講義します。従来の日韓関係研究は、国交正常化過程(日韓基本条約締結交渉)に焦点が当てられてきましたが、本講義では戦後日韓関係が両国の国内政治や国際環境の影響を受けつつどのように展開してきたのかを重点的に考察していきます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・李庭植『戦後日韓関係史』中央公論社, 1989年。
- ・金東祚『韓日の和解』サイマル出版会, 1993年。
- ・小此木政夫編『ポスト冷戦の朝鮮半島』日本国際問題研究所, 1994年。
- ・高崎宗司『検証 日韓会談』岩波新書, 1996年。
- ・李東元『韓日条約締結秘話』PHP 研究所, 1997年。
- ・ヴィクター・D・チャ『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣, 2003年。
- ・太田修『日韓交渉 請求権問題の研究』クレイン, 2003年。
- ・吉澤文寿『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐって』クレイン, 2005年。
- ・鏗木昌之他編『朝鮮半島と国際政治』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・小此木政夫・張達重編『戦後日韓関係の展開』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・金慶珠・李元徳編『日韓の共通認識』東海大学出版会, 2007年。
- ・小此木政夫・西野純也編『韓国における市民意識の動態』慶應義塾大学出版会, 2008年。

現代台湾論（秋学期）

講師 渡辺 剛

授業科目の内容：

台湾は、我が国にとって重要な地政学的位置にあり、アジアでは数少ない我が国同様のほぼ完全な自由民主主義国家である。その台湾の現代史の軌跡を逐年的に説明する。特に、かつての権威主義体制の構造、民主化のプロセス、民主化が一応の完成を見た以降における権威主義体制の残滓の影響、民主化と台湾化との関係といった点を中心として論じる予定である。比較政治学、特に権威主義体制論の枠組を利用することも多いので、受講者はこの分野に関する基本的知識を有していることが望ましい。

また、現代の前提となる歴史についても概観し、台湾という社会の成り立ちや、文化的底流についても理解を深めたいと思う。

テキスト：

開講時に指示する。

また、授業中にレジュメ等を配布する。

参考書：

開講時並びに学期中に適宜紹介する。

政治

現代中国論（春学期）
中華人民共和国政治史 教授 国分良成

授業科目の内容：

中華人民共和国の政治史を時代順にあとづけるが、視点は現在に置く。

参考書：

- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書，1999年
- ・天児慧『中華人民共和国史』岩波新書，2004年
- ・国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会，2006年

現代中国論（秋学期）
中国の国際関係 教授 国分良成

授業科目の内容：

中国をめぐる国際関係を様々な角度から具体的に分析する。

参考書：

- ・国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』朝日選書，1996年
- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書，1999年
- ・国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会，2006年

現代中東論（春学期）
中東のエスニシティと政治秩序 教授 富田広士

授業科目の内容：

次の講義項目を予定している。若干変更するかもしれない。

(1) 一体性

- 1 国家概念の重層性
- 2 アラブ・アイデンティティの構成要素

(2) 多様性

- 1 少数宗派・宗教・民族
- 2 地域紛争の構造

(3) 政治文化

- 1 アラブの社会構造
- 2 ベドウィン（遊牧民部族）の意思決定様式

(4) 政治体制と市民意識

テキスト：

立山良司他『国際情勢ベーシックシリーズ 中東』第3版，自由国民社，2002年

参考書：

学期中，三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

現代ラテン・アメリカ論（秋学期）
准教授 出岡直也

授業科目の内容：

ラテンアメリカ諸国の政治の最近の重要な動き（特に、「民主化の1980年代」以後のネオリベラル改革からいわゆる「左傾化」まで）を、主に政党システムに焦点を当てて解明することを試みる。概観的であると同時に、分析的であることを目指したい。

テキスト：

全体を通してのテキストはありません。各部分で、参考書（重要度を明示しつつ）を紹介します。

現代ロシア論（春学期） 教授 横手慎二

授業科目の内容：

ロシアの対外政策を検討する。そこで注目するのは、対外政策で目につく国際政治における影響力の増大という課題と、国際経済との結合による国民生活の向上という課題である。ソ連時代から現代に至るまで、ロシアの対外政策がどのように二つの課題に応えようとしたのか考察することが講義の主要な目的である。具体的には、ソ連時代における二つの課題の追求がどのようなものであったかを確認し、その後、ロシア時代に対米関係や対中関係、対ヨーロッパ

関係において、どのように二つの課題に応えてきたのか、検討する。

講義の項目は以下のとおり。

1. 第二次大戦後のソ連外交における二つの課題
2. ゴルバチョフによる冷戦の終結とその衝撃
3. エリツィン指導部による対欧米政策
4. エリツィン指導部による東アジア政策
5. プーチンによる対外政策の転換
6. 国際政治経済の変化がロシアの対外政策に及ぼした影響
7. 対米関係の変化
8. 対中関係の変化
9. ロシアから見た日本と日露関係の将来

テキスト：

横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶應義塾大学出版会）

シヴィル・ソサエティ論（春学期） 教授 国分良成
准教授 細谷雄一
専任講師 西野純也
客員教授 山本正

授業科目の内容：

詳細については、決まり次第、掲示にてお知らせします。

西洋法制史（通年） 講師 村上裕

〔春学期〕

授業科目の内容：

大陸ヨーロッパ法の基礎となったローマ法の特徴を理解するために、共和政時代からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、国家のあり方と法発展の関係、ローマ人の特徴の一つである現実主義的傾向などが法思考や法制度にどのように反映されているかを、民事訴訟制度の展開なども採り上げて示していきます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントはダウンロードできるようにします。URLやパスワードは第1回授業時に指示します。

参考書：

『概説 西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

〔秋学期〕

授業科目の内容：

現在の法制度の多くは近代において形成された枠組みの中で発展してきたものですが、近代法は突然に現出したものではなく、中世以来のさまざまな伝統に根ざしつつ、多くの変革を経て形成されてきたものです。

そこでこの講義では、ドイツを中心として前近代のヨーロッパ法の流れを辿ることを内容とします。その際の視点の軸にローマ法を置き、ローマ法がヨーロッパ世界においてどのように受容され、近代における体系的・論理的構築物としての法へと展開されていったのかを、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な事情とを対比しつつ、概観していきたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントはダウンロードできるようにします。URLやパスワードは第1回授業時に指示します。

参考書：

『概説 西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

中国政治史（秋学期） 教授 高橋伸夫

授業科目の内容：

主としてアヘン戦争から辛亥革命にいたる中国の近代政治史について語る。最近、政治史はすっかり影が薄くなってしまった。たしかに、過去を「上から」ではなく「下から」、つまり権力の作用とその諸結果からではなく、民衆の経験や視点から復元してみようとする

る近年の社会史の試みは重要であり、次々と注目すべき成果が生み出されている。そうした「新しい歴史学」に馴染んだ者にとっては、この講義はいささか古めかしく映るかもしれない。しかし、そうはいつでも、権力が歴史において果たす役割の重要性は、いかなる社会史家でも否定できないだろう。この講義で学ぶことのできる政治史の基本的知識なしに社会史家のいう「全体をみる眼」を養うことはできない。政治史と社会史はライバルであると同時にパートナーであるべきなのである。社会史の成果については、折を見て言及することになる。

テキスト：

特に指定しない。

中国法制史（通年）

東アジア文化圏の形成と東アジア法文化の歩み

講師 堀 毅

授業科目の内容：

東アジアは悠久な歴史にはぐくまれた中国文化を核とし、漢字を媒体とし、形成された。

本講義ではまず西洋文化圏との比較において東洋文化圏を概述し、次いで東アジア法文化について論を進めたい。

参考書：

授業時に紹介。

東洋政治思想史（春学期）

講師 平野 聡

授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した諸経緯を、個々の段階における統治思想に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

春学期は、儒学思想的伝統社会が内陸アジア文化および西洋と接触する過程でどのように変容するかを扱う。

参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史 17）講談社 2007 年。ほか講義中に紹介する。

東洋政治思想史（秋学期）

講師 平野 聡

授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した歴史的諸経緯を、個々の段階における論理に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもた

らした正負の問題ゆえに、その歴史的内実は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

秋学期は、近代西洋的な国際秩序が導入された結果生まれた近代東アジア社会の思想的葛藤を扱う。

参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史 17）講談社 2007 年。ほか講義中に紹介する。

比較地域研究論（春学期）

比較政治学の理論と枠組み

准教授 粕谷 祐子

授業科目の内容：

最近の比較政治学研究における主要な理論と枠組みを講義します。「比較政治学」の定義は様々ありますが、ここでは理論的観点から世界各国の国内政治（domestic politics）を分析する政治学の一分野、と位置づけています。ですので、念頭においているのは、すでに（日本を含む）ある地域の政治に関心をもっている学生や、国際関係の分析をする際に国内の政治過程にも目をむけたい学生に対し、対象となっている国・地域の政治を理論的に分析するための道具だてを提供するような講義です。各回において、比較政治学の主要のテーマを取り上げ、研究蓄積状況、主な分析枠組み・理論を解説するとともに、いくつかの研究例をとりあげて、理論の応用のしかたやリサーチデザインの設計方法についても検討します。

テキスト：

特になし（講義資料プリントは講師のホームページからダウンロードできるようにします）

参考書：

随時紹介します

現代アフリカ論特殊研究（春学期）

発展途上国の政治と開発

教授 井上 一明

授業科目の内容：

発展途上国（第三世界）における政治体制と開発の問題を分析する際に有効なさまざまな理論・分析枠組みに関する基礎的な文献を輪読する。前半は政治体制論、そして後半は開発関係である。

テキスト：

なし

参考書：

なし

現代東南アジア論特殊研究（春学期）

History of Human Trafficking in Southeast Asia

教授 山本 信人

授業科目の内容：

The phrase “human trafficking” has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argues that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

政治

テキスト：

The seminar will deal with academic articles as will be shown in the class.

参考書：

The basic readings will be shown in the class if necessary.

現代ラテン・アメリカ論特殊研究（秋学期）

ラテンアメリカ政治重要文献講読 准教授 出岡直也

授業科目の内容：

ラテンアメリカ諸国の政治の研究のために重要な文献を講読する。受講者の人数と関心に応じて、後半を受講者のラテンアメリカ政治に関する自由発表に当てることも考えており、受講者と相談したい。

テキスト：

受講者の関心も聞いた上で選択する主にラテンアメリカを事例とする政治学の専門論文。

少なくとも、一部は英語文献となる(週20頁程度までにするつもり)。

比較地域研究論特殊研究（秋学期）

国際開発援助と政治 准教授 粕谷祐子

授業科目の内容：

国際開発援助（ODA）の政治的側面を検討します。ODAは、表向きには被援助国の社会・経済的諸問題を解決するために提供されることが多いわけですが、実際には極めて政治的な要素を含む活動です。ODAの供与は途上国にどのような政治的影響をもたらすのか、また援助国側のどのような政治的要因がODA政策に影響を与えているのか。これらの問題についてODAを受け入れる側、提供する側の両方の角度から検討します。授業では、前半において文献の輪読をおこない、援助と政治に関してどのような争点があるのかを概観し、後半で受講生各自の興味関心にもとづいた研究報告をしてもらいます。前半の各回で読む分量は英語の学術雑誌論文1~2本を予定しているので注意してください。

テキスト：

生協購買部で購入できるパッケージを用意します。

参考書：

随時紹介します

〔国際政治論〕

開発援助政策論（春学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間的形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎の理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎と

したうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の～を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義（OHP使用）、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合に必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山、2007年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

春学期：開発援助政策論

・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所、2004年。

・後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。

・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣、2003年。

・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助） 日本に何ができるか』中公新書、2003年。

秋学期：開発援助政策論

・朽木昭文・野上裕生・山形辰文編『テキストブック開発経済学（新版）』有斐閣、2004年。

・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版、国際開発ジャーナル社、2004年。

・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生（編著）『貧困と開発』シリーズ国際開発：第1巻 日本評論社、2004年。

・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Industrial Clusters in Asia*, Palgrave Macmillan, London, 2005.

・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Flowchart Approach to Industrial Cluster Policy*, Palgrave Macmillan, London, 2008.

開発援助政策論（秋学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間的形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎の理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎としたうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の～を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義（OHP使用）、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合に必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山, 2007年。
講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

春学期：開発援助政策論

- ・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所, 2004年。
- ・後藤一美・大野泉・渡辺利夫(編著)『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社, 2005年。
- ・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣, 2003年。

・渡辺利夫・三浦有史『ODA(政府開発援助) 日本に何ができるか』中公新書, 2003年。

秋学期：開発援助政策論

- ・朽木昭文・野上裕生・山形辰文編『テキストブック開発経済学(新版)』有斐閣, 2004年。
- ・後藤一美(監修)『国際協力用語集』第3版, 国際開発ジャーナル社, 2004年。
- ・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生(編著)『貧困と開発』シリーズ国際開発：第1巻 日本評論社, 2004年。
- ・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Industrial Clusters in Asia*, Palgrave Macmillan, London, 2005.
- ・Kuchiki, A. and M. Tsuji, eds. *Flowchart Approach to Industrial Cluster Policy*, Palgrave Macmillan, London, 2008.

現代韓国朝鮮論 (秋学期) 専任講師 西野純也

授業科目の内容：

日本と朝鮮半島との関わりについて、1945年以降の日韓関係を中心に講義します。従来の日韓関係研究は、国交正常化過程(日韓基本条約締結交渉)に焦点が当てられてきましたが、本講義では戦後日韓関係が両国の国内政治や国際環境の影響を受けつつどのように展開してきたのかを重点的に考察していきます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・李庭植『戦後日韓関係史』中央公論社, 1989年。
- ・金東祚『韓日の和解』サイマル出版会, 1993年。
- ・小此木政夫編『ポスト冷戦の朝鮮半島』日本国際問題研究所, 1994年。
- ・高崎宗司『検証 日韓会談』岩波新書, 1996年。
- ・李東元『韓日条約締結秘話』PHP研究所, 1997年。
- ・ヴィクター・D・チャ『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣, 2003年。
- ・太田修『日韓交渉 請求権問題の研究』クレイン, 2003年。
- ・吉澤文寿『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐる』クレイン, 2005年。
- ・鐸木昌之他編『朝鮮半島と国際政治』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・小此木政夫・張達重編『戦後日韓関係の展開』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・金慶珠・李元徳編『日韓の共通認識』東海大学出版会, 2007年。
- ・小此木政夫・西野純也編『韓国における市民意識の動態』慶應義塾大学出版会, 2008年。

現代国際政治 (春学期)

冷戦史 教授 赤木完爾

授業科目の内容：

このコースでは、テキストに沿って、第二次世界大戦後の国際政治の基調を形作った冷戦の展開を議論していく。扱う時期は大戦直後からおおむね1962年のキューバ危機までを中心とする。しかしその後の展開についても、必要に応じて議論する。コースでは映像資料も活用して、国際政治史を視覚的に追体験して、歴史的な認識を深めることにも留意したい。

テキスト：

ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦 力と平和の追求』赤木完爾・齊藤祐介訳(慶應義塾大学出版会, 2004年)

参考書：

赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源』(1991), 同『第二次世界大戦の政治と戦略』(1997), 同編著『朝鮮戦争』(2003)。その他の参考文献は随時紹介する。

現代ヨーロッパの国際関係 (春学期)

EUの歴史 ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

現代ヨーロッパの国際関係をEU(欧州連合)の歴史を通して説明する。

テキスト：

バンジャマン・アンジェル他著『ヨーロッパ統合』創元社, 2005年

参考書：

田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年

現代ヨーロッパの国際関係 (秋学期)

EUの機関と政策

ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

現代ヨーロッパの国際関係で、EUの歴史を学んでいることを前提に、EUの政策決定過程、EUの諸機関と諸政策(域内、域外)について講義する予定。欧州委員会、理事会、欧州議会、欧州司法裁判所などの諸機関と構成国が繰りひろげる政治、さらには世界でその重要性を増しつつあるEUの対外関係の実態について紹介する。

テキスト：

田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年

参考書：

- ・田中俊郎・庄司克宏編『EUと市民』慶應義塾大学出版会, 2005年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・田中俊郎・小久保康之・鶴岡路人編『EUの国際政治』慶應義塾大学出版会, 2007年
- ・『日本EU学会年報』各号

現代ヨーロッパの国際関係 (春学期)

拡大EUの国際政治 講師 羽場久美子

授業科目の内容：

2007年、27カ国となりヨーロッパのほとんどを覆うこととなった拡大EUは、2007年12月に欧州憲法条約に変わる「リスボン条約」を締結し、さらに新しい次元へと進みつつある。

ヨーロッパは、イラク戦争以降、アメリカのユニラテラリズム(単独行動主義)に対して、マルチラテラリズム(多国間協調主義)をかがけて、アメリカの国際規範・国際秩序に、再検討を促した。また、他方、内に向けては、この間の拡大EUが、必ずしも市民の利益として認識されていないことから、市民を重視し市民の参加民主主義を実現しようと、「民主主義の赤字」にたいして、プランD(Dmocracy, Dialogue, Diversity: 民主主義, 対話, 多様性)をかがけて、新たな「市民参加のヨーロッパ」を作ろうとしている。

これらは、この間、内部でナショナリズムが急成長し、移民排斥や農業問題で対立が顕在化したことの反省でもある。

さらに、ヨーロッパは今後10年を見据えて、未だソソヴォの独立などに揺れるバルカン諸国を組み込み、トルコ・ロシア・中東、さらに中国・インド・日本とも連携しながら、「強いユーロ」と国際的発言力の強化を武器に、国際秩序の中でのヨーロッパの役割強化をめざしつつある。

グローバル化の下で、アジア地域でも「東アジア共同体」ないし東アジアの様々な地域統合の試みが始まっているとき、ヨーロッパはどのような点で、新たな地域統合の教訓となりうるのか。

現在、ヨーロッパで何が起きているのか。何が問題なのか、ヨ

政治

ヨーロッパはどこに進んでいくのか (Quo va dis, Europe?) について、共に検討してみたい。

テキスト：

- ・羽場久美子・小森田秋夫・田中素香編『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店、2006。
- ・羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦 アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』中公新書、2004。

参考書：

- 講義用プリントは、授業の際に配布します。
- ・羽場久美子「拡大 EU の教訓と、東アジア共同体」『海外事情』2007. 6。
- ・羽場久美子『グローバリゼーションと欧州拡大』御茶ノ水書房、2002。
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU 統合の軌跡とベクトル』慶応大学出版会、2006。(羽場久美子「拡大 EU と、ナショナリズム グローバル化と民主化の相克」)
- ・山内進・大芝亮編『衝突と和解のヨーロッパ』ミネルヴァ書房、2007。(羽場久美子「EU・NATO の拡大とイラク戦争」)

国際コミュニケーション論 (春学期)

メディアと国際関係 講師 奥野昌宏

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹起させており、時として国際的な紛争をも生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわちメディア・コミュニケーションをめぐる国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

- ・武市英雄・原寿雄責任編集『グローバル社会とメディア』(叢書現代のメディアとジャーナリズム1)、ミネルヴァ書房、2003年。その他、適宜紹介します。

国際コミュニケーション論

東アジアのメディア・情報・文化 講師 奥野昌宏

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思えます。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

適宜紹介します。

国際政治経済論 (春学期)

国際政治経済学概論

教授 田所昌幸

授業科目の内容：

さまざまな国際経済上の事象の、国際政治上の意義を問うのが、ここで言う国際政治経済学である。その意味で経済学の成果を利用しつつも、これは国際経済問題をめぐる政治学である。この授業では、国際政治経済学の基本的な知見と全体像を、学生に提供することをねらいとしている。

テキスト：

田所昌幸『国際政治経済学(仮題)』(名古屋大学出版会、2008年3月出版予定)

参考書：

- ・ロバート・ギルピン『グローバル資本主義』(東洋経済新報社、1990年)
- ・田所昌幸『アメリカを超えたドル』(中央公論新社、2001年)

国際政治理論 (春学期) / 国際政治理論 (秋学期)

客員教授 葉師寺 泰 蔵

授業科目の内容：

国際政治学は二つの大きなパラダイム(見方)があります。リアリズム(現実主義)とリベラリズム(自由主義)です。

リアリズムは、軍事的パワーをもっている大国が勢力を均衡しながら関係を持つという国際政治の見方(パラダイム)をさしています。つまり、国際政治を動かすのは「現実的(リアリスティック)には軍事力」だという考えです。

一方、リベラリズムは、直訳すると自由主義ですが、経済の自由主義をベースに国家が政治経済的な相互依存関係のネットワークを作りながら動いているというパラダイムをさしています。

リアリズムとリベラリズムは国家の動きに着目した考えですが、実はもう一つのパラダイムがあります。国際政治を一つのシステムと見なし、その「構造」や「秩序」に着目したパラダイムです。それが覇権論や帝国論などです。

なぜ、国際政治学はいくつものパラダイムが併存しているのでしょうか。それは世界全体の中央政府が存在しないからです。言い換えれば世界はアナーキー(無政府)状態です。そのため中央政府が存在する国家と国家のネットワーク関係が紛争や戦争がない状態を保てるかに我々は着目し、どのようなネットワーク状態の場合世界は安定するかに知的努力を傾注するわけです。

このような国家と国家のネットワーク関係を国家や世界の経済を指すマクロ経済と呼ぶことを真似て「マクロ国際政治」と呼びましょう。春学期はこの「マクロ国際政治」を中心に講義します。

国際政治学は、国家と国家のネットワークだけで動いているわけではありません。アジアの金融危機や最近のサブプライムローン問題(米国の低所得者用住宅ローンの焦げ付きを発端に世界の金融機関が不良債権をかかえている問題)、世界的なエネルギー環境問題など、それぞれの国家の中にある企業や組織が「国家を超えてグローバルな世界で活動するために国際政治に大きな影響を与えるからです。私は、このような企業や組織を「SFS」(ステート・フラッグド・セクター 国家の旗を持ったサブナショナルなセクター)と称し、SFSをベースに国際政治を見る見方を「ミクロ国際政治」と呼んでいます。

ミクロ国際政治は、環境問題に関する国連環境会議や G8 取り決め、京都議定書などすぐれて国際的な政策の取り決めで動いています。秋学期はこの「ミクロ国際政治」と中心に講義します。

テキスト：

最初の講義のときに指示する。

参考書：

最初の講義のときに指示する。

国際政治論（春学期）

ASEANの国際関係 講師 小笠原 高 雪

授業科目の内容：

現代東南アジアの国際関係を、東南アジア諸国連合（ASEAN）の形成と発展に焦点をあてながら理解する。ASEANと域外大国の関係、ASEANを中核とする広域枠組も対象とする。時間の余裕があれば、国際関係論にとってのASEAN経験の意味についても議論したい。テキスト：

ガイダンス時に指示する。

参考書：

ガイダンス時に指示する。

シヴィル・ソサエティ論（春学期）

教授 国分 良成
准教授 細谷 雄一
専任講師 西野 純也
客員教授 山本 正

授業科目の内容：

詳細については、決まり次第、掲示にてお知らせします。

西洋外交史（春学期）

現代ヨーロッパの国際政治史 准教授 細谷 雄一

授業科目の内容：

本講義では、第二次世界大戦の起源から冷戦後の現在に至るまでの、現代ヨーロッパ外交史を検討する。第二次世界大戦と冷戦は、我々の生きる時代の土台を形成することになった。世界では米ソ二つの超大国が登場し、ヨーロッパ諸国は二度の世界大戦で国力を大きく失い、植民地独立問題に直面した。かつての威光を失う中で、西欧諸国は統合によって自立と復興を模索し、大西洋同盟によって安全保障を確立することを目指した。複雑化する世界を理解するためにも、戦後外交史を学び、現代国際政治の基礎を提供する。

テキスト：

渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史（新版）』（有斐閣）
細谷雄一『外交』（有斐閣）

参考書：

- ・キッシンジャー『外交（下）』岡崎久彦監訳（日本経済新聞社）
- ・クレイグ＝ジョージ『軍勢力と現代外交』木村修三他訳（有斐閣）
- ・ジョセフ・S・ナイ『国際紛争 理論と歴史〔原書第5版〕』田中明彦・村田晃嗣訳（有斐閣）
- ・ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦』赤木完爾・斎藤祐介訳（慶應義塾大学出版会）
- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官たち』（筑摩書房）

日本外交史（春学期）

教授 添谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日の問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』（ちくま新書、2005年）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず

以下を参照のこと。

五百旗頭真編『戦後日本外交史』（有斐閣、2006年）[新版]

安全保障論特殊研究（秋学期）

大戦略の諸相 教授 赤木 完 爾

授業科目の内容：

国家の安全保障の達成をめざす、大戦略に関する歴史的な経験をゼミ形式で議論していく。政策と戦略についての基本的な思考の枠組みを確認するため、Michael Howard, Lawrence Freedman 両教授の論文（英文）を講読した後、テキストに取り扱われている事例を個別に検討していく。

テキスト：

ウィリアムソン・マーレー、マクレガー・ノックス、アルヴィン・バーンスタイン編著『戦略の形成 支配者・国家・戦争』全2冊、石津朋之・永末聡監訳（中央公論新社、2007年）
論文については開講時に配布する予定。

参考書：

必要に応じて随時、指示します。

現代東南アジア論特殊研究（春学期）

History of Human Trafficking in Southeast Asia 教授 山本 信 人

授業科目の内容：

The phrase “human trafficking” has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argues that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

テキスト：

The seminar will deal with academic articles as will be shown in the class.

参考書：

The basic readings will be shown in the class if necessary.

国際政治経済論特殊研究（春学期）

グローバリゼーションについて 教授 田所 昌 幸

授業科目の内容：

今日グローバリゼーションと総称されている国際政治経済上の現在の関心事について、アメリカ雑誌である、Foreign Policy に掲載される最新の関連論文を輪読する形で授業を展開する。

参考書：

田所昌幸『国際政治経済学（仮題）』（名古屋大学出版会、2008年）

西洋外交史特殊研究（春学期）

外交学入門 准教授 細谷 雄 一

授業科目の内容：

本授業では、演習形式にて、外交学についての文献を多角的に講読することを目的とする。現代の世界では、外交方式が大きく変容しつつある。同時に人間性を基礎とした外交の本質には、変わらぬ部分も少なくない。外交がどのように変わったのか、あるいは変わっていないのかを、歴史的な視座から捉え直すことを目指したい。そしてアメリカ、中国、さらには日本の外交についての主要なテキストを読みながら、現代外交について議論を深めていきたい。

政治

テキスト：

- ・細谷雄一『外交 多文明時代の対話と交渉』(有斐閣)
- ・ハロルド・ニコルソン『外交』(東京大学出版会)
- ・A・ジョージ/G・クレイグ『軍事力と現代外交』(有斐閣)
- ・カリエール『外交談判法』(岩波文庫)
- ・ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交 50年』(岩波現代文庫)
- ・高坂正堯『宰相吉田茂』(中公クラシックス)
- ・川島真編『中国の外交』(山川出版社)
ただし絶版などテキストの刊行状況により、扱うテキストが大幅に変更する可能性もあります。

参考書：

初回授業時に参考文献リストを配布予定。

東アジアの国際関係特殊研究 (秋学期)

教授 添谷 芳 秀

授業科目の内容：

This course gives a general overview to the postwar history of international relations in East Asia, including Japan's role therein and Japan's relations with the countries in the region. Each class will be divided into two parts; an introductory lecture by the instructor and discussions by the participants. There will be one or two articles in English assigned for each week. Detailed course plans with the reading assignments will be distributed in the first week of the course.

〔研究会(3年)〕

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 薩 山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。昨年はホップズからカントまで読んだので、今年はそれ以後の主要文献をとりあげたい。詳しくはゼミナリストと相談して決める。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

政治哲学,(現代)政治思想,政治学,平和学の研究

教授 萩 原 能 久

授業科目の内容：

4月に決定した研究会会員の希望にそって、中心的にテーマを設定し、そのテーマを扱った広範囲の重要文献を選定して輪読をすすめていきます。乱読はこうした分野に不可欠ですので、かなりの量の文献を読むことになります。

上記の、いわゆる本ゼミと平行してサブゼミも行います。サブゼミでは1)本ゼミの理解の助けとなるような二次的研究文献の輪読,2)ディベート,3)研究会ホームページの作成,4)三田祭時に毎年刊行している論文集のための研究中間報告を行うこととなります。

テキスト：

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書：

ゼミのなかで随時紹介していきます。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 堤 林 剣

授業科目の内容：

政治思想の古典を輪読しながらディスカッションを行う。

研究会(3年)(秋学期)

准教授 田 上 雅 徳

授業科目の内容：

おもに、西欧政治思想にかかわる諸問題を検討します。

テキスト：

履修者と相談の上、講読文献を決定します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大 沢 秀 介

授業科目の内容：

日本国憲法の基本理念を知るうえで重要なアメリカ憲法について、日本国憲法の現況を踏まえたいうえで、研究を行う。

テキスト：

芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法(第四版)』(岩波書店)および英書

参考書：

大沢秀介『憲法入門(第3版)』(成文堂)

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 小 林 良 彰

授業科目の内容：

あるべき政治の姿を念頭に置きながら、現代の政治過程の実態を調べ、自分が何に関心を持っているのかを、次第に自分自身で掘り進んで行くことを目的とする。その上で、現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、研究成果は三田祭で発表する。

テキスト：

ジョン・ロールズ『正義論』

参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

「ガバナンスの行政学」と現代日本行政システムの分析

教授 大 山 耕 輔

授業科目の内容：

伝統的な「国家中心の行政学」を批判的に検討するとともに、グローバル化のなかの「国から地方へ民間へ」という時代における「ガバナンスの行政学」の可能性と限界について考察します。またそのような視点から、現代日本行政システムを分析します。各自の卒論研究について、問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連のプロセスの導入部分を指導します。

テキスト：

最初のゼミの時間に指示します。

参考書：

担当者の考えを知るには、『日本の民主主義』『エネルギー・ガバナンスの行政学』(ともに慶大出版会),『パブリック・ガバナンス』(日本経済評論社)『行政指導の政治経済学』(有斐閣)などが参考となります。その他「ゼミ紹介」や『法学部専任教員一覧』に掲載されている文献などが参考になります。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 麻 生 良 文

授業科目の内容：

基礎的な教科書(財政学,公共経済学等)の輪読と、各自のテーマについて研究を行ってもらう。研究テーマについては、財政全般,地方分権,高齢化,社会保障,環境問題等,幅広く扱います。

テキスト：

初回に指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代の民主主義をいかに機能させるか

教授 河 野 武 司

授業科目の内容：

現代の民主主義は代議制という形態をとっています。しかし代議制民主主義は必ずしも最善の政治システムではありません。政治的無関心が蔓延する中、様々な危機にさらされている代議制民主主義の諸問題を明らかにしながら、直接民主制の可能性を視野に入れつつ、民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に、適宜紹介します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代自治体行政論 教授 片山 善博

授業科目の内容：

地域間格差の拡大、首長の汚職、三位一体改革、大規模公共事業の中止、道州制導入論議など自治体行政をめぐる様々な問題や課題が発生しているが、これらに対するマスコミの報道や政府のアジェンダ設定あるいは自治体自身の対応には当を得ていないものが数多く見られる。授業では、自治体行政をめぐる日々生起する主要な事象について検討を加えることを通じて、問題発見と課題設定能力、関連情報収集力さらには問題解決能力を身につけることを主眼としたい。

テキスト：

テーマの設定に合わせて示す。

参考書：

田中成之『改革の技術』(岩波書店, 2004年11月)など
その他、テーマに応じてそれぞれ示したい。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

権力理論の考察 教授 霜野 寿亮

授業科目の内容：

権力に関する文献を読み進みながら議論をする。

テキスト：

・盛山和夫「権力」, 東大出版会, 2000年
・杉田 敦「権力」, 岩波書店, 2000年

参考書：

なし

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

脱工業化・グローバリゼーション時代の国民国家の文化・社会変動
先進諸国・日本/オーストラリアの国際社会学
教授 関根 政美

授業科目の内容：

研究会では、学生諸君は2年間私を指導教授として研究活動を行うことになる。高校時代までは、先生の話聞いてノートを書いて覚え、試験でよい点をとるという作業である「お勉強」を中心にしていたはずである。それは、社会にでてから日常・職業生活に困らないような知識・技能を学び、市民として恥ずかしくない生活を送れるようにするためであった。しかし、大学では、自ら研究課題を設定し、そのテーマを中心に調査・資料収集、分析・報告・討論などを行うという「研究活動」を行い、社会に役立つような知識を生み出すことが大きな目的となる(利己主義から利他主義へ)。本研究会の主要テーマは、グローバル化・脱工業化、女性の社会進出、少子高齢化。人口減少の社会変動、人口移動のグローバリゼーションと人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義の「政治社会学」、現代オーストラリア研究に大きく分かれている。入会に当たりテーマの選択に注意してほしい。大学1年次より、研究会活動に慣れておく必要がある。「演習」などの授業に参加しておくことが望ましい。

テキスト：

研究会では、「自由研究」と称して、諸君の自主研究報告を中心とした演習セッション、輪読書を決めて報告・討論を行う特殊研究セッション、また、グループで研究報告を行う合同演習セッションも適宜行う。テキストはそのつど諸君の希望を入れて選択する。自由研究報告は、先行研究を踏まえて各自が収集した参考文献、調査報告を基礎に行う。必要ならば現地調査・インタビュー調査をすること。なお、授業では毎回3~4千字ほどの報告・コメントを作成し2,3名の報告者と司会者・討論者をあらかじめ決めて、討論を

進めていくものとする。活発な討論への参加が自らの成長の源になるのでその気で参加するように

参考書：

研究会指導者の著書・論文は一応目を通しておくこと。

『エスニシティの政治社会学』(名古屋大学出版会, 1994年)

『多文化主義社会の到来』(朝日新聞社, 2000年)

『マルチカルチュラル・オーストラリア』(成文堂, 1989年)

有末・霜野・関根編『社会学入門』(弘文堂, 1996年)

関根政美・山本信人編『海域アジア』(慶應義塾大学出版会, 2004年)

カースルズ/ミラー(関根・関根訳)『国際移民の時代』(名古屋大学出版会, 1996年), D・ヒーター(田中・関根訳)『市民権とは何か』(岩波書店, 2003年), ガッサン・ハージ(保苅・塩原訳)『ホワイト・ネイション』(平凡社, 2003年)などを読みテーマをしっかり考えておくこと。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 有末 賢

授業科目の内容：

社会学の基礎的な概念、見方、分析方法などをまず習得してもらうために、文献を指定して毎週輪読することから始める。秋学期以降は、三田祭での研究発表も含めて、自主的な活動を尊重したいが、本ゼミにおいては、都市社会学を中心とした研究への導入を行いたいと考えている。

テキスト：

春学期は社会学の概論、秋学期については都市社会学、ジェンダー論などの専門書を読む予定である。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

メディアと政治社会について考える

教授 大石 裕

授業科目の内容：

春学期は、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、政治社会学に関する文献や論文を読み、それについて討議する。

秋学期は、それに卒業論文発表が加わる。

その他、合宿、4年生のゼミ、サブゼミへの参加を通して研究を進めていく。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 澤井 敦

授業科目の内容：

社会理論を基盤としながら、現代社会のさまざまな動向について考察することを目的とする。社会理論および社会学の基礎知識の習得とその応用を目的とする「共同研究」と、各自の卒業論文の作成に向けての「個別研究」を並行させて、授業をすすめていく。

テキスト：

初回授業時に決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

研究会(3年)(秋学期)

「グローバル社会学」への招待 准教授 塩原 良和

授業科目の内容：

この研究会では、「越境する人や文化による、国家・社会のあり方の変化」、「グローバルに拡大・深化する資本主義による、社会や人間関係のあり方の変化」というふたつの観点から、現代世界における社会変動を学んでいきます。たとえば...移民・難民・外国人の増大、国民国家や地域社会の多民族・多文化化とそれに対する行政の対応、越境する文化と個人のアイデンティティの変容、新自由主義と福祉国家、現代先進諸国における貧困と社会的排除...といった問題に関心のある学生のみなさんの参加を希望しています。そして、分断や排除を乗り越えた新しい共同性や連帯のあり方を、みなさんとともに模索していきたいと思ひます。

政治

テキスト：

講義中に随時提示します。

参考書：

同上

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 笠原英彦

授業科目の内容：

基礎的文献を輪読し討論する。

引き続き共同研究を行う。

テキスト：

初回の授業で文献リストを配布する。

参考書：

授業時に適宜指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

近代日本政治研究

教授 玉井 清

授業科目の内容：

近代日本政治に関する基礎的研究書を読み解くとともに、資料収集から分析の方法を学びながら、各自卒論のテーマを設定することを目指す。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 増山幹高

授業科目の内容：

この研究会の目的は、社会現象の実証分析方法を習得し、履修者各自の問題意識から、政策的に効果のある提案をいかに政治的に実現していくかという実践的な研究を行うことにあります。とくに履修者独自の研究企画を策定し、仮説を実際のデータから検証し、分析結果を取りまとめることに重点を置きます。また研究成果を説得力のあるプレゼンテーションによって発表し、研究成果を批判的に評価する能力の向上を目指します。

テキスト：

授業で随時案内します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

日本政治思想史・日本政治運動史 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

政治思想史・運動史に関する研究調査方法について学びながら、三田祭発表に向けた共同研究・論文作成を実施し、各自の卒論作成の準備を開始する。

テキスト：

適宜授業中に指示する。

参考書：

適宜授業中に指示する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

中東地域研究のセミナー

教授 富田 広 士

授業科目の内容：

様々な関心と分析方法を用いて、中東問題に取り組み、その中から自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 3 学年度末に提出する論文(12000 字程度)の作成を中心に進める。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交、東アジア研究

教授 国分良成

授業科目の内容：

春学期は基本篇として文献を毎週読み、秋学期は応用篇としてグループ研究を行う。

テキスト：

順次指定する。

研究会(3年)(春学期)

ロシアの政治と外交

教授 横手 慎 二

授業科目の内容：

ロシアを題材にして、ゼミナール形式で、現代の政治と外交を研究する。研究題目は参加者の問題関心によって決める。最近の例で言うと、スターリンについての集団的記憶の問題、ロシアの刑法改正問題、年金問題、農業問題、チェチェン問題、犯罪の問題、カスピ海の資源問題、中ロ両国の経済改革の比較、ロシアの安全保障政策、ユーゴスラヴィアの政治体制などである。こうした問題について、これまでなされてきた研究を読み、解釈やアプローチの違いを知ることが最初の課題である。各人の発表とそれをめぐる自由な議論を通じて、プレゼンテーションや意見交換(討議)の仕方を身につけることを目指す。

テキスト：

特別に利用しない。ただし夏休みの合宿では、必ず英語の本を読むことにしている。また、日頃、英語と日本語の新聞や雑誌を比較しながら読むことを求めている。ロシア語の読める人がいれば、ロシア語の新聞も読んで同様の報告を求める。ただしロシア語は必須ではない。現在では、インターネットの英語版を使うことでかなりの事実を追いかけることが可能だからである。

参考書：

3 年生の春学期は、基本的な本を読むことにしている。これまでアリソン『決定の本質』、ブレジンスキー『地政学で世界を読む』、船橋洋一編『同盟の比較研究』など、また各種の日本語のロシア論を取り上げた。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 井上 一 明

授業科目の内容：

春学期は、政治体制および開発に関する基本的な英語文献を輪読する。

秋学期は、各自の卒業論文のテーマに関連した英語文献のプレゼンテーションをおこなう。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 高橋 伸 夫

授業科目の内容：

主として中国政治史の分野で研究を行うための基礎体力の養成を目的とする。古典的な中国社会論および比較政治学的観点から書かれた中国研究の文献のリーディング、およびそれに基づく討論が中心となる。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 准教授 出岡 直 也

授業科目の内容：

ラテン・アメリカ諸国の政治を重要な文献(主に英語)の講読と参加者の研究報告などによって学びます。参加者は、4 年次の卒業論文の執筆まで、様々な義務を負うこととなります。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

途上国比較政治

准教授 粕谷 祐子

授業科目の内容:

「発展途上国」と括られる諸国の政治は非常に多様ではありませんが、その一方で、先進国との対比ではこれらの国が共通してもつ政治的課題が存在します。本研究会ではそのような発展途上国地域に共通してみられる政治問題を、理論的観点から検討します。地域研究が得意とする、ある国・地域の固有性の探求や、開発問題、すなわち途上国の貧困をどう改善できるのか、という政治学の領域を超えた問題の検討は本研究会の主眼ではありません。

本研究会では、以下のような目的を受講生が達成することを期待しています。

- (1) 途上国政治研究において、なにが問題になっているのか、どのような理論(因果関係に関する知見)が蓄積されているのかを知り、途上国政治研究の全体像を把握する。
- (2) アカデミックな問いの立て方、議論のしかたを身につける。
- (3) 現実におこっている現象に対し、理論を応用して分析できるようになる(できれば自分で仮説・理論をつくれるようになる)。
- (4) 自分の興味のあるトピックについて独自に探求するスキルを身につける。
- (5) プレゼンテーションおよび論文を書くスキルを伸ばす。

以上の目的達成のため、春学期には、途上国諸国が抱える政治問題の理論的把握を目的とした、文献の輪読とディスカッションをおこないます。秋学期には、ゼミ生が各自選んだトピックに関する自主研究とその報告をおこないます。

テキスト:

生協購買部で教材コピーを購入してください。

参考書:

随時紹介します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

アメリカ合衆国政治研究

准教授 岡山 裕

授業科目の内容:

アメリカの政治と政治学的な分析の基礎を身につけてもらうために、幅広い分野から基本的な文献(主に英語)を講読し議論します。とくに今年は11月に大統領選挙が行われるため、それに関連した文献を多く用いる予定です。また各学期を通じて、各自興味のある分野について小論をまとめてもらいます。秋学期については、次年度の卒業論文作成に向けて、まとまった研究計画を執筆してもらいます。

テキスト:

授業開始時に指定します。

参考書:

授業時に随時紹介します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

EUの政治

ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容:

ヨーロッパ連合(EU)に関する英文の文献を読みながら、卒業論文の準備をする。

テキスト:

Roy Ginsberg, *Demystifying the European Union*, Rowan and Littlefield, 2007.

参考書:

- ・田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EUと市民』慶應義塾大学出版会, 2005年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・田中俊郎・小久保康之・鶴岡路人編『EUの国際政治』慶應義塾大学出版会, 2007年

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 添谷 芳秀

授業科目の内容:

国際政治と日本外交の関連に着目し、戦後史を概観するとともに様々な分析枠組みを検討する。特殊(個別的事象)と普遍(一般的意義付け)の間を柔軟に往復する分析力と、具体的出来事の連なりを構造的に把握する能力を養いたい。

テキスト:

適宜指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代国際政治・安全保障研究

教授 赤木 完爾

授業科目の内容:

現代国際政治ならびに安全保障問題の重要な論点を理解するために、基本文献を輪読し、議論するとともに各自の研究発表などを行う。

テキスト:

研究会において使用する文献リストは開講後配付する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 田所 昌幸

授業科目の内容:

20世紀の国際政治史を概観するとともに、国際政治学のいくつかの古典の輪読を行う。

テキスト:

授業の進行に応じて指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 山本 信人

授業科目の内容:

ゼミ員個々人の関心のあるテーマに関する研究を深める作業をおこなう。自分の研究だけではなく、他者の研究を読む・聞くことにより、視野を広げること期待できる。同時に、定期的に共通読書をおこない、ものの考え方を学び、知識を共有することをめざす。

〔研究会(4年)〕

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 薩山 宏

授業科目の内容:

社会科学の古典的書物を精読する。昨年はホプズからカントまで読んだので、今年はそれ以後の主要文献をとりあげたい。詳しくはゼミナリストと相談して決める。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

政治哲学,(現代)政治思想,政治学,平和学分野での
卒論作成に向けて

教授 萩原 能久

授業科目の内容:

3年生、院生と合同の「本ゼミ」に参加することとは別に、4年生のみで、各人が自由に選んだテーマでの卒論の中間発表を行っています。

テキスト:

用いませぬ。

参考書:

ゼミの中で随時紹介していきます。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 堤 林 剣

授業科目の内容:

卒論中間報告を中心にディスカッションを行う。

政治

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大 沢 秀 介

授業科目の内容：
各自が選択したテーマにしたがって、卒業論文作成にあたる。
テキスト：
特になし
参考書：
特になし

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 小 林 良 彰

授業科目の内容：
現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、現代の政治過程の分析を行う。研究成果は、最終的に各自の卒業論文として提出する。
テキスト：
統一したものは使用しない。
参考書：
各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
「ガバナンスの行政学」の視点から各自の卒論作成指導
教授 大 山 耕 輔

授業科目の内容：
「ガバナンスの行政学」の視点から、各自の卒論作成を指導します。問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連の段階に応じて中間報告を求め、コメントします。最終的には、各自の卒論を集めて1冊の『7期生卒論集』として製本し研究室に「永久保存」します。また優秀な作品は、政ゼミ委員会編集の『政治学研究』に投稿できるよう指導します。
テキスト：
とくに指定しません。
参考書：
行政学のテキストに限らず、政策研究やガバナンス論についての本や論文、新聞・雑誌など各自の問題関心にしたがって良書と出会い、どんどん読み進めて欲しい。論文の考え方や書き方についての参考書も自分にあったものを選ぶとよい。ネット検索だけでは限界がある。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
現代の民主主義をいかに機能させるか
教授 河 野 武 司

授業科目の内容：
現代の民主主義は代議制という形態をとっています。しかし代議制民主主義は必ずしも最善の政治システムではありません。政治的無関心が蔓延する中、様々な危機にさらされている代議制民主主義の諸問題を明らかにしながら、直接民主制の可能性を視野に入れつつ、民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。
テキスト：
研究会会員と相談して決めます。
参考書：
授業中に、適宜紹介します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
社会学理論の考察 教授 霜 野 寿 亮

授業科目の内容：
各自の卒論作成に関して個別の指導を行う。
テキスト：
なし

参考書：
なし

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
脱工業化・グローバル化時代の国民国家の文化・社会変動
先進諸国・日本/オーストラリアの国際社会学
教授 関 根 政 美

授業科目の内容：
3年生の間に「お勉強」から「研究活動」への気持ちの転換を終わった諸君である関根研究会4年生の活動は、基本的には卒業論文作成のための研究活動が中心となる。3年春合宿で報告した1万字論文の内容を土台に研究活動を継続する。と同時に、4年生は春学期中の研究会の本ゼミセッションでは3年生の研究指導を行う。ただし、春合宿以降に卒論テーマの変更をした場合は、その旨研究会指導教授に直ちに報告すること。報告に際してパワーポイント(配布資料準備)などの使用を推奨するが、その場合でも報告書3~4千字レポートは人数分作成し配布する。春学期中就活に勤しむものが多いが、6月上旬までには授業に復帰することを原則とする。授業に一度も参加しないものは、4年生春学期の2単位は与えない。
テキスト：
3年との合同で行う研究会「本ゼミ」セッションでは、3年生が使用するテキスト・論文を利用する。なお、諸君より読みたい著書なり論文があれば申し出ること。

参考書：
各自が、図書館等で卒論作成に必要な参考文献を探して読んでおくこと。現代社会変動研究の研究会なので統計は最新のものを利用すること。インターネット検索で入手できないものは、図書館所蔵の雑誌論文等を検索すること。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 有 末 賢

授業科目の内容：
卒業論文の指導を行う。春学期には、各自の論文のテーマを確定し、文献・資料を読み、調査も行う。夏合宿以後は、中間報告をし、場合によっては個別指導も取り入れる。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 大 石 裕

授業科目の内容：
各人の卒業論文の発表を中心に授業を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 澤 井 敦

授業科目の内容：
各自の卒業論文の作成に向けて、報告・討議、また個別相談をおこなう。
テキスト：
特に指定しない。
参考書：
卒業論文のテーマに応じて、各自に紹介する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)
日本政治史および日本行政史 教授 笠 原 英 彦

授業科目の内容：
卒業論文の作成を指導する。
テキスト：
特に指定しない。
参考書：
授業時に適宜指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 近代日本政治研究	教授 玉井 清
-------------------------------	---------

授業科目の内容:

卒論完成に向け、各自のテーマに従い発表を行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	教授 増山 幹高
-------------------	----------

授業科目の内容:

前年度の履修を前提として、そこで培った研究企画・分析能力を活用し、活字媒体において成果を公表していきます。

テキスト:

授業で随時案内します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 日本政治思想史・日本政治運動史	准教授 小川原 正道
--------------------------------------	------------

授業科目の内容:

卒業論文の作成に向けた報告・討議、個別指導を行う。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業中に適宜指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 中東地域研究のセミナー	教授 富田 広士
----------------------------------	----------

授業科目の内容:

中東問題に様々な関心と分析方法を用いて取り組み、その中で自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 卒論の作成を中心に進める。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 現代中国政治・外交、東アジア研究	教授 国分 良成
---------------------------------------	----------

授業科目の内容:

卒業論文の中間報告を行う。

研究会(4年)(春学期) ロシアの政治と外交	教授 横手 慎二
---------------------------	----------

授業科目の内容:

卒業論文の作成を目指して、ゼミナール形式で授業を進める。プレゼンテーションやそれをめぐる議論での貢献度が重視される。論文は基本的に、4万字程度、脚注の付いたアカデミックなものとすることを求めている。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	教授 高橋 伸夫
-------------------	----------

授業科目の内容:

参加者の研究報告とそれに基づく討論を通じて、卒業論文の完成をめざす。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	准教授 出岡 直也
-------------------	-----------

授業科目の内容:

卒業論文の執筆に向けて、文献講読と研究報告を行います。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 途上国比較政治	准教授 粕谷 祐子
------------------------------	-----------

授業科目の内容:

各自の卒業論文の作成に向けて、報告、討議、個別指導をおこないます。

参考書:

適宜紹介します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) アメリカ合衆国政治研究	准教授 岡山 裕
----------------------------------	----------

授業科目の内容:

前年度に引き続き、アメリカ政治に関わる重要文献を講読して議論する以外に、卒業論文に向けた個人研究の発表と討論を行いたいと考えています。今年は大統領選挙が行われるため、それに関わる文献を重点的に取り上げる予定です。

テキスト:

授業開始時に指定します。

参考書:

随時紹介します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	教授 小此木 政夫
-------------------	-----------

授業科目の内容:

前年度に蓄積した知識と磨かれたセンスを生かして、卒業論文テーマを作成する。テーマを設定し、情報を自分なりに体系化し、説得力と独創性のある論文を完成しなければならない。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) EUの政治	ジャン・モネ・チェア 教授 田中 俊郎
----------------------------	---------------------

授業科目の内容:

卒業論文を作成する。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	教授 添谷 芳秀
-------------------	----------

授業科目の内容:

卒業論文の研究および作成に関する指導を中心に行う。

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 卒業論文指導	教授 赤木 完爾
-----------------------------	----------

授業科目の内容:

卒業論文の完成に向けてゼミ生各自の卒業論文にかかわる研究報告とそれに対する指導を中心に進める。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)	教授 山本 信人
-------------------	----------

授業科目の内容:

卒業論文の中間報告と卒業論文作成。

研究会(4年)(春学期) ヨーロッパ外交史の研究	准教授 細谷 雄一
-----------------------------	-----------

授業科目の内容:

ヨーロッパ外交史に関係する文献を幅広く講読する。またそのためにも、多様な国際政治学の著書や、歴史に関する著書、古典的な文献なども読み進めたい。歴史を基礎に、現代の国際政治の複雑さや多面性を理解するための知的な体力を養って頂きたい。卒業論文作成にあたっての指導も、同時に行うことになる。

テキスト:

初回授業で扱うテキストを紹介する。

政治

参考書：

- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣アルマ）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣アルマ）
- ・キッシンジャー『外交（上・下）』（日本経済新聞社）
- ・ルネ・ジロー『国際関係史』（未来社）
- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官』（筑摩書房）

〔社会科学科目〕

〔選択 法学系列〕

民法 A / 民法 (春学期)

家族法

教授 犬伏由子

授業科目の内容:

家族法と呼ばれている分野(民法 親族)を対象とします。現代において、家族に関する意識、行動、価値観が大きく変化していますが、講義では、現代家族のあり方を踏えて、家族法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト:

講義開始時に指示する

参考書:

久貴忠彦他編「家族法判例百選(第6版)」有斐閣

民法 B / 民法 (秋学期)

相続法

教授 犬伏由子

授業科目の内容:

家族法と呼ばれている分野の中で民法 相続編を対象とします。人の死により、生前その者に属した権利・義務は、日本においては、家族を中心とした承継のルールに従うことになります。講義では、現代家族のあり方も踏えて、相続法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト:

講義開始時に指示する

参考書:

・久貴忠彦他編「家族法判例百選(第6版)」有斐閣

商法 A / 商法 (春学期)

講師 杉田貴洋

授業科目の内容:

商法分野のうち、会社法の基本事項と考え方を理解することを目的とする。

会社法は、平成17年の改正により、新たに会社法という名前の法律ができ、商法典から独立したが、実質的には商法の主要な一分野である。会社には、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の4種類がある。この、会社の種類を定め、あるいは会社に関わる人々の利益を調整する法律が会社法である。すなわち、会社法は、会社の組織・運営・管理について定める法律である。近時、企業の不祥事や、あるいはM&Aなどが社会的にも注目を浴び、会社は誰のものか、どのように統治されるべきかといった議論も盛んである。こうした議論をするにも、会社法を理解しておくことが不可欠である。

企業や経済といった分野に関心のある諸君はもちろん、これまであまり縁がないと思っていた諸君にも、本講義をよすがとして、その関心の幅と奥行きを拓けていただければ幸いです。

テキスト:

山本為三郎「会社法の考え方 第6版」(八千代出版、平成18年)

参考書:

・宮島司「新会社法エッセンス 第2版」(弘文堂)
 ・大賀祥充「新会社法のエッセンス」(法律文化社)

商法 B / 商法 (秋学期)

講師 杉田貴洋

授業科目の内容:

商法分野のうち、会社法の基本事項と考え方を理解することを目的とする。

会社法は、平成17年の改正により、新たに会社法という名前の法律ができ、商法典から独立したが、実質的には商法の主要な一分野である。会社には、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の4

種類がある。この、会社の種類を定め、あるいは会社に関わる人々の利益を調整する法律が会社法である。すなわち、会社法は、会社の組織・運営・管理について定める法律である。近時、企業の不祥事や、あるいはM&Aなどが社会的にも注目を浴び、会社は誰のものか、どのように統治されるべきかといった議論も盛んである。こうした議論をするにも、会社法を理解しておくことが不可欠である。

企業や経済といった分野に関心のある諸君はもちろん、これまであまり縁がないと思っていた諸君にも、本講義をよすがとして、その関心の幅と奥行きを拓けていただければ幸いです。

テキスト:

山本為三郎「会社法の考え方 第6版」(八千代出版、平成18年)

参考書:

・宮島司「新会社法エッセンス 第2版」(弘文堂)
 ・大賀祥充「新会社法のエッセンス」(法律文化社)

商法 A / 商法 (春学期)

手形・小切手法

教授 島原宏明

授業科目の内容:

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト:

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版(¥2,500)

参考書:

開講時に指示する。

商法 B / 商法 (秋学期)

手形・小切手法

教授 島原宏明

授業科目の内容:

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト:

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版(¥2,500)

参考書:

開講時に指示する。

労働法 / 労働法 (春学期)

雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
准教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法(使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域)、そして集团的労使関係法(憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響など

政治

を見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社、2008年春出版予定）を使用する予定です。その他必要に応じてWebに講義レジュメをアップロードして進めます。URLは初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣2002）

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』（有斐閣、2006）
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第9版）』（有斐閣プリマシリーズ、2006）

大部の概説書に、菅野和夫『労働法（第7版・補正版）』（弘文堂）

労働法 / 労働法（秋学期）

雇用される労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する
准教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域）、個別的労働関係法（使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域）、そして集団的労使関係法（憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域）に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社、2008年春出版予定）を使用する予定です。その他必要に応じてWebに講義レジュメをアップロードして進めます。URLは初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣2002）

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』（有斐閣、2006）
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第9版）』（有斐閣プリマシリーズ、2006）

大部の概説書に、菅野和夫『労働法（第7版・補正版）』（弘文堂）

経済法 / 経済法（春学期）

教授 田村 次朗

授業科目の内容：

経済法は、資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では、経済法について、その理論的支柱である独占禁止法を中心に、法的論点について具体的事例を使い解説する。ただし、本講義では、経済法の理論的側面だけでなく、企業法務など実務において、実際に経済法がどのような機能を果たしているのか、実務特有の問題意識もあわせて解説する。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂

2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

経済法 / 経済法（秋学期）

教授 田村 次朗

授業科目の内容：

本講義は、経済法 においてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として、資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に、経済法を理解する上で重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し、多角的視点から、経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば、企業戦略と独占禁止法の関係、経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界、さらに、近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス（法令遵守）などを取り上げる。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

〔選択必修 経済学・商学系列〕

経済政策 / 経済政策（春学期）

政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

経済政策 / 経済政策（秋学期）

政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

授業科目の内容：

春学期開講の経済政策（ ）に続いて、経済政策の各論を議論する。今年度は福祉政策を中心に行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業計画を参照。

財政論 / 財政論（春学期）

市場の失敗と政府の役割 講師 畑 農 鋭 矢

授業科目の内容：

財政の存在意義や政府の経済政策の帰結について、俗説に惑わさ

れず、経済学的に理解できる見識を養う。具体的には、経済における政府部門の役割に関して財政学や公共経済学の理論を学習し、市場の役割と市場の失敗、政府の役割と政府の失敗について学習する。また、現実データの概観を通じて、財政の歴史や様々な政策の意義、また現代財政が直面する諸問題について理解を深める。

テキスト：

(予定) 畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年2~3月出版予定。

講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書：

(易しい順)

- ・小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。
- ・井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。
- ・井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。
- ・アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房、2006年。

財政論 / 財政論 (秋学期)

財政各論 (租税と公共支出) 講師 畑農鋭矢

授業科目の内容：

財政学や公共経済学の理論を基礎として、租税の役割や経済効果、公共支出の機能や現代的課題、財政赤字・政府債務の経済効果について個別具体的に学ぶ。また、現実データの概観を通じて、租税と公共支出の歴史的意義や経済的帰結、また現代において直面する諸問題について理解を深める。

テキスト：

(予定) 畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年2~3月出版予定。

講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書：

(易しい順)

- ・小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。
- ・井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。
- ・井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期)

国際経済論 (通年) 経済学部 教授 竹森俊平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期) /

国際経済論 (通年) 商学部 教授 和気洋子

授業科目の内容：

世界経済はいつも変動の中にある。それがどのような変動として

実際に観測されるか、その変動要因が何であるか、その変動をどのように管理・統治できるか、その変動メカニズムをどのように理論化できるか、そして今後の世界経済をどのように展望できるかなど、知的関心は広くて深い。今21世紀を迎え、世界経済では、グローバル化の功罪、WTOの役割、FTAの進展、EU通貨統合の進展、東アジア地域の変容、資源・エネルギー問題の深刻化、貧困問題・地球環境問題・安全・安心の暮らし・企業の社会的責任の視点など、新たな課題に向けて、新たな挑戦が始まっている。本講義では、国際経済論 / 国際経済論 を通じて、現代および将来の産業経済社会をめぐる諸課題の本質を探る手がかりを得るために、イギリス産業革命から現代社会に至る技術進歩と経済発展の歴史とそれに関わる諸理論を展望し、そのなかで貿易政策論・国際マクロ経済論・開発経済論・環境経済学などで得られる学説史的な知見がいかに援用できるかを実践的に論じる。

参考書：

- ・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー共著『入門・国際経済学』有斐閣2003年
- ・森田・天野編著『地球環境問題とグローバルコミュニティー』岩波書店2002年
- ・松村・関下・藤原・田中『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社2003年

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期) /

国際経済論 (通年) 商学部 教授 遠藤正寛

授業科目の内容：

国際経済学 (国際貿易・国際金融) の基礎を講義します。

テキスト：

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, Seventh Edition," Addison Wesley, 2005 (旧版で翻訳書有)

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期)

国際経済論 (通年) 講師 大東一郎

授業科目の内容：

本授業の目的は、国際貿易論 (直接投資を含む) の標準的内容を理解し、国際貿易にかかわる諸問題を自ら経済学的に考察できる基礎的能力を養成することである。歴史・制度・現状の説明は必要最小限とし、経済理論的な考え方に重点を置いて講義する。

1. 一般均衡による国際貿易均衡

自由貿易の下での経済均衡を、部分均衡モデルから始めて一般均衡モデルによって説明する。自給自足均衡との比較を通じて貿易利益の概念を理解し、交易条件の変化と貿易利益、経済成長と貿易利益との関係を考察する。またオファー曲線、貿易均衡の安定性など、貿易モデルの主要な考え方や分析用具も紹介する。一般均衡モデルで貿易均衡の分析が自らできるようにする。

2. リカード・ミルの貿易理論

生産技術の国による違いが国際分業 (貿易) の原因となることに注目したリカードによる貿易理論を紹介する。比較優位の概念を一般均衡モデルで理解できるようにする。

3. ヘクシャー=オリーンの貿易理論

生産要素の賦存状態の違いが国際分業 (貿易) の原因となることに注目したヘクシャー=オリーンによる貿易理論 (HO 理論) を解説する。とくに、2財2要素モデルで4つの代表的な定理を取り上げる。具体的には、要素賦存量と財の生産量との関係 (リブチンスキー定理)、財価格と要素価格との関係 (ストルパー=サミュエルソン定理)、要素価格均等化定理、要素賦存と比較優位との関係 (国際分業定理) を理解する。

4. 特殊要素モデル

HO 理論を各財の生産部門間を移動できない生産要素がある場合の貿易モデルに修正した特殊要素モデルを取り上げる。

5. 規模の経済性・不完全競争の下での国際貿易理論

規模経済性、製品差別化の下で生じる国際貿易の理論を取り上げる。産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易均衡の

政治

性質や必要となる政策などを扱う。

6. 完全競争市場の下での貿易政策

完全競争のもとでの政府の貿易制限政策の効果を、主に一般均衡モデルで考察する。輸入関税、輸入数量制限、輸出補助金、生産・消費政策、最適関税の理論を取り上げる。

7. 不完全競争市場下での貿易政策

不完全競争の下での貿易政策として、主に戦略的貿易政策の議論を紹介する。

8. 資本移動・直接投資・産業保護政策

貿易と密接に関連する国際資本移動や多国籍企業の活動を考察する。国際要素移動・直接投資と貿易均衡、幼稚産業保護論などを取り上げる。

9. その他

授業時間に余裕があれば、近年増加しつつある地域経済統合、政治経済学の議論にも触れる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

(a) 伊藤元重・大山大道『国際貿易』岩波書店、1985年

(b) Krugman, P. and M. Obstfeld, International Economics: Theory and Policy, Addison Wesley

などが代表的であるが、授業で参考文献リストを配布する予定。

国際経済論 / 国際経済論 (春学期)

講師 坂元浩一

授業科目の内容：

本授業の目的は、国際経済に関わる理論と政策を学ぶことです。歴史は基本的事項のみとして、基礎理論の十分な理解と実践的な応用力を涵養することを主眼とします。他の類似科目との違いは、講師の国連マクロ経済専門家、日本政府委託コンサルタント(援助調査)、招聘途上国官僚研修講師の経験を生かして、実務とフィールド経験が加わるということです。講師が訪問した30か国(延べで50回程度訪問)の経済状況や政策課題も紹介します。

指導方法は講義形式が中心ですが、インターネットも駆使したりリアルタイムの情報やデータを使って「今日」の経済の分析も行います。

春学期と秋学期は対象とするテーマが異なります。比較的にみると、春学期は国際経済学の基礎理論と国際経済の全体を理解することが中心で、秋学期においては開発金融を含む国際金融が主なテーマとなります。

参考書：

・土屋六郎編著『国際経済学』東洋経済新報社

・伊藤元重『入門経済学』日本評論社

・深海博明『国際経済論』八千代出版

・石井安憲他『入門・国際経済学』有斐閣

・坂本浩一『IMF・世界銀行と途上国の構造改革 経済自由化と貧困削減を中心に』大学出版(2008年)

国際経済論 / 国際経済論 (秋学期)

講師 坂元浩一

授業科目の内容：

本授業は春学期の授業を踏まえて開講されます。目的は同じで、国際経済に関わる理論と政策を学ぶことです。歴史は基本的事項のみとして、基礎理論の十分な理解と実践的な応用力を涵養することを主眼とします。他の類似科目との違いは、講師の国連マクロ経済専門家、日本政府委託コンサルタント(援助調査)、招聘途上国官僚研修講師の経験を生かして、実務とフィールド経験が加わるということです。講師が訪問した30か国(延べで50回程度訪問)の経済状況や政策課題も紹介します。

指導方法は講義形式が中心ですが、インターネットも駆使したりリアルタイムの情報やデータを使って「今日」の経済の分析も行います。これは、講師が毎年実施している日本政府や地方政府の官僚を対象とした集中実践セミナーの経験を生かしたものです。

春学期と秋学期は対象とするテーマが異なります。春学期におい

て国際経済学の基礎理論と国際経済の全体を理解した後を受けて、秋学期においては開発金融を含む国際金融が主なテーマとなります。

現在の国際経済の最重要テーマとなっている国際金融に関する講義の多くは、民間金融を中心とするものです。本授業においては、そのような狭義の国際金融のみならず、低所得国を主な対象とする公的開発金融ないし経済協力も扱います。双方が相俟って総合的な国際金融の理解となります。ただし、民間金融の比重が大きく、為替レートや外国為替取引の詳しい説明を行います。

その他のテーマについては、下記の「授業の計画」を参照してください。

参考書：

春学期と同じ

〔選択 経済学・商学系列〕

計量経済学 / 計量経済学 / 計量経済学 (春学期集中)

経済学部 准教授 田中辰雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎(不偏性・効率性・古典的仮定、t値、F検定など)、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行う事になる。一部屋のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便を生じうるのを覚悟されたい。成績は2回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する(最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかっておればよい)。

経済史 / 経済史 / 経済史 (春学期集中)

経済学部 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

この授業は、「いつでも、どこでも」を基本とする100% e-learningによる授業である。したがって、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web上で配信される講義を、曜日あるいは時間帯を問わずに、2008年7月20日(日)午後10時までの約3カ月半のあいだに自分のスケジュールにあわせて履修することになる。履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて成績評価を行う(ただし、面接を課すこともある)。

講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観するが、特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

参考書：

・中村隆英『日本経済』(第3版)東京大学出版会

・新保博『近代日本経済史』創文社

・梅村又次他(編)『日本経済史』全8巻、岩波書店

・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

経済史 / 経済史 / 経済史 (秋学期集中)

経済学部 教授 飯田 恭

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における特異性と、その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標としたい。具体的な講義内容はおよそ以下の通りである(若干の

変更がありうる。

- ・序論：研究史と本講義の基礎視角
 1. 「発展段階」の理論
 2. 農業発展の「二つの道」(アメリカ型・プロシア型)ないし「ドイツの特殊な道」
 3. 「ヨーロッパの特殊な道」
- ・古代の概観
 1. 農業の発達と母系制・父系制
 2. 古代ローマと古ゲルマン
- ・中世 「ヨーロッパの特殊な道」の起源
 1. 中世初期の「農業革命」と「ヨーロッパ」の生成
 2. 封建社会の構造：在地領主制・フーフエ制・三圃制・「西洋家族」
 3. 中世盛期の人口・経済発展と「ヨーロッパ」の拡大
 4. 中世後期の農村荒廃
- ・近世 「ヨーロッパ」の多様化
 1. 領土支配：近世ヨーロッパ農業の二元性(エルベの東西)
 2. 家族・相続慣行：ヨーロッパの地域的個性の根源
 3. 人口動向：ヨーロッパ的結婚パターンと受胎調節の始まり(フランスなど)
 4. 「封建制」対「資本主義」? プロイセン・ドイツの位置づけ
- ・近代
 1. 「農民解放」の概念と諸類型：農村における自由と個人主義の射程
 2. 「農民解放」と産業革命
- ・ヨーロッパと日本の農村発展 異文化間比較

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

リストを配布する。

金融論 / 金融論 (春学期)

経済学部 教授 吉野直行

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣
 - ・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
 - ・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
- その他の参考文献は、講義の中で説明する。

金融論 / 金融論 (秋学期)

経済学部 教授 塩澤修平

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

・塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

適宜指示する。

労働経済論 / 労働経済論 (春学期)

経済学部 教授 赤林英夫

授業科目の内容：

労働経済論では、雇用、労働時間、賃金格差、昇進、などの、職

業人生にとって重要な要素が市場でどのように決まるのか、これらに関する政策にはどのような意義があるのか、経済理論と統計分析を利用して理解する。さらに、近年の労働経済学は、家庭や教育などを含め、およそ個人の一生に関わるすべてを包含する理論と実証分析を展開しつつある。その意味で、労働経済論を学ぶことは、容易にとらえることのできない「個人」を分析対象としながら、我々自身が日々何を求めて働き、生きているのかを振り返るといって、きわめてリアルな作業でもある。そのような視点から、本講義では、労働経済学の標準的な内容を概観し、経済理論と現実の労働市場、そして政策との関わりを考察する。

春学期では、労働者の主体的行動に重点を置きながら、賃金格差の決定要因について、その主たる要素を議論する。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

労働経済論 / 労働経済論 (秋学期)

経済学部 教授 太田聡一

授業科目の内容：

春学期につづいて標準的な労働経済学の内容を講義する。ここから議論のウエイトは、企業による労働需要、企業内労働市場の諸問題、失業問題などに移していく。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

社会保障論 / 社会保障論 / 社会保障論 (春学期集中)

再分配政策の政治経済学 商学部 教授 権丈善一

授業科目の内容：

オムニバス形式の寄付講座に出席しては、実業界をはじめとした人たちの話のノートをとるのに忙しく過ごしたりしている三田での生活の中、週に一コマくらいこういう講義があってもいいのではないかとこのような授業を行う。

この国で生きていくために知っておくことは必須であるはずなのに、実はほとんどの人たちがなにも知らない社会保障、この国の進路を考えるうえで決定的に重要な役割をはたしているのに、そういうことさえ何も知らないでノホホーンと生きている人たちからなる今の社会、大学、三田のキャンパス。そういう中、まじめにこの国の未来や公の出来事について深く考えてみるという、ビジネスなどとはほど遠く金銭的な御利益がいかにもなさそうなことを考えてもらうというのがこの講義の趣旨である。

今年は、いろいろとおもしろい映画やドキュメントのDVDが手に入りそうである。できる限り、講義の中でそうした映像を鑑賞し、水曜日の昼下がり、三田のキャンパスの一角で君たちに非日常を味わってもらおうと思う。

また、社会保障関連の文献を読んでもらっては、レポートを書いてもらう、そういう一昔も二昔も前であれば当たり前だったはずの学生生活を味わってもらいたい。文献は、できるだけ、旧図書館リザーブブックコーナーに置いておく。暇があれば、趣のある赤煉瓦の旧図書館にこもり読書をする。そういう枠でレトロなライフスタイルも味わってもらおう。

講義といえば、時機にあった社会保障関連の題材を使っているりと話をしているために、講義で話している内容は毎年大きく異なっている。よって、最近では、3年次に履修して単位を取得した4年生が飛び入りで講義に出席する傾向もでてきており、個人的には、この傾向を大いに歓迎している。昨年度履修した学生も、時間があれば顔を出すことをすすめたい。特に今年は、社会保障を中心として世の中が大きく動くことは確実である。その動きをほとんど実況中継の雑談で説明することになるだろう。

テキスト：

旧図書館リザーブブックコーナーに配置している

政治

- ・権丈善一（2007）『医療政策は選挙で変える 再分配政策の政治経済学』
 - ・権丈善一（2006）『医療年金問題の考え方 再分配政策の政治経済学』
 - ・権丈善一（2005）[初版，2001]『再分配政策の政治経済学 日本の社会保障と医療』
 - ・権丈善一（2004）『年金改革と積極的社会保障政策 再分配政策の政治経済学』
- および、随時更新される下記ホームページに掲載される文章。
<http://kenjoh.com/>

参考書：

講義の中で適宜指示する。

経営学 / 経営学（春学期） 商学部 教授 榊 原 研 互

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之 / 加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社，2003年
 - ・A. ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房，1999年
- その他講義で随時指示する。

経営学 / 経営学（秋学期） 商学部 教授 渡 部 直 樹

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・A. ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房，1999年
- ・ダウマ＝シュルルダー「組織の経済学入門」文真堂，2007年

会計学（春学期） / 会計学（秋学期） /
会計学（通年） 名誉教授 笠 井 昭 次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行う。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

法律学科 設置 共通科目 政治学科

(外国語科目, 人文科学科目, 自然科学科目,)
数学・統計・情報処理科目

〔外国語科目〕

英語第 (春学期)(秋学期)

時事英語の基礎

教授 辻 幸夫

授業科目の内容:

今年度は一昨年度のシャドウイングを用いた総合提起英語力の増強, 昨年度の高度な知的書籍の読解力増強から一転し, 英語があまり得意でない人のための基礎時事英語に焦点をあてます。英字新聞や時事雑誌記事を読めるような基礎的英語力を身に付けられるように, 特に語彙力の増強には特に気を配りたいと思います。

良いインプットに多く接すれば, アウトプットも良くなっていきます。なるべく多くの記事に接することが大切ですが, 良いものが厳選されており, また予復習ができるように, 基本的に教科書を使い, 要点を素早く的確に把握するような読み方をします。

英英辞典のある人は持参ください。

テキスト:

事前に生協書籍部にて入手できるようにしておきます。

英語第 (春学期)(秋学期)

原典で読むアメリカ

教授 鈴木 透

授業科目の内容:

この授業では, 卒業研究でアメリカに関連するテーマを取り上げる予定の学生や, 将来大学院に進学してアメリカをフィールドとした研究を行いたいと考えている学生を想定して, アメリカを研究対象とする人ならば必ず原典で読んでおくべき史料や重要な文献を分野横断的に網羅し, 英語の読解力とアメリカ研究の両方の能力を充実させることを目的とします。授業の形式は, いわゆるスキル・オリエンテッドな狭義の語学の授業というよりは, 史料/資料の内容や表現を分析し, その文献がそれ以前に書かれた文献とどのような関わりを持ち, どのような思考様式を体現しているのかを検討することに力点を置いた, 原典講読的な発表形式の演習授業と考えてください。英文和訳をすることが目的ではなく, どのように原典資料を読むか, その資料をどのように解釈・評価すべきかを考えるのが主眼です。

テキスト:

取り上げる文献は多岐にわたるので, プリントをコピーして配布する予定です。

英語第 (a)(春学期)(秋学期)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容:

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト:

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第 (b)(春学期)(秋学期)

Topical discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容:

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト:

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第 (a)(春学期)(秋学期)

会社で使う英語: コミュニケーション編

講師 日向 清人

授業科目の内容:

講師が担当した NHK ラジオ「ビジネス英会話」(2004 年前期)を拡充したコースです。「これさえ知っていればなんとかなる」レベルのビジネス英語が身につきます。英語で言う the nuts and bolts of business English がどういうものであるかを知り, 身につけることができるようになっていきます。通年で約 300 の言い回しを見ていきます。

テキスト:

日向清人著「即戦力がつくビジネス英会話」DHC 刊

英語第 (b)(春学期)(秋学期)

会社で使う英語: ポキャブラリー編

講師 日向 清人

授業科目の内容:

英語でどんどん発信していくことが求められる時代です。こうしたなか契約を英語では agreement/contract と言うのだという程度の英語力では受信一方の狭い世界から脱することができません。締結する, 更新する, 解除するといった言い方に対応する英語がぱっと出てくるぐらいになって初めてツールとしての英語が身につけると言えるのです。そこで「この単語・言い回しは普通どように使われるのか」という問題意識に立って, 基本的なビジネス英単語の意味を理解し, 使い方を会得しようというのが, このコースです。こまめにテストをしていきますので, まじめに出席すれば「仕事で使う英語」の基本が身につきますし, 反覆継続して暗記するところまで行けば, 実務に耐える英語力を一気に身につけることができます。通年で基 208 のキーワードを取り上げる予定です。

テキスト:

日向清人著「仕事の英語: この単語はこう使う」(桐原書店)

ドイツ語第 (春学期)(秋学期)

Der Spiegel を読む

講師 鎌倉 澄

授業科目の内容:

雑誌「Der Spiegel」の記事を中心に, 昨今議論されている社会的政治的話題を取り上げ, ドイツ語のテキストを詳しく読んでいきます。必要に応じて, その他のドイツ語資料も扱います。読むにあたっては, テキスト概要の効率よいつかみ方や, 内容を正確に理解するための精読の両方を練習します。最終的には手応えのある長い報道記事を無理なく読めるようになること, 個々のテーマについて自分なりの意見を持つことを目的としますので, テキストを読んだ後でのディスカッションも活発に行いたいと考えています。

テーマとしては, (同世代の) 若者の生活, 婚姻およびパートナー関係, 「赤ちゃんポスト」, 教育システム, エネルギー問題, 「閉店法」

共通

の規制緩和などを考えていますが、参加者の興味関心からある程度取捨選択するつもりです。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に指示します。

ドイツ語第 (春学期)(秋学期)

時事ドイツ語と „Und wie ist das in Japan?“

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

今のドイツで何が話題になっているのか。インターネット・新聞・雑誌の短い記事を活用して、最新のドイツの情報を紹介していきます。テーマは政治、経済、大学・学生・市民生活、環境などで、参加者の興味と希望に応じていくつかピックアップします。授業の狙いの第一は時事ドイツ語のテキストの講読になれることです。複雑な文法構造が含まれている上に、多くの時事ドイツ語の単語が辞書に載っておらず、今までのドイツ語の知識と想像力が試されます。第二はテキストについての自分の立場、意見を述べる練習をします。それに必要な表現は授業中に練習します。簡単なディスカッションを試みます。ドイツ人と知り合うと必ず Und wie ist das in Japan? 「日本ではどうですか」と聞かれます。その質問に備え、取り扱ったテーマについて、テキストで習った表現を活かして、日本の事情を説明する練習をします。

ドイツ語インテンシブ(上級)(春学期)(秋学期)

日独社会の比較をテーマに高度なドイツ語運用能力を養成する

教授 三瓶 慎一

准教授 シャールト, ミヒヤエル

講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

シュミット, シャールト, 三瓶の三者が協同して進める授業である。総合的なドイツ語能力を伸ばし、最終的には文法的により正確な表現、文体的により適切な表現を使えるようになること、そして内容のある議論を交わせるようになること、すなわちドイツ語によるパブリックスピーキングができるようになることが目標である。

シャールトの授業ではドイツ連邦共和国のアクチュアルな政治・社会に関するテーマを取り上げる。これに受講者各自がそれぞれ関心を持つ専門的な切り口から取り組んでもらう。特定のテーマに関する資料収集の能力、その批判的な検討と利用の能力などの養成も重要な課題である。最終的にはレポート執筆や口頭発表を通じて、ドイツ語で論理的に自分の意見を言語化し、これをわかりやすく他者に伝え、それについて他者と議論する能力を養成する。

三瓶とシュミットの授業では、日本事情、ドイツ事情の双方を批判的に検討し、それをドイツ語によって表現する視座と能力を育てる。春学期は主として日本事情をドイツ語圏に紹介するという立場を扱い、秋学期はドイツ語圏事情を理解するという立場をとる。

以下に挙げるのはいずれも春学期の授業内容である。秋学期については、春学期中に受講者と協議して決める。

いずれの授業でも、受講者は自律的学習、協働作業、責任分担などを守ることが求められる。

なおこのコースの受講希望者は4月3日(木)に行われる採用テストに合格して許可を得る必要がある。

月2 (Ute Schmidt)

Der Unterricht basiert inhaltlich auf dem Buch „Neugierig auf Japan“ von Martin B. Stanzeleit, im Mittelpunkt steht der mündliche Ausdruck. Die Teilnehmer berichten im Unterricht über das Gelesene. Dazu müssen zunächst themenspezifisches Vokabular und neue Satzstrukturen analysiert werden, um sie dann aktiv in den eigenen Sprachgebrauch integrieren zu können. Darüber hinaus sollen sachbezogen eigens Wissen ergänzt werden. Die Studenten sollen durch die Schilderung von persönlichen Erlebnissen und Erfahrungen

dazu angeregt werden, die Themen von anderen Standpunkten aus kennen zu lernen oder kritisch zu betrachten.

Ziel des Unterrichtes soll erstens die Erweiterung des aktiven Vokabelschatzes sein. Im Unterricht werden Vokabellisten zu den Themen angelegt werden, die den Teilnehmern helfen, an Gesprächen über gesellschaftspolitische Themen teilzunehmen. Zweitens soll die Fähigkeit weiterentwickelt werden, die eigene Meinung zu formulieren, zu vertreten, und zu Meinungen anderer Stellung zu nehmen.

月3 (三瓶 慎一)

Martin B. Stanzeleit著 „Neugierig auf Japan“ (Verlag Wiesenburg) を速読する。200 ページほどの本であるが、春学期で読了する。シュミットの授業とタイアップし、議論のための材料提供をする。1回5ページ程度から始めてだんだん進度を上げ、最終的には1回に20ページ程度を読めるようにする。段落構成を見抜くこと、読解に必要な文法的な知識を深めること、部分を取り上げて商品価値のある翻訳を作ること、日本事情紹介の語彙や表現をストックすることが目標である。その他、事実誤認、誇張、歪曲などがあれば、著者に直接ドイツ語で手紙を書いて指摘、反論しよう。

水2・水3 (Michael Scharf)

Thema: „Soziale Gerechtigkeit“

Seit einigen Jahren beschäftigt die deutsche Öffentlichkeit und Politik vor allem eine Frage: Wie kann in Zeiten umfassender Reformen in der deutschen Gesellschaft die Forderung des Grundgesetzes nach sozialer Gerechtigkeit erfüllt werden? Im Kurs werden wir unterschiedliche Perspektiven auf die Bedeutung und Merkmale sozialer Gerechtigkeit erschließen und diskutieren und am Beispiel aktueller Entwicklungen in Bereichen wie Bildung, Arbeit und Demografie Probleme bei deren Verwirklichung kennen lernen und diskutieren.

Über das Thema für das Herbstsemester entscheiden die Teilnehmenden gemeinsam.

Die Grundlage des Kurses bilden unterschiedliche Originaltexte (vor allem Zeitungsartikel, Auszüge aus der Fachliteratur, Reportagen, Statistiken etc.), die den ausgewogenen Gebrauch aller Sprachfertigkeiten erfordern bzw. ermöglichen. Das Kursprogramm versteht sich als ein Angebot, das erst durch die persönlichen Interessen der Teilnehmenden seine endgültige Gestalt gewinnt. Deren aktive und eigenverantwortliche Mitarbeit bei der Ausdifferenzierung der Themen und der Auswahl der Texte wird vorausgesetzt.

テキスト：

Martin B. Stanzeleit: „Neugierig auf Japan“ (Wiesenburg) [初講日に頒布]

その他の資料は Moodle 上で配布する。

参考書：

独和大辞典 [コンパクト版](小学館)と、Ulrich Apel 「和独辞典」は必携。

ドイツ語速習(初級)(春学期) 教授 岩下 真好

授業科目の内容：

火4・5(春学期)

内容的にも、また時間割上も連続した週2回の授業によって、春学期だけで、いちおうドイツ語の基礎文法をすべて学びます(すなわち発音から接続法まで)。初めてドイツ語を学ぶ人でも、秋学期には「ドイツ語速習(中級)」に進んで簡単な文章の読解やドイツ語によるコミュニケーションの基礎固めができるようになることが目標です。なお、進度によっては、接続法の詳細はドイツ語速習(中級)で学習することになります。

テキスト：

岩崎・平尾：初歩ドイツ文法(同学社)

ドイツ語速習(中級)(秋学期)

「初級」落穂拾いから「中級」へ 専任講師 新谷 崇

授業科目の内容:

春学期設置の「ドイツ語速習(初級)(a)(b)」を引き継ぎ、基礎文法を修了の上、必要に応じて反復もしつつ、辞書を使いこなして訳読をする力を養う。音声にも目配りはするが、読解の訓練に重点を置く。

テキスト:

プリントを配付する予定。

参考書:

随時紹介する。

ドイツ語速習(初級)(春学期)(秋学期)

日本を語りましょう 講師 エルファディング、ズザンネ

授業科目の内容:

この授業は、間違いを恐れずにドイツ語を聞いたり、話したり、書いたりできることを目指し、自信を持ってコミュニケーションをすることを重視します。テーマは日本とドイツの生活に関すること、慶應大学に関すること、その他、受講者の皆さんが関心を持つ事柄です。

教材としては、ドイツと日本の教科書と付属のテープの他に、写真、インターネットからの資料、受講者の皆さんが持参するものを使いたいと思います。皆さんが発信したいことを少しでも発信できるようになることを望みますが、そのためには皆さんが興味を持っているテーマを見つけて、授業に持ってきてください。さらに、この授業で何を得たいか、どんな能力を身につけたいかを考えておいてください。

学生が自律的に学習できるよう、サポートするものです。受講者は自分とクラス全体に対する責任意識を持ち、授業をともに作っていく姿勢が必要です。

具体的なテーマは受講者と協議の上決定します。

テキスト:

テープ、インターネットからの資料、写真など、種々のオリジナルテキスト

ドイツ語速習(中級)(春学期)(秋学期)

ドイツ語でのコミュニケーション能力を養う

講師 エルファディング、ズザンネ

授業科目の内容:

この授業は、間違いを恐れずにドイツ語を聞いたり、話したり、書いたりできることを目指し、自信を持ってコミュニケーションをすることを重視します。

教材としては、ドイツと日本の教科書と付属のテープの他に、写真、インターネットからの資料や受講者の皆さんが持参するものを使いたいと思います。

ドイツに行くことがあれば、必ず日本に関して質問を受けると思います。日本のどこが面白いでしょうか。ドイツ人が日本に来ることがあれば、何を見るべきか、何を体験するべきでしょうか。皆さんが興味を持っているテーマを見つけて、授業に持ってきてください。さらに、この授業で何を得たいか、どんな能力を身につけたいかを考えておいてください。

学生が自律的に学習できるよう、サポートするものです。受講者は自分とクラス全体に対する責任意識を持ち、授業をともに作っていく姿勢が必要です。

具体的なテーマは受講者と協議の上決定します。

テキスト:

テープ、インターネットからの資料、写真など、種々のオリジナルテキスト

フランス語第(春学期)(秋学期)

フランス語会話 講師 シュドル、フローレンス容子

授業科目の内容:

フランス語の基礎を学んだ人を対象に、フランス語会話の基本的な能力を高めることが本講義の目的です。

指定されたテーマでの会話を中心として授業を進めます。新聞、雑誌記事、写真、映画などの抜粋資料を教材として使用します。

テキスト:

特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

フランス語第(春学期)(秋学期)

読解と会話 講師 日佐戸 ミッシェル

授業科目の内容:

日常生活でよく用いられる短い会話や、やさしい新聞雑誌の記事を使って、実践的なフランス語の能力を養います。それと同時に、個人のもの見方や振る舞い、社会問題、余暇の過ごし方など、フランス人の生活や文化に関するテーマも取りあげます。

テキスト:

Sylvie Poisson-Quinton *et al.*, *FESTIVAL 2* (CLE International)

参考書:

上記テキストのほかに、必要に応じてプリントも配布します。

フランス語第(春学期)(秋学期) 講師 篠原 洋治

授業科目の内容:

今年度は、現代の問題を扱った思想書を読む予定である。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

授業中に指示する。

フランス語インテンシブ(春学期)(秋学期)

准教授 笠井 裕之

准教授 アンリ、ナタリー

専任講師 大出 敦

講師 ヴァンシンテヤン・ディオ、カトリーヌ

講師 シュドル、フローレンス容子

講師 日佐戸 ミッシェル

「フランス語インテンシブ」の履修について

- 以下の7コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修すること。2つないし1つしか履修しない場合は「外国語科目選択」として認められず、自由科目となる。
- 第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められない。たとえば「第3学年で2つ、第4学年で2つ」では条件を満たすことができない。
- 推奨される授業の組合せは、ネイティブ講師の授業を3つないし2つ(うち1つはヴァンシンテヤン=ディオ君担当、金曜2限の仏作文の授業がのぞましい)および日本人講師の授業を1つ。
- 金曜3限の檣橋=アンリ君担当の授業は既習インテンシブ・クラスの学生を主な対象とする上級クラス。
- セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談すること。

〔笠井 裕之〕

授業科目の内容:

精確な読解能力を養うことを目的として、近現代のさまざまなスタイルで書かれた文章を数多く読んでいきます。春学期はモーパッサンなど19世紀の短編小説を中心に、秋学期は現代の短編小説や戯曲、エッセイを取り上げる予定です。文学・芸術に関わるテキストが多いので、ただ辞書をひいて表面的な文意をとらえるだけでなく、ひとつひとつの言葉や表現が含意するものにも注意深く意識を向け

共通

てほしいと思います。関連する文化的な基礎知識も授業のなかで解説します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業のなかで紹介します。

〔アンリ、ナタリー EXPRESSION ORALE (niveau supérieur)〕

授業科目の内容：

既習インテンシブ・クラスの学生を主な対象とする上級クラスです。授業の目的は、聴き・話すことの訓練です。学生自身が選んださまざまなテーマについて発表しあい、討論したいと考えています。また、フランスの新聞のbrèves(小さなニュース)を用いて、効果的に自分の意見を表現するコツを学びます。必要に応じて語彙を増やしながら、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成をめざします。

* 法学部のフランス語ニュースレター LA PETITE FRANCE! と PLACE MITAを読みましたか? このクラスでは春学期にPLACE MITAを作成する予定です。上記の授業内容に加え、橋橋=アンリの人文科学研究会と連携して編集・執筆をおこないます。興味のある学生のみなさんの参加を期待します。

テキスト：

特に用いず、必要に応じてコピーを配布します。

〔大出 敦 クローデル外交書簡を読む〕

授業科目の内容：

2007 年は日仏交流 150 周年でした。日仏交流の歴史のなかで、1921 年から駐日フランス大使として日本に赴任していた詩人で劇作家だったポール・クローデルを忘れることはできません。このクローデルが駐日大使時代にフランス政府関係者と取り交わした外交書簡を講読します。クローデルの残した外交書簡のうち、日仏関係、特に通商関係に関する書簡に焦点をあてていきます。同時に理解を深めるために、クローデルの日本論『朝日の中の黒鳥』に収録された評論やフランスの外交政策を論じた評論も取り上げる予定です。

日本に長期にわたって滞在したほとんど唯一のフランス人文学者といっよクローデルが、大正時代の日本を政治と文学・芸術の面からどのように捉えていき、それが現代の日本とフランスの関係にどのようにつながっていくか、ということを考えてみてください。

またフランスの外交書簡や社会科学系の文章を通じて、フランス語の文章を読むことに慣れ、フランス語の文の構造と意味の把握の向上を図ります。

テキスト：

コピーで配布します。

参考書：

授業中に紹介します。

〔ヴァンシンテヤン=ディオ、カトリーヌ 仏作文〕

授業科目の内容：(金2)

フランス語で「書く」ことがテーマです。さまざまな素材から選んだ練習問題を用意します。形式のととのった手紙、うちとけた手紙、電子メールなど、日常生活に欠かせない文章から、新聞雑誌の記事や文学的文章にいたるまで、一歩ずつ着実に、表現力を養っていきましょう。文章を書くのに必要なスキル(語彙、構文、句読点の用法、文章の構成)を総合的に学べる授業です。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

- ・ J. Verdol, *Correspondance facile* (Hachette)
- ・ G. Vigner, *Écrire pour convaincre* (Hachette)
- ・ S. Poisson-Quinton, *Expression écrite, niveau1 & niveau 2* (Clé International)

〔ヴァンシンテヤン=ディオ、カトリーヌ〕

授業科目の内容：(金3)

学生一人一人の興味に応じて、新聞・雑誌の記事やTV5のニュース、ドキュメンタリーなど、さまざまな資料から素材を選び、インタラクティブな方法で口語表現の可能性をのばす授業です。

* 法学部のフランス語ニュースレター LA PETITE FRANCE! と PLACE MITAを読みましたか? このクラスでは秋学期にPLACE MITAを作成する予定です。上記の授業内容に加え、橋橋=アンリナタリー先生の人文科学研究会と連携して編集・執筆をおこないます。興味のある学生のみなさんの参加を期待します。

テキスト：

とくに使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

〔シュドル、フローレンス 容子〕

授業科目の内容：

自由なテーマで、あるいは指定されたテーマで、フランス語で会話することを中心に授業を進めます。新聞、雑誌記事、TVニュース、写真、映画などから、時事問題やアップ・トゥ・デートな題材を選んで教材に用います。生きたフランス語での読み書き、コミュニケーション能力、表現力の向上をはかることが目標です。

テキスト：

特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

〔日佐戸 ミッシェル〕

授業科目の内容：

春学期のあいだは、比較的平易なレベルを保ちます。2-3週ごとにひとつのテーマを決めてディスカッションし、各自、教室でおこなった作業をフランス語のレポートにまとめます。提出されたレポートは後日、添削して返却します。ディスカッションの資料として、フランス人の日常生活や身近な問題をあつかった雑誌の記事を読み、日本の社会と比較します。

秋学期は少しレベルを高めます。フランスの時事問題や社会問題をあつかった新聞雑誌の記事を用いて授業をすすめます。事前に記事を読んで、書かれている内容や各自の意見についてフランス語で述べるができるよう、十分に準備をした上で授業にのぞんでください。語句や表現の説明はフランス語でおこない、教室内での日本語の使用は最小限にとどめます。それぞれの記事についてディスカッションと解説をおこなったあとは、フランス語のレポートを作成し、「書く」能力を高めることもめざします。

テキスト：

特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

中国語インテンシブ(春学期)(秋学期)

場面を想定した会話と書くことの練習を中心に

准教授 林 秀 光

授業科目の内容：

さまざまな場面を想定して、そこで行われるのであろう会話を話したり書いたりすることで、文法を確認し、いろいろな表現を覚えていけたらと思っています。

たとえば、ホテルで忘れ物をした場合を想定して、A はホテルマンで、B は客でやり取りをする。

それは電話でやり取りする場合と e-mail など書面によるやり取りに分けて、練習を積んでいきます。

テキスト：

とくにない。

参考書：

授業で指示する。

中国語インテンシブ(春学期)(秋学期)

中国語ニュースの聴き取り&書き取りとシャドーイング

講師 須山 哲治

授業科目の内容:

私の授業では、言語学習の四大要素である「読む・書く・聴く・話す」のうち、特に「ヒアリング力」および「スピーキング力」に重点を置いて学習します。

具体的には、テレビやラジオのニュース(内容的には中国語検定の1~2級程度のもの)を教材とし、それらを聴いて内容を正確に理解できるレベルを目標とします。また、単に聞き取るのみならず、そういった内容の中国語がなるべく自然に口をついて出るような段階に一歩でも近づくことを目指します。

読解に「精読」と「多読」があるように、ヒアリングにも「精聴」と「多聴」があります。限られた授業時間を有効に使うため、そして皆さんにヒアリングに関する方法論を身につけてもらうためにも、私の授業では主に「精聴」を中心にしたいと思います(多聴については、皆さんの自宅学習に負うものとします)。

具体的には、ディクテーション(書き取り)をします。CDを聞いて理解すれば良しとするのではなく、聞いた内容をその場で書き取るのです。ただ聞くだけでなく、書き取ることによって、ヒアリング力向上に必要な不可欠な単語量と集中力を養成します。

また、スピーキング力の向上のために、通訳トレーニングメソッドの一つとして最近注目されている「シャドーイング」を導入します。「シャドーイング」の概要については第一回目の授業で説明しますが、簡単にいえば、「CD等の音源から聞こえてくる外国語の音声を、ポーズをおくことなく反射的に、イントネーションやストレス(強弱)、リズムなども含めて再生すること」です。「瞬間的なものまね」と言ってもよいかも知れません。

一見単調な方法ですが、英語教育の専門家によれば、これによって、リスニング力のみならず、スピーキング力、リーディング力も向上を期待できると言われています。

テキスト:

毎回の授業でプリントを配布する予定です。

参考書:

初回の授業で紹介する予定です。

中国語インテンシブ(春学期)(秋学期)

中国語で日中文化を語る

講師 陳 淑梅

授業科目の内容:

この授業は中国語の理解力、会話力を高めることを目的とする。授業方法は文字教材に触れる前にまずは文章を聞き、聞いた内容について会話を展開しつつ、文章の内容理解を深めていく。また、定期的にテーマを決めて、中国語でのディベートを練習する。

テキスト:

NHK 出版社『小点心』陳淑梅著

参考書:

随時に紹介

スペイン語第 (春学期)(秋学期) 講師 土井 裕文

授業科目の内容:

スペイン語のテキストを読みこなすためには、語彙力が必要である。逆に言えば、基礎語彙をきちんとおさえておけば、書物がスムーズに読めるようになるということである。この授業では、まずは、基礎となる語彙および既習の文法事項の確認をする。その後、スペイン語で書かれたものを講読していく予定である。

テキスト:

プリント配布

参考書:

GIDE 語彙研究班『スペ単!? 頻度で選んだスペイン語単語集(練習問題つき)』朝日出版社

スペイン語インテンシブ(春学期)(秋学期)

講師 杉下 由紀子

講師 アルバレス・クレスポ, ヘスス・カルロス

講師 伊香 祝子

講師 西村 君代

講師 松浦 芳枝

講師 柳 沼 孝一郎

スペイン語インテンシブコースは、三田では週6コマ開講し、2年間でなるべく多くのコマを履修してください。三田のインテンシブコースは日吉で学んだ語学の基礎をいよいよ生かす場です。ここでスペイン語学習を放棄してしまうのでは、日吉での苦勞が無駄になってしまいますので、是非スペイン語学習を継続してください。同一年度に週3コマ以上(組み合わせは自由です)履修すると選択外国語の単位として認められますが、2コマ以下では自由科目の単位となり、卒業単位として認められませんので、3コマ以上の履修を心がけてください。また、「インテンシブコース修了証」や「外国語成績優秀者表彰」の認定を受けたい場合は、三田において相応のコマ数を履修する必要がありますので、注意してください。なお、日吉でインテンシブコースを履修していない学生や他学部生も、三田のインテンシブコースを履修することができますが、初回の授業までに各担当者に了解を得てください。

〔杉下 由紀子 西検対策講座〕

授業科目の内容:

日本スペイン協会が年2回実施しているスペイン語技能検定(西検)3級(新聞などが理解でき一般ガイドに不自由しないレベル)合格を目指しています。文法や重要構文を確認しながら和文西訳・西文和訳を中心に行い、語彙力、読解力、表現力を養います。また、二次試験対策としてスペイン語会話も適宜行います。

テーマは、政治、経済、環境、医療、文学、風俗習慣、観光、日本文化など、幅広く取り上げる予定なので、西検に限らず、将来的に通訳案内士の資格やスペイン語を使う職業を志す人にとっても役立つと思います。

テキスト:

プリント配布

参考書:

初回の授業時に紹介。

〔アルバレス・クレスポ, ヘスス・カルロス〕

授業科目の内容:

El objetivo fundamental de este curso consiste en afianzar la capacidad oral y conseguir un cierto nivel de fluidez en la conversación mediante la práctica diaria, discutiendo los temas que vayan apareciendo en clase. Se repasarán conceptos, estructuras y vocabulario, y se pondrá énfasis en el conocimiento no sólo del idioma, sino también de la cultura española.

テキスト:

Fotocopias (プリント)

〔伊香 祝子 スペイン語文法を究める〕

授業科目の内容:

この授業では、昨年度インテンシブコース2年生で使用した教科書(三好準之助著『スペイン文法中級コース改訂版』白水社)の残った部分(11課から23課まで)を進めていきます。教科書に掲載された例文の和訳や練習問題を通して、細かい文法知識の習得を目指します。スペイン語検定やDELEの受験対策としても十分効果があると思われます。教科書を持っていない人は、新規に購入してください。

〔西村 君代 目指せ! DELE 中級〕

授業科目の内容:

DELEとは、Diplomas de Español como Lengua Extranjera(外国語としてのスペイン語検定試験)の略称で、スペインのセルバンテス協会がスペイン語を母語としない人を対象に、年に2回(5月と11

共通

月)、全世界で行っているスペイン語の総合的な能力判定試験です。この試験は、初・中・上級の3レベルあり、それぞれのレベルが、読解、文章表現(作文)、聞き取り、文法・語彙、口頭表現の5セクションから構成されています。合格するには、全てのセクションにおいて7割以上の正答が要求されます。DELEは世界的に通用するスペイン語検定で、DELE中級または上級保持者は、スペインの公的機関が公募する職に応募した場合、スペイン語能力試験を免除されることもあります。

この授業では、総合的なスペイン語力を伸ばし、DELE中級合格を目指します。文法の理解がすべての基本であるため、既習文法事項の定着を図る練習をしていきます。それと並行し、読解練習、聴解練習、作文練習を行います。また、語彙力増強のために、毎回単語、熟語、表現などの小テストを行います。なお、口頭表現の練習は特に行わない予定なので、他の会話の授業などを履修し補完してください。

テキスト:

必要に応じてコピー配布。

参考書:

授業中に指示。

〔松浦 芳枝 「スペイン語で」の表現力ステップアップ 文章作成のキーを探る〕

授業科目の内容:

この授業では、スペイン語での文章作成をより自然にできることを主要目的とします。より良い文章を書くためには、これまで学んだ様々な事柄をきちんと理解し、それぞれの項目が有機的に連携し、また語彙も豊富であることが前提になります。そこで春学期では短文の作成を中心にして、文法上要注意の項目を取り上げ、文法、語彙の用法の確認、ニュアンスの違いなどに目を向けていきます。また、より良い文章を書くための栄養源として、内容的にも興味を持ってそうな良い文章を紹介して、徹底的な音読を図ることもあろうでしょう。秋学期では、それらの成果を踏まえて、手紙の文章を取り上げ、私的書簡と公式書簡とで形式、文体、語彙等の比較をします。その後応用のケースとして各人に文章を作成してもらうこともあるでしょう。実践として、E-mailを作成しスペイン語圏の人々と意見交換することもあるので、意欲的に取り組んでもらいたいと思います。

テキスト:

プリントの配布およびインターネットによる配信

〔柳沼 孝一郎 スペイン語演習・ラテンアメリカ世界を読む〕

授業科目の内容:

春学期:より高度なスペイン語運用能力を養うことを目的とし、直説法の時制を中心に復習し、接続法の時制と用法を学習します。平行して、それらを用いたスペイン語作文を演習します。

秋学期:平易なスペイン語で書かれた“Un recorrido por América Latina”を読みつつ、適宜ビデオを鑑賞しながらラテンアメリカの歴史と文化を学びます。

テキスト:

春学期・秋学期ともにプリントを配布します。

参考書:

おもにラテンアメリカの地域文化研究のための図書文献を随時紹介します。

ロシア語インテンシブ(春学期)(秋学期)

法学部学生のためのロシア語

講師 富田 マルガリータ

講師 クロチコフ, ユーリー

講師 熊野谷 葉子

講師 岩田 貴

ロシア語インテンシブでは週四回の授業を有機的に関連させ、ロシア語の実力を向上させることが目的です。それゆえ、週四回の授業を受けることが望ましいと思いますが、三コマの受講も可能です。

三年次からあるいは四年次からの受講も歓迎します。少人数のアウトホームな雰囲気の中でロシア語の力をつけましょう。

〔富田マルガリータ〕

授業科目の内容:

富田マルガリータ講師の時間では、一年次と二年次で学んだ会話とコミュニケーション能力を伸ばし、また発音の矯正が中心となります。

ロシア文化のさまざまな側面に触れる会話力の向上とともに、法学部におけるロシア語ということを考慮し、国会や政府などロシア政治や法律に関連する語彙を増やすことももう一つの目標となります。秋学期ではロシア語のインターネットからのニュースなども使い、日常会話から、さらに高度な会話力をつけ、ロシア人と議論ができるレベルを目指します。

テキスト:

マルガリータ・ボリーソフナ・富田、山田恒著「ロシア語会話中級」、プリントを配布します。

参考書:

特にありませんが、和露辞典、露和辞典を必ず用意しておいてください。

〔クロチコフ, ユーリー〕

授業科目の内容:

生きたロシア語を学ぶ。

1. 会話:講師と受講生、および受講生どうしの会話を通じて会話能力を高める。
2. リスニング:自然なテンポによるロシア語の話し言葉を聞きとる。
3. 作文:自分の考えを文章で表す。

テキスト:

..... : ..,1999.

その他プリント配布。

〔熊野谷 葉子 ロシア語を「聞く」力をつける〕

授業科目の内容:

ロシア語のネイティブスピーカー向けに放送されているニュースや天気予報、各種の番組を教材に用いて、自然なスピードで話されるロシア語をある程度聞き取れるよう練習します。

テキスト:

指定なし。授業時に配布するプリントを使います。

参考書:

授業時に適宜コメントします。

〔岩田 貴〕

授業科目の内容:

すでに習得した基礎文法の知識をさらに前進させ、実践に使える知識まで高めることを目指します。

まず、ロシア語を学ぶ日本人にとって難関となる名詞の格、動詞のアスペクト(完了体・不完了体)、副動詞、形動詞などの文法事項をさらに深く研究し、多くの練習問題をこなすことでマスターします。

次に、テキストを文法的な観点から読み解き、文法知識を実践に使えるまで高めていきます。

テキストとしては、はじめに20世紀前半に活躍したアヴァンギャルド文学グループ「オベリウ」の中心人物だったダニール・ハルムスの作品を予定しています。西欧のシュールレアリズムや不条理文学を先取るようなシュールでノンセンスな作品は奇妙な魅力をたたえています。ただ、その内容は常識を超えているため、それを読み解くには文法的知識が欠かせません。

ほかのテキストに関しては、受講者の希望で決めていきたいと思っています。

教科書:

文法の解説・練習問題は教師が作成し、プリントして配布します。講読用のテキストもプリントして配布します。

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

朝鮮語第 (春学期)(秋学期)

韓国語で話そう!

講師 韓 晶 恵

授業科目の内容：

- ・聞き取り・発言・読解などをもって授業時間中は会話練習を主な内容とします。
- ・会話力向上のための基本的な力を身につけることが本講義の目標です。
- ・学習者の朝鮮語での発言意欲を積極的に促進し、支援します。
- ・韓国文化や映画などが理解できるようになります。

テキスト：

特に指定しません。

講義資料プリントを配布します。

参考書：

『朝鮮語辞典』

イタリア語第 (春学期)(秋学期)

イタリア語講読

講師 町 田 亘

授業科目の内容：

イタリア語文法の知識を深め、さらにイタリア社会の諸側面を知るために原書の講読を行う。

今日のイタリアを理解するために、外国人向けのテキスト、イタリアの新聞、雑誌等から記事・章節を抜粋し、講読する。

テキスト：

プリント

参考書：

長神 悟 『イタリア語のABC』(白水社)

ポルトガル語第 (中級)(春学期)(秋学期)

ブラジルのことば

講師 日向敦子ノエミア

授業科目の内容：

〔春学期〕

初級より少し複雑な日常会話を劇化しながら、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(ジェスチャーやイントネーションなど)が同時に行われるような会話を目指します。会話のポルトガル語をより覚えやすくするため、会話と同じ内容のテキストの聞き取りも行います。

文法は、動詞の接続法と仮定文を主に学びます。

10分程度のインターバルを設け、ブラジル人と日本人のカルチャーショックの話をしなが、言葉と文化のリンケージを試みます。

〔秋学期〕

春学期と同じテキストの他にブラジルの総合雑誌「Veja」の、ポルトガル語が比較的簡単な記事を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、文法問題もその都度指摘し、説明します。

テキスト：

日向ノエミア『ブラジル語でコミュニケーション』大学書林(の後半にします)

二期は、このテキストの他に雑誌のプリントも配布します。

参考書：

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。あるいは、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になると思います。

ポルトガル語第 (上級)(春学期)(秋学期)

ブラジルのことば

講師 日向敦子ノエミア

授業科目の内容：

〔春学期〕

ブラジル人と日本人の間に生じるコミュニケーション・ギャップを扱ったテキストを読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時につく授業を試みます。

このテキストは、ポルトガル語と日本語が見開きで対訳になっているので、入りやすいと思います。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

〔秋学期〕

ブラジルの総合雑誌「Veja」の時事文、法律、政治、経済欄の記事などを読み、訳し、それについてディスカッションをすることを予定に入れています。

ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、学期末に、ブラジル、あるいは、ブラジル人について考えたことを題材にした簡単な作文を提出してもらおう予定です。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

テキスト：

春学期のテキストは、『ことばを越えて』(世論時報社)にします。秋学期はプリントし、最初の授業で配ります。

参考書：

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)あるいは『ローマ字ポ和辞典』(柏書房)、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)が、参考になると思います。

〔人文科学科目〕

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

ことばの認知科学(言語・思考・行動の意味論)

教授 辻 幸 夫

授業科目の内容：

本研究では、ヒトの言語行動と心理活動について認知科学的観点から多角的に検討します。

私たちヒトの持つ記号系としての言語とは何か、どういう機能と構造をもつのか、何が言語を可能にしているのかなど、言語にまつわるさまざまな問題について認知科学的に探求します。

天文学的な規模の記憶能力を持ち、瞬時かつ正確に複雑な計算を行う点でヒトをはるかに凌駕するコンピュータの情報処理能力でさえ、ヒトの認知能力には質的に遠くおよびません。それはなぜか。ヒトの認知能力とはいったいどのようなものか。ヒトの記憶、思考能力、言語を中心に考察します。

また、ヒトの卓抜した認知能力や言語能力が統合的に宿る心とは何か。その生物学的な基盤や心理的基盤、そして社会・文化的な基盤も考察します。

テキスト：

授業時に、随時、学生と相談して決定します。

参考書：

- ・辻幸夫編、『ことばの認知科学事典』、大修館書店、2001年
- ・辻幸夫編、『認知言語学キーワード事典』、研究社、2002年
- ・辻幸夫編、『認知言語学への招待』、大修館書店、2003年
- ・山鳥重、辻幸夫著、『心とことばの脳科学』、大修館書店、2006年
- ・辻幸夫他訳、『認知言語学のための14章(第3版)』、紀伊国屋書店、2008年

人文科学研究会 ・ (春学期)
 人文科学研究会 ・ (秋学期)
 ことばの認知科学(言語とコミュニケーション, 認知と相互行為)
 教授 辻 幸夫

授業科目の内容:

本研究会では、ヒトの言語行動と心理・社会的な諸関係を認知的科学的観点から多角的に検討します。主として言語とコミュニケーション, 認知と相互行為にかかわる諸事象について調査・研究します。言語(構造と機能), 心の働き(思考, 記憶, 学習など認知的側面), 他者とのコミュニケーションなどが興味の対象となります。

テキスト:

- ・山鳥重, 辻幸夫著, 『心とことばの脳科学』, 大修館書店, 2006年(最初の数回読みます)
- ・辻幸夫編, 『ことばの認知科学事典』, 大修館書店, 2001年
- ・辻幸夫編, 『認知言語学キーワード事典』, 研究社, 2002年

参考書:

- ・岡本真一郎, 『ことばの社会心理学(第3版)』ナカニシヤ出版, 2006年
- ・辻幸夫編, 『認知言語学への招待』, 大修館書店, 2003年
- ・辻幸夫他訳, 『認知言語学のための14章(第3版)』, 紀伊国屋書店, 2008年

人文科学研究会 ・ (春学期)
 人文科学研究会 ・ (秋学期)
 イギリス地域文化 教授 武藤 浩史

授業科目の内容:

去年は20世紀前半の小説を読んだので, 今年度は20世紀後半のイギリス文化を勉強したいと思います。どんなテキストを読むかは, 履修学生と相談しながら決めたいと思います。和書と洋書をうまく組み合わせたいと思っています。

学期終盤には各人が決めたテーマで研究発表をしてもらいます。どんなテーマでも歓迎です。

夏休みなどに合宿をやって, 学生間の交流をはかるとともに, リサーチ・発表の基本を会得してもらいます。

事前に準備しておくこと:

武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』を読んでいない人は必ず読んでおいてください(特に, 序章, 第1章, 第2章, 第14章, 終章)。それから, どのようなテーマについて詳しく調べたいのか, 日ごろから特に寝る前に考えておいてください。その他:

なお, 副専攻認定を目指さない学生の履修もOKです。また副専攻認定のためには, 法学部設置の地域文化論(イギリス)をからまで取っておくのが理想的ですが, 法学部に限らず他学部設置の学部でもイギリス系(インド, 南アフリカなど旧大英帝国地域を含む)のテーマを扱った科目については積極的に認めていこうと思っています。日吉で最低4単位分のイギリス系講座単位があれば, 足りない分は三田で補おうというでもOKです。何が認められて何が認められないかについては, 2008年度開始時(4月の最初の授業)に担当者(武藤)に相談してください。個別に対応いたします。メールでの質問は mutonn@tka.att.ne.jp まで, どうぞ。

人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)
 現代アメリカ研究: 格差社会と保守派の動向
 教授 鈴木 透

授業科目の内容:

現代アメリカ社会の主要な対立軸である, 「80年代的ベクトル/保守派/一國行動主義」と「60年代的ベクトル/リベラル派/国際協調主義」の両陣営の動向について隔年で行う。今年度は前者の順番にあたり, 保守派が放置してきた格差社会の問題をめぐって, アメリカではどのような価値転換が保守派に対して求められているのか, 格差社会の実態と歴史的背景を分析しながら考える。

テキスト:

多岐に渡るので授業で指示する。

参考書:

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)
 アメリカ文化研究: 9.11論の現在
 教授 鈴木 透

授業科目の内容:

アメリカ文化研究の方法や研究史の勉強と, 特定のタイプのアメリカ論の分析を隔年で行う。今年度は後者の番で, 事件発生から6年が経過してようやく冷静な議論が深まりを見せてつつある最近の9.11論を集中的に取り上げる。この事件がアメリカの文化的風土にどのような影響をもたらしつつあるのか, 地域社会, 自由の概念, 記憶表現, 歴史認識, 国際感覚などの観点から考察し, 果たしてこの事件でアメリカの何が変わったのか(あるいは変わっていないのか)を探る。

テキスト:

取り上げる文献については, 履修者の希望を聞いたうえで最終決定する。

参考書:

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

人文科学研究会 ・ (春学期)
 人文科学研究会 ・ (秋学期)
 アメリカの人種とアイデンティティ
 教授 奥田 暁代

授業科目の内容:

2007年, 不法移民に関する新しい法案が連邦上院議会通过するか否かがマスコミを賑わし, 新聞やテレビは議員たちの駆け引きを詳しく報道していた。とくに保守的なラジオ番組は, 法案が不法移民に「恩赦」を与えるものだと強く非難した。もともとはジョージ・W・ブッシュ大統領の提案であった, 1,200万人にまで膨れ上がった不法移民の対処は, 共和党保守の強い反発に合い, 結局のところ上院を通過するに至らなかった。

移民をどこまで認めるかは, 「アメリカ人」の定義に直結し, だからこそいつの時代にも論争を巻き起こしてきた。二十一世紀に表面化した移民排斥の風潮は, ラティーノ人口の急増と深く結びついている。アフリカ系アメリカ人を抜いて「最大マイノリティ」となったラティーノが, アメリカ社会, 文化, 政治に与えるであろう影響は計り知れない。1980年代から言われてきたアメリカの「褐色化」が現実のものとなるのでは, と多くを不安にさせる。これは, 単なる不法移民に対する不満ではなく, 非白人の権力増大に対する恐怖なのである。プロテスタントの国, アングロ・サクソンの国, 白人の国といった国家のアイデンティティが根底から崩されかねない。不法移民問題は, アメリカの人種主義と, さらにアメリカ人のアイデンティティの脆さを顕在化させる。

研究会では移民をテーマに, アメリカの人種/エスニシティとアイデンティティの問題を, マイノリティの視点から探っている。アメリカの移民史は, この国の移民排斥主義と人種主義との結びつきを明らかにする。このようなことを, 資料を調べいろいろ文献を読みながら, 学生の発表や討論を通じて考察している。各人がテーマを決めて, それについて研究発表をし, 論文にまとめている。もちろん, 人種/エスニシティに関わることであれば, ほかの研究テーマ選んでもかまいません。

テキスト:

- ・デイヴィッド・A. ホリンガー著『ポストエスニック・アメリカ 多文化主義を越えて』(明石書店, 2002年)
- ・デイヴィッド・ローディガー著『アメリカにおける白人意識の構築 労働者階級の形成と人種』(明石書店, 2006年)

参考書：

- ・スタッズ・ターケル著『人種問題』（晶文社，1995年）
- ・ロナルド・タカキ著『多文化社会アメリカの歴史 別の鏡に映して』（明石書店，1995年）

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 アメリカ文化研究 パフォーミング・アーツを中心に
 教授 常山 菜穂子

授業科目の内容：

本研究会では、植民地時代から21世紀までのアメリカの社会と文化をパフォーミング・アーツ（表象芸術）の視点から考察します。戯曲に限らずダンスのような身体表現やブロードウェイ・ミュージカル、大衆芸能も射程に、これらの表象が、いかに同時代の政治経済、国家国民、思想宗教の影響を意識的／無意識的に受けながら形成されているかを検討し、舞台に反映された「アメリカ」の諸相を前景化していきます。その際には多様なアプローチ方法があります。たとえば、人種、ジェンダー・セクシュアリティ、階級格差、地域性（例：ブロードウェイの特色）、日本との比較（例：劇団四季や宝塚との相違）、音楽や映画との関連、エンターテインメント法といった論点も考えられるでしょう。私自身は主に初期の演劇文化を研究していますが、当研究会の履修者と共に、アメリカにおけるさまざまなパフォーマンス・シーンについて学びたいと思っています。

テキスト：

資料プリントを配布します。

参考書：

初回授業でリストを配布します。

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 アメリカ映画史研究 准教授 大和田 俊之

授業科目の内容：

本研究会では、少人数の演習形式でハリウッド映画史とアメリカ音楽文化を隔年で取り上げる。具体的には、コメディ、ミュージカル、フィルム・ノワールなどのアメリカ映画の各ジャンルや、ブルース、R&B、ロックンロール、ヒップホップなどの音楽文化に関する学術論文や研究書を講読し、学生の発表を交えながら進める予定。今年度は英米の大学の Cinema / Film Studies のコースでよく用いられている教科書をもとに、アメリカの映画史を概観する。前期は「古典的ハリウッド映画」と呼ばれる作品のナラトロジー（物語論）、基本的な撮影技術、スタジオ・システムについて考察し、後期はコメディ、ミュージカル、フィルム・ノワール、西部劇などのジャンルごとに考察する（ジャンルの詳細については、受講者と相談して決めます）。

演習は数人のグループ発表を中心に進めるが、映像を観るだけでなく映画に関する英語文献を読むことで、映画の新しい見方や分析手法の習得を目指す。

テキスト：

開校時に指示する

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 <映画史>とは何か？ イギリス映画から世界へ
 専任講師 佐藤 元 状

授業科目の内容：

本研究会では、イギリス映画の「知られざる」傑作群の視聴や議論を切り口として、<映画史>とは何かという哲学的な問いを考察します。春学期は、イギリス映画の古典的な作品を視聴し、英語および日本語の文献講読を交えながら、映画をアカデミックに批評するためのノウハウを蓄積します。秋学期は、イギリス映画の特性を「グローバルな」観点から相対的に把握するために、南北アメリカ、ヨーロッパ、中東、アジア、アフリカ、オセアニアの映画を幅広く

視聴し、議論します。グローバル化の時代にふさわしいグローバルな知識と好奇心を養い、各自の関心をアカデミックな映画批評にまで高めることを最終的なゴールとします。

テキスト：

四方田犬彦『映画史への招待』（岩波書店，1998年）

他にプリントを適宜配布します。

参考書：

授業中に紹介していきます。

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 芸術と文学・思想から見た近代
 および現代のドイツ語圏とヨーロッパ
 教授 岩下 真好

授業科目の内容：

「ドイツ語圏およびヨーロッパの近・現代の芸術と文学・思想」という全体テーマで、今年度はオーストリアの建築家アドルフ・ロース（1870～1933）の建築・芸術論『装飾と犯罪』（日本語訳）をとりあえずの共通基本文献として取り上げる。その後の具体的な内容は受講者の個別の問題意識に応じて設定し、講義、検証（写真、CDその他）、研究報告、討論などを折り混ぜて進める。文学、音楽、造形芸術、建築、思想など、幅広い分野を適宜取り扱う。対象への受講者の積極的な関心を期待する。

参考書：

その都度指示する。

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 現代ドイツ研究 教授 三瓶 慎一

授業科目の内容：

現代ドイツの政治・社会・言語・文化に関する種々の問題を扱う。参加者の関心に応じて、自力で資料を集め、Referatにまとめて発表し、全員で議論を重ねることによって、最終的には1つの論文に仕上げることが目標である。

これまで扱ってきたテーマには、東西ドイツ分断の経緯、東西ドイツ国境事情、ベルリンの壁の建設と崩壊、各政党の成立と政策、社会民主党の歴史、ヴィリー・ブランド、兵役義務、ドイツ語の人名、ドイツと日本の言語政策、戦後ドイツの知識人、ドイツの政治教育などがあつた。この他のテーマももちろん歓迎である。

参加者諸君と協議のうえ、合宿形式で発表・討論を行うこともある。

なおドイツ連邦共和国に関する問題を中心とするが、参加者の希望によっては、ドイツ語圏の他の国々についてのテーマを扱うことも妨げない。

テキスト：

追って指示する。

参考書：

追って指示する。

人文科学研究会 ・ （春学期）
 人文科学研究会 ・ （秋学期）
 芸術と思想 教授 許 光 俊

授業科目の内容：

本屋に行けば、図書館に行けば、知識などいくらでも手に入る。問題なのは、知識の使い方だ。知識と知識のつなげ方だ。想像力だ。連想力だ。ものを見つける能力だ。試してみる好奇心だ。たぶんみんなはその当たりのおもしろさを知らないで、知識を得る楽しさを知らないだろう。与えられた道具を与えられたふうにしかならなかつたらなさ。

毎回いろいろな題材を取り上げ、議論する。昨年の例をいくつか挙げると、ヘッセ『車輪の下』。猛勉強でボロボロになる話だが、なぜか学校の課題図書にされている謎の小説。三木卓『炎に追われて』。童貞あるいは男の醜さや卑しさをこれでもかと容赦なく描い

共通

た小説。映画『独立少女紅蓮隊』。沖縄独立のために戦う美少女戦士たちの物語。映画『セックスチェック 第2の性』。スポーツにおける性の問題に関わる異常な愛の物語。学生の発表としては「私は鬼畜です～記憶とアイデンティティ」「幸せな奥さんになりたい～私の反現代論」など。

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

Société française - Etudes comparatives

准教授 アンリ, ナタリー

授業科目の内容:

Le domaine de ce cours est, au sens large, la société française, en elle-même ou dans une perspective comparative, vue à travers l'étude d'un thème choisi en commun au début de chaque semestre. Ce choix est librement modulable selon les intérêts (exemples récents: la guerre d'Algérie, la vie des immigrés en France, la discrimination positive en France). L'état de la recherche de chacun est exposé régulièrement, et le travail doit mener à la rédaction en français d'un court rapport. Le cours se divise en exposés, orientation de la recherche, discussion. Le but de ce cours est non seulement l'acquisition de connaissances, l'approfondissement de la maîtrise de la langue française, mais encore l'entraînement à la pratique et à la présentation de la recherche.

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

フランス文化

専任講師 木 俣 章

授業科目の内容:

副専攻認定を希望する法学部学生のための、演習主体の研究会である。演習は2本の柱で成り立っている。その一は、基礎的な文献の輪読を通して、必須の情報を共有し、研究手法を学ぶことである。もう一つは、一人一人の学生が、研究の進捗状況や、ある段階までの研究成果の発表を行い討議することである。この二つの作業は研究会の両輪である。

輪読は担当分を前もって定め、期末に共同訳として完成させる。半期ごとに各々が研究報告発表を行うとともに、それをもとにしたレポート(8000字程度)を提出する。

テキスト:

Mona Ozouf, *Liberté, égalité, fraternité in Les lieux de Mémoire* sous la direction de Pierre Nora, vol. 3, Gallimard 1997

参考書:

上記刊本の抄訳本, ピエール・ノラ編, 谷川稔監訳『記憶の場 フランス国家意識の文化 = 社会史』全3巻, 岩波書店, 2002 2003

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

中国の軍事と安全保障

教授 安 田 淳

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で、主として中国の安全保障を勉強する。取り上げる題材として中国人民解放軍はもちろんのこと、中国の領土問題やエネルギー問題、人口問題、治安問題、交通問題、さらに周辺諸国との関係など、中国の安全保障に関わるならば履修者諸君の関心や希望を広く取り入れたい。

テキスト:

授業中に指示する。

参考書:

授業中に指示する。

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

現代中国政治と社会 原典資料で読み解く現代中国の歩み
准教授 林 秀 光

授業科目の内容:

本研究会の特色は中国語の原典資料を多読することです。

現代中国政治史を紐解くと、反右派闘争、大躍進、文化大革命、天安門事件など、執政者の圧制や、政策の失敗といったような救いがたい気持ちにさせられる歴史事実が続きます。しかし、そういった歴史の流れのなかで、そこに生きる人々は共産党支配のもつ矛盾や社会に存在する様々な問題に直面し、なんらかの形で自由で民主的な国づくりを目指していました。また、そういった努力や期待がときには現代中国の歴史を大きく変える契機にもなりました。本研究会では、真実を訴えたがために歴史の舞台から追われた勇気ある人々の「もがき」が感じられる原典資料を読み解き、現代中国の政治と社会に存在する核心的な問題がなにかを探ってみたいと思います。

同時に、中国のエネルギー開発や対外関係、社会の新しい動きなどの同時代の動きにも注目し、適宜に資料を読めたらと思っています。

テキスト:

中国語文献は配布します。

日本語文献はテーマに応じて適宜に指示します。

参考書:

テーマに応じて適宜に指示します。

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

スペイン語圏の社会と文化 教授 大久保 教 宏

授業科目の内容:

スペイン語圏(スペイン、ラテンアメリカなど)の社会と文化に関してより深く理解し、研究したい人のためのゼミです。スペイン語圏を扱う人文科学研究会はもう一つ、本谷先生担当のものがありますが、そちらは現状分析を中心とし、こちらの研究会は歴史的視点からの分析を主に行います。ナマの歴史資料(一次資料)や、研究書(二次資料)を精読し、討論しながら、履修者各自の問題関心を深めていきます。2年間履修し、修了論文を提出すれば、副専攻修了を認定します。なお、担当者の大久保の専門地域はメキシコ、中央アメリカで、分野は宗教や思想、時代的には19世紀後半から20世紀前半が得意ですが、アルゼンチン・タンゴの踊り方の変遷について調べたいとか、スペインに住んでいるモロッコ人の様子を探りたい、といったような様々な問題関心にも付き合おうと思っています。ちなみに、現在の4年生は、「キューバ野球の強さを歴史的に検証する」、「独立後メキシコの政治思想史」、「ドミニカ共和国の散々な歴史」といったテーマで修了論文を執筆しています。

また、履修者が海外旅行をした場合には、現地の報告をしてもらいます。できればスペイン語圏、できればめったに日本人が行かないような国が望ましいので、そのような国を旅行してきてもらいたいです。これまでは、ドミニカ共和国とチベット・ネパールについて報告してもらいました。

人文科学研究会 ・ (春学期)

人文科学研究会 ・ (秋学期)

スペイン語圏の社会と文化(現状分析を中心に)

専任講師 本 谷 裕 子

授業科目の内容:

この研究会では、スペイン・ラテンアメリカ諸国をはじめとするスペイン語圏の社会や文化について理解し学んでいきます(ポルトガル語圏のブラジル・フランス語圏のカリブ海の国々も含む)。スペイン語圏について学ぶ研究会には大久保先生担当のものもありますが、こちらの研究会は歴史研究というよりは当該地域の現状分析に焦点

〔自然科学科目〕

自然科学研究会（春学期）

人間行動の理解とその応用

教授 鈴木恒男

授業科目の内容：

少人数ゼミ形式で、人間の行動に関する行動の考察から論理的な思考を向上させることを目的とする。

人間の行動として採り上げるのは、問題解決に場面に直面したらどのような思考方法で、解決に至るのかを、実際の問題を持ち寄り、それを合理的に解決する思考方法を検討する。

テキスト：

テキストは使用しない。

参考書：

参考書は、必要に応じて紹介する。

自然科学研究会（秋学期）

人間行動の理対とその応用

教授 鈴木恒男

授業科目の内容：

少人数ゼミ形式で、人間の行動に関する行動の考察から論理的な思考を向上させることを目的とする。

人間行動として採り上げるのは、議論の場面で如何に効率よく議論ができるのかを検討する。

議論を繰り返し行い、技法の習得を行う。

テキスト：

テキストは使用しない。

参考書：

参考書は、必要に応じて紹介する。

自然科学研究会（春学期）

物理学

教授 下村裕

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式で、興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して、「問の発見」から「問いの答え」に至る物理学的研究過程、数理的・論理的思考方法、そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく、各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現象はどんなものでも良いが、物理学的に研究するので、実験や観測等が可能な、身近な現象が望ましい。これまで研究したテーマは、「アメンボの水上運動」と「刀の不安定配置」であるが、その他にもさまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが、現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。（参照 URL <http://web.hc.keio.ac.jp/~yutaka/>）

テキスト：

なし

参考書：

下村裕研究会・下村裕、「Dennyのパラドックス再考」、慶應義塾大学日吉紀要 自然科学 42, 17-25 (2007)。

下村裕、「ケンブリッジの卵 回る卵はなぜ立ち上がりジャンプするのか」、慶應義塾大学出版会, 2007。

自然科学研究会（秋学期）

物理学

教授 下村裕

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式で、興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して、「問の発見」から「問いの答え」に至る物理学的研究過程、数理的・論理的思考方法、そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく、各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現象はどんなものでも良いが、物理学的に研究するので、実験や観測

を当てていきます。スペイン・ラテンアメリカと一口にいってもその地域は広範にわたりますし、異文化コミュニケーション、貧困問題、環境問題、人種問題、教育問題、移民問題、映画や美術などさまざまなアプローチからの研究が可能であるがゆえ、みなさんの関心や研究テーマも多岐にわたるはず。私はこれまで文化人類学・服飾学の視点からメソアメリカ地域の先住民社会を研究してきましたが、この研究会を通じて私自身、みなさんとともにこれまで知らなかったスペイン語圏の国々の社会や文化について学んでいきたいと思っています。授業では日本語文献と外国語文献（英語、スペイン語）の精読と討論をおこなうとともに、みなさんには自分の関心に沿った研究テーマを設定してもらい、それについての研究発表も並行しておこないます。2年間履修し修了論文を提出した場合には副専攻修了を認定しますが、論文は書かないがこの研究会で勉強したいという人ももちろん歓迎します。

人文科学研究会（春学期）

人文科学研究会（秋学期）

『カラマーゾフの兄弟』精読 教授 山田 恒

授業科目の内容：

春学期から秋学期の一年間をかけて『ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』』を正確かつ綿密に購読する。

この作品はドストエフスキー最後の作品であるとともに、近代小説の最高峰であり、ここ一年間日本でもっとも読まれたロシアの小説でもある。つまり全く魅力を失っていない小説であるといえる。また当然のことながら、最もロシア的な作品でもある。今年度はこの作品を取り上げ、現代日本におけるこの作品の意味を考え、またロシア文化の根底をなすものを追求してゆく。作品で描かれている幼児虐待や親殺しと現代日本、作品の根底をなすロシア正教が持つ意味の追求などである。

ただしそうした基本的なテーマばかりでなく、様々な側面からロシア文化を考えたい。例えば、小説『カラマーゾフの兄弟』とそれを基にした映画との相違と、さらにはソヴェート映画における文芸大作との関係、といったテーマなども視野に入れたい。

いずれにせよこの作品を中心にロシアという存在を考えてゆく。

テキスト：

光文社古典新訳『カラマーゾフの兄弟』を使う。討議などで必要とされるので、他の版ではなく、この訳を用意すること。

参考書：

ドストエフスキーの文献は非常に多い。授業中に、適切な文献を紹介する。

人文科学研究会（春学期）

人文科学研究会（秋学期）

近・現代ヨーロッパ芸術史 教授 平林正司

授業科目の内容：

本講は、オペラ、バレエ、演奏会用音楽を中心に、絵画、文学などなどの芸術、政治や社会なども視野に入れた、近・現代ヨーロッパ文明史として位置づけられる。

履修者は、音楽的知識をすでに持っていることは必要ないが、関心のない者は履修できない。担当者の解説・分析・解釈は高度なものである。

テキスト：

未定

参考書：

未定

共通

等が可能な、身近な現象が望ましい。これまで研究したテーマは、「アメンボの水上運動」と「刀の不安定配置」であるが、その他にもさまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが、現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。(参照 URL <http://web.hc.keio.ac.jp/~yutaka/>)

テキスト：

なし

参考書：

下村裕研究会・下村裕、「Dennyのパラドックス再考」、慶應義塾大学日吉紀要 自然科学 42, 17-25 (2007)。

下村裕、「ケンブリッジの卵 回る卵はなぜ立ち上がりジャンプするのか」、慶應義塾大学出版会, 2007。

自然科学研究会 (春学期)

分子生物学原著論文講読 専任講師 小野 裕 剛

授業科目の内容：

法律学や政治学を専攻する場合でも、分野によっては高度な生物学の知識が求められる場合があります。このクラスでは生物学の原著論文をどのように読みこなしたらよいかを学びます。春学期は教員が指定した論文を全員で読みながら、分子生物学分野で使用される基本的な研究テクニックの原理やデータの読み方を指導します。

テキスト：

Nature, Science, Cell など一流の科学雑誌から抜粋した記事を用います。メディアセンターの電子ジャーナルからダウンロードできますが、どの記事を採用するかは未定です。

参考書：

日本語の参考書として、以下のものを上げておきます。事前に購入する必要はありません。

井出利憲「分子生物学講義中継」(羊土社), Alberts「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)

高木利久「これからのバイオインフォマティクスのためのバイオ実験入門」(羊土社)

自然科学研究会 (秋学期)

分子生物学原著論文講読と実験シミュレーション

専任講師 小野 裕 剛

授業科目の内容：

法律学や政治学を専攻する場合でも、分野によっては高度な生物学の知識が求められる場合があります。このクラスでは生物学の原著論文をどのように読みこなしたらよいか、またその研究を遂行するにはどのような手段があるのかを学びます。秋学期は自分の興味がある分野の論文を収集し、次にどのような実験を展開するかを考えます。

テキスト：

Nature, Science, Cell など一流の科学雑誌から抜粋した記事を用います。メディアセンターの電子ジャーナルからダウンロードできますが、どの記事を採用するかは受講者と相談の上で決定します。

参考書：

日本語の参考書として、以下のものを上げておきます。事前に購入する必要はありません。

井出利憲「分子生物学講義中継」(羊土社), Alberts「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)

高木利久「これからのバイオインフォマティクスのためのバイオ実験入門」(羊土社)

自然科学特論 (春学期)

多様な現象と力学法則の関連 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

台風のような流れに関連する自然現象を理解するために、現象に密接する物体の運動、圧力などに関する基本事項の解説から始めます。そのような知識を用いて流れの重要な性質の説明を行い、台風

における風向を決めるコリオリ力などを理解します。説明に際しては、数式を極力減らし、直感的見方で補うことにします。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論 (秋学期)

磁力線にまつわる自然科学現象 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

自然科学現象では、磁場(磁力線)が重要な役割を演じている事例が多々あります。そのような現象を理解するために、磁石のN極とS極がなぜ引き合うかというような簡単な事項の解説からはじめます。そこで得られた磁力線に関する基本的な知識を用いて、地球や太陽などにおけるさまざまな現象の考察を行います。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論 (春学期)

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

科学技術を支える自然の原理と工夫、異常気象や生態系のメカニズム、さらには社会現象や経済現象への自然科学的アプローチについて解説します。

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

自然科学特論 (秋学期)

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

自然科学特論 と同じ

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

実践自然科学 (秋学期)

実験要素を含む4年生のための自然科学

商学部 教授 福澤 利彦

文学部 教授 大場 茂

法学部 准教授 小林 宏充

授業科目の内容：

実験やデモンストレーションなど、実験要素を取り入れて、自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後、化学、物理学、生物学の3分野の教員が、それぞれの分野において、4回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため、受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

テキスト：

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

〔数学・統計・情報処理科目〕

数学（春学期）

行動科学における数学

講師 松岡 勝男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1)現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2)確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3)経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択のうえ、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

数学（秋学期）

行動科学における数学

講師 松岡 勝男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1)現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2)確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3)経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択のうえ、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

統計学（春学期）

推測統計学

講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では確率分布や統計的検定の基本的な概念の説明から始め、推測統計の基本的な考え方と技法を講義する。複雑な数式や数学的議論には立ち入らず、「文系の統計ユーザ」のための授業をおこなうが、特定のコンピュータ・ソフトウェアの使い方やハウツー的な知識ではなく、統計手法の基礎にある考え方や原理を理解することを目指す。受講者は、記述統計学の初歩的知識を有することが望ましいが、学期当初の授業で必要部分については簡単な復習をおこなう。また参考書を利用して独学で補うことは十分に可能である。主なテーマは「授業計画」に挙げたものを予定しているが、受講者の希望により変更が可能である。要望があれば、初回授業の際に相談したい。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業をおこなう）

参考書：

鷲尾泰俊 1983 日常のなかの統計学 岩波書店 (ISBN 4-00-007636-1)。

他にも初回ガイダンス時に紹介する。

統計学（秋学期）

多変量解析入門

講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では多変量解析法と呼ばれる統計手法について初心者向けに講義する。

授業では“データの解析”よりも“現象の解明”に重きを置く。多変量解析はコンピュータ処理が前提となるが、この授業は特定の解析ソフトウェアの実習ではなく、いろいろな解析手法の考え方を理解し、多変量解析を利用するに当たっての問題の立て方、解析結果の読み方、考察のしかたなどを習得して貰いたい。

受講者は必ずしも『統計学』を履修している必要はないが、統計的概念について基礎知識を持っている必要がある。少なくとも以下の用語 分散、統計的有意性、有意水準、相関、相関係数 は理解して欲しい。但し、受講者から希望があれば、学期当初の授業で最低限の復習をおこなうことは可能だと思う。また参考書を利用して独学で補うこともできる。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業をおこなう）

参考書：

初回ガイダンスおよび授業中随時紹介する。

情報処理（春学期）

データベース、オンライン・ジャーナルをつかって

レポート作成をしよう

講師 河村 和徳

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、学生に対し様々なデータベースやオンライン・ジャーナルが提供されており、その規模は日本の大学の中でも高い水準にある。これらはレポートや卒業論文の作成に有用であるにもかかわらず、多くの学生はこれらのデータベースやオンライン・ジャーナルに気づくことはないのが現状ではないだろうか。この講義では、法学部生に有用と思われるこれらのデータベース、オンライン・ジャーナルをとりあげ、利用方法について解説する。そして実際に検索やデータのダウンロード等を行ってもらおう。履修者は、こうした経験を各自のレポート作成等に活かせるようにしてもらいたい。

また、折に触れて他大学や民間の法情報サービス等にも言及したいと思う。

テキスト：

とくに指定はしない。

参考書：

とくに指定はしない。

情報処理（秋学期）

サーベイ・データから講義内容を学ぶ

講師 河村 和徳

授業科目の内容：

本講義の内容は2つの要素から成り立っている。

1つは、サーベイ調査およびそのデータ・アーカイブについて学ぶことである。サーベイ調査は、近年、有権者の意向を把握する1つの大きな手段として用いられているが、個人情報保護法の施行以降、調査が困難にもなっている。こうした事情等についても講義内容として取り扱っていきたく考えている。

本講義のもう1つの内容は、サーベイ調査によって得られたデータを具体的に用いながら、講義で聴く仮説を実際のデータから確認してみることである。統計ソフトを利用して公開されているデータを実際に分析してみることは、卒業論文作成等を考えている者にとって論文内容の向上等につながると考える。また機会をみて、公開されているデータの2次利用のメリット・デメリットについても論じていきたいと考えている。なお、本講義で扱う仮説はデータの入手のしやすさから鑑みて、投票行動に関わる仮説を取り扱っていきたく。

共通

なお、この講義では、あくまでも実際に議論されている学説についてデータを用いながら理解していくことが目的であり、計量的な手法を学ぶことが目的ではないので注意すること。

テキスト：

とくに利用しない

参考書：

佐藤 博樹・石田 浩・池田謙一「社会調査の公開データ 2次分析への招待」東京大学出版会、2000年

統計情報処理（春学期）

データ分析の基礎

講師 石上 泰州

授業科目の内容：

この授業では、パソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶ。授業で目標とするのは、SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) という社会科学のための統計ソフトを利用して、簡単なデータ分析を行えるようになることである。データを適切に使いこなすことができれば、それだけ説得力のある議論を展開することができるので、この授業を通じてデータの取り扱いの基礎を身につけてもらいたい。なお、初歩的な内容から授業をはじめるので、履修に際してパソコンや統計についての基礎知識はまったく不要である。履修者には何も基礎知識がないということを前提に授業をはじめるので、初心者の方も履修してもらいたい。

テキスト：

適宜、資料を配布する。

参考書：

適宜、資料を配布する。

統計情報処理（秋学期）

SPSSを利用したデータ分析

講師 石上 泰州

授業科目の内容：

この授業では、「統計情報処理」に引き続いてパソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶとともに、SPSSという統計ソフトを利用して、自らの問題関心にしたいがいつ実際に統計的な分析を行っていく。標準的には、自らテーマを設定し、自分の考えにもとづいて「仮説」をたて、その仮説の検証に必要なデータを収集、整理し、統計的な分析を通じて仮説の妥当性を検証する、という手順をふむ。そして最後には、これら一連の作業についてのプレゼンテーションを行ってもらう。なお、ここでは春学期の「統計情報処理」で学んだ知識や技法を前提に授業を進めるので、その旨あらかじめご了承されたい。

テキスト：

適宜、資料を配布する。

参考書：

適宜、資料を配布する。

統計情報処理（春学期）

回帰分析を習得する

講師 河村 和徳

授業科目の内容：

近年、パーソナル・コンピュータの演算処理速度があがり、かつて大型計算機を使用していた時代と比べ、計量分析を行うことは比較的容易になった。しかし、その一方で、統計的意義を考えずに使用しているケースも散見されるようになった。

この講義では、多変量解析を行ううえで基本となる回帰分析に焦点をあて、その手法、変数選択の留意点等を実習を通じて習得することを目的とする。講義は、単純な回帰分析から重回帰分析、共分散構造分析、数量化理論と、実際のデータを参考に積み上げ式で進めていく。

テキスト：

とくに使用しない

参考書：

とくに使用しない

統計情報処理（秋学期）

分析手法のバリエーションを増やす

講師 河村 和徳

授業科目の内容：

この講義では、統計情報処理 から までの間で講義されなかった分析手法をいくつか紹介し、より研究の幅を広げることを目的とする。統計情報処理 から で取り上げられなかった分析手法の全てを網羅することはできないが、比較的、学会論文でみかける分析手法をピックアップし講義をしたいと思う。具体的には、質的変数を主成分分析のように扱える数量化理論 類や尺度の信頼性分析、時系列的な変化を分析するうえで有効な ARIMA モデル等である。

また、講義の最後では実際にあるデータ（サーベイ、アグリゲート）を用い、習得した手法を用いて課題報告をしてもらうことになる。

テキスト：

とくに使用しない

参考書：

とくに使用しない

諸 研 究 所

慶應義塾外国語学校
教職課程センター
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
体育研究所
福澤研究センター
外国語教育研究センター
国際センター
保健管理センター
情報処理教育室
アート・センター
知的資産センター

慶應義塾外国語学校

外国語学校は、昭和 17 年 10 月語学研究所（現在の言語文化研究所）の設置と同時に、その実践部門として開講され、以来塾生はもとより、他校学生、一般社会人の外国語学習の場として、高い評価を得ています。現在、英語・英会話・ビジネスイングリッシュ・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語・イタリア語・インドネシア語・アラビア語・朝鮮語・ベトナム語・タイ語の 14 外国語科のコースを開講、約 1,000 名の生徒が在学しています。授業は、義塾内外の外国語担当教授をはじめ、外国語を使って実際の場で活躍している職業人、外国人講師など、優れた教員によって行われています。

法学部学生は、教授会によって設定された下記の科目を、自由科目として、履修申告の上履修することができます。

授業は、全科目 18：30～20：00（英会話のみ 16：30～18：00 にも開設）で、春・秋学期（4 月期・10 月期）各 2 単位です。受講するには、外国語学校の定める入学手続が必要で、詳細は「外国語学校入学案内」を参照のこと（問合せ先：慶應義塾外国語学校・電話 03-5427-1592 ホームページ <http://www.fl.s.keio.ac.jp>）。入学手続期間は 2 月上旬～3 月上旬と、8 月上旬～9 月上旬の年 2 回です。

4 月期の場合は、履修申告手続前に外国語学校の入学手続をすることになるため、自由科目として履修申告をする時もし学部の履修科目と時間が重なる場合は、直ちに外国語学校事務室窓口で相談してください。

また、日吉では日吉特別講座を 18：30～20：00 に開講しています。開講する語学は英語・ドイツ語・フランス語の 3 カ国語です。詳しくは、外国語教育研究センター日吉事務室へお問い合わせください。

科 目	ク ラ ス	週間授業数
英 語	上 級	3 回
英 会 話	中 上 級 級	2 回
ビジネス・イングリッシュ		2 回
ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 ス ペ イ ン 語 中 国 語 イ タ リ ア 語	基 礎 級 初 中 級 上 級	* 3 回
ロ シ ア 語 イ ン ド ネ シ ア 語 ア ラ ビ ア 語 朝 鮮 語 ベ ト ナ ム 語 タ イ 語	基 礎 級 初 中 級 上 級	2 回

* スペイン語上級および中国語中級・上級は週 2 回

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 20 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級 (春)	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級 (秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎 (春)	榮谷温子	
アラビア語基礎 (秋)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (秋)	榮谷温子	
アラビア語古典 (春)	岩見 隆	
アラビア語古典 (秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	嶋尾 稔	
ペルシア語初級 (春)	関 喜房	
ペルシア語初級 (秋)	関 喜房	
ペルシア語中級 (春)	岩見 隆	
ペルシア語中級 (秋)	岩見 隆	
タイ語初級 (春)	三上直光	
タイ語初級 (秋)	三上直光	
タイ語中級 (春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級 (秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級 (春)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語初級 (秋)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語中級 (春)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語中級 (秋)	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読 (春)	李 美江	
朝鮮語文献講読 (秋)	野村伸一	
カンボジア語初級 (春)	三上直光	
カンボジア語初級 (秋)	三上直光	
ヘブライ語初級 (春)	筈川博一	
ヘブライ語初級 (秋)	筈川博一	
ヘブライ語中級 (春)	筈川博一	
ヘブライ語中級 (秋)	筈川博一	
古代エジプト語初級 (春)	筈川博一	
古代エジプト語初級 (秋)	筈川博一	
古代エジプト語中級 (春)	筈川博一	
古代エジプト語中級 (秋)	筈川博一	
アッカド語初級 (春)	高井啓介	
アッカド語初級 (秋)	高井啓介	
アッカド語中級 (春)	高井啓介	
アッカド語中級 (秋)	高井啓介	

サンスクリット初級 (春)
サンスクリット初級 (秋)
言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動変化

随時、宗教・神話・歴史についても解説する。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級 (春)
サンスクリット中級 (秋)
言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット中級では、参加者と相談して決めたテキストを講読し、文化史宗教史的事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎 (春)
アラビア語基礎 (秋)
言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

- (春) 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- (秋) 第1回 第7回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第8回 第13回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読 (春)
アラビア語現代文講読 (秋)
言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
- ・黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明します。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春) 第1回 第6回 母音記号がついた平易な短い物語の講読。

第7回 第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋) 第1回 第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典 (春)
アラビア語古典 (秋)
アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie

プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読 (春)
アラビア語文献講読 (秋)
アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文(叙事の文)をあたりにまに読めるようになることを目指します。

テキスト:

受講者と相談して決めます。

参考書:

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画:

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント:

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。)

ベトナム語初級 (春)
ベトナム語初級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

簡単なベトナム語が読めるようになることを目指します。前期は、下記の教科書を用いて、発音、基礎文法、基礎会話を学びます。後期から基礎表現の練習と平行して、簡単な文章を読んでいます。

テキスト:

三上直光『ニューエクスプレスベトナム語』(白水社, 2007年)

参考書:

Nguyen Dinh Hoa, *Ntc's Vietnamese English Dictionary*.

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ベトナム語中級 (春)
ベトナム語中級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

新聞記事程度のベトナム語が読めるようになることを目指します。前期は基礎的な文章を読みます。後期は、ウェブ上のベトナム語の新聞から面白そうな記事を拾って読みます。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語666』(東洋書店, 2005年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読 (春)
ベトナム語文献講読 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

ベトナム語で書かれた学術論文を読みます。あるいは、もし希望者がいればチュノムで書かれたベトナム語の文章に挑戦します。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

富田健次『ベトナム語の世界: ベトナム語基本文典』(大学書林, 2000年)

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級 (春)
ペルシア語初級 (秋)
ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容:

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト:

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』(大学書林)

参考書:

黒柳恒男著『ペルシア語の話』(大学書林)

授業の計画:

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習(計16回)
- 4- 易しい現代文を読む練習(計7回)
- 5- テスト

履修者へのコメント:

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級 (春)
ペルシア語中級 (秋)
ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト:

受講する人と相談して決めます。

参考書:

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画:

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント:

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化などに慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。)

タイ語初級 (春)
タイ語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級 (春)
タイ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 ポンシー、ライト

授業科目の内容:

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級 (春)
トルコ語初級 (秋)

トルコ語初級
言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイトゥン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- (春) 第1 - 2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- (秋) 第1 - 4回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第5 - 8回 分詞
- 第9 - 11回 動名詞
- 第12 - 13回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安とと考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級 (春)
トルコ語中級 (秋)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイトゥン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読 (春)

朝鮮語文献講読 (秋) 言語文化研究所 講師 李美江
文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家、社会と現状を知るためのテキストを講読します。

文学作品は同時代の社会を強く反映しているといえます。1920年代から1980年代にかけての韓国を代表する文学作品に数多く接し、その時代の社会の有様と、韓国人のものの見方や考え方を探ることを目的とします。

テキスト:

イ・ナムホ編『今日の韓国小説』民音社、2000年

イ・ナムホ編『韓国短編文学選』民音社、1998年

各自、韓国書籍を扱う書店(例、三中堂、高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

授業の計画:

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することからは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html>に掲載します。

前期と後期で担当者は変わりますが、教材は同じです。

成績評価方法:

出席すること、翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級 (春)

カンボジア語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級 (春)
ヘブライ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになってるのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級 (春)
ヘブライ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級 (春)
古代エジプト語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになってるのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級 (春)
古代エジプト語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級 (春)
アッカド語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計五回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計三回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計三回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計三回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど テキストを読みつつ文法事項を確認します (計五回)

履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

アッカド語中級（春）

アッカド語中級（秋）

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

（春）：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

（秋）：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所について

メディア・コミュニケーション研究所は、1946年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、1996年に創立50周年を迎えました。それを機に、名称もメディア・コミュニケーション研究所となりました。その背景には、放送が急速に発展し、新聞とともにマス・メディアの中心に位置するようになったこと、そしてインターネット時代を迎えるようになったことがあげられます。

新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマス・メディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

この目的は現在も継承されており、メディア・コミュニケーション研究所は、新聞、放送、通信社、出版、広告などのマス・メディア業界に就職を希望する学生のための教育機関として大きな役割を果たしてきました。また、メディアやコミュニケーションについて、教員と学生（この研究所では研究生と呼ばれています）が研究を進める機関でもあります。

実は、私も1979年にこの研究所（新聞研究所）を修了しました。私の研究生時代、研究所の規模は小さく、専任や非常勤の先生方に公私にわたって大変お世話になりました。文章作法では自分の作文力のなさを、研究会では基礎概念の理解不足を実感させられました。でも、そうした経験は、今貴重な財産になっています。現在の研究生も、私と同じような経験をしていることでしょう。

この研究所は、名前をあげれば誰でも知っているような著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきました。また、それほど目立たなくても個性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、そしてマス・メディア企業の経営者になった修了生も多数います。こうした伝統は脈々と受け継がれています。もちろん、すべての修了生が、マス・メディアやその関連業界に進むわけではありません。しかし、この研究所で学んだこと、そして人とのつながりは、必ずやマス・メディア業界以外でも様々な形で生かされていくはずで

研究生たちは今、従来型のマス・メディアだけでなく、様々なメディアを通じて情報を入手し、それを処理・加工し、情報発信をしています。でもその基本はやはり、入手した情報をもとに「考え」、そして「表現する」ことだと思います。特に、批判的に「考える」ことの重要性は、高度情報社会の今でも変わらないのは当然です。その力をぜひ、この研究所で磨くようにしてください。そして、その成果を社会に還元するようにして下さい。それが私の心からの期待であり、希望です。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）10月下旬～11月中旬に三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月上旬に三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10単位以上
・研究会	8単位以上
・特殊研究	4単位以上
・基礎演習	2単位以上
合計	28単位以上

2～4年の春学期までに研究会～を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、「研究会～と研究会は全員が履修するが、研究会とは必修ではない。」

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 20 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

* 基礎科目（オープン科目） 研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	奥野 昌宏
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	春2	遠藤 薫
三田設置科目	メディア法制	春2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制	秋2	大石 泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論	春2	烏谷 昌之
三田設置科目	ジャーナリズム論	秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論	春2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春2	小城 英子
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	春2	白水 繁彦
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	メディア産業と政策	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	情報産業論 ・	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・（朝日新聞寄附講座）	春2/秋2	大石・伊藤高・和泉
三田設置科目	コミュニケーション調査法 ・	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 ・	春2/秋2	石丸・菅谷・豊嶋
三田設置科目	毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編	春2/秋2	河内 孝

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	李 光鎬
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	藤田 結子

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義	春2	鈴木 祐司
三田設置科目	放送特殊講義	秋2	村尾 尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究 ・（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春2/秋2	岡田 直敏
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア特殊講義	春2	坪田 知己
三田設置科目	メディア特殊講義	秋2	堀 主知ロバート
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究（市民とメディア）	秋2	金山 智子
三田設置科目	特殊研究（若者文化とメディア）	春2	藤田 結子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春2/秋2	豊嶋・菅谷・小川・藤田

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春2/秋2	宮川美樹子
三田設置科目	文章作法 ・	春2/秋2	稲井田 茂
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	春2	金山 智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春2/秋2	大久保 成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春2/秋2	田辺 浩介

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

・大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会

参考書:

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書:

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. 幕末維新期の新聞(計3回)
4. 明治政府の言論政策(計3回)
5. 政治ジャーナリズム(計3回)
6. 不偏不党のジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. ヨーロッパ近代と新聞(計3回)
4. 党派的ジャーナリズムの位相(計3回)
5. 商業ジャーナリズムと公共圏(計3回)
6. 客観性とジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- 質問・相談：
授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

国際コミュニケーション論（春）

メディアと国際関係

奥野昌宏

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹起させており、時として国際的な紛争を生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわちメディア・コミュニケーションをめぐる国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

武市英雄・原寿雄 責任編集『グローバル社会とメディア』（叢書現代のメディアとジャーナリズム1）、ミネルヴァ書房、2003年。その他、適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション，メディア，そして国際コミュニケーション
2. メディアの発達と国際的進展
3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
4. メディアのグローバル化と国際的再編成
5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相
それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

国際コミュニケーション論（秋）

東アジアのメディア・情報・文化

奥野昌宏

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をとともに考えていきたいと思っています。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
2. 韓国のメディア状況と社会・文化
3. 中国のメディア状況と社会・文化
4. 東アジアにおける日本の大衆文化
5. 「韓流」文化の生産と受容
6. 東アジアの国際関係とメディアの役割
それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

メディア社会論（春）

情報グローバリゼーションと文化変容

遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根本的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫『グローバリゼーションと文化変容』世界思想社、2007年
- ・遠藤薫『複合メディア社会と コミュニティ（仮）』東京電機大学出版局、2007年

参考書：

- ・遠藤薫『間メディア社会と 世論 形成』東京電機大学出版局、2007年
- ・遠藤薫『インターネットと 世論 形成』東京電機大学出版局、2004年
- ・遠藤薫『電子社会論』実教出版、2000年

授業の計画：

1. 社会とメディア
2. メディアとは何か
3. 現代メディア文化の諸相 (1)
4. 現代メディア文化の諸相 (2)
5. 現代メディア文化の諸相 (3)
6. 現代メディア文化の諸相 (4)
7. 現代メディア文化の諸相 (5)
8. 現代メディア文化の諸相 (6)
9. 現代メディア文化の諸相 (7)
10. 現代メディア文化の諸相 (8)
11. 文化 の時代としての現代
12. メディア複合文化の諸相
13. メディア複合と社会構造の変容

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

授業科目の内容:

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・宇賀克也, 長谷部恭男編著『法システム : 情報法』放送大学教育振興会(放送大学教材), 2006年
- ・中山 信弘著『著作権法』有斐閣, 2007年
- ・福井健策編/内藤 篤・升本喜郎著『映画・ゲームビジネスの著作権』著作権資料協会, 2007年
- ・宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』, 2007年3月

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送法の枠組みと課題 (1) 放送法総論
- (3) 放送法の枠組みと課題 (2) NHK
- (4) 放送法の枠組みと課題 (3) CATV
- (5) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (1) コンテンツ法
- (6) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (2) 著作権法
- (7) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (3) 独禁法(再販, 特殊指定)
- (8) 通信法(通信の秘密と有害コンテンツ)
- (9) ネットいじめと法規制
- (10) 迷惑メール対策法
- (11) 個人情報保護法
- (12) 情報通信法(仮称)
- (13) まとめ

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

本講義は、「取材・報道の自由」をキーワードに、マス・メディア(新聞社・放送局など)やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度をとり扱う。受講者が、マス・メディア(ジャーナリスト)にかかわるさまざまな事件について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになること、それがこの講義の目標である。

テキスト:

大石泰彦著『メディアの法と倫理』(嵯峨野書院, 2004年, 2500円)

参考書:

特に指示しない。ただ、堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』(別冊ジュリスト, 有斐閣)は、授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画:

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 取材・報道の自由と権力
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 報道倫理

ひとつのテーマに、約2回の講義をあてる。

履修者へのコメント:

継続的に新聞を読み、テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や、「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(受講者数が少ない場合、レポートに代えることがある。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

この講義では「社会問題とジャーナリズム」について考えます。戦争、テロ、歴史問題、公害問題、原発問題、沖縄問題など多様な社会問題について考えていくうえで、ジャーナリズムの活動に注目することが、どのような思考の可能性に開かれているかを議論したいと思います。

テキスト:

指定しません。適宜レジュメを配布します。

参考書:

- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」世界思想社, 2006年
- ・小林直毅編「水俣の言説と表象」藤原書店, 2007年

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 戦争とフォト・ジャーナリズム
3. テロリズムとジャーナリズム
4. 日中報道倫理の衝突
5. 戦争の記憶とジャーナリズム
6. 水俣病事件とジャーナリズム
7. 大規模公共事業とジャーナリズム
8. 人物論とジャーナリズム(1)
9. 人物論とジャーナリズム(2)
10. 原発論争とジャーナリズム(1)
11. 原発論争とジャーナリズム(2)
12. 沖縄イニシアティブ論争とジャーナリズム
13. 補足とまとめ

履修者へのコメント:

授業はきっかけでしかありません。授業を社会問題を考える入口として利用し、独自に名作と出会って欲しいと希望します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持込可の試験を予定しています。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(原則、毎回小ペーパーに講義の感想を書いて提出してもらう予定です。)

授業科目の内容:

法社会学と政治社会学の観点から、ジャーナリズムと権力の関係を考察します。

参考書:

伊藤高史著『「表現の自由」の社会学』(八千代出版, 2600円税別)

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ジャーナリズムと世論
3. ジャーナリズムと国家権力の関係を考えるための理論
- 4.~6. 事例研究
- 7.~8. 外交政策とジャーナリズム
- 9.~10. 情報操作
- 10.~13. 情報源の保護

履修者へのコメント:

授業開始と同時に、出席をとります。遅刻は一切考慮しません。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持ち込み可)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席のほか、授業中に課す課題の結果も考慮します。)

世論 (春)
世論形成のメカニズムと今後の課題 小川 恒夫

授業科目の内容:

世論形成のメカニズムや、報道の問題点および今後のあり方などについて考えます。

テキスト:

『政治メディアの「熟慮誘発機能」』八千代出版

参考書:

なし(授業内で紹介します)

授業の計画:

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的な事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響(マスコミ)と水平的影響(口コミ)
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント:

テキストに沿って授業を進めていきます。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

授業終了後とその都度

情報行動論 (春) 小 城 英 子

授業科目の内容:

犯罪、災害、不思議現象、ファン心理など、具体的な事例を切り口にマス・コミュニケーションの影響過程について学びます。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 災害とマス・メディア(計3回)
3. 劇場型犯罪とマス・コミュニケーション(計3回)
4. 不思議現象とマス・コミュニケーション(計3回)
5. ファン心理(計3回)

1.~5.は、社会情勢などに応じて、順序を入れ替えることがある

履修者へのコメント:

授業は教員と受講生との相互コミュニケーションで成り立っています。

積極的な参加を求めます。

成績評価方法:

レポートによる評価

異文化間コミュニケーション (春)
メディアによるイメージ形成と受け手の解釈 白 水 繁 彦

授業科目の内容:

民族や地域社会など、ひろく集団や地域のイメージの形成にはメディアが深く関わってきた。それが当該集団や地域の理解を助けたり、阻害したりしてきた。この授業では、実際にメディアがイメージ形成に関わっている事例をとりあげ、その制作意図を探り、また受け手がそれをどう解釈するか、といったことがらを検討してみたい。

テキスト:

なし。パワーポイントやビデオによる資料提示。

参考書:

・白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化』御茶の水書房

2008年

・山中速人『イメージの「楽園」 観光ハワイの文化史』筑摩書房
1992年

授業の計画:

- 1~2. 異文化間コミュニケーションとは
異文化間コミュニケーションの諸相, 異文化間コミュニケーションの社会心理学
- 3~4. メディアのイメージ形成力
メディアメッセージと人びとの知覚, 認知: メディアの社会心理学
状況の定義づけ, 社会的事実とメディアメッセージ: メディアの社会学
- 4~5. 民族集団のイメージ形成と宣伝 ヒットラー, ゲッペルスの世界
- 6~8. 地域社会のイメージ形成
ハワイの例, 湯布院の例
- 9~10. 「沖縄」イメージ形成の形成
ハワイのウチナンチュ・ムーブメント
沖縄のウチナンチュ・ムーブメント
- 11~12. ワークショップ メディアメッセージの分析
広告の分析実践 高級ブランドの広告分析, 観光フライヤー等の分析
13. 全体のまとめ

履修者へのコメント:

好奇心旺盛で、熱心な学生の履修を望みます。授業時間中にしばしばエッセイを書かせます。また、頻繁に質問を致します。それに答える必要がありますので、旺盛な参加意欲が必要です。

成績評価方法:

- 1・試験の結果による評価 50%
- 2・レポートによる評価 エッセイの本数と内容の評価 50%
- 3・平常点: 上記の2. と同様

質問・相談:

できれば授業中または授業後に直接質問してください。時間がないときはメールによる質問も受け付けますが返事に時間がかかる場合があります。

異文化間コミュニケーション (秋) 藤 田 結 子

授業科目の内容:

この授業では、「ネイション(=国民・民族)の文化とコミュニケーションに関する問題を考察していきます。言語、行動、組織を中心とした狭義の異文化間コミュニケーションではなく、イメージ形成、表象、マスメディアなどを含む広義の異文化間コミュニケーションを対象とします。

テキスト:

秋学期開始時に指定します

授業の計画:

- 第1回 ガイダンス
- 第2 4回 「日本人」のアイデンティティ
「日本人らしさ」とは何か
日本人の表象, オリエンタリズム
- 第5 8回 マルチエスニック・ジャパン
日本の中のエスニック・マイノリティ
外国人のステレオタイプ
「英語支配」の問題
- 第9 10回 グローバル化の中の日本人
日系人の経験
近年の移住者: 駐在員・女性・留学生
- 第11 12回 越境文化
ハイブリッド化するポピュラーカルチャー
コスモポリタン文化の可能性

履修者へのコメント:

授業では、毎回、テレビ番組などの映像資料を用いて講義をする予定です

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア文化論（春）

映画コンテンツとクロス・メディア研究 小川 葉子

授業科目の内容：

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。

教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート（数回）をおこなう。

最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、最終グループ・プレゼンテーションを予定している。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- (1) ガイダンスおよび導入
- (2) エンタテインメントの歴史（2～14 は適宜選択）
- (3) ニュース
- (4) 新聞とジャーナリズム
- (5) 人種とエスニシティの表象
- (6) ドキュメンタリー
- (7) フィルム・ノアール
- (8) ミュージカル
- (9) スリラーとサスペンス
- (10) 古典的物語
- (11) ポストモダニズム
- (12) 北欧映画
- (13) アジアその他の地域の映画
- (14) 映画上映と履修者による最終グループ・プレゼンテーション（3回）

履修者へのコメント：

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）
- ・数回の小レポート。

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア文化論（秋）

映画コンテンツとクロス・メディア研究

クリティカルな批評からクリエイティブな企画立案へ

小川 葉子

授業科目の内容：

既存の映画コンテンツの批判から、新たなクリエイティブ・コンテンツの企画・立案につながる創造的な思考のプロセスをシュミレートすることを目的とする。

グローバルイゼーションや文化（財）、行政、企業の社会的責任（CSR）も視野に入れつつ、セミ・ドキュメンタリー、音楽映画等の特定のジャンルのほか、SF、アニメ等の考察を対象とする。

テキスト：

授業中に指示する。ハリウッド映画ジャンルに関するボードウエルの邦訳も含む。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンスおよび導入
- 2) グループ分けと作業手順の説明

3) セミ・ドキュメンタリーと音楽映画（3回）

4) 各班による上映映画の選択とプレゼンテーションと批評、コメント

5) 前回の批評・コメントに基づいたオルタナティブな企画案の作成（4,5のペアにより各4回）

6) 最終レポートの作成とクリエイティブな思考プロセスの探索

7) 履修者個人々人へのフィードバックとまとめ

履修者へのコメント：

当該年度か前年度に「メディア文化論」（春学期）を履修しているか、あるいは映画を30本以前観賞している程度の知識を有していることを履修の前提とします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（数回の授業内小レポートおよび企画書）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア産業と政策（春）

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』（丸善、2002年）

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

1 メディア政策

2 政府規制

3 メディア市場

映像コンテンツ産業(6)

4 映像コンテンツと映画

5 映画産業の発展

6 映像振興政策（欧州、米国、日本）

まとめ(1)

7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

試験の結果による評価（基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する）。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

メディア産業と政策（秋）

通信・放送融合時代の情報通信政策 豊嶋基暢

授業科目の内容：

通信・放送産業を中心としたメディア産業に関する政策の動向と今後の課題について学習していく。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

(1) オリエンテーション

(2) 通信政策（5回程度）

非対称規制

NTTのあり方

モバイルビジネス政策

周波数政策

消費者行政

(3) 放送政策 (4 回程度)

放送のデジタル化

NHKのあり方

CATVの今後

衛星放送の今後

(4) 通信・放送産業を取り巻く政策 (2 回程度)

コンテンツ流通促進

技術開発政策

(5) まとめ

講義内容により、政策担当者による講義を実施する予定。

履修者へのコメント:

情報通信政策に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・出席状況、授業態度による平常点

質問・相談:

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

情報産業論 (春)

メディア産業概論

宿南達志郎

授業科目の内容:

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣、2006年
- ・電通総研編『情報メディア白書2008』ダイヤモンド社、2008年
- ・総務省編『情報通信白書 平成19年版』ぎょうせい、2007年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) コンピュータ業界
- (3) 通信業界 (1)
- (4) 通信業界 (2)
- (5) 放送業界 (1)
- (6) 放送業界 (2)
- (7) 新聞業界
- (8) 出版業界
- (9) 映画業界
- (10) 音楽業界
- (11) マンガ、アニメ業界
- (12) 広告業界
- (13) まとめ

履修者へのコメント:

毎週ホームページにアクセスできる人に限ります。

URLは、<http://can.55j.jp/>

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (毎週ブログ上で授業内容に関連する議論に参加してもらいます。)

情報産業論 (秋)

インターネット・ビジネス論

宿南達志郎

授業科目の内容:

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的なビジネスへ影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・(財)インターネット協会『インターネット白書2007』インプレス社、2007年
- ・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房、2006年
- ・梅田望夫『ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書、2006年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット経済
- (3) インターネット経営
- (4) インターネットと政府・自治体
- (5) SNS, ブログ
- (6) 音楽・映像配信
- (7) 電子マネー
- (8) 電子出版
- (9) 電子商取引
- (10) ネット広告 (1)
- (11) ネット広告 (2) Google
- (12) モバオク, モバゲー (DeNA)
- (13) まとめ

履修者へのコメント:

毎週ネットにアクセスし、ブログでの議論に参加できる人に限ります。URLはこちら: <http://can.55j.jp/>

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座 (春)

大石裕

朝日新聞寄附講座

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容:

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて、講義をしていただく。

授業の計画:

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2008年4月までに、発表する予定。

講義テーマとして、「ジャーナリズムの責任と課題」「新聞の取材・編集過程の実際」「報道と人権」「週刊誌から見たジャーナリズムの現在」などを予定。

履修者へのコメント:

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価 (2回, レポートを提出)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (毎回, 授業について、感想文を提出する)

ジャーナリズム総合講座 (秋)

大石裕

朝日新聞寄附講座

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容:

情報化・グローバル化時代におけるジャーナリズムの現状と課題を報道の現場とビジネスの両側面から、ゲスト講師の方々に語っていただく。

授業の計画:

具体的にお呼びする講師名については、9月末までに、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトに掲載する予定。

講義テーマとして、「インターネット時代におけるマスメディアのジャーナリズム」「サイバージャーナリズムの実践」「グローバル化時代の国際報道」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（2回、レポートを提出）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、授業について、感想文を提出する）

コミュニケーション調査法 ・ （春）(秋)

テレビニュースの内容分析 伊藤陽一

授業科目の内容：

2008年1月に録画されたテレビニュース番組をマニュアルにしたがって「内容分析」し、ニュースの国際流通のパターンと規定要因等について研究する。データの集計、図表の作成のため、表計算ソフト「エクセル」を多用する。データはウェブページに直接入力する。そのため、「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必要となる。

テキスト：

菅 民郎『Excelで学ぶ多変量解析入門』オーム社 2001年

参考書：

伊藤陽一『ニュースの国際流通と市民意識』慶應義塾大学出版会 2005年

授業の計画：

第1回：オリエンテーション：今学期に取り組む研究についての解説と達成目標の提示。

この授業では「研究」(実習)と「勉強」(講義)の両方を平行して行う。「勉強」についてはあらかじめスケジュールを作ることができるが、「研究」とは未知の分野の開拓なので予測不能な面が多く、あらかじめスケジュールを作っておくことは難しい。また「勉強」では欠席者のことは気にしなくて済むが、「研究」(実習)では、欠席者(特に数回連続の欠席者)を「おいてきぼり」にすることはできない。そこで2回以降は「研究」(実習)を優先的に進め、時々「研究」(実習)の進行を止めて「勉強」(講義)を行う。「勉強」(講義)がカバーするのは以下の通りである。

- (1) 上記『Excelで学ぶ多変量解析入門』の内容(一部)
- (2) 初等統計学
- (3) 社会調査法入門
- (4) 内容分析法入門

履修者へのコメント：

この授業の「研究部分」(上記)は約25カ国が参加する国際共同研究です。それには私の昔からの大学院生も参加するので、彼らにも適宜授業に参加してもらい、時々「飲み会」をするなどして、全体として「研究会」のような雰囲気になりたい。この研究は1年をかけて完成させる予定ですので、できるだけ春、秋通して、通年で履修してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされる可能性があります。)

質問・相談：

質問内容とそれに対する回答は、履修者全員で共有したいので、質問は原則として授業中にしてください。またメールで質問する場合は、履修者全員のメーリングリスト(こちらで作成します)に載せてください。

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 (春)

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

民間テレビ放送の成り立ちを踏まえて、コンテンツ戦略の要になる番組編成や、ドラマ、バラエティ等エンターテインメント番組の制作の実際、映画事業について、実務経験のあるフジテレビの役・職員が、自らの経験をまじえながらオムニバス方式で講義します。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. ガイダンス(民間テレビ放送の成り立ちと課題)
2. 番組編成
3. バラエティ番組の制作
4. ドラマ番組の制作
5. 映画事業

(注)2,3,4,5については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 (秋)

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

春学期はエンターテインメント、秋学期は報道・情報、ドキュメンタリー、スポーツ等ノンフィクション系の番組制作の実際について、実務経験を積んだフジテレビの役・職員がオムニバス方式で講義します。

またデジタル化等メディア環境の変化の中で民間テレビ放送がどのように変わっていくかについても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. メディア環境の変化
 2. ニュース・報道番組の制作
 3. 情報番組の制作
 4. ドキュメンタリー番組の制作
 5. スポーツ番組の制作
 6. 技術革新とメディアの変化
 7. デジタルコンテンツ事業
 8. 広告媒体としてのテレビ
 9. 民間テレビ放送の将来展望
- (注)2,7については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(春)
新聞、テレビ、コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

2011年テレビのデジタル化を機に新聞、テレビ、通信を巻き込んだメディアコンセントレーションが進む。メディアコングロマリットとは何か?再編成はどう進むかをふかんする。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時、授業中に提示する。

授業の計画:

新聞、テレビ、出版などをタテ割りに学んでもメディア再編成の全体像は見えてこない。

このため河内によりオリエンテーションを受けて、新聞、TV、番組製作プロダクション、出版社、広告代理店の中堅社員が「メディアの現場」で今起きている状況を「生中継」してもらおう。例えば

日経新聞の社説はどのように作られるのか

ドキュメンタリー番組の企画から放送まで

「100万部」売るとい出版の現場

メディア再編時代の広告代理店の日常

ソフトバンク社長の語るIT新時代とは

メディア界に就職するという、するには、をマスコミ担当者が語る

キャラクター戦略を小学館の責任者が語る

ドラマ~こう作る(フジTVプロデューサー)~など

履修者へのコメント:

今年は徹底的にメディア各現場を預かる責任者に「今」を語ってもらい、それを受けてメディアの明日をさぐる。新しい試みに是非、参加してほしい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時行います。添削し返却します) 50%
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価 50%

質問・相談:

授業後、教室、あるいは教員室で受ける。

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(秋)
新聞、テレビ、コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

春学期で学んだメディアコンセントレーションによるコングロマリットの誕生、日本メディア再編成の将来図を更に研究する。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時、指示する。

授業の計画:

春季に講演した同一メンバー(一部入れ替えあり)によって新聞、テレビ、出版、コンテンツ制作、広告代理店、コミュニケーション業界の現状と、将来見通しをさらに踏み込んで講義する。

この合間に河内が各メディア機能の融合と、コンセントレーションの進行。日本におけるメディアコングロマリット形成の見通しにつき講義する。

またメディア界への就職を希望する諸君へ、毎日コミュニケーションズの担当者が具体的アドバイスをおこなう。

履修者へのコメント:

今日、考えられる最良のメンバーが「メディア」各分野の「いま」を語るユニークな講座、このチャンスを逃さず多くの諸君に受講してもらいたい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時、提出を求める。添削し、返却します)(50%)

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(50%)

質問・相談:

授業前後、教室、教員室で受ける。

【研究会】

研究会(~)

メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容:

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト:

春学期開始時に指定する。

授業の計画:

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告,3回)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント:

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会(~)

メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容:

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2007年度の共同研究テーマは、'The Films')

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会のホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

授業の計画:

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント:

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。)

・なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(～) 新規募集なし
身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する
金 山 智 子

授業科目の内容:

本研究会では、メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのか、どのように関わっているのか、個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。

テキスト:

特に使いません。

授業の計画:

(1) 春学期

4年生は修了論文の研究計画をたて、発表します。

(2) 秋学期

4年生は研究計画に基づいて調査を実施し、三田祭で中間報告します。

最終的な研究結果については、修了論文を作成し、口頭発表および論文提出を行います。

成績評価方法:

平常点と修了論文

研究会(～) グローバリゼーションと持続可能なメディアのデザイン
小 川 葉 子

授業科目の内容:

本研究会では、比較映像分析とフィールドワークに基づく空間分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。とりわけ、映画、ファッション、広告、ニュース、流通の未来をクリエイティブ産業、クリエイティブ都市論、文化政策との関連で検討し、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、デジタル・シネマやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト:

・カナダ、オンタリオ州教育省著『メディア・リテラシー』(りべるた出版、2006年)

・『ファッション中毒』(NHK出版、2004年)

その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキストおよび各種白書等を使用予定。

参考書:

・M. フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻、恒星社厚生閣、2002年)

・伊藤陽一・河野武司編『ニュース報道と市民の対外国意識』(慶應義塾大学出版会、2007年)

授業の計画:

春学期

(1) ガイダンスおよび導入(2~3回)

(2) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトに関する説明(2~3回)

(3) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトの分担決定とその遂行(6~8回)

(4) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表、春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)

(2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表(2回)

(3) フィールドワーク(2回)

(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる作品の制作(2回)
(5)(4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)

(6) 三田祭発表とフィードバック(2回)

(7) まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)
履修者へのコメント:

フィールドワークは、映画関連イベント、文化施設、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国の白書、ジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価。

・レポートかそれにかわる作品による評価。

質問・相談:

授業終了直後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～) ジャーナリズムを考える 大 石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書:

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画:

[前期]

1~2回 基本的な文献の講読

3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～) メディアと認知 李 光 鎬

授業科目の内容:

本研究会では、様々なメディアにおけるコンテンツの内容・形式上の諸属性が、そのコンテンツが伝えている事象に対する注目、記憶、理解、学習、評価などにどのような影響を与えるのかについて実験や調査を行う。

テキスト:

メディアの認知的効果に関する研究書や論文を授業の中で適宜示す。

参考書:

Richard Jackson Harris, *A Cognitive Psychology of Mass Communication*, London: LEA, 2004.

授業の計画:

春学期には、メディアの認知的効果に関する研究書や論文を輪読・発表しながら各自の研究テーマを検討し、先行研究のレビューを行う。

秋学期には、実験の素材や調査票を作成し、各自データの収集・分析を行った後、研究発表を行う。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価

研究会 (~)

次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション産業に関する研究
金正勲

授業科目の内容:

2008 年度の金ゼミでは、次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション分野の未来について、社会、文化、技術、産業、政策という学際的視点から研究を行います。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

特に指定しません。

授業の計画:

春学期 (13 回) の場合

1. ガイダンス (計 1 回)
2. 春合宿 (計 1 回)
3. 基本書輪読 (計 2 回)
4. Newsclipping, 輪読, レクチャー, ゲスト講義と討論 (計 7 回)
5. 企業省庁訪問 (計 2 回)

履修者へのコメント:

理論と実践のバランスを重視すると共に、全員参加型のゼミを目指しているので各自の '高い' コミットが求められます。春・夏のゼミ合宿、ニュースクリッピング、担当教員やゲストによるレクチャー & 討論、輪読、企業省庁訪問、三田祭論文作成・発表等の活動を行います。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

ゼミ活動については、<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/kim/>、質問は kim@dmc.keio.ac.jp まで。

研究会 (~)

情報通信産業の進展と政策展開に関する研究

豊嶋基暢

授業科目の内容:

通信・放送分野は、2011年の「完全デジタル元年」に向けて、ブロードバンド化、ワイヤレス化が急速に進展し、通信と放送の融合 (連携) を視野に入れた情報通信政策の転換期となっている。本研究では、情報通信ネットワークの高度化・多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらすのかについて研究するとともに、通信・放送融合 (連携) に向けた情報通信政策及び法制度のあり方について、考察・議論する。

テキスト:

授業の中で適宜指定します。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

(1) 春学期

ガイダンスと導入 (第 1 回)

NEWS CLIPPING (通年)

共通テーマと関連する文献の輪読・発表等

個人研究テーマの設定・中間発表

(2) 秋学期

個人研究又は全体研究のテーマを設定して研究・発表

なお、春学期・秋学期とも、適宜、施設見学や政策担当者の話を聞く機会を設ける予定です。

履修者へのコメント:

本研究会は議論中心ですが、他者の研究の議論にも積極的に参加し、自分の興味のある分野の研究を深めていって欲しいと考えています。情報通信について、産業、政策、法制度に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価。

質問・相談:

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

研究会 (~)

メディアと文化

藤田結子

授業科目の内容:

本研究では、メディア、コミュニケーション、または文化に関わる社会現象について、各自の関心にもとづくテーマを設定し、調査研究を進めます。

授業の計画:

春学期

- ・文献購読
- ・調査方法 (内容分析、インタビュー、アンケート、参与観察、ビデオエスノグラフィ)
- ・個人研究計画発表
- ・三田祭共同研究テーマの設定
そのほか企業訪問、他大学とのディベートなど

夏合宿

秋学期

- ・三田祭論文の調査・執筆・発表
- ・次年度にむけての個人研究計画発表
そのほか街でのフィールドワークなど

履修者へのコメント:

好奇心を持って、積極的にゼミに参加する学生を歓迎します

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義 (春)

鈴木祐司

授業科目の内容:

映像・音響の総合伝達手段として、最も普及したメディアはテレビである。今そのテレビが変貌しようとしている。音声メディア、活字メディア、そして映画から影響を受け成熟してきたテレビは、どう変化しようとしているのか。

授業では、構成・オープニング・コメント・音響効果・CM など、テレビの特性をなす各部分を分析する。その中で、映像・音響制作の現在・過去・未来を考え、これからのテレビのあり方を検討する。

テキスト:

なし

参考書:

なし

授業の計画:

ガイダンス

- ~ 構成とは時間の芸術: 視聴者にとってわかりやすくおもしろい構成・ストーリーテリングとは何か。番組に込められた工夫の数々を紹介する。
- ~ オープニングは最強の PR: 視聴者の中には、オープニングだけでチャンネルをかえる人が少なからずいる。ゆえに番組のオープニングにはあっと驚く工夫がなされている。その実態に迫る。
- ~ うまいコメントは寡黙: 番組のコメントは耳で聞いてわかりやすく工夫されている。書き言葉と話し言葉のちがいを体験しよう。
- ~ 音響効果が番組を彩る: テレビは映像が中心と思われがちだが、実は音の力が大きい。番組の中でどう活躍しているのか。見えない音の工夫を見てみよう。
- ~ CM とは真実のメッセージ: テレビ産業の基本は CM ビジネス。しかしその歴史は興味深い。どう変化しており、今の CM がどこまでできたのか、どこへ行こうとしているのかを見てみよう。

- ～ デジタルでテレビはどう変わる：デジタル化でテレビは大きく変わろうとしている。しかも通信との融合も迫られ、変化の度合はきわめて大きくなった。どこへ行こうとしているのかを探る。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（授業内で出題・ミニレポートあり）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席状況を加味）

放送特殊講義（秋）

「テレビニュース」って何だろう？ 村尾尚子

授業科目の内容：

「テレビニュース」の現場では、いま、いったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職職員、キャスター、コメンテーターが、その“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来を探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

授業の計画：

- 1 「テレビニュース」総論（序）
- 2～12 「テレビニュース」の現場最前線
- 13 「テレビニュース」実習とフリー討論
変更の可能性あり

履修者へのコメント：

テレビ好きですか？好きでも嫌いでも...テレビに興味・関心のある人、テレビ局の仕事って何だろうと思っている人、テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人...歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（平常点、実習＆フリー討論の評価を加味します）

質問・相談：

講義の中で質問を受けつける時間を設定します。

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（春）
テレビニュースはどう作られる 安倍宏行

授業科目の内容：

ニュース制作の実態と記者レポートの撮り方を学びます。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. ガイダンス・テレビと新聞の違い、テレビニュースの特質
2. ニュースの伝え方（ストレートニュース・記者レポート・中継の違い）
3. ニュース原稿演習
4. ニュース制作の現場（フジテレビ報道局見学）
5. 記者・ディレクター・特派員・キャスターの仕事とは
6. スポーツディレクターの仕事
7. ドキュメンタリー制作の実際
8. 撮影技術、映像企画の作り方
9. 記者レポート制作 テーマ決め・リサーチ
10. 記者レポート スケジュール作成・アポ取り
11. 記者レポート発表 評価
12. 記者レポート発表 評価
13. 予備

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

- ・その他（記者レポート提出・評価による）

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（秋）
テレビの未来 安倍宏行

授業科目の内容：

テレビニュースの抱える問題点と放送と通信の融合について、理解を深め、長目の映像を制作する。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. 人権侵害と報道倫理 実名報道・匿名報道
2. 模擬記者会見 取材する側、される側
3. 取材源の秘匿
4. BPO 放送倫理検証委員会とは TBSの問題
5. 名誉毀損訴訟
6. 放送と通信の融合 テレビ局のネット戦略
7. 放送と通信の融合 動画投稿サイト
8. テレビ局の未来 地デジ、ワンセグ、非放送分野（事業、映画等）
9. 映像企画制作 テーマ決め・リサーチ
10. 映像企画制作 取材スケジュール決め、アポ取り
11. 映像企画制作発表 評価
12. 映像企画制作発表 評価
13. 予備日

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（映像企画作品の提出・評価による。）

新聞特殊講義（春）（秋）
新聞報道のいま、未来 岡田直敏

授業科目の内容：

ネット革命、メディア再編の中で新聞の役割が改めて問われています。新聞の存在意義はどこにあるのか。新聞報道のこれからを探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

随時、指示します

授業の計画：

できるだけ現実のニュースに連動しながら、主に以下のようなテーマを取り上げます。随時、日経の第一線記者や編集委員などを招き、現場の息吹を伝えてもらいます。

1. 新聞はどう作られるか
2. 経済報道の現実と課題
3. ネット革命と新聞
4. 世界のメディア再編の行方
5. 記者、新聞社の未来図

履修者へのコメント：

皆さんが新聞記者を志したくなるような講座を目指します。新聞を読んで参加して下さい。（どの新聞でも結構です）

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容：

「広告」は、最も身近にあり、また最も頻繁に接触している情報です。その反面、それは「トイレタイム情報」であったり、録画面面から「飛ばされる情報」という認識を持たれている面も、少なからずあるようです。

ところが、広告が無かったらどうなることになるでしょう。「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち、好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も、これと同じだと思います。

記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で、「受け手の側に立った」情報作りを心がけている「繊細な」コンテンツもありません。なにしろ、年間 300 兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。

この実態と、広告の環境変化対応を把握することは、激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし、現代文化を肌で感じ取ることにもなります。

「情報化社会」とは、情報が付加価値ではなく、「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」という概念が巨大市場を生み出しました。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品 = Goods」となります。

広告発想とはどのようなものか、広告表現はどのような工程を経て作られるのか、情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化、グローバル化は、広告会社の業態 = ビジネス状態に、どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。

意外に知られていないその実態。関係者も、それをあまり口にすることは無いようです。そこで、それらを「面白く、分かりやすく」展開したいと思います。題して「面白くなければ、授業じゃない」。本邦初公開のコンテンツです。

テキスト：

刻一刻と変化し続けるメディア動向とそこに載るコンテンツ = 情報内容（主に広告作品）が教材です。そこから新たなメソッドを発見して受講生に提供してゆきます。毎回、新鮮な講義資料プリントを配布します。情報化社会に聴診器を当てて得たこれらの診断結果が、私のテキストです。

参考書：

- ・ Web 進化論
- ・ TVCM の崩壊
- ・ 月間広告
- ・ 価値場の化け力

授業の計画：

春学期

- (1) ガイダンス “ ようこそ、未来からの留学生 ”
- (2) 広告と言葉
- (3) 広告、その誕生からデビューまで
- (4) 就職で最も大事な産業構造理解 = 意外に知られていない広告の素顔
- (5) 広告表現を見る Advertise とは「注意を向けさせ続けるコンテンツという意味」
- (6) コミュニケーションとは文化理解であり、広告は文化である
- (7) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (8) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (9) メディア・・・タッチポイントという概念の出現
- (10) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (11) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (12) 受講者チームからの発表 1
- (13) 受講者チームからの発表 2

秋学期

- (1) 面白くなければ授業じゃないのガイダンス
- (2) 広告情報の作り方 = 発想法に挑戦
- (3) 広告情報の作り方 = 実例から広告情報作りに挑戦
- (4) 広告情報の作り方 = ビッグアイデアはロングラン広告を可能にする
- (5) なぜブランドが重要なのか
- (6) ブランディングとは物語の中に Goods を入れてゆく作業
- (7) 最初からブランディングを念頭に置いた商品開発 = フィットネスクラブの事例から
- (8) 「マーケットの無いところでマーケティングしていないか？」 = 商品作り、ブランド作り、広告発信だけでは、市場戦争には勝利できない
- (9) Web2.0 に必要不可欠な「表現と権利処理 = ライツクリアランス
- (10) 社会的責任広告の必要性
- (11) 受講者チームからの発表 1
- (12) 受講者チームからの発表 2
- (13) マーケティング・キーワードの変化

成績評価方法：

出席 50%，論文提出 50%。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

メディア特殊講義 (春)

メディアの将来(アナログからデジタルへ...変わることに不変のもの)

坪田 知 己

授業科目の内容：

マスメディア(新聞、放送)がインターネット時代にどのように変わっていくべきかを考え、メディアの本質と技術、社会の関係について学びます。

テキスト：

日経メディアラボ編「マスメディアはどこに行くのか デジタルへの挑戦」

非売品なので、受講生に配布します。

参考書：

- ・ アルビン・トフラー「第三の波」
- ・ ローレンス・レッシング「CODE」
- ・ 佐々木俊尚「フラット革命」
- ・ 桂敬一「現代の新聞」
- ・ 吉野次郎「テレビはなぜインターネットが嫌いなのか」など

授業の計画：

- 1) ガイダンス、何を学ぶか
- 2) メディアと歴史
- 3) メディアと技術
- 4) メディアと社会
- 5) 新聞の未来
- 6) 放送の未来
- 7) ジャーナリズムの本質
- 8) 注目すべきネットメディア
- 9) ネットは何を変えたのか
- 10) まとめ

上記のほか、

- ・ ゲストを招いて討論します。
- ・ 新聞記事のスタイルで原稿を書く練習をします。
- ・ 希望があれば宿題を実施します。

履修者へのコメント：

・ デジタルメディアを理解するための基本的文献を全部読んでいただきます。

・ しっかりとした考えを持つためにしっかり学んで下さい。

成績評価方法：

- ・ 試験はありません。
- ・ レポートによる評価(最終レポートのほか、3~4 回レポートを提

出させていただきます)

・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回意見を発表させていただきます）

質問・相談：

個別の質問，相談は随時受け入れます。

メディア特殊講義（秋）

ケータイ革命

堀 主知口バート

授業科目の内容：

みなさんに馴染みの深いケータイ，ネットと雑誌，テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について，様々な企業の活用事例を徹底究明し，その成果を分析し，理想と現実のギャップを認識し，本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や，ネットの有効な利用施策を模索する授業です。また，究極の価値を持つインタラクティブメディア，プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。ケータイ系最古の会社「サイバードグループ」の事業の責任者達が，順段にモバイルコンテンツ，モバイル広告，モバイルコマース等について一般論ではなく，本当はこうなってこうやっているのだ，という会社や社会の裏話を，実例と共に大暴露。本当に社会に出てから役に立つ，究極にリアルな授業です。

テキスト：

こちらで配布します

授業の計画：

- (予定)1: モバイルインターネットの歴史とこれからの展望
2: モバイルインターネットの本当の価値
3: 北米におけるモバイルメディア最前線
4: モバイルコンテンツにおける新しい潮流
5: モバイルプロモーション革命
6: モバイルでビジネスが変わった!!
7: モバイル広告 ~その驚くべき威力とは~
8: メディアとベンチャーキャピタル投資
9: ケータイコンテンツが世界を変える!?
10: 「オンナゴコロとメディア」で世の中を動かす!
11: なぜ他のモバイルメディアに類をみない大成功を成し遂げられたのか?
12: モバイル企業の社長が本音で語る今後の事業展開
13: 総括

履修者へのコメント：

今までの常識が，これからの常識と違う!という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う!という感覚を半年で体感して，社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください!アカデミックな授業は他で受けて下さい。生臭い企業の内部をお見せして，IT，モバイルはどうなって行くのか，新聞記事を笑い飛ばせる力を提供します。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

いつでもどうぞ。

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(春)

戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川浩一

授業科目の内容：

今日の階層間格差の拡大と固定化はジャーナリズムの「近代化」への認識と行動が期待とは異なっていることを語っている。その事実と原因を検討することで，対策をも考察したい。

参考書：

小川浩一 編著『マス・コミュニケーションへの接近』（八千代出版 2005年 2600円）

授業の計画：

- 1; ガイダンス

2; ジャーナリズムとマス・メディア（合計3回）

3; 戦後日本社会の近代化（合計3回）

4; 現代日本の社会階層と社会移動（合計3回）

5; 現代日本のジャーナリストの階層性（合計2回）

6; 考察

履修者へのコメント：

授業は基本的に後期に連続します。授業形式はゼミに準じます。日常生活の中で，新聞記事，テレビジョン放送番組を批判的に考察する姿勢を持って接触して下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(秋)

戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川浩一

授業科目の内容：

春学期に準じます。但し，秋はテキストを用います。

テキスト：

小川浩一 赤尾光史 監訳『ジャーナリズムの社会学』（リベルタ出版 2006年 2600円）

授業の計画：

- 1; ガイダンス
2; 第1章（2回）
3; 第2章（1回）
4; 第3章（1回）
5; 第4章（1回）
6; 第5章（2回）
7; 第6章（2回）
8; 第7章（1回）
9; 第8章（2回）
10; まとめ

履修者へのコメント：

前期から引き続いた内容です。戦後日本のジャーナリズムの実態とそれが先進国では同様の事態になりつつあることを概観します。そして，ジャーナリズムの在り方を再考します。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究

市民とメディア

金山智子

授業科目の内容：

この10年，市民が社会の様々な問題を解決するために，自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で，市民グループ，NPO，NGOの活動は中心的な役割を担っています。また，一般企業においても，NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献（CSR）活動が活発になっています。このような活動では，メディアの活用がますます重要になっています。市民が，フリーペーパーやコミュニティFM，CATV，ネット新聞，ブログ，ミクシーや地域SNSなど，さまざまなメディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより，ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに，貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンパードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャー・トラッシュ・プロジェクト”にみるように，コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。メディアを使ったイベントやキャンペーンも重要なツールとなっています。こういった市民，NPO，NGO，企業，クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について，最近の事例を交えながら，現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・金山智子『NPOのメディア戦略』（学文社）
- ・電通プロジェクト『広報力が地域を変える！』（日本地域社会研究所）

授業の計画：

市民活動とメディアについて、これまでの歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに、さまざまな市民活動におけるメディアの活用の仕方や課題、ソーシャル・ムーブメントとメディア・キャンペーンについて実際に分析をしながら、考察していきます。

受講生が選んだ事例をもとに、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞き、受講生を交えて考える機会をもちます。関連イベントや市民メディアの現場に参加し、実体験してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（春）

若者文化とメディア

藤田 結子

授業科目の内容：

現代の若者文化におけるメディアの役割について考察します。社会学やメディアスタディーズの先行研究にもとづく講義を中心に、さまざまな事例についてディスカッションを行います。また受講生は関心のあるテーマについて、フィールドワークを行います。

テキスト：

春学期開始時に指定します

授業の計画：

1. 若者のナショナリズムとインターネット
2. ワーキングプアと「ネットカフェ難民」
3. 若者とファッション
4. 女性誌と女性像・結婚観の変化
5. 若者の携帯コミュニケーション
6. 若者のファンカルチャー
7. マスメディアが若者の海外移住に与える影響

以上を中心に、受講生の関心にもとづくテーマを取り上げていく予定です。

履修者へのコメント：

積極的に授業に参加する学生を歓迎します

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習（春）（秋）

インターンシップ

豊嶋基暢

菅谷実

小川葉子

藤田結子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、討論形式による各産業の歴史、構造、動向及びインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。秋学期には、インターンシップ参加の報告及びレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加できる。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（映像ビジネス、広告、放送、出版、新聞、通信等）

まとめ（なお、研修先は、7月上旬頃に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているので履修者全員が研修に参加できるわけではない）

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い、秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習を履修し、本年度を履修する者を含む）は、第一回目の授業で実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表及び討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の発表及びレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語（春）（秋）

宮川美樹子

授業科目の内容：

日本で発行されている英字新聞及び海外の英字新聞を主な教材に使い、時事英語を学ぶとともに時事問題、さらには英文ジャーナリズムについても勉強します。読解力だけでなく「書く力」の養成も目指します。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・The Daily Yomiuri（読売新聞社発行の日刊英字紙）
- ・最新ニュース英語辞典（東京堂出版）
- ・英和・和英・英英辞典

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

英字新聞の構成

英文記事の基本・読み方

基本的英文記事の作成

まとめ

(2) 秋学期

オリエンテーション

分野別に記事を読む

日本メディア・外電の英文ニュースを読み比べる

より高度な英文記事作成

まとめ

履修者へのコメント：

英字新聞を通して世界を見る視点を育てたいと思います。講義形式の授業だけでなく、読売新聞社での見学、ゲストを招いての授業なども考えています。英字新聞を読んだことがない方も是非チャレンジして下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業中に簡単な語彙テストを予定）

質問・相談：

授業終了後、またはメールで受け付けます

授業科目の内容：

受講生に作文を月1本のペース、年間8本執筆してもらい、添削する。「自分の考えを正確に伝える」「興味をもって読んでもらえる」文章を基本に、日本語を書く上での特性、注意点を知らせてもらう。入社試験に活用できるものとする。

参考書：

記者ハンドブック(共同通信社)

授業の計画：

1. ガイダンス(1回)
2. 月1本のペースで1本の作文を執筆してもらう。
5月,6月,7月,夏休み,10月,11月,12月,冬休みで計8本。
講義では、添削した内容を説明するとともに、日本語を書く上での注意点、日本語の特性を知ってもらう。
受講生は自分の作文を披露してもらうとともに、他の人の書いた作文を批評してもらう。
3. ニュースとなっている時事問題について、解説。また学生同士で、議論してもらう。学生は時事用語の解説を書く訓練もする。

履修者へのコメント：

作文を書くことから授業は始まります。自分の考えを文章で相手にうまく伝える訓練の場としてとらえて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(作文の提出による評価)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(時事用語の解説の提出による評価)

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では、(1)映像メディアコンテンツの批評と(2)制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身につけることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

- 講義は大きく3つの部分から構成されています。
- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
 - (2) 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
 - (3) 映像コンテンツを制作する。
個人(または少人数グループ)で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツ制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加(50%) 課題作品(50%)

授業科目の内容：

メディアの読み解き方を理論面と実践面から学びます。マスコミの制作者の「意図」が社会の価値観に与える影響を認識し、さらに自分でも映像作品をつくることによって、メディア・リテラシー能力を身に付けます。

テキスト：

渡辺真由子著「オトナのメディア・リテラシー」(リベルタ出版、2007年、1500円)

参考書：

野沢 尚著「破線のマリス」講談社

授業の計画：

- (1) イントロダクション 「伝える」ということ
- (2) 広告の意図
- (3) 報道の作られ方
- (4) 映像産業と女性
- (5) メディアの暴力・性表現
- (6) コンピューター・リテラシー
- (7) 企画の見つけ方&構成の立て方
- (8) 撮影&インタビュー、原稿書きの手法
- (9)・(10) 編集の裏側
- (11)・(12) 映像作品プレゼンテーション
- (13) 総括

履修者へのコメント：

マスコミ志望者に限らず、テレビや広告、インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも、制作過程の裏側にある「意図」を学ぶことに重点を置きます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他(映像作品プレゼンテーションによる評価)

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

映像表現の文法・作法を習得する 大久保 成

授業科目の内容：

デジタルカメラやデジタルビデオは普及し、コンピュータはますます高性能になっています。一方、インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し、ケータイの高機能化などにより「いつでも、どこでも、だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってきています。にもかかわらず(あるいはそれゆえに)、ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる、といった安易な理解が蔓延しているのではないのでしょうか。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プリプロダクション)の力を確実に身につけてもらうことを通じて、新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思えます。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい、実際に受講生には企画書・画コンテの作成、撮影実習、編集までを個人単位で実践してもらいます。特に今年度は携帯電話やデジカメなど各自が所有しているデジタルデバイスを利用して映像作品を制作、提出してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。

1. デジタル時代における映像表現の基礎知識

2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
3. 映像制作のための機材とその機能：ケータイなどとの比較の観点から
4. プリプロダクションの意義：企画書・画コンテ
5. 企画書制作と中間報告
6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力：コンティニューイティとフレーミング
- 7~13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作とでは独立していますが、両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）
- ・映像作品を提出（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作（秋）

映像コンテンツ制作実践に向けた応用
スタジオプロダクションを実践する 大久保 成

授業科目の内容：

映像コンテンツ制作 で得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに、さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために、スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては、単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで、受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後、スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作、その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する(1)
2. 映像表現の文法を確認する(2)
3. 番組企画会議
4. 取材 VTR プリプロダクション(1)
5. 取材 VTR プリプロダクション(2)
6. 取材 VTR 制作(1)：撮影・編集
7. 取材 VTR 制作(2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション(1)
10. スタジオ収録プリプロダクション(2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録（本番）
13. 番組収録を振り返る（討論会）

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 を受講済みもしくは同等レベル（企画・撮影・編集を行い、映像作品に仕上げる事ができる）の映像表現力を持つことを期待しますが、受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作 同様、受講生の自主性を最大限尊重しますが、一方で共同作業も多いため、受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらおうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作 のみの受講も可能です。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）

- ・スタジオ収録への参加（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（春）

音声・動画配信の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

現在のインターネットでは、音声・動画の配信が広く普及しています。この実習では、それらの基礎的な配信方法を学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

授業の計画：

- ・コンピュータの構造
- ・ネットワークの基礎（DNS/HTTP）
- ・HTMLの基礎
- ・音声・動画ファイルの形式
- ・ストリーミングとPodcast
- ・ライブ配信

履修者へのコメント：

- ・初回の講義には必ず出席して下さい。
- ・映像制作を扱う講義とあわせて履修することを推奨します（必修ではありません）。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（秋）

Web アプリケーション作成の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

みなさんは普段からブログやSNSなど、多くのWeb上で動いているアプリケーションを利用していると思います。この実習ではこのようなアプリケーションの動く仕組みを、実際にプログラムを作成することによって学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

高橋征義、後藤裕蔵「たのしいRuby 第2版」(ソフトバンククリエイティブ)

授業の計画：

- ・Webサーバの導入
- ・データベースの作成と操作
- ・既存のWebアプリケーション（ブログ・SNSなど）の設置
- ・自分で作るWebアプリケーションの計画と作成
- ・最終発表

履修者へのコメント：

プログラム作成の経験の有無は問いませんが、比較的早いペースで講義を進めますので、欠席のないようお願いします。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

体 育 科 目 (三田設置) (体 育 研 究 所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、7科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち、出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点、遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2/3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(月)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。

1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月9日(水)
~21日(月)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30		9:00~12:30	14:00~15:30
4月9日(水)	男子 10時開始	男子	4月16日(水)	女子	男子
10日(木)	男子	男子	17日(木)	男子	女子
11日(金)	女子	女子	18日(金)	男子	男子
12日(土)	男子	男子	19日(土)	女子	女子
13日(日)			20日(日)		
14日(月)	男子	女子	21日(月)	男子 11時終了	
15日(火)	男子	男子			

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(火)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月4日(金)
・7日(月)**

体育科目ガイダンス(日吉)
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。
4月4日 9:00 613・614・623 番教室
7日 14:45 613・614・623 番教室

**4月9日(水)
~21日(月)**

定期健康診断を受診(日吉)
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)
実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)**

体育科目ガイダンス週間(日吉)
体育科目の時間割どおりに実施します。
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00**

Web による履修申告期間
学事 Web システムによる履修申告が必要です。
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

4月22日(火)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
10時30分 三田 西校舎共通掲示板

体育実技A, 体育実技B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月22日(火)
~5月9日(金)

追加履修について

履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。

追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

5月7日(水)
~9日(金)

追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。

履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月22日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00 4月24日(木) 9:15~11:30, 12:30~16:00	体育研究所
4月25日(金)~5月9日(金)(平日のみ) 受付時間 8:45~16:45 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず22・24両日中に体育研究所許可証を取得してください。25日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, を行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月22日(火)~5月9日(金)	8:45~16:45	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンドテニスコート(屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ(ハードまたはオールコート用)

〔参考書〕

「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕

1 限(90 分)の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク

30 サーブ, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー(クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サーブ・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを図別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き(フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解)の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2 回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によ

って内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 火曜 2 限
(中上級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得ならびに, テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定です。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 金曜 1 限
(初級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド(屋外コート 1 面, 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度)です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット(シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1 ~ 2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3 ~ 6 回目 ボレー, サーブ, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。授業は定刻(9 時)に開始します。綱町武道館で更衣を完了した上でテニスコートに来てください。2 限に授業がある方を考慮し, 多少早めに

終了します。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。
〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が10点、態度点が15点、理解点が15点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(テニス) 金曜2限
(中級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット、ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド(屋外コート1面、三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット(シューズ、ラケットの貸し出しはありません)、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1~3回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4~6回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス(中級)では、技術レベルも成績評価の対象とします。また、実践形式を多く行います。したがって、「打ち合いで安定して10往復以上続けることができる(相手が打ちやすいボールを出してくれた場合)こと」が難しい方にはおすすりできません。授業開始時刻は、1限に授業がある方を考慮し、10時50分を予定しています。綱町武道館で更衣を完了して、テニスコートに来てください。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。

〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が15点、態度点が15点、理解点が10点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(バレーボール) 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上(4回)
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解(4回)
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践

個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点:出席状況および授業態度による評価(出席(60%),態度(20%),理解(20%)の項目を点数化し、その合計点で評価する。)

武道

体育実技A(合気道) 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と^{からだ}身体の正しい使い方(心身統一)を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ(女子のみ)・タオル(汗をふくため)・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす(心身統一)
- ・正しい姿勢(自然に安定した姿勢)
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス(虚脱状態との違い)
- ・大切な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ませんが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。)

体育実技A(弓術) 火曜1限・2限

小笠原 清忠

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者と未経験者に分けて行います。経験者には、射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(正己弓道場)

〔授業の計画〕

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

の前で実際に矢を射て、的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

〔履修者へのコメント〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技 A（剣道） 水曜 2 限・3 限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい

剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1～2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4 本目 手の内の沓えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1～5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6 本目 連続技(二・三段打ちの技) 払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1～7 本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1～7 本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1～3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%，技術10%，態度20%，理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技 A（柔道） 月曜 2 限・3 限

（初心者，経験者を問わない～男女共習） 安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、T シャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

個人種目

体育実技 A（ダンス） 金曜 2 限・3 限

ボールルームダンス 入門 初級 篠原 しげ子

〔授業科目の内容〕

男女で組んで踊るために、自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い、バランスを保って動けるようにする。又、相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔定員〕

男性 10 名 女性 10 名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門（ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4～5週間ずつ行う）

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を4～5週間ずつ行う）

金曜 3 時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間通して行う。

1～3週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する。

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。

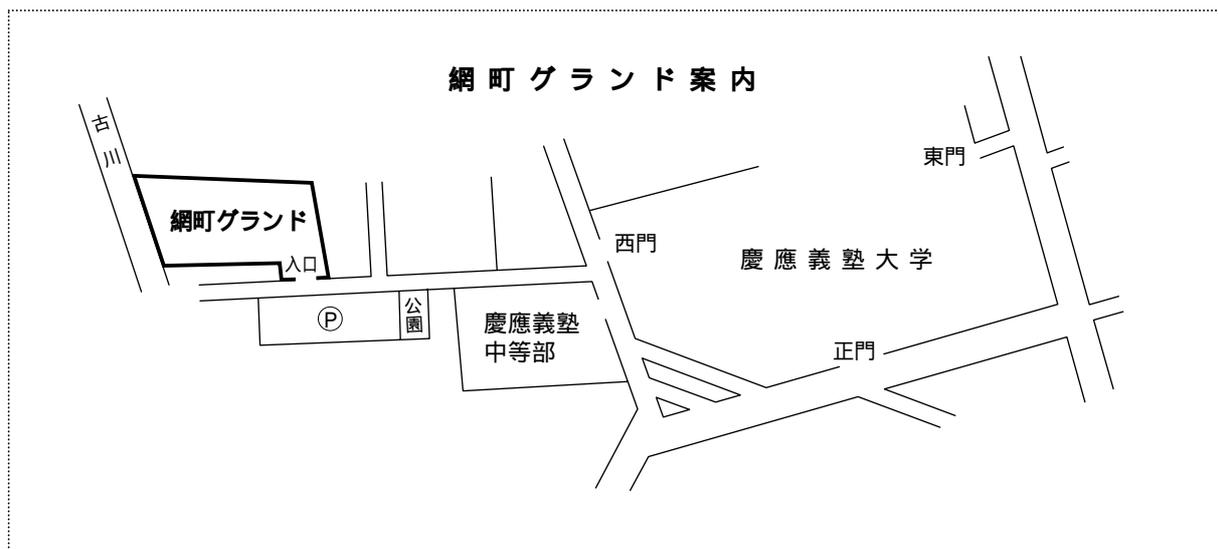
13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席状況 60 で採点）



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、三田キャンパスの旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』、資料集、叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（専任2名、兼担23名）、10名の顧問、29名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会を作ることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反対するものにとっても、等しく面白かつ刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は日吉で1コマの講義、三田で6コマの講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホーム・ページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
商学部教授 牛島 利明
経済学部教授 小室 正紀
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表著作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書:

福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

慶應義塾編『福澤諭吉の手紙』岩波書店、平成16年

丸山真男『「文明論之概略」を読む』岩波書店、昭和61年

授業の計画:

- 第1回 はじめに 担当:小室
- 第2~4回 初編~4編(明治5年2月~7年1月) 担当:米山
- 第5~7回 5編~8編(明治7年1月~7年4月) 担当:岩谷
- 第8~10回 9編~12編(明治7年5月~7年12月) 担当:小室
- 第11~13回 13編~17編(明治7年12月~9年11月) 担当:牛島

担当教員から履修者へのコメント:

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法:

1. 試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の近代化構想 -

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。彼は68年の生涯を、文字通り34歳で迎えた明治維新によって二分することとなった。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家としての評価が大きく、明治期の活動は、一般にあまり認識されていない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらいたいと考えている。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 福澤諭吉の生い立ちと明治維新
2. 文明開化と福澤

3. 自由民権運動と福澤

4. 『時事新報』と明治政府

5. 朝鮮問題をめぐる言論と運動

6. 慶應義塾と福澤

7. 構内史蹟見学

担当教員から履修者へのコメント:

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎したい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)

質問・相談:

講義後やEメールで適宜応じる。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

明治期新聞『時事新報』を読む

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

この演習では、明治15年に福澤諭吉が創刊した日刊新聞『時事新報』を読んでいくことを通し、明治期の日本の姿と、それを捉える福澤の視点について考えていく。このことは、単に明治の社会や政治史に理解を深めるだけではなく、ジャーナリスト、教育者、また啓蒙思想家としての福澤の姿を浮かび上がらせる多くの示唆に富む作業となる。取り上げる記事は社説を中心とするが、風刺漫画や広告など、時代を表す紙面の全体像も題材として盛り込んでいきたい。

テキスト:

『時事新報』紙面のコピーを適宜配布する。

参考書:

- ・石河幹明『福澤諭吉伝』全4巻(岩波書店)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上下(岩波書店)
- ・都倉武之「時事新報史」(慶應義塾大学出版会ホームページ連載)

授業の計画:

1. 『時事新報』概説 歴史と研究の現状
2. 国内政治論
3. 国際政治論
4. ジャーナリズム論
5. 風刺漫画、広告
6. 福澤没後の論調

担当教員から履修者へのコメント:

丁寧な解説を心がけるが、古いテキストを根気よく読み解く意欲ある学生を歓迎したい。

成績評価方法:

1. レポートによる評価
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

地方新聞に見る明治

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

この演習では、主に福澤諭吉の故郷である中津で発行された『田舎新聞』『田舎新報』(明治9年~18年)を取り上げ、論説だけではなく社会面や広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。『田舎新聞』およびその後継紙である『田舎新報』は、福澤や門下生たちの関与があり、紙面構成は充実している。そこから中央の動静と地方の動静の双方を同時に読みときたい。

参考書:

- ・野田秋生『豊前中津『田舎新聞』『田舎新報』の研究:明治十年代一地方紙の初志と現実』エヌワイ企画 2006年

授業の計画:

1. 予備的講義

2. 福澤諭吉と中津
3. 『田舎新聞』の創刊
4. 『田舎新報』の創刊
5. 両紙にみられる士族社会論
6. 両紙にみられる女性論
7. 両紙にみられる学問論
8. 両紙にみられる新聞論
9. 『田舎新聞』『田舎新報』の終焉
10. 発表と討論

担当教員から履修者へのコメント：

史料を手に共に考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉（春学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の著作を中心に、明治期の日本における女性論・家族論の展開を考える。福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、一方では多くの人々に高い評価を得、他方では多くの批判を受けながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。

この授業では、まず福澤の女性論・家族論をテーマとした著作を取り上げ、他の著作や書簡などと読み合わせながら、福澤の構想を考える。更に同時代の他者による女性論を比較講読し、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察したい。では明治 10 年代までを扱い、では明治 20 年以降を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第 10 巻（慶應義塾大学出版会，2003 年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
- 3 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
- 4 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
- 5 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉（秋学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて、意見を発表する時間を設ける。では明治 20 年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第 10 巻（慶應義塾大学出版会，2003 年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 民権・国権論、実業論にみられる女性論・家族論
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子・潮田千勢子
 - 2) 新島襄・内村鑑三
- 4 儒教主義の女性論

丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』・井上哲次郎ほか『女大学の研究』
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター（以下、「センター」と略す）では、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、中国語、インドネシア語、アラビア語の9言語について「センター特設科目」を設置しています。これらの科目群は各学部の外国語教育を補完することをコンセプトとしながら、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能がバランスよく身につくよう、工夫を凝らした授業を展開しています。また、特定のスキル強化（リスニング、ライティングなど）のための科目、超上級科目や基礎固めのための科目も用意しています。

これらの「特設科目」のほか、センターが提供する科目に「オープン科目」があります。これは、各学部設置の語学科目のうち、他学部生に開放されているものを、センターに併設することにより、学生が履修しやすくしたものです。（「特設科目」「オープン科目」とも、卒業単位認定の仕方は学部により異なるため、それぞれ自分が所属する学部の履修案内を参照してください。）

センターでは、各種講演会やワークショップ、春休み期間中の海外語学研修、高校生から大学院生までを対象とする「アカデミック・ライティング・コンテスト」等、外国語学習に関連するさまざまなプログラムを実施しています。それぞれの詳細は、センターのウェブサイトや構内掲示板で随時案内していますので、チェックしてください。

以下に本年度開講の「センター特設科目」の一覧を掲載します。各特設科目の詳しい授業内容、ガイダンスや履修手続きに関する情報、ならびに「オープン科目」一覧については、別冊の『外国語教育研究センター履修案内・講義要綱』（センター事務室およびガイダンスでも配布します）、またはセンターウェブサイト参照してください。

外国語教育研究センター <<http://flang.keio.ac.jp/>>

ガイダンス日程：4月3日（木）12:30～14:00 531番教室

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

- * 履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。
- * 科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。
- * 2008年2月から3月に実施された海外研修科目については、日吉のシラバスを参照してください。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春	金・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋			半期	1
	英語翻訳() (Lost in Translation)	武藤 浩史	春	月・2	15	半期	1
	英語翻訳() (Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Reading & Writing))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス, リチャード	春	木・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)	和田 朋子	春	木・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Listening Skills)	横川 真理子	春	金・3	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)		秋			半期	1

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋			半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)		秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	木・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)		秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)	ファロン, ルース	春	月・2	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)		秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b)		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b)		秋			半期	1
フランス語	フランス語表現技法 3()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 4()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 5()	ペリセロ, クリスティアン=アンドレ	春	木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5()		秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1()	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1()		秋			半期	1
	ロシア語表現技法 2()	桜井 厚二	春	水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2()		秋			半期	1
中国語	中国語聴解 2()(最上級)	山下 輝彦	春	水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2()(最上級)		秋			半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級)	蔣 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級)		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法 3()(上級)	安藤 万奈	春	金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 3()(上級)		秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック速習 1(a)	野村 亨 /	春	月・3 / 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 1(b)	トトク, スハルディアント	秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(a)	野村 亨	春	月・2 / 金・1	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(b)	トトク, スハルディアント	秋			半期	2

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30		第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15		第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30		第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15		第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00	
月			英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	武藤 ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(a) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 () (最上級)	蔣
火							ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッベル =タカヤマ		
水			中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリセロ			英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (a) スペイン語表現技法 3 (上級)	横川 安藤		
土										

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30		第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15		第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30		第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15		第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00	
月			英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	アーマー ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(b) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 (上級)	蔣
火							ドイツ語表現技法 5(b)	ドゥッベル =タカヤマ		
水			中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリセロ			英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (b) スペイン語表現技法 3 (上級)	横川 安藤		
土										

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月4日(金) 矢上 11:41 番教室 12:00~13:00 4月5日(土) 三田 528 番教室 10:45~12:15
4月4日(金) SFC 11 番教室 16:30~18:00 4月5日(土) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月13日(日)
- (2) 募集期間 4月14日(月), 15日(火)
- (3) 一次合格発表 4月24日(木)
- (4) 面接審査 4月26日(土)
- (5) 選考結果発表 5月2日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~9月3日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)、エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior(予定)

【単位数】4単位

【募集人数】60名

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2008年7月29日(火)~8月12日(火)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~8月26日(火)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

【現地研修期間】2008年8月22日(金)～9月6日(土)(予定)

【研修内容】講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、演劇の見学など

【単位数】4単位(予定)

【募集人数】20名

西安交通大学中国語・中国文化夏季講座

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで9つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で2006年に創立110周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の1つです。研修を通じて中国語だけでなく、中国文化全般を理解することができます。

【現地研修期間】2008年8月28日(木)～9月14日(日)(予定)

【研修内容】中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

【単位数】2単位

【募集人数】15名(学部生対象)

パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月16日～2008年3月16日

【講義内容 2007年度参考】共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

【単位数】4単位

【募集人数】定員：20名

延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月9日～2008年2月27日

【講義内容 2007年度参考】

- 1 Modern and Pre-modern Korea: A Historical Overview
- 2 Modernization and Social Transformation in Korea: A Sociological Perspective
- 3 Confucian Korea: Past and Present
- 4 Korean Economy
- 5 Political Economy of Korean Development
- 6 North-South Korean Relations: South Korean Perspective & Policies
- 7 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of “Hallyu” in Asia and Beyond
- 8 Information Technology in Korea
- 9 Modern Art in Korea
- 10 Korea in a Newly Emerging Regional Security Order

【単位数】2単位(予定)

【募集人数】20名(学部生対象、大学院生は要相談)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板上に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

7. その他

2008 年 7 月、イタリア・ミラノのボッコニ大学がサマースクールを三田キャンパスで行うことになりました（概要は下記参照）。ボッコニ大学は経営学・経済学・法学で知られており、特にその MBA プログラムは常に世界ランキングの上位に入っています。

このサマースクールの日本での開催は今回が初めてで、ボッコニ大学の教員がすべて英語で講義し、ボッコニ大学学生が参加するものですが、慶應義塾大学の学部学生・大学院生も自分の希望する授業を受講できることになりました。

日程、時間割、講義内容等の詳細は国際センター WEBSITE で公開し、5 月下旬ごろに受講希望者を募集する予定です。単位には該当しませんが、知識の幅を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となりますので、興味のある学生は WEBSITE を参照してください。

ボッコニ大学サマースクール（Bocconi University Campus Abroad Program）概要

日 時：2008 年 7 月第 2 週～第 4 週 火曜～土曜の 1・2 限集中（予定）

授業分野：経済、経営、ビジネス等：計 24 コマ、日本事情研究：2 コマ

使用言語：英語

参加者：ボッコニ大学学部 2, 3 年生 20～30 名

【国際研究講座】

学期	単位	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)	法律学科	政治学科
春	2	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY 現代中国社会学	Farrer, Gracia ファーラー, グラシア	自主科目	自主科目
春	2	SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2 現代東南アジア論特殊研究II	Yamamoto, Nobuto 山本 信人	法学部設置科目を履修	
春	2	INTERNATIONAL RELATIONS 2 国際政治論II (日吉開講)	Yamamoto, Nobuto 山本 信人		
秋	2	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2 東アジアの国際関係特殊研究	Soeya, Yoshihide 添谷 芳秀		
秋	2	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS 国際政治論特殊研究	Yamamoto, Nobuto 山本 信人	履修不可 (法学研究科設置科目のため)	
春	2	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE 開発と社会変容	Kurasawa, Aiko 倉沢 愛子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	WORLD OF SOUTHEAST ASIA 東南アジア世界の諸相	Nomura, Toru 野村 亨	自主選択科目	自主選択科目
春	2	CONSTRUCTING INDIA インドをソウゾウする	Williams, Mukesh ウィリアムス, ムケーシュ	自由科目	自由科目
秋	2	INDIA TODAY 現代インド事情	Nishimura, Yuko 西村 祐子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	LISTENING TO ASIA アジアの音楽	Hoffman, T.M. ホッフマン, T・M	自由科目	自由科目
春	2	AUSTRALIAN STUDIES オーストラリア研究	Carter, David カーター, デヴィッド	自由科目	自由科目
春	2	AREA STUDIES (THE UNITED STATES) 地域文化論(アメリカ)	Okuda, Akiyo 奥田 暁代	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	AMERICAN STUDIES アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	Williams, Mukesh ウィリアムス, ムケーシュ	自由科目	自由科目
秋	2	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE カナダという国とカナダの国際的な役割	Yellowlees, Jame イエローリーズ, ジェームズ	自主選択科目	自主選択科目
春	2	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS 世界政治におけるラテンアメリカ	Antolinez, Mario アントリネス, マリオ	自主選択科目	自主選択科目
春	2	UKRAINE AND RUSSIA ウクライナとロシア	Nakorchevski, Andriy ナコルチェフスキー, アンドリイ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION プロジェクト科目II・欧州統合	Tanaka, Toshiro 田中 俊郎	履修不可 (法学研究科設置科目のため)	
秋	2	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki 林 秀毅	経済学部設置科目を履修	
春	2	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	Kondo, Hidetoshi 近藤 英俊	自由科目	自由科目
秋	2	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE グローバルヴィレッジ構築に向けて	Freedman, David フリードマン, デビッド	自主選択科目	自主選択科目
春	2	THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION 国際協力の実態	Bambang, Rudyanto バンバン, ルディアント	自由科目	自由科目
秋	2	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS 現代の国際問題と国連の役割	Malik, Rabinder マリク, ラビンダー	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTERNATIONAL RELATIONS 国際関係	Seth, Aftab セット, アフターブ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION 国際開発協力論	Goto, Kazumi 後藤 一美	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	LAW AND DEVELOPMENT 開発法学	Matsuo, Hiroshi 松尾 弘	自主選択科目	自主選択科目
春	2	NGOS, NPOS AND CBOS ヘルスケア組織論	Castro-Vazquez, Genaro カストロ ヴァスケス, ヘナロ	自由科目	自由科目
春	2	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM プリントジャーナリズム入門	Holley, David ホーリー, デヴィッド	自由科目	自由科目
春	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B 倫理学特殊講義IIIB	Ertl, Wolfgang エートル, ヴォルフガング	履修不可 (文学研究科設置科目のため)	
秋	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B 倫理学特殊講義IVB	Ertl, Wolfgang エートル, ヴォルフガング		
春	2	ACCOUNTING 会計学	Ito, Makoto 伊藤 真	履修不可 (商学研究科設置科目のため)	
秋	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE 金融特論	Fukao, Mitsuhiro 深尾 光洋		
秋	2	INTERNATIONAL ECONOMY 国際経済	Kashiwagi, Shigeo 柏木 茂雄		
春	2	LITERATURE AS HISTORY 歴史としての文学	Chandra, Elizabeth チャンドラ, エリザベス	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM ナショナリズム研究	Chandra, Elizabeth チャンドラ, エリザベス	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	VISIONS OF THE PAST 比較映画論	Ainge, Michael W. エインジ, マイケル	自主選択科目	自主選択科目
春	2	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY 文化・文化適応とアイデンティティ	Yokokawa, Mariko 横川 真理子	自由科目	自由科目
春	2	LEARNING FROM LIFE ABROAD 海外生活から学ぶ	Shaules, Joseph ショールズ, ジョセフ	自由科目	自由科目
秋	2	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS 異文化と自己理解	Shaules, Joseph ショールズ, ジョセフ	自由科目	自由科目
春	2	HUMAN ENGINEERING 人間工学	Waniek, Jacqueline ワニェク, ヤクリーン	自由科目	自由科目

*国際人権法は履修対象外

【日本研究講座】

学期	単位	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)	法律学科	政治学科
春秋	各2	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR 日本語の話しことばと言外の意味	Kim, Angela A-Jeoung キム, アジヨン	自主選択科目	自主選択科目
春	2	TWENTIETH - CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION 20世紀の日本と欧米の小説	Raeside, James M. レイサイド, ジェイムス	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	JAPANESE LITERATURE 日本の文学	Armour, Andrew アーマー, アンドルー	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN 美術を「よむ」- 日本美術史入門	Murai, Noriko 村井 則子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE アートワークショップ/日本のアートと文化	Hishiyama, Yuko 菱山 裕子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (Yagami Campus) 科学技術文化特論 (矢上開講)	Inoue, Kyoko 井上 京子	履修不可 (理工学研究科設置科目のため)	
春	2	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING 日本仏教と現代社会	Watts, Jonathan ワッツ, ジョナサン	自由科目	自由科目
秋	2	RELIGIONS IN JAPAN : IN SEARCH OF SALVATION 日本の宗教 : 救済の探求	Nakorchevski, Andriy ナコルチェフスキー, アンドリイ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY 日本キリスト教史	Ballhatchet, Helen ボールハッチェット, ヘレン	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA 政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	Iikura, Akira 飯倉 章	自主選択科目	自主選択科目
春	2	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION 英国と米国のマスコミに描かれた日本	Kinmonth, Earl H. キンモンズ, アール	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN 戦後日本の社会史	Kinmonth, Earl H. キンモンズ, アール	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	THE ART OF WAR 芸術と戦争	Dorsey, James ドーシー, ジェームズ	自由科目	自由科目
春	2	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES 新市民社会論	Bockmann, David ボックマン, デイヴ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	MULTIETHNIC JAPAN 多民族社会としての日本	Kashiwazaki, Chikako 柏崎 千佳子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE 家族の近代	Notter, David ノッター, デビット	自主選択科目	自主選択科目
春	2	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1 異文化コミュニケーション 1	Tezuka, Chizuko 手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2 異文化コミュニケーション 2	Tezuka, Chizuko 手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1) 日本人の心理学 (1)	Tezuka, Chizuko 手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2) 日本人の心理学 (2)	Tezuka, Chizuko 手塚 千鶴子	自主選択科目	自主選択科目
春	2	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN 日本政治論	Aoki, Hiroko 青木 裕子	自由科目	自由科目
秋	2	JAPANESE FOREIGN POLICY 日本の対外政策	Nobori, Amiko 昇 亜美子	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	JAPANESE ECONOMY ジャパニーズ・エコノミー	Kojima, Akira 小島 明	履修不可 (商学研究科設置科目のため)	
秋	2	ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN 日本経済の展望	Ichikawa, Hiroya 市川 博也	自主選択科目	自主選択科目
春	2	CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN 日本企業の経営戦略と管理手法	Inaba, Etsu 稲葉 エツ	自主選択科目	自主選択科目
春	2	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN 日本における外資系企業	Harris, Graham ハリス, グレアム	商学部設置科目を履修	
春	2	MANAGEMENT IN JAPAN 日本のビジネスマネジメント	Haghirian, Parissa ハギリアン, パリッサ	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS 国際経営比較	Yoshida, Fumikazu 吉田 文一	自由科目	自由科目
秋	2	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS 日本の経営	Umezu, Mitsuhiro 梅津 光弘	自主選択科目	自主選択科目
秋	2	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW 日本法の制度と実態	Kobayashi, Setsu 小林 節	自主選択科目	自主選択科目

【在外研修プログラム】

学期	単位	科目名	担当者名	法律学科	政治学科
春	4	慶應義塾大学 - パリ政治学院 春季講座	林田 愛	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ 夏季講座	河内 恵子	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ウィリアム・アンド・メアリー大学 夏季講座	大和田俊之・V橋 勇	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ワシントン大学 夏季講座	V久 隆太	自由科目	自由科目
秋	2	慶應義塾大学 - 西安交通大学中国語・中国文化 夏季講座	曹 徳弼	自由科目	自由科目
春	2	慶應義塾大学 - 延世大学 春季講座	磯崎 敦仁	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - オックスフォード大学リンカーンコレッジ 夏季講座	レイサイド, ジェイムス	自主選択科目	自主選択科目

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

ファーラー, グラシア

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2

(Spring)

現代東南アジア論特殊研究

Yamamoto, Nobuto

山本 信人

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Sub Title:

History of Human Trafficking in Southeast Asia

Course Description:

The phrase "human trafficking" has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argue that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

INTERNATIONAL RELATIONS 2

(Spring)

国際政治論

Yamamoto, Nobuto

山本 信人

Professor, Faculty of Law

法学部教授

(Hiyoshi Campus)

日吉開講

Sub Title:

International Relations of Southeast Asia

Course Description:

The aim of this course is to provide an overview of international relations of Southeast Asia. Southeast Asia has a unique history being "crossroad of the world" since pre-modern age. During the colonial period in particular, Southeast Asia was exposed to the world-economy system and formed embryonic modern states. During the Cold War, the region witnessed intense rivalry, conflicts, and negotiations between the superpowers and among its states. In the aftermath of the Cold War, it served as an engine of the global economy while undergoing major shifts in the configuration of power, whose trajectory and outcome remain uncertain.

This course will examine the sources of conflict and cooperation in "modern" period, assessing competing explanations for key events in Southeast Asia's international relations. The lectures will expound the international relations of the region against the backdrop of the global systemic rivalry, the legacy of colonialism, the significance of nationalism, as well as the interlinkages in the global, regional and local level. They will also touch upon the implications of the Asian financial crisis in 1997 and the event of 9/11 for Southeast Asian international relations.

Course Description:

This course gives a general overview to the postwar history of international relations in East Asia, including Japan's role therein and Japan's relations with the countries in the region. Each class will be divided into two parts; an introductory lecture by the instructor and discussions by the participants. There will be one or two articles in English assigned for each week. Detailed course plans with the reading assignments will be distributed in the first week of the course.

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to

explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a “grand” unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師（駒澤大学教授）

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the ‘the middle class’, studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

LISTENING TO ASIA

(Spring)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T・M

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師（日印音楽交流会会長）

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSRTRALIAN STUDIES

(Spring)

オーストラリア研究

Carter, David

カーター, デヴィッド

Lecturer, International Center (Professor, The University of Queensland)

国際センター講師（クィーンズランド大学教授）

Sub Title:

Environment, Identity and Culture

Course Description:

This course examines Australia as a *society*, a *culture* and a *nation*. It focuses on the main forces shaping contemporary Australia — its environment, its Indigenous population, immigration and multiculturalism, cultural influences, political structures, its regional and global relations — and shows how these have changed over time. What kind of society, culture or nation is Australia? How has Australia been defined or

understood by its own people? Is it a 'European' or 'British' society, a multicultural nation, an Asian-Pacific nation? What are the sources of conflict and change in Australian society? How far is Australia a unique country and how far are the issues and conflicts within Australian society those facing other modern, developed nations?

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo
奥田 暁代

Professor, Faculty of Law
法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.
ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
 2. learn new concepts, methods and vocabulary
 3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
 4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
 5. develop skills to write/think purposefully and strategically
 6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically
-

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James
イエローリーズ, ジェームズ

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)
国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(Spring)

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

UKRAINE AND RUSSIA

(Spring)

ウクライナとロシア

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Sub Title:

Two countries

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called "standard" interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be a approaches of different people to one and the same historical episode personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined so called "historical memory". Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukraine and Russia history is required.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(Fall)

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed, Related statistics and case studies are also introduce.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES

(Spring)

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and

AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

(Fall)

グローバルヴィレッジ構築に向けて

Freedman, David

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

フリードマン, デビッド

環境情報学部教授

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbandi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

(Spring)

国際協力の実態

Bambang, Rudyanto

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

バンバン, ルディアント

国際センター講師 (和光大学准教授)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution(JBIC), the International Organization on Disaster Reduction(ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field. Some special guests from International Organizations will be invited.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

But the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

Objectives

- To define the concepts of citizenship and civil society
- To identify the role of the State in the provision of health care
- To understand the origin, function, and classification of NGOs, NPOs and CBOs
- To debate the current circumstances surrounding the provision of health care through NGOs, NPOs and CBOs.

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature

approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM

(Fall)

ナショナリズム研究

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

What makes a nation?

Course Description:

This course focuses on the theoretical problems in the formation of nations. Where do we locate the conceptual origin(s) of the nation? Is it really, as they say, a modern creation? What makes a polity a nation? What constitutes sovereignty? What are the legitimizing principles of the nation? Where do we place culture, myth, and capitalism in the study of nationalism? Is the nation really, ultimately, masculine?

The course is designed to be an interdisciplinary undertaking as we will deal with writings by historians, political scientists, anthropologists, philosophers, and novelists. In addition to required texts, we will also consider a film by the Taiwanese director Hou Hsiao-hsien.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

横川真理子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Spring)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

シヨールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Fall)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

シヨールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

Lecturer, International Center

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring) (Fall)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジヨン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know*, *I mean*, *like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *datte*, *maa*, *nan(i)*, *no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeside, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short—wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

The texts will be read in roughly chronological order.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

(Fall)

美術を「よむ」 日本美術史入門

Murai, Noriko

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

村井 則子

国際センター講師 (テンブル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE

(Fall)

アートワークショップ / 日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

Lecturer, International Center

菱山 裕子

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center, Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

(Fall)

日本の宗教：救済の探求

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and visiting different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus.

This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

(Fall)

日本キリスト教史

Ballhatchet, Helen

ボールハチェット, ヘレン

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Ikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific

War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

THE ART OF WAR

(Fall)

芸術と戦争

Dorsey, James

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

ドーシー , ジェームズ

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, songs, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly, to the wars in first China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

Lecturer, International Center (Consultant)

ボックマン , デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

“Civic engagement” refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. “Civic Engagement” and “Civil Society” are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

Associate Professor, Faculty of Economics

柏崎千佳子

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to ‘multiethnic Japan’. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various ‘newcomer’ immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority ‘Japanese’ population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

Associate Professor, Faculty of Economics

ノッター , デビット

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a ‘new history of the family’. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan, and this text will serve as the basis for four formal class discussions spread over the semester. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the ‘modern family’ and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, and traditional family arrangements will also be examined.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since

then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko
青木 裕子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko
昇 亜美子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kojima, Akira
小島 明

Guest Professor, Graduate School of Business and Commerce
商学研究科特別招聘教授

Course Description:

Japan's economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through video and tapes etc.

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(Fall)

日本経済の展望

Ichikawa, Hiroya
市川 博也

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)
国際センター講師 (上智大学教授)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

Sub Title:

Understanding Successful Strategy Implementation

Course Description:

This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussions, we will look at the micro-level management strategies and practices.

The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills of students.

Under the increasingly globalized economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations include their ability to modify and change, as the environment changes, their management practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as "good practice" will be pursued through case studies, company visit and students' own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Course Description:**Goal:**

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - Administration
 - Judges and Public Prosecutors
 - Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

保健管理センター設置講座

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の前進と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学」(渡航医学)を春学期(月曜日 4 時限)三田キャンパスにおいて、秋学期(月曜日 4 時限)日吉キャンパスにおいて開講します。

「現代社会と医学」(現代社会と common disease)を春学期(水曜日 4 時限)に日吉キャンパス、秋学期(水曜日 4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

なお、これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部、研究科で確認の上、履修申告をしてください。

現代社会と医学 Medicine in Modern Society (春学期) (2 単位)

渡航医学 Travel Medicine

南里清一郎, 河邊博史, 徳村光昭, 横山裕一, 広瀬 寛, 西村由貴

授業科目の内容:

渡航医学とは、海外の移動(旅行, 長期滞在)に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005 年外務省統計では、1,600 万人以上の人々が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約 96 万人です。

途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活(留学など)を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト:

南里清一郎編・著『海外生活における健康管理 - 渡航に当たって心身の健康を守るために -』(ライフマネージメント社, 2005年, 2,500円)

参考書:

慶應義塾大学保健管理センター編『新・保健衛』(慶應義塾大学出版会, 2007年)

授業の計画:

第 1 回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第 2 回	海外の医療制度		〃
第 3 回	予防接種・感染症		〃
第 4 回	予防接種・感染症		〃
第 5 回	高血圧	教授	河邊 博史
第 6 回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第 7 回	肥満		〃
第 8 回	性感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第 9 回	肝炎		〃
第10回	精神保健	専任講師	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント:

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法:

最終講義日の試験の結果による評価

授業科目の内容 :

高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 肥満, 動脈硬化など日本人の代表的な病気は, 運動不足, 食べ過ぎ, 喫煙などの生活習慣との関連が強いことから, 現在では生活習慣病と呼ばれています。さらにこれらが同時に存在するメタボリックシンドロームは中高年の 30 ~ 40 % にみられ, 問題になっています。

また, ストレスの多い現代には精神保健もきわめて重要な課題です。さらに, 急速な国際化に伴う感染症も大きな問題です。

大学生に代表される若者が現代社会の医学の重要問題を理解し, 健康的な生活習慣を実行維持するための保健教育の意義はますます大きくなっています。下記の講義内容に関し保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。三田では秋学期のみ行います。

授業の計画 :

第 1 回	オーバービュー	教授	齊藤 郁夫
第 2 回	精神保健 1	教授	大野 裕
第 3 回	精神保健 2		"
第 4 回	高血圧	教授	齊藤 郁夫
第 5 回	AIDS	専任講師	森木 隆典
第 6 回	貧血		"
第 7 回	高脂血症	准教授	辻岡三南子
第 8 回	糖尿病		"
第 9 回	結核	准教授	森 正明
第10回	食中毒		"
第11回	心臓病	准教授	和井内由充子
第12回	救急蘇生		"
第13回	試験	教授	齊藤郁夫

成績評価方法 :

試験による

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(木) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(火) 9:00~16:45 場 所：三田学事センター

4月9日(水) 9:00~16:45

4月10日(木) 9:00~16:45

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込み用紙を提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 注意事項

次のとおり、科目名を変更しました。

「情報処理概論」 平成18年度まで

「情報処理概論 (JavaB)」 平成19年度以降

平成18年度までに「情報処理概論」の単位を取得した学生は、新たに「情報処理概論 (JavaB)」を履修することはできません。

5 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

6 平成20年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成20年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論 (JavaB)	Java	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理概論 (JavaA)	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

「情報処理概論 (JavaB)」および「情報処理概論 (JavaA)」は、ほぼ同じ内容です。両方の科目を履修した場合、単位として認められるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考)平成20年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語による プログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
		11 B		50			
情報処理概論 (Java)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理概論 (Java)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

授業科目の内容:

Java言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン, レイアウト, イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式, 演算子, カウンタ, 合計計算, 最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. プログラムのスタイル (春学期復習)
11. 整列, 検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

授業科目の内容:

将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として、Java言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Javaプログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関するの予備知識は必要としない。

テキスト:

「JAVAではじめるアルゴリズム入門」山地秀美, 技術評論社

参考書:

講義の中で紹介する。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入, そして四則演算と型変換
5. 1次元配列と多次元配列

6. クラスとメソッド
7. 制御分と演算子 (1)
8. 制御分と演算子 (2)
9. クラスとコンストラクタ
10. Java クラスライブラリ
11. 入出力
12. 行列を計算するプログラム (1)
13. 行列を計算するプログラム (2)

履修者へのコメント:

C言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘するとともに、産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに、効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2008年度は、2007年度に引き続き、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に」を開講する。

講座 URL <http://www.art-c.keio.ac.jp/education/creative/>

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(春学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

クリエイティブ産業とその範囲
コンテンツ・ビジネスとその歴史
日本の音楽産業
イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
日本の知的財産政策と関連産業
著作権とクリエイティブ産業 1
著作権とクリエイティブ産業 2
東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
クリエイティブ産業と公共性
アーティストの立場から

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法:

試験と平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(秋学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

出版とプロダクション
アーティストの発掘、契約と宣伝
日本の音楽の流通と配信
今後の課題
クリエイティブ産業と今後の課題 ~
紛争回避
商用アーカイブの運営ほか

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法:

試験と平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

知的資産センター設置講座（平成20年度開講）

1．知的資産センター設置講座について

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、デジタルメディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、共同研究や受託研究の支援、ベンチャー起業の支援というように、研究成果の社会への還元をいろんな形で支援してまいります。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品やサービスの提供につながっています。さらに、バイオ分野を中心に多くのベンチャー企業がスタートアップしました。

これらの業務に加え、知的資産センターは技術移転の側面を中心に、知的財産に関する教育・研究も任務としています。今や知的創造の時代ですが、時代とともに知的財産の範囲や期待される役割なども変化します。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められます。そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を設けています。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する方は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（教授〔大学所属〕） 羽鳥賢一

授業科目の内容：

種々の知的資産や制度について、その仕組みを概括した上で、その保護のあり方や活用の方策に関し、今日の課題やその課題への対応策を考えます。また、その中で、現在および将来の知的財産のあり方に関する幅広い知識を修得することを目標とします。

知的財産には、技術（特許やノウハウ）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、プログラムやデータベース（著作権）、音楽・映画等のコンテンツ（著作権）といったものがありますが、その権利の内容や活用法は、それぞれ固有の特色があります。また、同じ知的財産が世界共通的に保護・活用される場合でも、国によってその取扱いが異なることもあります。本講義では、こうした種々の知的財産の保護と活用をめぐる現状と課題について、テーマに応じ、その分野の第一線でご活躍の有識者を招いて、講演および質疑応答の中で理解を深めてまいります。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「よくわかる特許」羽鳥賢一他著，オーム社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業の計画：

(内容と順序は変更になる場合があります。テーマにより第一線の外部講師を招きます。)

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組みと課題
3. 著作権の仕組みと課題
4. 商標・ブランドの価値と課題
5. コンテンツビジネスの仕組みと課題
6. 音楽に関する著作権と課題
7. 企業の知的財産戦略
8. 知的財産の権利行使と紛争処理
9. ベンチャー起業の仕組みと課題
10. 米国でのバイオベンチャー起業と知財戦略
11. 知的財産の国際動向
12. アジアでの知的財産保護と課題
13. 産学連携の現状と課題

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱いについては、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

各授業の最後に質問の時間を設けます。